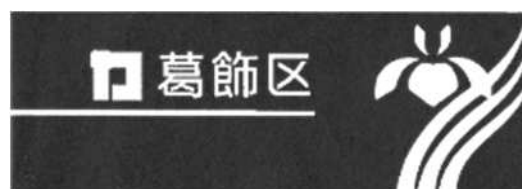


葛飾区男女平等に関する意識と実態調査 報告書

令和2年11月



**葛飾区男女平等に関する
意識と実態調査
報告書**

令和2年11月

葛 飾 区

目次

第1章 調査概要	1
1 調査の目的	3
2 調査対象	3
3 調査方法	3
4 調査時期	3
5 回収結果	3
6 調査項目	4
7 報告書の見方	5
第2章 調査結果のまとめ	7
1 基本属性	9
2 男女平等	9
3 結婚観	9
4 家庭生活	10
5 就労	10
6 ワーク・ライフ・バランス	11
7 セクシュアル・ハラスメント	11
8 ドメスティック・バイオレンス	12
9 性の表現	12
10 性の多様性	13
11 健康	13
12 学校教育	13
13 女性の社会参画	13
14 防災	13
15 施策や制度など	14
第3章 調査結果	15
1 基本属性	17
(1) 性別	17
(2) 年齢	17
(3) 結婚の有無	18
(4) 共働きの有無	19
(5) 子どもの有無	20
2 男女平等	21
(1) 男女平等社会の進捗	21
(2) 男女の不平等を感じる事	24
(3) 男女の地位の平等感	27
3 結婚観	35
(1) 結婚観	35
4 家庭生活	42
(1) 家事などの分担	42
(2) 男性の家庭参画の度合い	59
(3) 男性の家庭参画に必要な事	64
5 就労	66
(1) 職業	66
(2) 職場での男女差別	68
(3) 女性の働き方についての意識	71

(4) 女性の再就職に対する支援	77
(5) 育児休業・介護休業の利用状況	81
(6) 育児休業・介護休業の利用期間	84
(7) 育児休業・介護休業を利用しなかった理由	86
6 ワーク・ライフ・バランス	90
(1) ワーク・ライフ・バランスの認知状況	90
(2) 優先度の希望と現実	93
(3) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと	99
7 セクシュアル・ハラスメント	104
(1) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無	104
(2) 相談の有無	113
(3) 相談先	115
(4) 相談しなかった、できなかった理由	118
8 ドメスティック・バイオレンス	121
(1) ドメスティック・バイオレンスの経験の有無	121
(2) 相談の有無	134
(3) 相談先	136
(4) 相談しなかった、できなかった理由	138
(5) ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策	141
9 性の表現	144
(1) 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識	144
10 性の多様性	147
(1) 性自認について悩んだことの有無	147
(2) L G B Tの認知状況	149
11 健康	150
(1) 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと	150
12 学校教育	154
(1) 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと	154
13 女性の社会参画	157
(1) 区議会議員等に占める女性議員数の評価	157
(2) 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因	160
(3) 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと	163
14 防災	166
(1) 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと	166
15 施策や制度など	169
(1) 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況	169
(2) 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向	171
(3) 男女平等社会実現のために充実すべき施策	174
16 自由回答	177
(1) 葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望	177

第4章 調査票	183
---------------	-----

第 1 章 調査概要

1 調査の目的

「葛飾区男女平等推進計画（第5次）」の改定にあたり、区民の男女平等に関する意識と実態について把握、分析し、計画改定の基礎資料として活用することを目的として実施した。

2 調査対象

葛飾区に居住する満18歳以上の男女3,000人

3 調査方法

郵送配布—郵送回収法（督促を兼ねた礼状ハガキ1回送付）

※ただし、回答者がインターネットからでも回答できるよう専用サイトを設置

4 調査時期

令和2年6月25日～7月13日

5 回収結果

発送（配布）数	有効回収数	有効回収率
3,000	1,117	37.2%

6 調査項目

調査項目	問番号	質問内容
男女平等	問1	男女平等社会の進捗（付問：男女の不平等を感じる事）
	問2	男女の地位の平等感
結婚観	問3	結婚観
家庭生活	問4	家事などの分担
	問5	男性の家庭参画の度合い（付問：回答の理由）
	問6	男性の家庭参画に必要な事
就労	問7	職業（付問：職場での男女差別）
	問8	女性の働き方についての意識（付問：回答の理由）
	問9	女性の再就職に対する支援
	問10	育児休業・介護休業の利用状況 （付問：育児休業・介護休業の期間、利用しなかった理由）
ワーク・ライフ・バランス	問11	ワーク・ライフ・バランスの認知状況
	問12	優先度の希望と現実
	問13	ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な事
セクシュアル・ハラスメント	問14	セクシュアル・ハラスメントの経験の有無
	問15	相談の有無（付問：相談先、相談しなかった、できなかった理由）
ドメスティック・バイオレンス	問16	ドメスティック・バイオレンスの経験の有無
	問17	相談の有無（付問：相談先、相談しなかった、できなかった理由）
	問18	ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策
性の表現	問19	性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識
性の多様性	問20	性自認について悩んだ事の有無（付問：悩んだ内容）
	問21	LGBTの認知状況
健康	問22	性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要な事
学校教育	問23	男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべき事
女性の社会参画	問24	区議会議員等に占める女性議員数の評価
	問25	政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因
	問26	政治や行政への女性の参画推進に必要な事
防災	問27	地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要な事
施策や制度など	問28	葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況
	問29	葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向
	問30	男女平等社会実現のために充実すべき施策
	問31	葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望 <自由回答>
基本属性	F1	性別
	F2	年齢
	F3	結婚の有無（付問：共働きの有無）
	F4	子どもの有無

7 報告書の見方

- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN（Number of case）、それ以外の場合にはnと表記しています。
- (2) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合（例えば99.9%、100.1%）があります。
- (3) 性別、年代別などは、無回答の方がいるため、合計が全体とは一致しません。
- (4) 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、%の合計は100%にならないことがあります。
- (5) 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略している場合があります。
- (6) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち回答者数が20未満の場合、全体結果と比率に大きな差がある選択肢であっても、本文で触れていないところがあります。

第2章 調査結果のまとめ

1 基本属性

- ・性別は、「女性」が55.7%、「男性」が42.8%です。(F1)
- ・年齢は、全体では、「50歳代(20.4%)」が最も多く、「40歳代(17.3%)」、「60歳代(16.4%)」が続いています。(F2)
- ・結婚の有無は、全体では、「結婚している(事実婚を含む)(62.8%)」が6割を超えて最も多く、「結婚していない(22.5%)」、「結婚していたが、離別・死別した(11.4%)」が続いています。「結婚している(事実婚を含む)」人の共働きの状況は、全体では、「共働き(53.4%)」が最も多く、「自分だけ働いている(15.3%)」、「配偶者・パートナーだけ働いている(15.2%)」、「ともに働いていない(14.2%)」が続いています。(F3、3-1)
- ・子どもの有無は、全体では、「いる」が60.6%、「いない」が32.7%です。(F4、4-1)

2 男女平等

- ・男女平等社会の進捗は、全体では、「少しは平等になってきている(41.9%)」が最も多く、「かなり平等になってきている(29.3%)」が続いています。「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は33.8%です。平成27年調査、22年調査、16年調査と比較すると、全体では、「十分平等になってきている(4.5%)」は、過去調査(平成27年調査:5.0%、平成22年調査:10.9%、平成16年調査:10.2%)に比べて減っていますが、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(33.8%)は、過去調査(平成27年調査:32.1%、平成22年調査:31.3%、平成16年調査:31.5%)と比べて増えています。一方、「ほとんど平等になっていない(10.6%)」は平成27年調査と比較すると減っていますが、1割を超えています。
- ・性別にみると、女性は「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(26.8%)は増え、「ほとんど平等になっていない(12.2%)」は減っています。男性は「十分平等になってきている(7.1%)」は減っていますが、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(42.9%)は増えています。(問1)
- ・男女平等社会の進捗について、「少しは平等になってきている」「ほとんど平等になっていない」と回答した人に、不平等を感じる点をたずねたところ、全体では、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること(65.1%)」、「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活にかかわりにくいこと(58.7%)」、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること(56.5%)」が5割を超えています。(問1-1)
- ・社会の各分野における男女の地位の平等感をたずねました。全体では、『政治の場(75.0%)』、『社会通念・慣習・しきたりなど(73.4%)』で《男性優遇》(「男性が優遇されている」と「やや男性が優遇されている」の合計)が7割を超えています。また、『学校教育の場』で《平等(54.4%)》が5割台で7つの分野の中で最も多くなっています。また、『全体として、現在の日本では』では、《男性優遇(74.7%)》が7割台となっています。性別にみると、いずれの分野も、女性は男性より《男性優遇》が、男性は女性より《平等》《女性優遇》が多くなっています。平成27年調査と比較すると、すべての分野で《男性優遇》の割合が増えています。(問2)

3 結婚観

- ・結婚観について6つの考え方をたずねました。ここでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を《賛成》、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計を《反対》としています。『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、《反対》は女性

第2章 調査結果のまとめ

80.2%、男性 74.0%で、女性が多くなっています。平成 27 年調査と比較すると、《賛成》(26.9%⇒20.9%)が減り、《反対》(66.3%⇒77.1%)が増えています。

『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』では《賛成》は、女性 87.8%、男性 81.2%で女性が多くなっています。『夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである』では、《賛成》は女性 73.1%、男性 65.1%で、女性が多くなっています。

『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』では、《賛成》は女性 69.1%、男性 56.5%で、女性が多くなっています。『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では、《賛成》は女性 72.2%、男性 55.0%で、女性が多くなっています。『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ』では、《賛成》は女性 73.9%、男性 69.9%で、大きな差はありません。

(問 3)

4 家庭生活

- ・家事などの分担の頻度についてたずねました。すべての項目で「いつもしている」は女性が男性を上回っています。「いつもしている」の多い順にみると、女性は『洗濯 (79.1%)』が最も多く、『食事のしたく (78.1%)』、『食事の後片付け (77.3%)』、『食料品・日用品の買い物 (74.9%)』、『部屋の清掃・片付け (72.0%)』が 7 割台となっています。男性は『ゴミ出し (49.0%)』が 4 割台で最も多く、『食事の後片付け (37.4%)』、『食料品・日用品の買い物 (35.4%)』と続いています。
- ・共働きの状況別にみても、すべての項目で「いつもしている」は女性が男性を上回っており、特に、『洗濯 (87.6%)』、『食料品・日用品の買い物 (87.1%)』、『食事のしたく (85.8%)』、『食事の後片付け (80.9%)』は 8 割台となっています。共働きの男性は『ゴミ出し (52.2%)』が 5 割台となっています。(問 4)
- ・男性の家庭参画の度合いについてたずねました。女性は「積極的に取り組んだ方がよい (女性：35.9%、男性：21.8%)」で男性を上回っています。(問 5)
- ・男性の家庭参画に必要なことは、全体では、「男性自身の家事・育児・介護に取り組むたいと思う気持ち (61.8%)」が最も多く、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解 (56.4%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組むこと (52.2%)」が続いています。(問 6)

5 就労

- ・全体では、「正社員・正職員 (33.5%)」が最も多く、「パートタイム (12.5%)」、「家事専業 (11.5%)」が続いています。「無職」は 13.9%です。(問 7)
- ・何らかの仕事をしている人に、その内容や待遇の問題点についてたずねました。全体では、「昇進、昇格に男女差がある (14.9%)」が最も多く、「女性の配置場所が限られている (11.7%)」、「賃金に男女差がある (10.3%)」が続いています。(問 7-1)
- ・女性の働き方について、女性は「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ (女性：45.2%、男性 40.0%)」、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ (女性：30.2%、男性 25.3%)」、「結婚するまでは仕事を持つが、結婚後は持たない (女性：2.4%、男性 2.3%)」で男性を上回っています。平成 27 年調査と比較すると、男女ともに「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ」が増えています。(問 8)
- ・女性の再就職に対する支援は、全体では、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実 (62.5%)」が最も多く、「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実 (60.3%)」、「家族や周囲などの理解と協力 (56.1%)」が続いています。性別にみると、女性は「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実 (65.8%)」が最も多く、「家族や周囲などの理解と協力 (62.9%)」が続いています。男性は「出産などで退職した後に希望すれば復帰で

きる再雇用制度の充実（61.3%）」が最も多く、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実（58.6%）」が続いています。（問9）

- ・育児休業の利用は、「利用したことがある」は女性が11.4%、男性が1.3%となっています。育児休業の利用期間は、女性は「6カ月～1年未満（40.8%）」が最も多く、「1年以上（39.4%）」が続いています。利用期間について平成27年調査と比較すると、女性は「1年以上（令和2年調査39.4%、平成27年調査18.0%）」が増えています。男性は「3カ月～6カ月未満（令和2年調査16.7%、平成27年調査0.0%）」、「6カ月～1年未満（令和2年調査50.0%、平成27年調査0.0%）」が増えています。（問10、問10-1）
- ・介護休業の利用は、「利用したことがある」は女性が1.4%、男性が0.6%となっています。（問10、10-1）
- ・育児休業を利用しなかった理由は、女性は「出産前に離職したから（37.1%）」が最も多くなっています。男性は、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから（34.9%）」が最も多く、「前例がないから（15.5%）」が続いています。介護休業を利用しなかった理由は、男女ともに「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいたから（女性：19.4%、男性：30.8%）」が最も多くなっています。（問10、10-2）

6 ワーク・ライフ・バランス

- ・ワーク・ライフ・バランスという言葉の《認知度》（「内容まで知っている」と「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」の合計）は、女性が51.6%、男性が59.5%となっています。平成27年調査と比較すると、男女ともに《認知度》は高くなっています。（問11）
- ・生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の希望は、女性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（26.0%）』と『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（22.8%）』、『「家庭生活」を優先したい（20.7%）』が2割台となっています。男性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（29.5%）』が最も多くなっています。現実には、女性は『「家庭生活」を優先している（31.4%）』が最も多くなっています。男性は『「仕事」を優先している（34.1%）』が最も多くなっています。『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』の希望と現実の差について平成27年調査と比較すると、女性は6.6ポイントから5.9ポイントに、男性は9.2ポイントから5.7ポイントに差が縮まっています。（問12）
- ・ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なことは、女性は「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する（44.5%）」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる（42.0%）」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する（40.2%）」が続いています。男性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる（46.9%）」が最も多く、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する（46.4%）」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する（41.0%）」が続いています。（問13）

7 セクシュアル・ハラスメント

- ・職場、学校、地域におけるセクシュアル・ハラスメントについてたずねました。職場では、女性は『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（13.7%）』、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた（11.1%）』、『宴会でお酒やデュエットを強要された（10.6%）』、『不必要に身体をさわられた（10.5%）』が1割台となっています。男性は『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（10.3%）』が最も多くなっています。学校では、男女ともに『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（女性：7.9%、男性：5.2%）』が最も多くなっています。地域では、男女ともに『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（女性：5.6%、男性：5.2%）』が最も多くなっています。（問14）

第2章 調査結果のまとめ

- ・何らかのセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答した人に、その時の対応をたずねたところ、「相談した」は女性が40.7%、男性が21.7%となっています。女性の相談先は、「友人・知人に相談した（56.3%）」が最も多く「家族に相談した（50.0%）」、「会社の人事課、上司などに相談した（19.8%）」が続いています。相談しなかった（できなかった）理由は、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから（女性：50.4%、男性：50.7%）」が最も多く、5割台となっています。（問15、15-1、15-2）

8 ドメスティック・バイオレンス

- ・ドメスティック・バイオレンスの経験をたずねました。《暴力を受けた経験がある》（「何度もあった」と「1、2度あった」の合計）は、女性は『大声で怒鳴られる（20.1%）』が最も多く、『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされる（11.3%）』、『容姿について傷つくようなことを言われる（10.1%）』、『何を言っても無視される（8.3%）』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる（7.7%）』が続いています。また、『命の危険を感じるくらいの暴力を受ける』は3.4%、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は1.9%となっています。男性は『大声で怒鳴られる（10.6%）』が最も多く、『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされる（7.3%）』、『容姿について傷つくようなことを言われる（5.7%）』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる（4.6%）』、『何を言っても無視される（4.4%）』が続いています。また、『命の危険を感じるくらいの暴力を受ける』は0.8%、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は0.6%となっています（問16）
- ・《暴力を受けた経験がある》と回答した人に、相談の有無をたずねたところ、「相談した」は女性が42.0%、男性が12.5%となっています。平成27年調査と比較すると、女性（42.0%）は平成27年調査（36.0%）よりも6.0ポイント増えています。男性（12.5%）は平成27年調査（14.5%）よりも2.0ポイント減っています。（問17）
- ・相談先は、女性は「友人・知人に相談した（68.8%）」が最も多く、「家族や親族に相談した（46.3%）」が続いています。男性は「家族や親族に相談した（70.0%）」が最も多く、「友人・知人に相談した（60.0%）」が続いています。相談しなかった（できなかった）理由は、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから（女性：44.3%、男性：46.0%）」が最も多くなっています。男女の違いをみると、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから（女性：14.4%、男性：28.6%）」が女性よりも14.2ポイント上回っています。（問17-1、問17-2）
- ・ドメスティック・バイオレンスの防止および被害者支援のために必要な対策は、男女ともに「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める（女性：71.2%、男性：66.5%）」が最も多くなっています。（問18）

9 性の表現

- ・性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識は、全体では、「子どもの目にふれないような配慮が足りない（29.0%）」が最も多く、「自分の意思とは関係なく目に入ることがあり、気分を害する（22.9%）」、「社会全体の性や暴力に対する倫理感が損なわれている（22.6%）」、「女性の性を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ（20.7%）」と続いています。男女の違いをみると、女性は「自分の意思とは関係なく目に入ることがあり、気分を害する（女性：29.1%、男性：14.9%）」で男性を上回っており、男性は「社会全体の性や暴力に対する倫理感が損なわれている（25.3%）」、「特に問題はない（女性：13.8%、男性：19.7%）」で女性を上回っています。（問19）

10 性の多様性

- ・性自認について悩んだことの有無は、「ある」は女性が6.6%、男性が5.4%となっています。(問20)
- ・LGBTという言葉の認知度は、女性が78.1%、男性が76.2%となっています。(問21)

11 健康

- ・性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なことは、全体では、「子どもの成長と発育に応じた性教育(64.9%)」が最も多く、「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実(53.0%)」、「喫煙や薬物等、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実(47.1%)」が続いています。男女の違いをみると、女性は「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実(女性：58.2%、男性：47.7%)」、「更年期についての情報提供・相談体制の充実(女性：39.4%、男性：29.9%)」で男性をそれぞれ10.5ポイント、9.5ポイント上回っています。(問22)

12 学校教育

- ・男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきことは、全体では、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(65.5%)」が最も多く、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導(56.0%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践(53.1%)」、「男女平等の意識を育てるための授業を工夫して実施(39.7%)」が続いています。(問23)

13 女性の社会参画

- ・区議会議員等に占める女性議員数の評価については、全体では、「もう少し女性が増えたほうがよい」と「男女半々くらいまで増えたほうがよい」と「男性を上回るほど、女性が増えたほうがよい」をあわせた《増加肯定》は、67.3%です。(問24)
- ・政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因は、全体では、「男性優位の組織運営に問題があるから(44.3%)」が最も多く、「女性の参画を進めようと意識している人が少ないから(40.1%)」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識があるから(29.3%)」が続いています。(問25)
- ・政治や行政への女性の参画推進に必要なことは、全体では、「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する(46.9%)」が最も多く、「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする(27.9%)」、「政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナーなどを積極的に開催する(26.6%)」が2割台で続いています。(問26)

14 防災

- ・地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なことは、全体では、「性別に応じてプライバシー(更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど)を確保するような避難所運営を行うこと(74.8%)」、「災害時要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など)をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行うこと(70.4%)」が7割台となっています。(問27)

15 施策や制度など

- ・葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）を知っている割合は、女性が48.7%、男性が33.9%です。平成27年調査（女性：49.8%、男性：34.0%）と比較すると、男女ともに知っている割合が減っています。（問28）
- ・葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向は、全体では、「相談事業（法律相談、悩みごと相談、女性に対する暴力相談）（12.2%）」が最も多く、「学習・交流のための会議室や学習室（10.8%）」、「平日の夜間や土日に開催される男女平等に関する講座・講演会（9.7%）」が続いています。（問29）
- ・男女平等社会実現のために充実すべき施策は、全体では、「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実（60.8%）」が最も多く、「子育て・育児に関する支援の充実（52.6%）」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実（52.3%）」が続いています。（問30）

第 3 章 調査結果

1 基本属性

(1) 性別

F 1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

【全体】

「女性」が55.7%、「男性」が42.8%となっています。(図表 1-1)

図表 1-1 性別 (全体)



(2) 年齢

F 2 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つだけ)

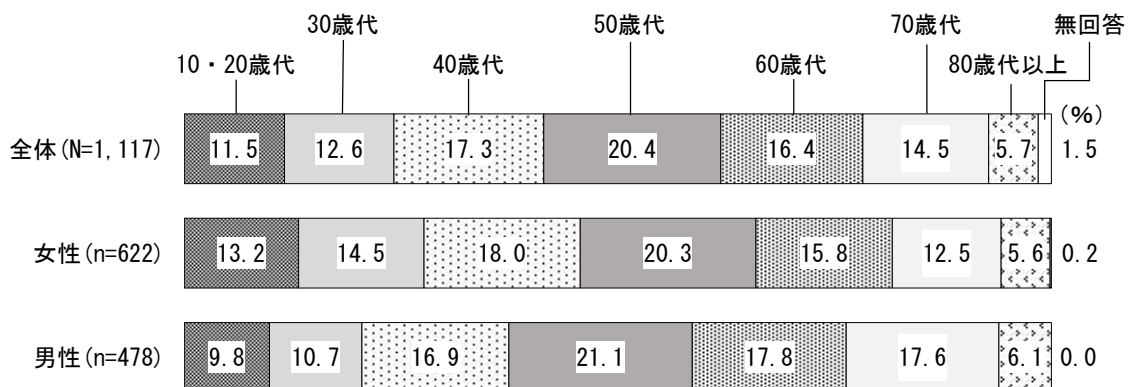
【全体】

全体では、「50 歳代 (20.4%)」が最も多く、「40 歳代 (17.3%)」、「60 歳代 (16.4%)」が続いています。(図表 1-2)

【性別】

性別にみると、女性は「50 歳代 (20.3%)」が最も多く、「40 歳代 (18.0%)」が続いています。
 男性は「50 歳代 (21.1%)」が最も多く、「60 歳代 (17.8%)」、「70 歳代 (17.6%)」が続いています。(図表 1-2)

図表 1-2 年齢 (全体、性別)



第3章 調査結果

(3) 結婚の有無

F3 あなたは結婚していますか。(○は1つだけ)

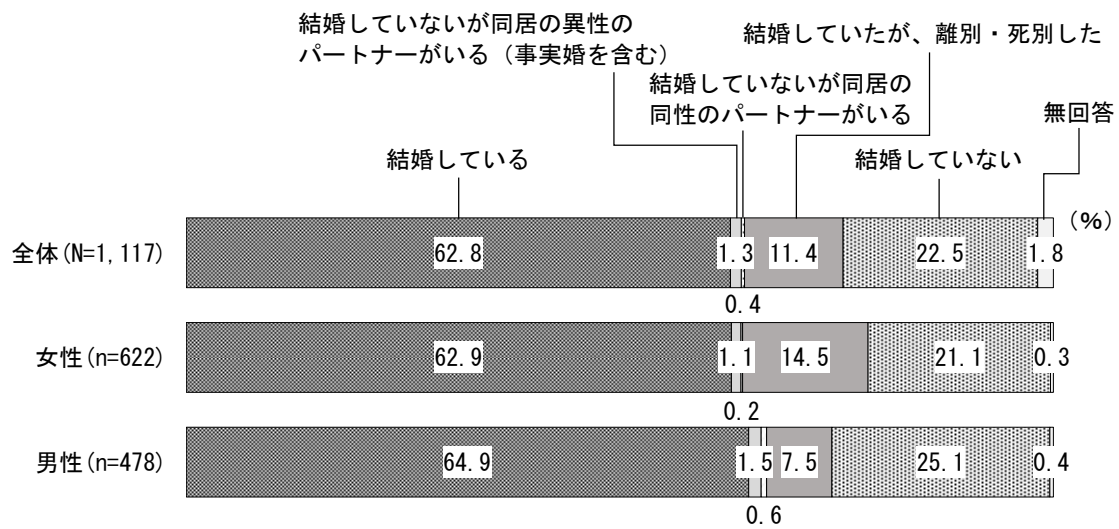
【全体】

全体では、「結婚している (62.8%)」が最も多く、「結婚していない (22.5%)」、「結婚していたが、離別・死別した (11.4%)」が続いています。(図表 1-3)

【性別】

性別にみると、男女ともに「結婚している (女性：62.9%、男性：64.9%)」が最も多く、「結婚していない (女性：21.1%、男性 25.1%)」、「結婚していたが、離別・死別した (女性：14.5%、男性 7.5%)」が続いています。(図表 1-3)

図表 1-3 結婚の有無 (全体、性別)



(4) 共働きの有無

F3で1～3のいずれかをお答えの方に
 F3-1 あなたの世帯は共働きですか。(○は1つだけ)

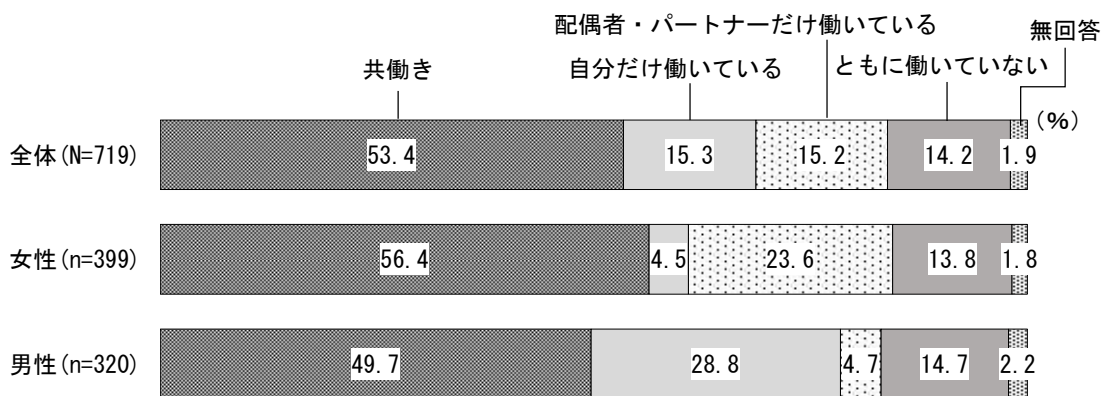
【全体】

全体では、「共働き (53.4%)」が最も多く、「自分だけ働いている (15.3%)」、「配偶者・パートナーだけ働いている (15.2%)」「ともに働いていない (14.2%)」が続いています。
 (図表 1-4)

【性別】

性別にみると、男女ともに「共働き (女性：56.4%、男性：49.7%)」が最も多くなっています。次いで女性は「配偶者・パートナーだけ働いている」が 23.6%、男性は「自分だけ働いている」が 28.8%で続いています。(図表 1-4)

図表 1-4 共働きの有無 (全体、性別)
 <結婚している人、結婚していないが同居のパートナーがいる人>



第3章 調査結果

(5) 子どもの有無

F 4 お子さんはいらっしゃいますか。(○は1つだけ)

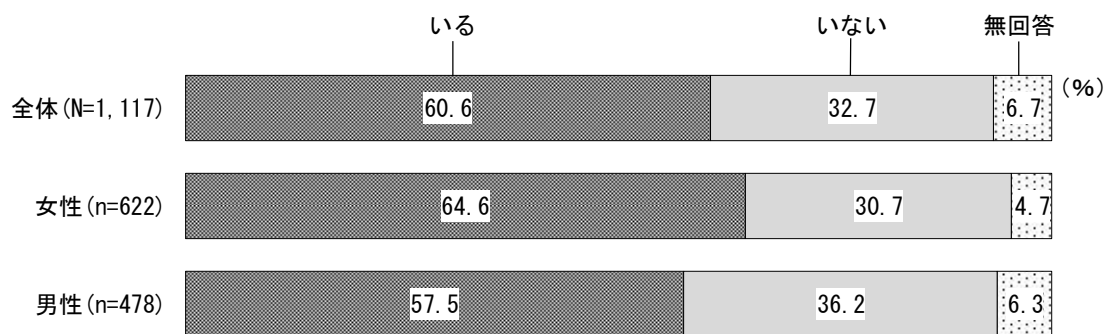
【全体】

全体では、「いる」が60.6%、「いない」が32.7%となっています。(図表 1-5)

【性別】

性別にみると、「いる」は女性が64.6%、男性が57.5%となっています。(図表 1-5)

図表 1-5 子どもの有無 (全体、性別)



2 男女平等

(1) 男女平等社会の進捗

問1 あなたは、日々の暮らしの中で、男女平等社会はどの程度進んでいると思いますか。(○は1つだけ)

【全体】

全体では、「少しは平等になってきている (41.9%)」が最も多く、「かなり平等になってきている (29.3%)」が続いています。「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は33.8%です。

一方、「ほとんど平等になっていない」は10.6%となっています。(図表 2-1-1)

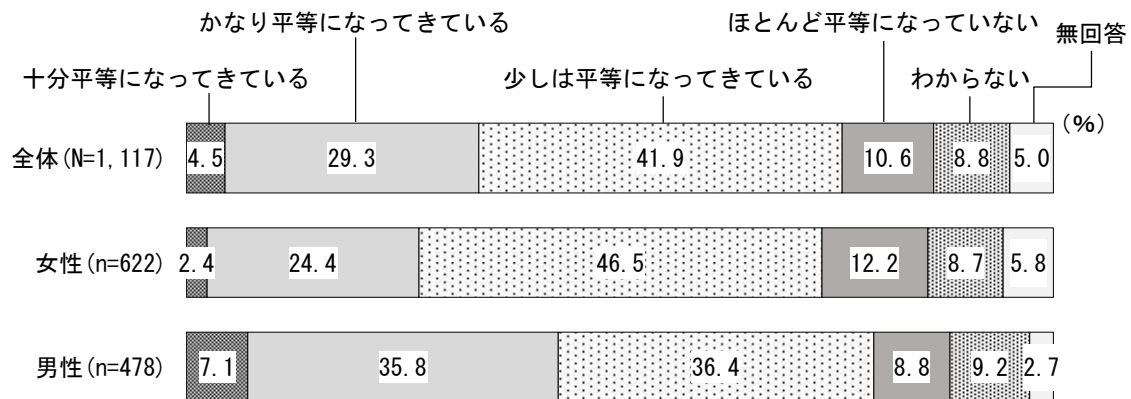
【性別】

性別にみると、男女ともに「少しは平等になってきている (女性：46.5%、男性 36.4%)」が最も多くなっています。

「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は、男性 (42.9%) が女性 (26.8%) を 16.1 ポイント上回っています。

一方、「ほとんど平等になっていない」は女性 (12.2%) が男性 (8.8%) を 3.4 ポイント上回っています。(図表 2-1-1)

図表 2-1-1 男女平等社会の進捗 (全体、性別)



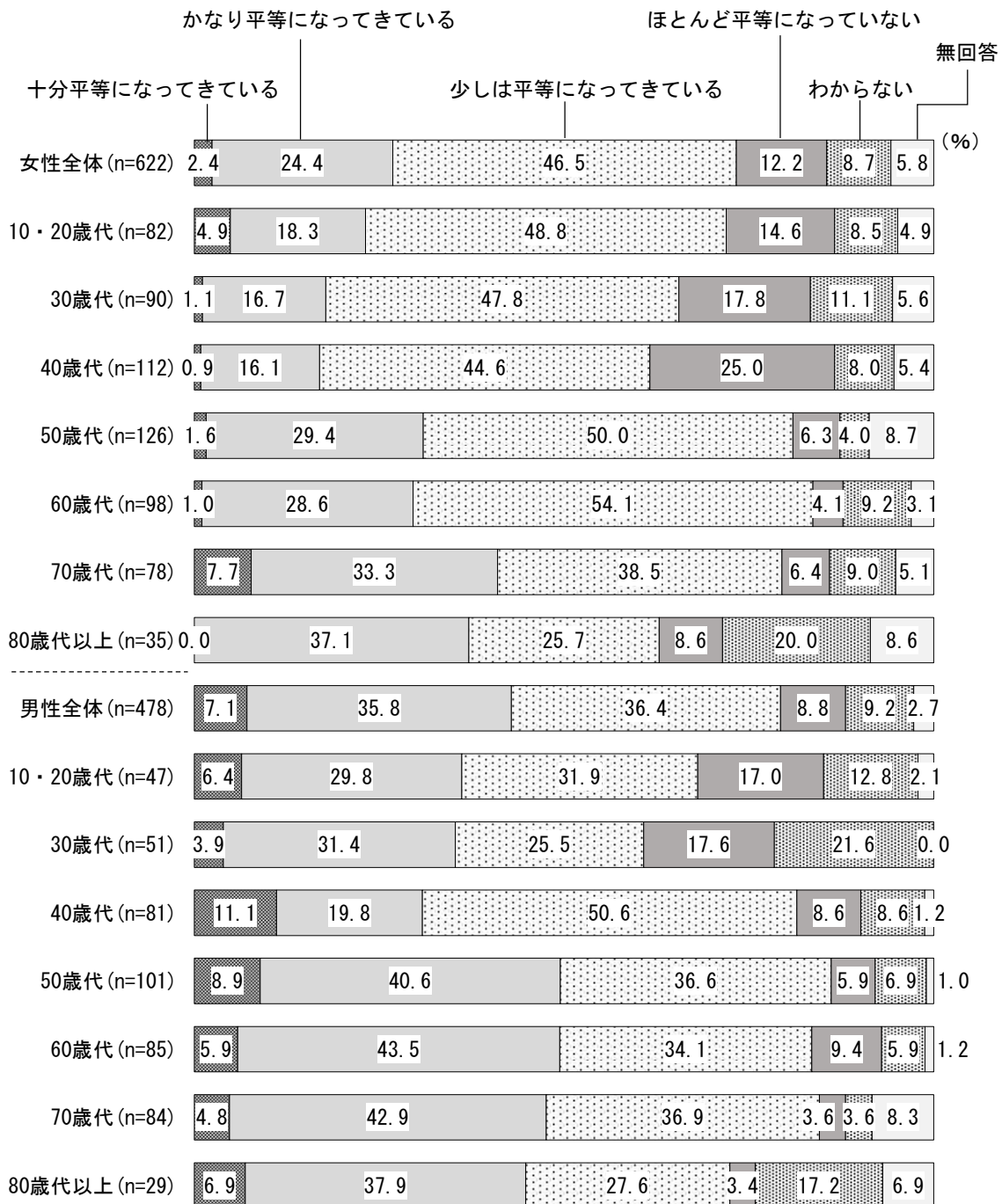
第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計は、女性の30歳代と40歳代は1割台となっていますが、男性はすべての年代で3割を超えており、50歳代では半数近くとなっています。

一方、「ほとんど平等になっていない」は、女性の40歳代が25.0%で他の性・年代に比べて多くなっています。(図表2-1-2)

図表 2-1-2 男女平等社会の進捗 (性・年代別)

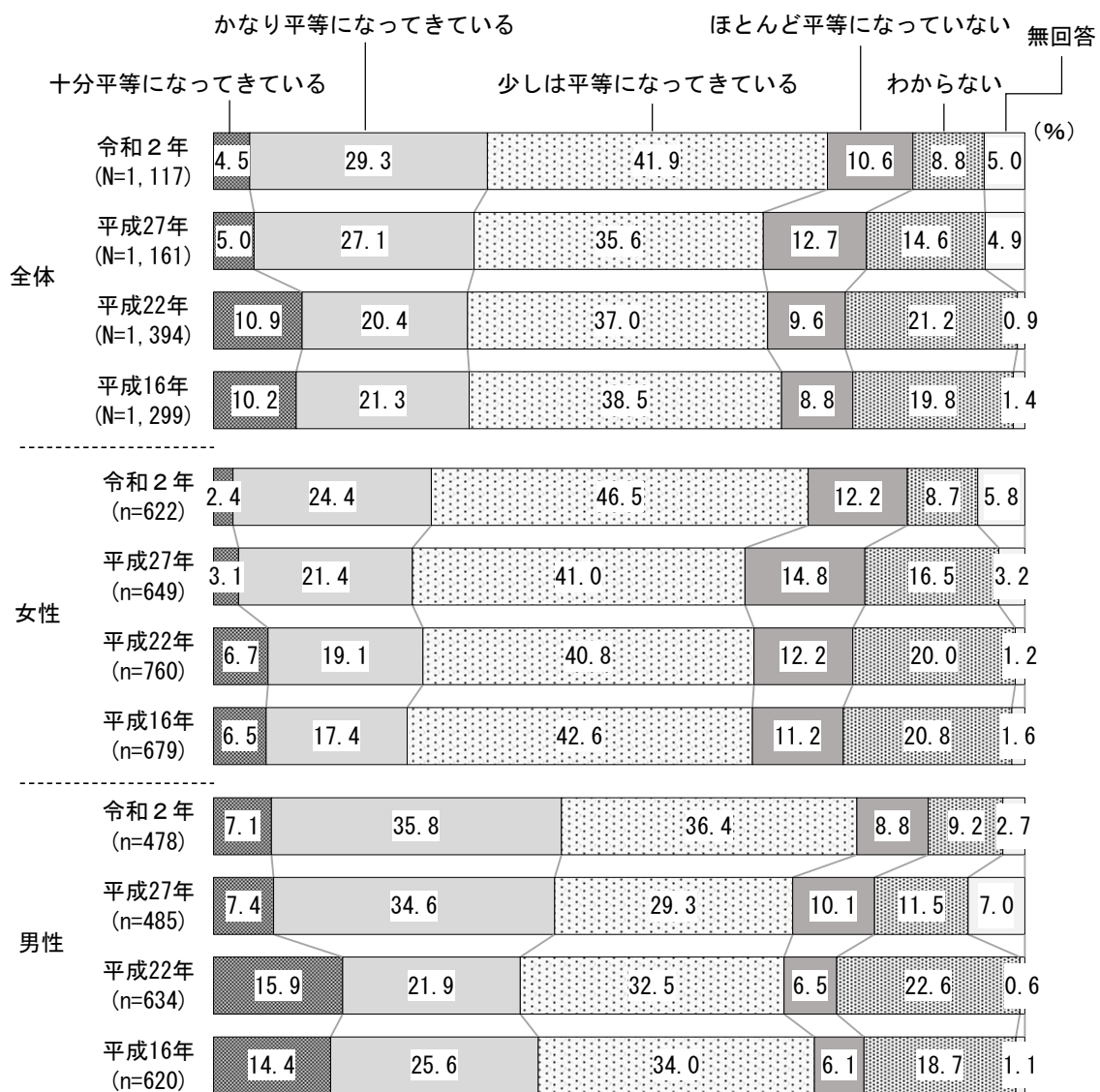


【平成27年調査、平成22年調査、平成16年調査との比較】

平成27年調査、平成22年調査、平成16年調査と比較すると、全体では、「十分平等になってきている(4.5%)」が、過去調査(平成27年調査:5.0%、平成22年調査:10.9%、平成16年調査:10.2%)に比べて減っていますが、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(33.8%)は、過去調査(平成27年調査:32.1%、平成22年調査:31.3%、平成16年調査:31.5%)と比べて増えています。一方、「ほとんど平等になっていない(10.6%)」は平成27年調査と比較すると減っていますが、1割を超えています。

性別にみると、女性は「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(26.8%)は増え、「ほとんど平等になっていない(12.2%)」は減っています。男性は「十分平等になってきている(7.1%)」は減っていますが、「十分平等になってきている」と「かなり平等になってきている」の合計(42.9%)は増えています。(図表2-1-3)

図表 2-1-3 男女平等社会の進捗(全体、性別、平成27年・平成22年・平成16年調査)



第3章 調査結果

(2) 男女の不平等を感じることに

問1で3～4のいずれかをお答えの方に
 問1-1 具体的に、どのような点で男女の不平等を感じますか。
 (○はあてはまるものすべて)

【全体】

男女平等社会の進捗について、「少しは平等になってきている」「ほとんど平等になっていない」と回答した人に、不平等を感じる点をたずねました。

全体では、「家事や育児のほとんどを女性が担っていること (65.1%)」が最も多く、「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活にかかわりにくいこと (58.7%)」、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること (56.5%)」が続いています。

(図表 2-2-1)

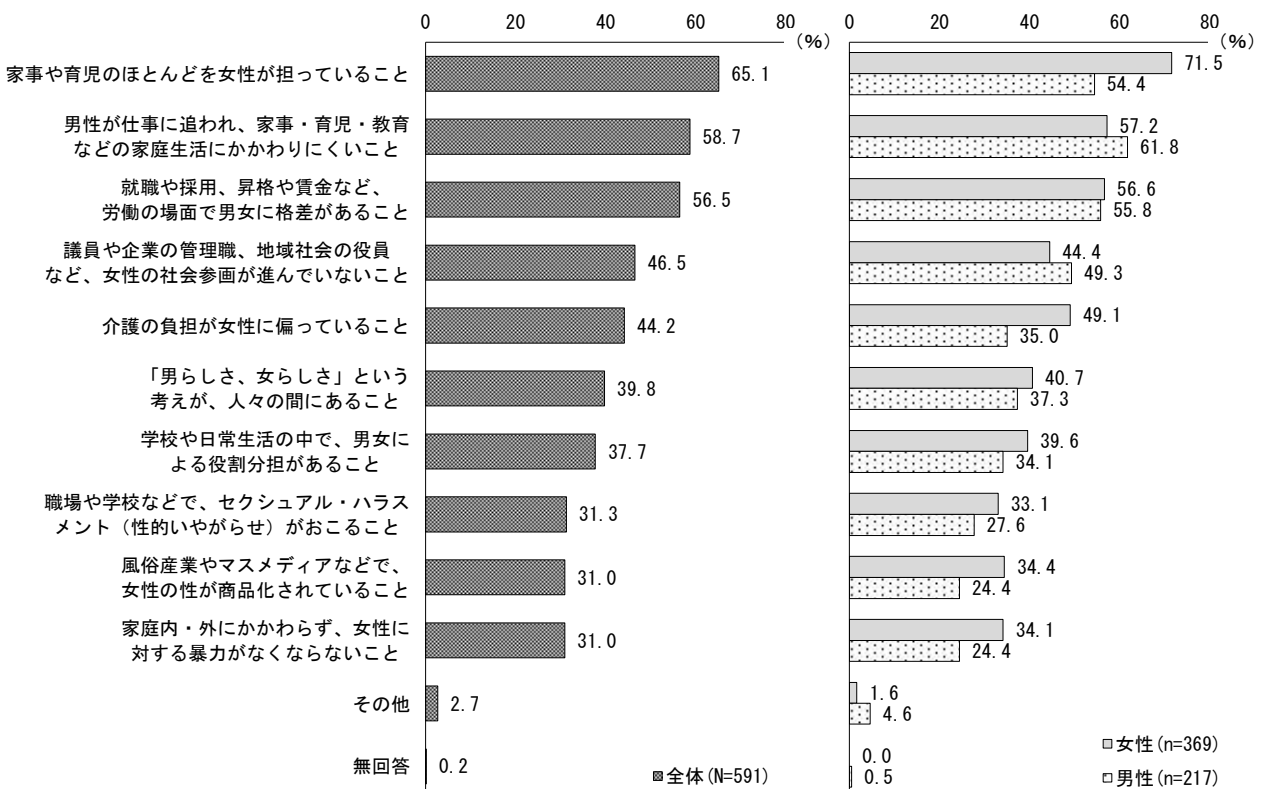
【性別】

性別にみると、女性は「家事や育児のほとんどを女性が担っていること (71.5%)」が最も多く7割を超えています。

男性は「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活にかかわりにくいこと (61.8%)」が最も多く、「就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること (55.8%)」が続いています。

男女の違いをみると、女性は「家事や育児のほとんどを女性が担っていること (女性：71.5%、男性：54.4%)」、「介護の負担が女性に偏っていること (女性：49.1%、男性：35.0%)」で、男性をそれぞれ17.1ポイント、14.1ポイント上回っています。(図表 2-2-1)

図表 2-2-1 男女の不平等を感じることに (全体、性別：複数回答)
 <少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人>

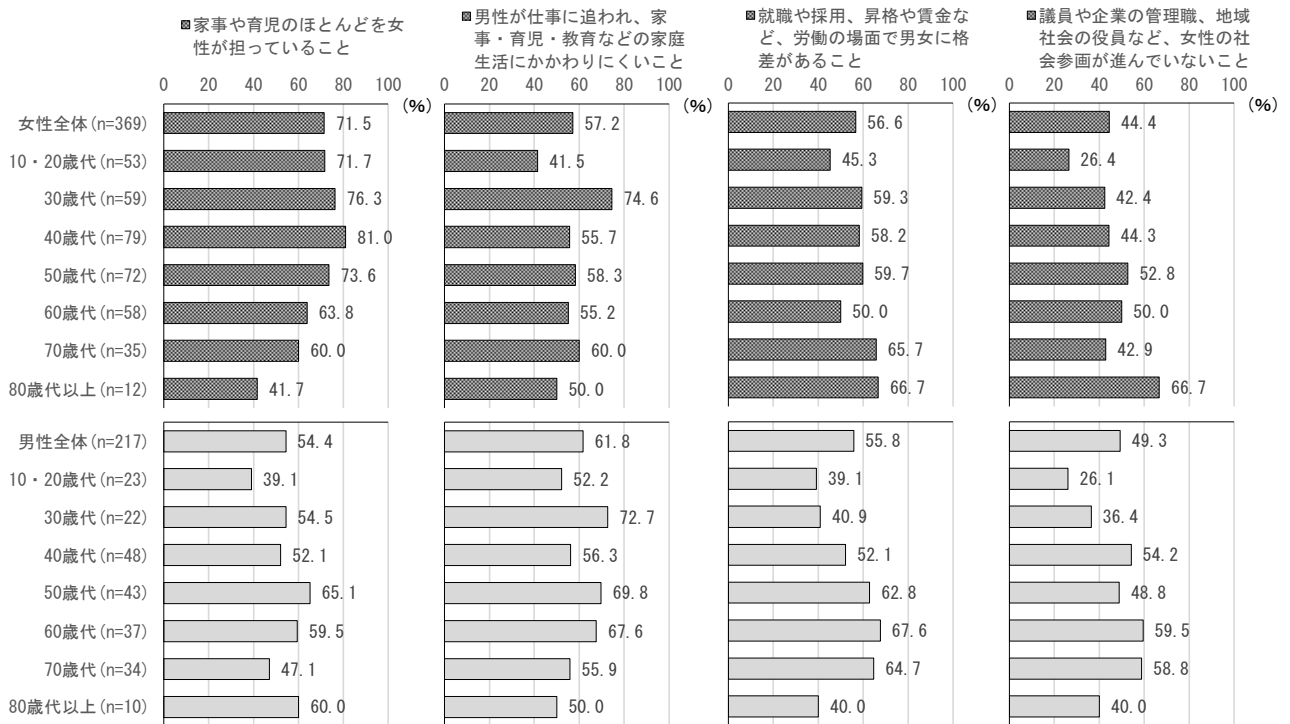


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は40歳代で「家事や育児のほとんどを女性が担っていること」で8割を超えています。

男性は30歳代で「男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活にかかわりにくいこと」が7割を超えています。(図表2-2-2)

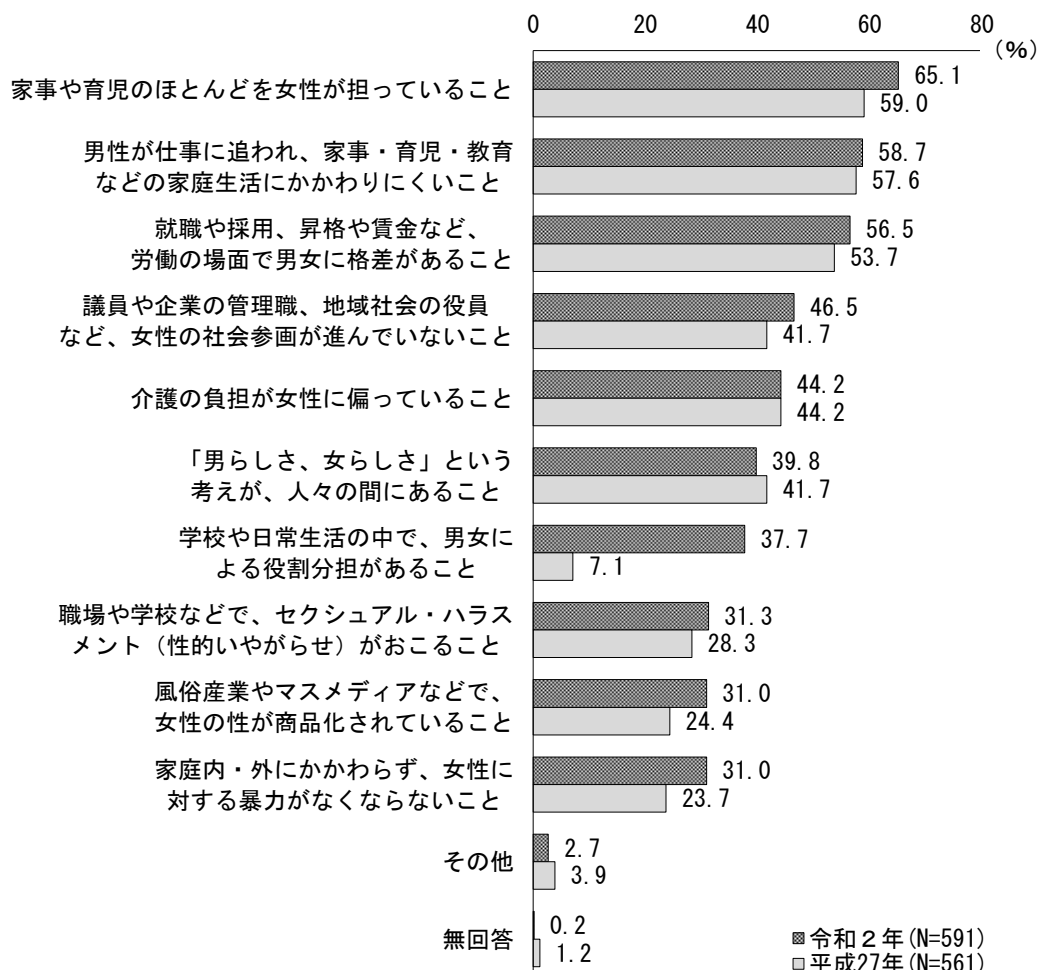
図表2-2-2 男女不平等を感じる事(性・年代別、上位4項目:複数回答)
 <少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人>



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、全体の傾向に大きな変化はありませんが、「学校や日常生活の中で男女による役割分担があること」が増加しています。(図表2-2-3)

図表2-2-3 男女不平等を感じる事(全体、平成27年調査：複数回答)
 <少しは平等になってきている、ほとんど平等になっていないと感じている人>



※平成27年調査では、「男らしさ、女らしさ」という考えが、人々の間にあること」は「男は仕事・女は家庭」という考えが、人々の間にあること、「学校や日常生活の中で、男女による役割分担があること」は「学校生活の中で、男女による役割分担があること」でたずねている。

(3) 男女の地位の平等感

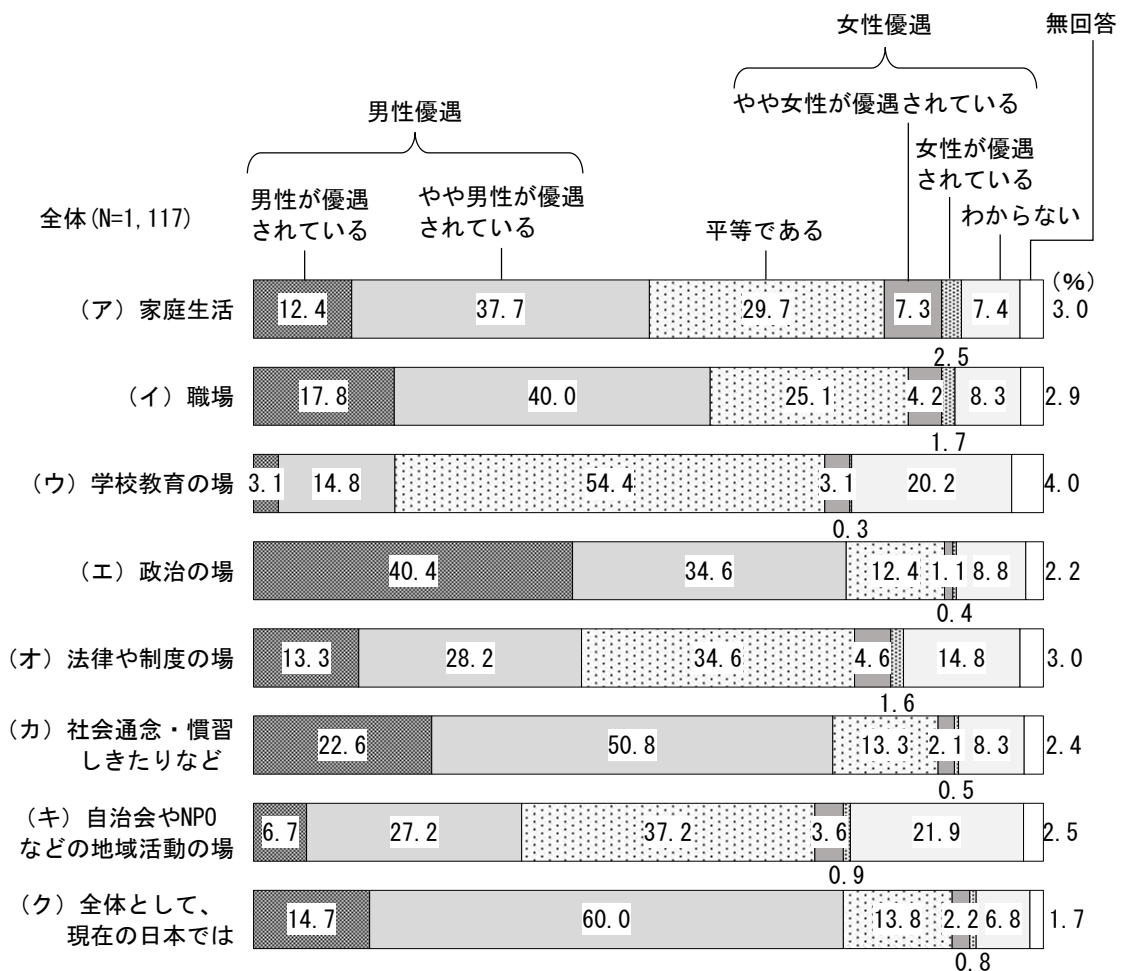
問2 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。(ア)～(ク)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

【全体】

7つの分野および『全体として、現在の日本では』について男女の地位の平等感をたずねました。ここでは、「男性が優遇されている」と「やや男性が優遇されている」の合計を《男性優遇》、「平等である」を《平等》、「女性が優遇されている」と「やや女性が優遇されている」の合計を《女性優遇》としています。

全体では、『政治の場 (75.0%)』、『社会通念・慣習・しきたりなど (73.4%)』で《男性優遇》が7割台と多くなっています。また、『学校教育の場』で《平等 (54.4%)》が5割台で7つの分野の中で最も多くなっています。また、『全体として、現在の日本では』では、《男性優遇 (74.7%)》が7割台となっています。(図表 2-3-1)

図表 2-3-1 男女の地位の平等感 (全体)



第3章 調査結果

【性別】

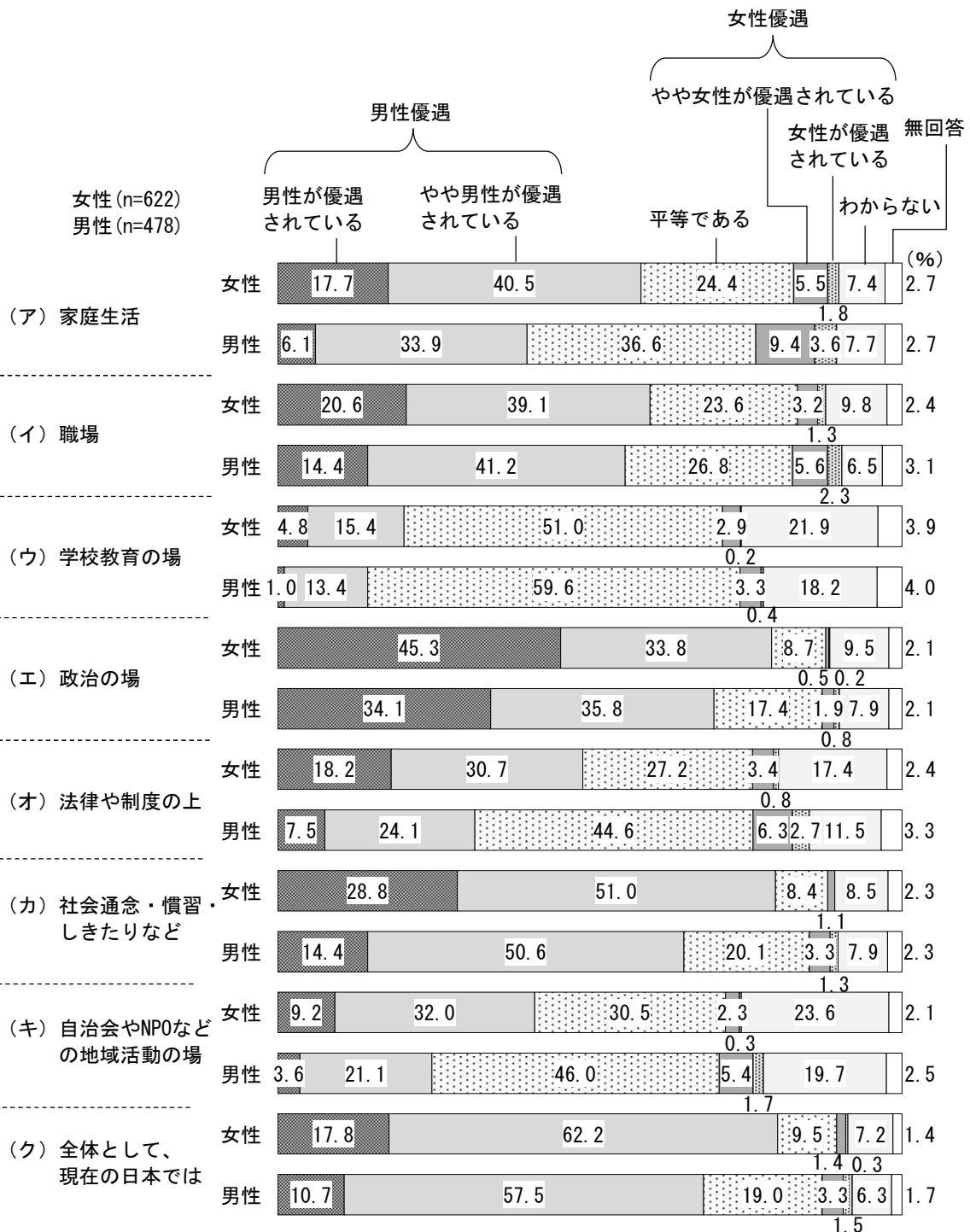
性別にみると、いずれの項目も、女性は男性より《男性優遇》が、男性は女性より《平等》《女性優遇》が多くなっています。

女性は『学校教育の場』以外では、《男性優遇》が《平等》を上回っており、『社会通念・慣習・しきたりなど (79.8%)』、『政治の場 (79.1%)』で8割近くを占めています。

男性は『学校教育の場』、『法律や制度の上』、『自治会や NPO などの地域活動の場』で《平等》が《男性優遇》を上回っています。

特に、『家庭生活』では男女の差が大きく、《男性優遇》は、女性 (58.2%) が男性 (40.0%) を 18.2 ポイント上回っています。(図表 2-3-2)

図表 2-3-2 男女の地位の平等感 (性別)



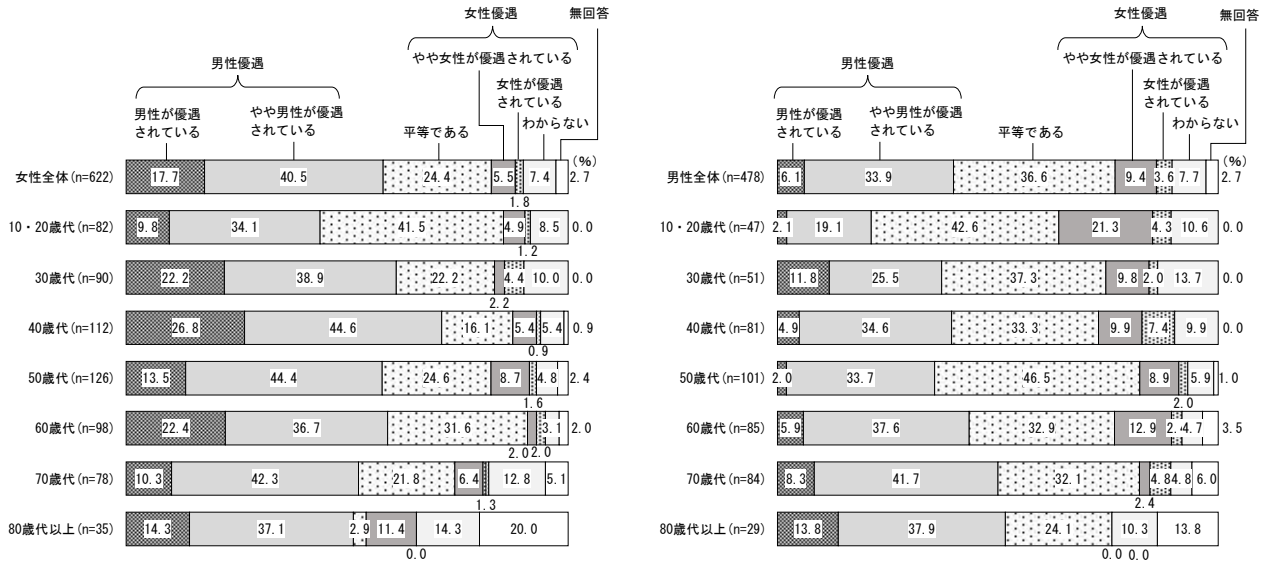
【性・年代別】

■家庭生活

性・年代別にみると、女性は10・20歳代を除きいずれの年代も《男性優遇》が5割を超えています。

男性は10・20歳代、50歳代で《平等》が4割台と多くなっています。(図表2-3-3)

図表 2-3-3 男女の地位の平等感/家庭生活 (性・年代別)

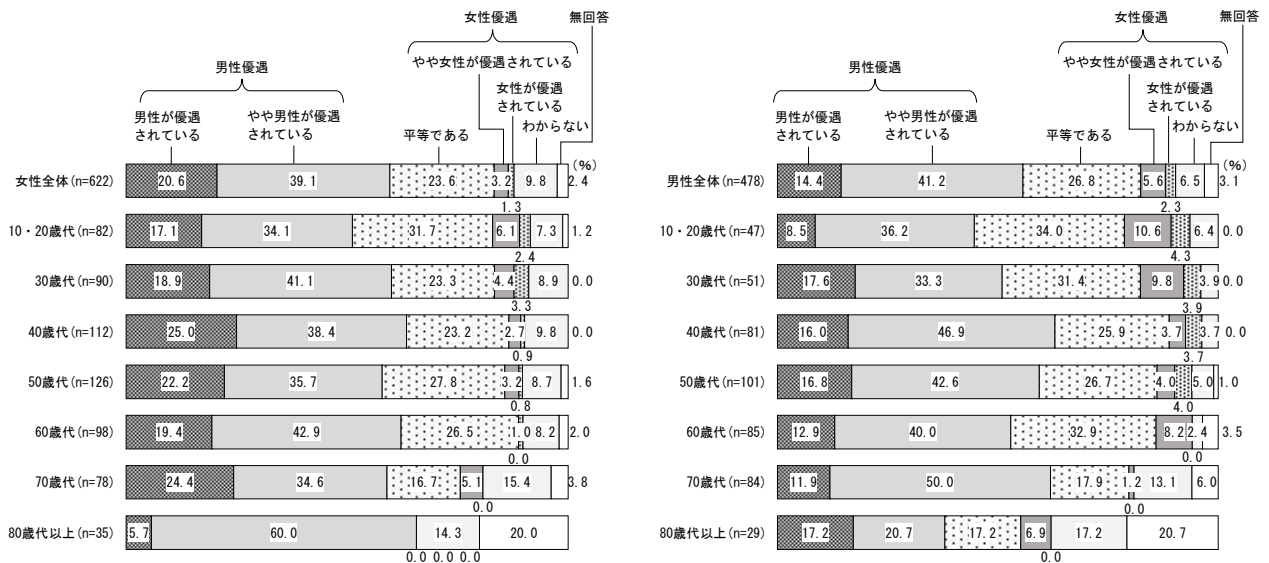


■職場

性・年代別にみると、女性はすべての年代で《男性優遇》が5割を超えています。

男性は30歳代から70歳代で《男性優遇》が5割台から6割台と多くなっているものの、《平等》が2割台から3割台みられます。(図表2-3-4)

図表 2-3-4 男女の地位の平等感/職場 (性・年代別)



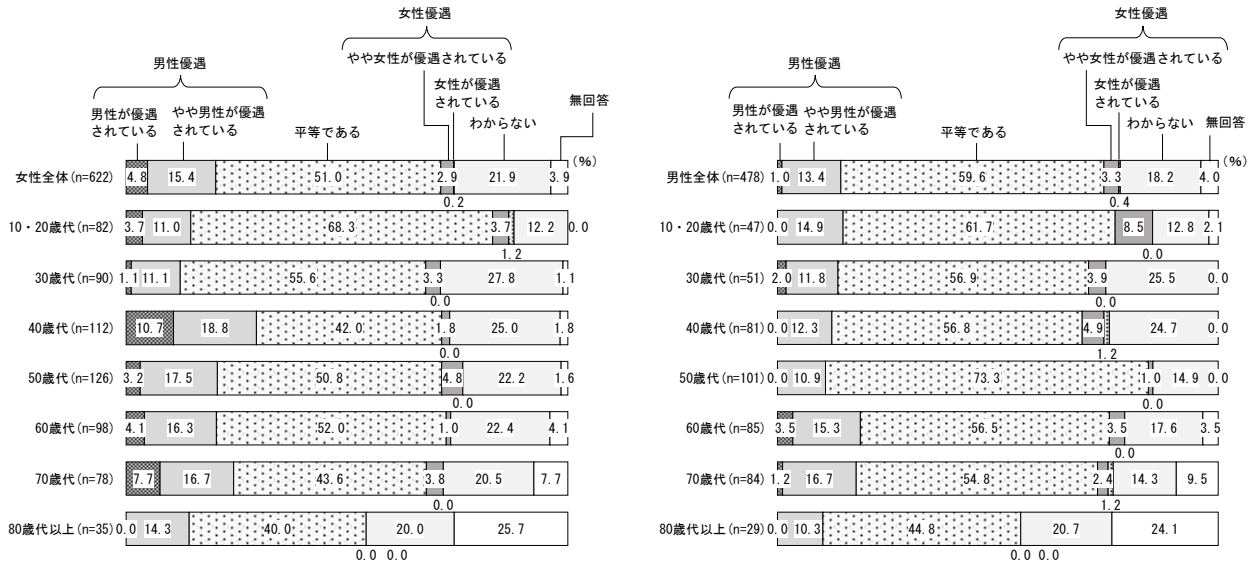
第3章 調査結果

■学校教育の場

性・年代別にみると、女性は10・20歳代で6割台、それ以外の年代でも《平等》が4割台から5割台と多くなっています。

男性は10・20歳代から70歳代で《平等》が5割台から7割台と多くなっています。(図表2-3-5)

図表 2-3-5 男女の地位の平等感/学校教育の場 (性・年代別)

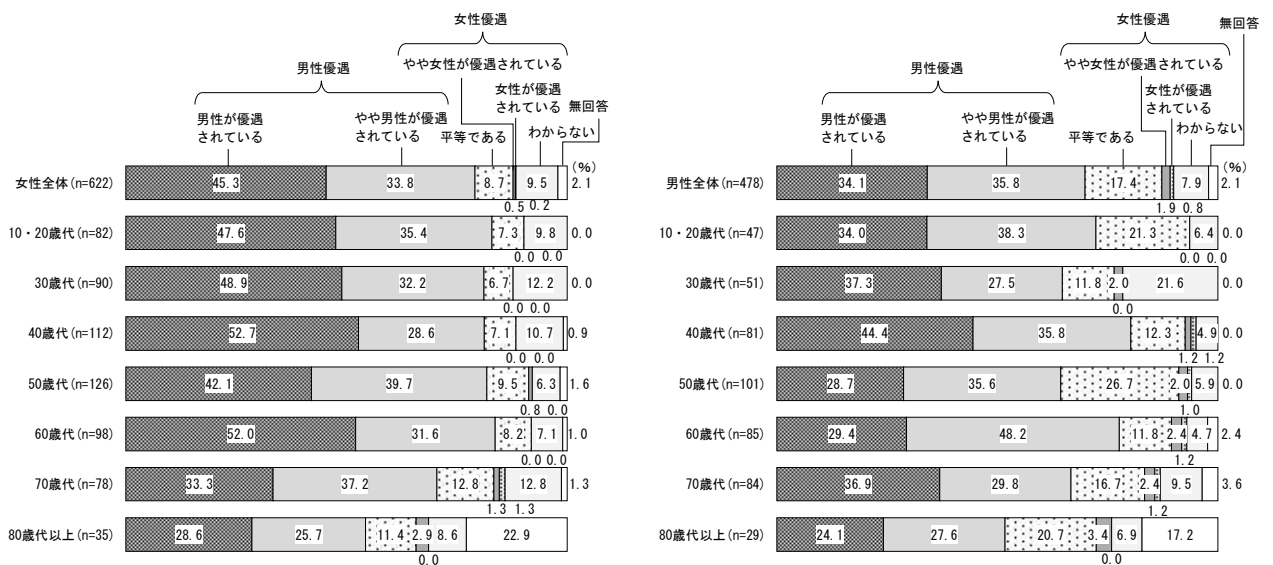


■政治の場

性・年代別にみると、女性は10・20歳代から60歳代で《男性優遇》が8割を超えています。

男性は40歳代で《男性優遇》が8割、10・20歳代と60歳代で7割台となっています。(図表2-3-6)

図表 2-3-6 男女の地位の平等感/政治の場 (性・年代別)

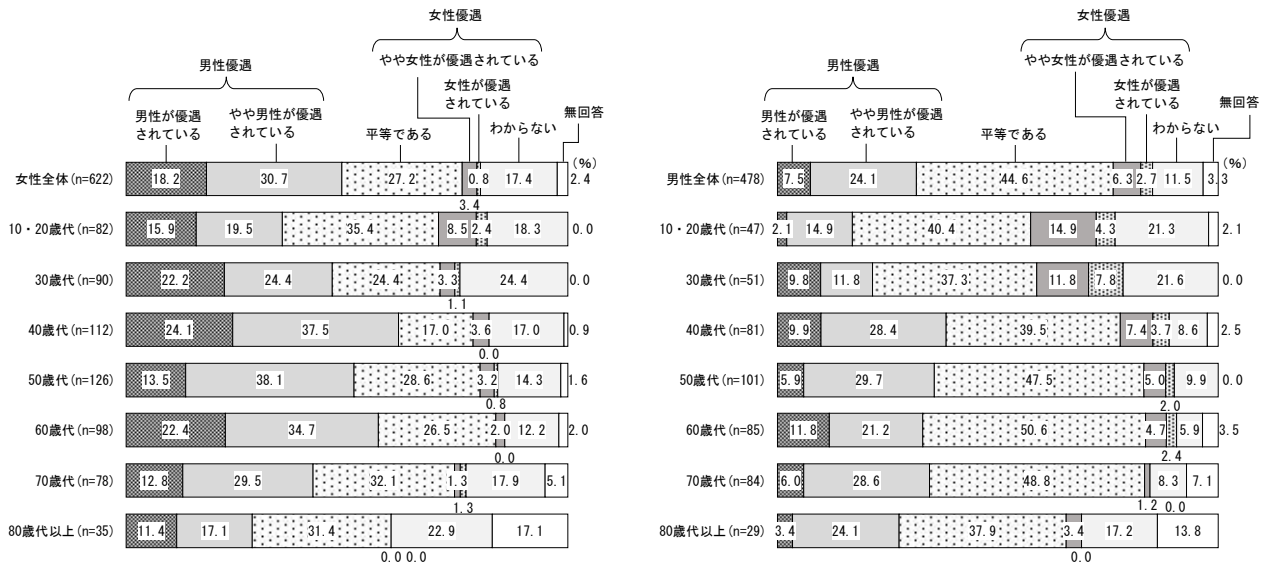


■法律や制度の上

性・年代別にみると、女性は40歳代から60歳代で《男性優遇》が5割を超えています。

男性はすべての年代で《平等》が3割台から5割台と多くっており、特に60歳代は、50.6%となっています。(図表2-3-7)

図表 2-3-7 男女の地位の平等感/法律や制度の上 (性・年代別)

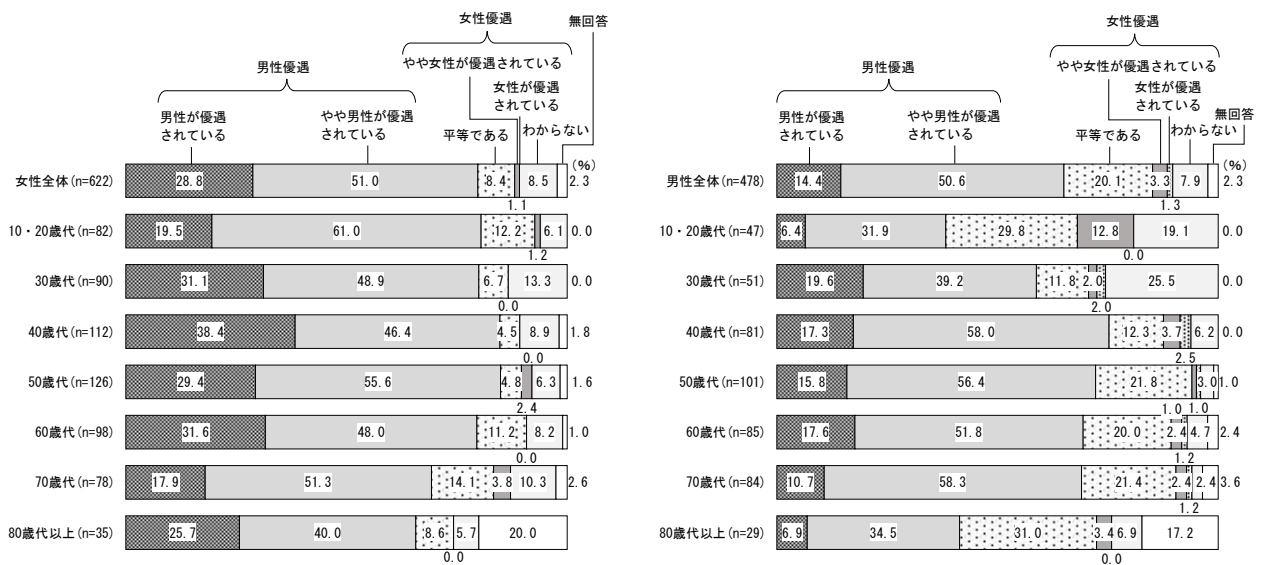


■社会通念・慣習・しきたりなど

性・年代別にみると、女性は10・20歳代から60歳代で《男性優遇》が7割台から8割台となっており、特に50歳代は85.0%と多くなっています。

男性は40歳代から70歳代で《男性優遇》が6割台から7割台と多くなっています。(図表2-3-8)

図表 2-3-8 男女の地位の平等感/社会通念・慣習・しきたりなど (性・年代別)



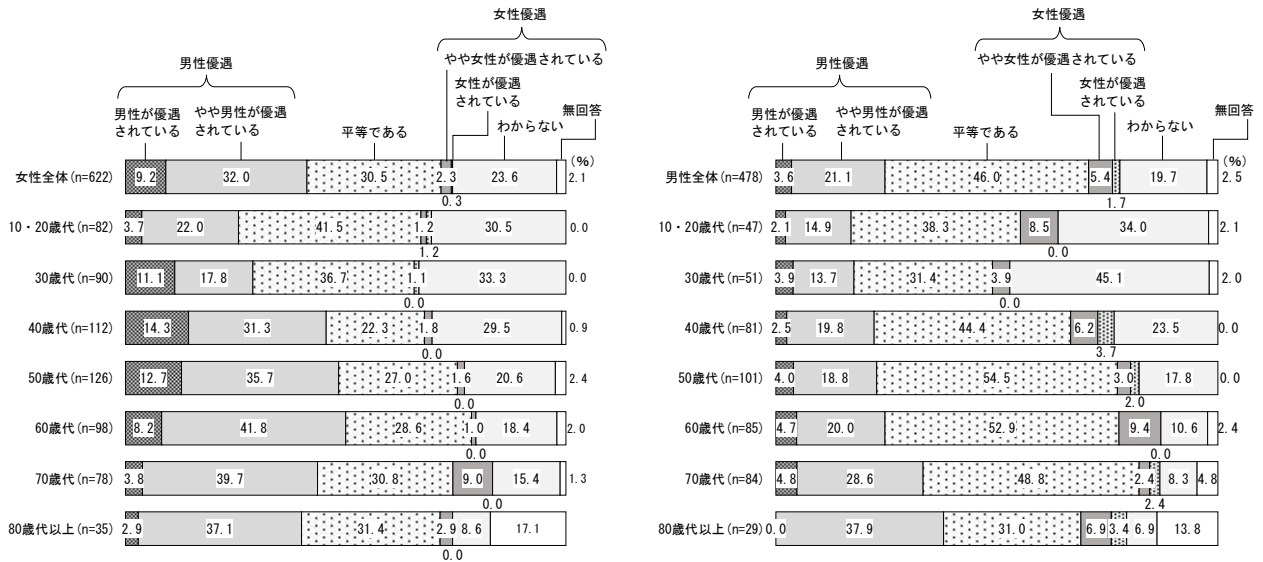
第3章 調査結果

■自治会やNPOなどの地域活動の場

性・年代別にみると、女性は10・20歳代で《平等》が41.5%と多くなっていますが、60歳代までは年代が上がるに従って《平等》が減少傾向で、《男性優遇》が増えています。

男性は40歳代から70歳代で《平等》が4割台から5割台と多くなっています。(図表2-3-9)

図表2-3-9 男女の地位の平等感/自治会やNPOなどの地域活動の場(性・年代別)

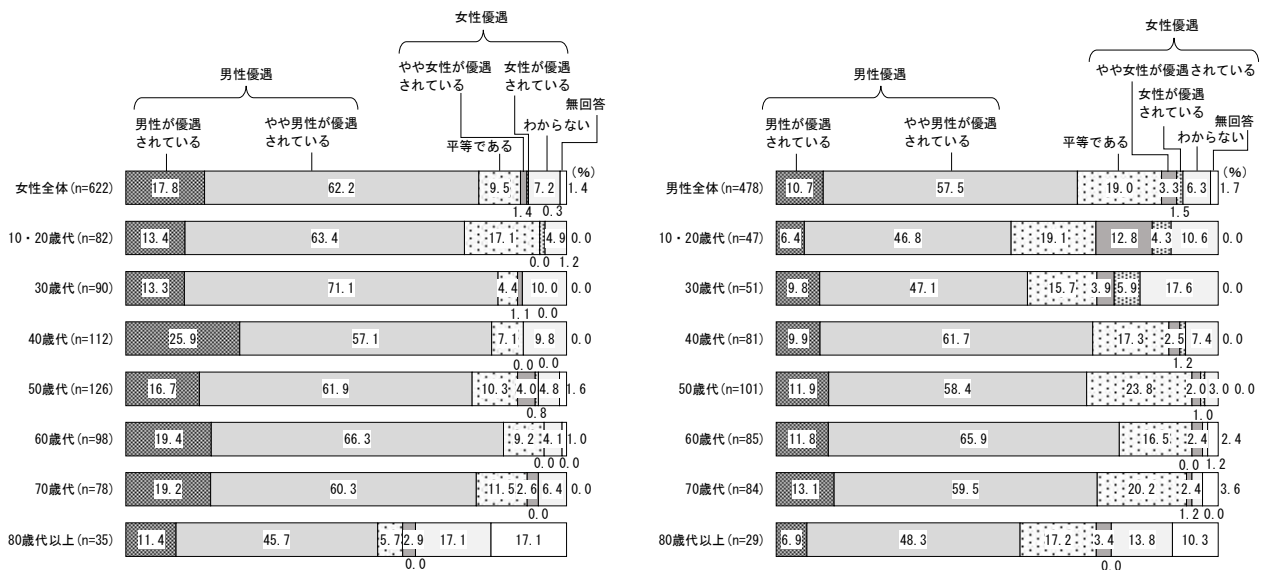


■全体として、現在の日本では

性・年代別にみると、女性は10・20歳代から70歳代で《男性優遇》が7割台から8割台と多くなっています。

男性は50歳代で《平等》が23.8%と多くなっていますが、40歳代から70歳代で《男性優遇》が7割台と多くなっています。(図表2-3-10)

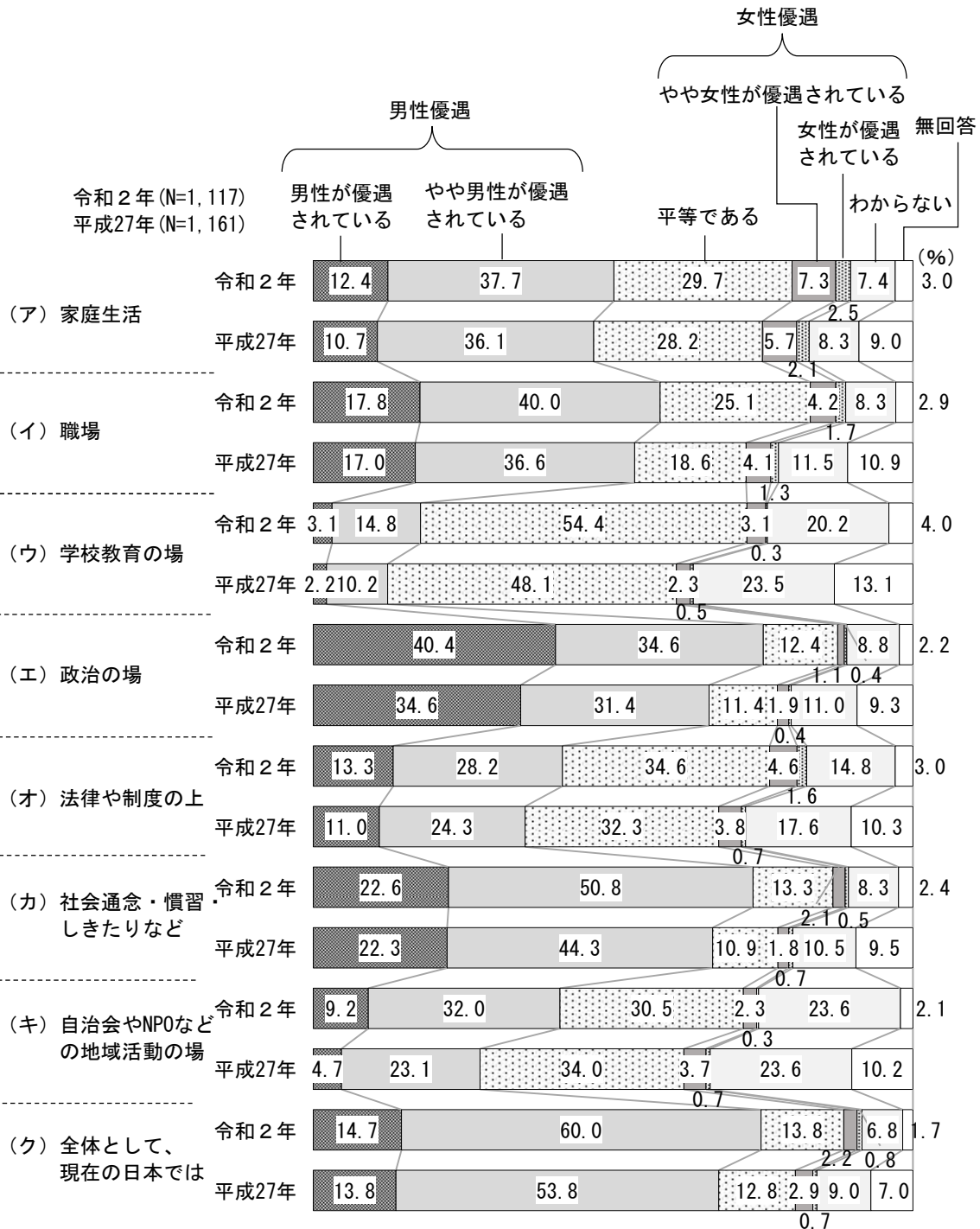
図表2-3-10 男女の地位の平等感/全体として、現在の日本では(性・年代別)



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、すべての分野で《男性優遇》の割合が増えており、特に『政治の場』は、66.0%から75.0%へ9ポイント増えています。(図表2-3-11)

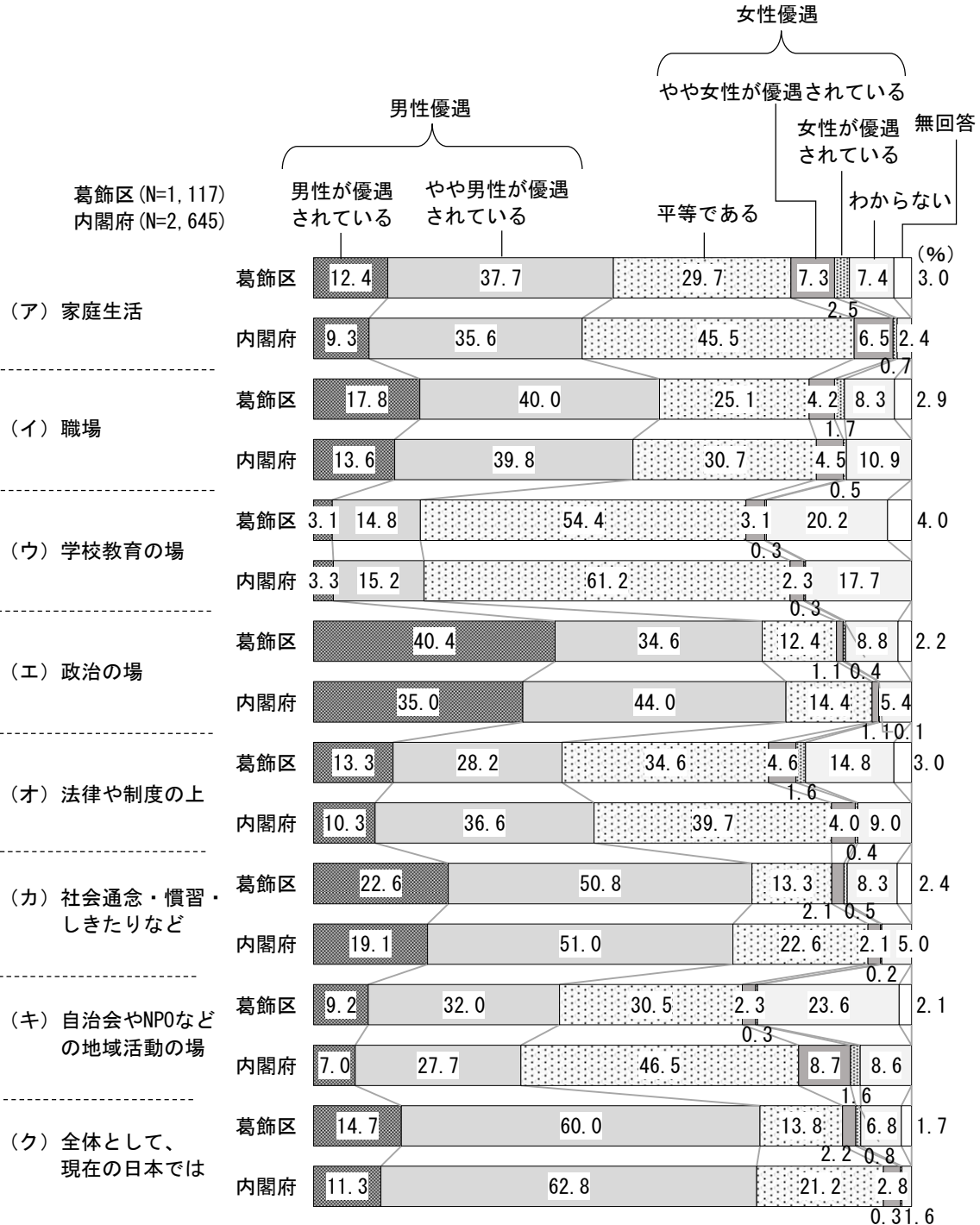
図表2-3-11 男女の地位の平等感（全体、平成27年調査）



【内閣府調査との比較】

内閣府調査と比較すると、葛飾区はすべての分野で《平等》の割合が低く、特に『家庭生活』は葛飾区 29.7%、内閣府 45.5%、『自治会や NPO などの地域活動の場』は葛飾区 30.5%、内閣府 46.5%で、それぞれ内閣府調査より 15 ポイント以上低くなっています。(図表 2-3-12)

図表 2-3-12 男女の地位の平等感（全体、内閣府調査（令和元年））



※内閣府調査では、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「平等」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」、「わからない」でたずねている。
 ※内閣府調査には、「無回答」はなし。(キ)「自治会や NPO などの地域活動の場」は「自治会や PTA などの地域活動の場」、(ク)「全体として、現在の日本では」は「社会全体でみた場合には」でたずねている。

3 結婚観

(1) 結婚観

問3 次にあげる（ア）～（カ）の考えについて、あなたはどのように思いますか。
（○はそれぞれ1つずつ）

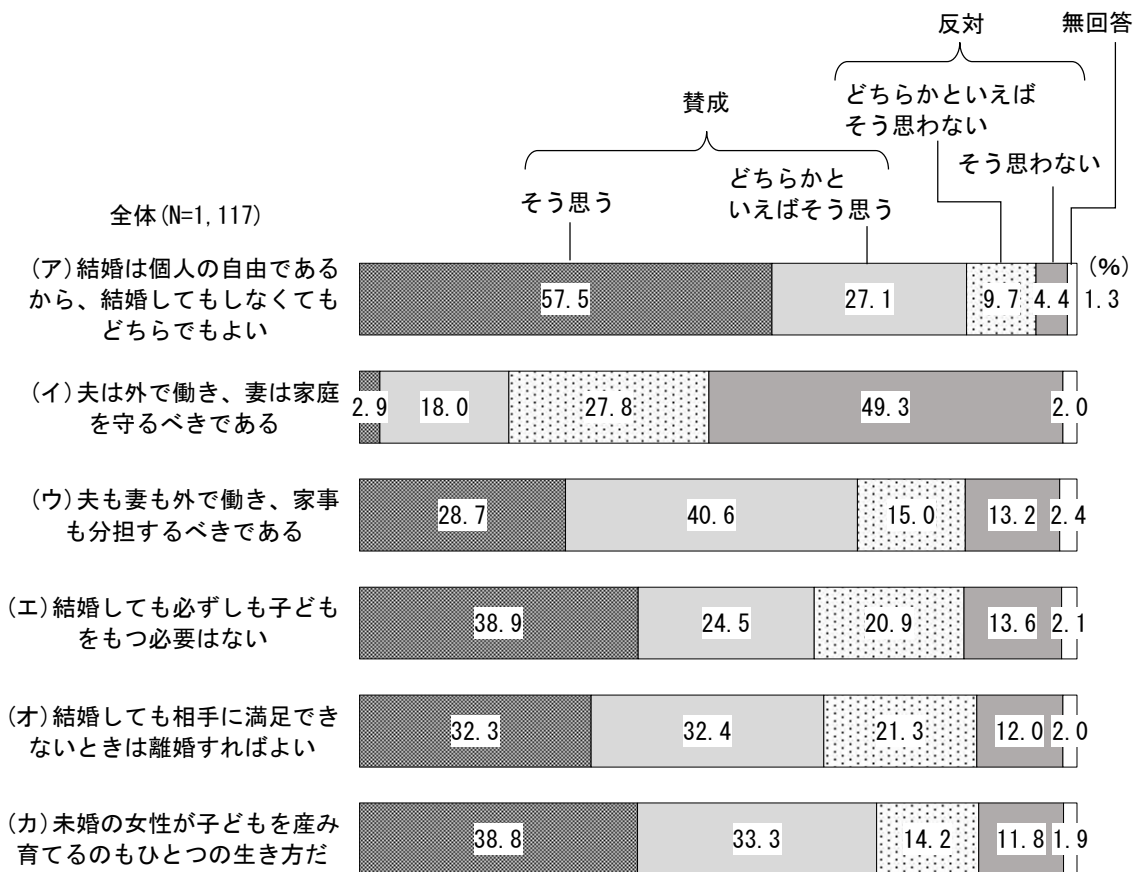
【全体】

結婚観について6つの考え方をたずねました。ここでは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計を《賛成》、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計を《反対》としています。

《賛成》の多い順でみると、全体では『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』が84.6%で最も多く、『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ（72.1%）』、『夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである（69.3%）』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい（64.7%）』となっています。

一方、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』は《反対》が77.1%と7割を超えています。（図表3-1-1）

図表 3-1-1 結婚観（全体）



第3章 調査結果

【性別】

性別にみると、『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』では《賛成》が、女性は87.8%、男性は81.2%で、女性が多くなっています。

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、《反対》は女性80.2%、男性74.0%で、女性が多くなっています。

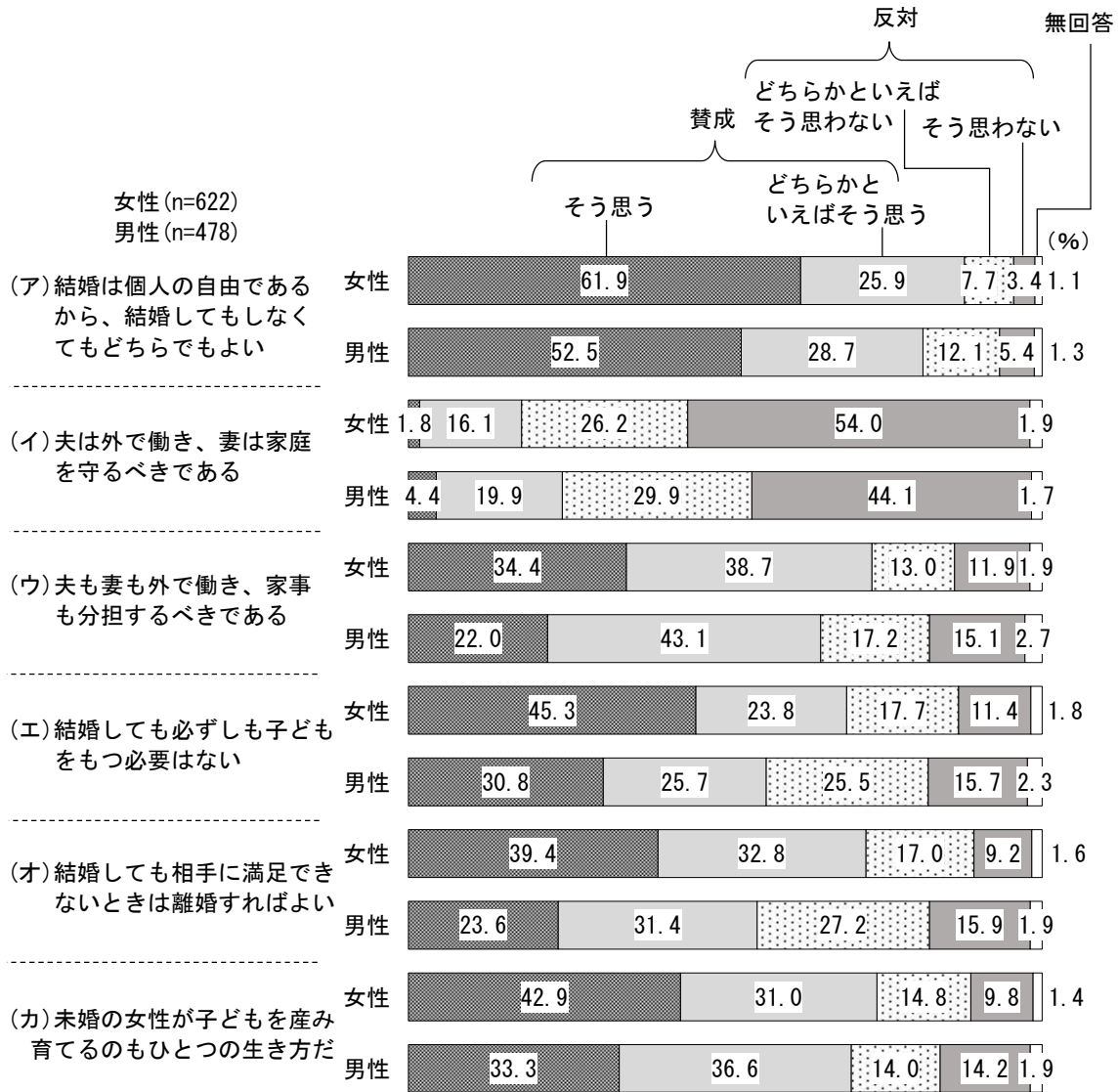
『夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである』では、《賛成》は女性73.1%、男性65.1%で女性が多くなっています。

『結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない』では、《賛成》は女性69.1%、男性56.5%で女性が多くなっています。

『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では、《賛成》は女性72.2%、男性55.0%で女性が多くなっています。

『未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ』では、《賛成》は女性73.9%、男性69.9%で大きな差はありません。(図表3-1-2)

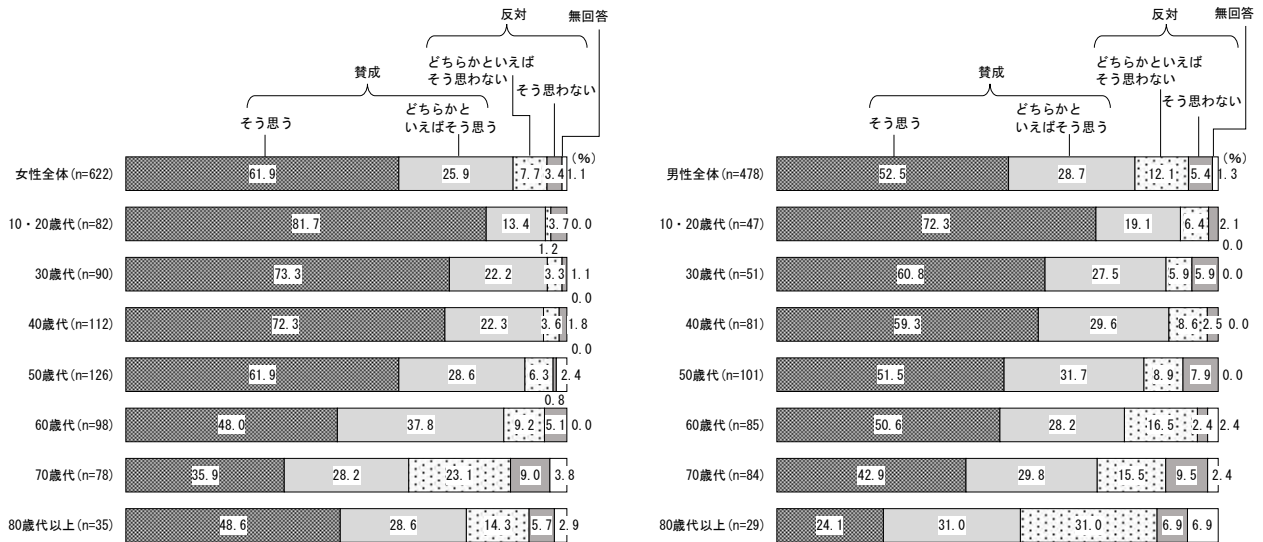
図表3-1-2 結婚観（性別）



【性・年代別】

■結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい
 性・年代別にみると、女性は10・20歳代から50歳代で《賛成》が9割台と多くなっています。
 男性は10・20歳代で《賛成》が91.4%と多くなっています。(図表3-1-3)

図表3-1-3 結婚観/結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい
 (性・年代別)

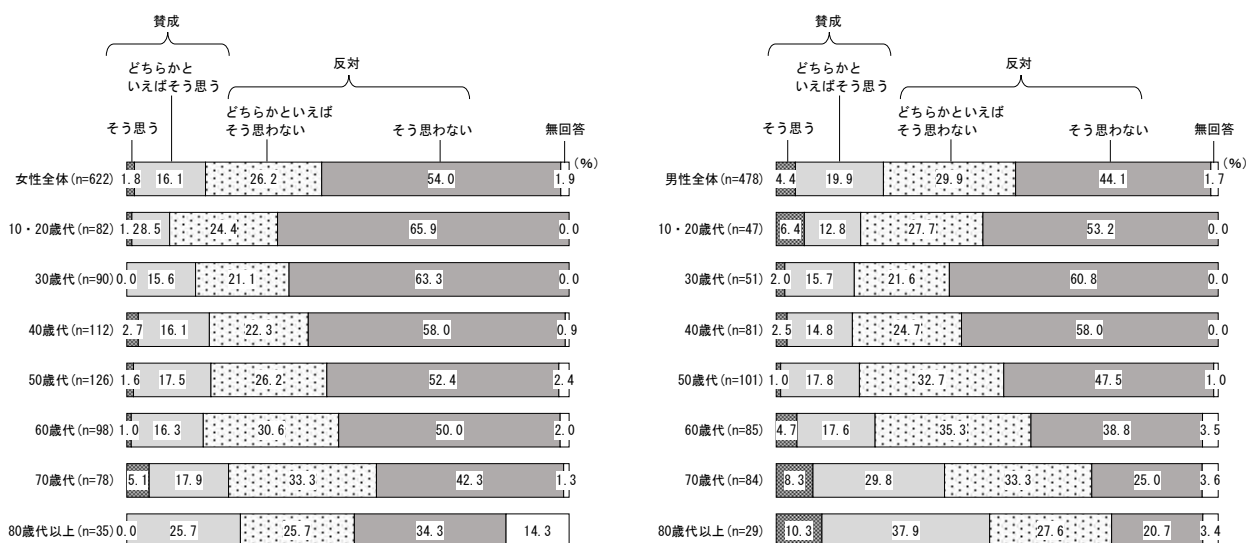


■夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

性・年代別にみると、《反対》は女性の10・20歳代で9割台、女性の30歳代、40歳代、60歳代と男性の10・20歳代から50歳代で8割台と多くなっています。

「そう思わない」に着目すると、女性の10・20歳代(65.9%)と80歳代以上(34.3%)で大きな開きがあります。(図表3-1-4)

図表3-1-4 結婚観/夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである
 (性・年代別)



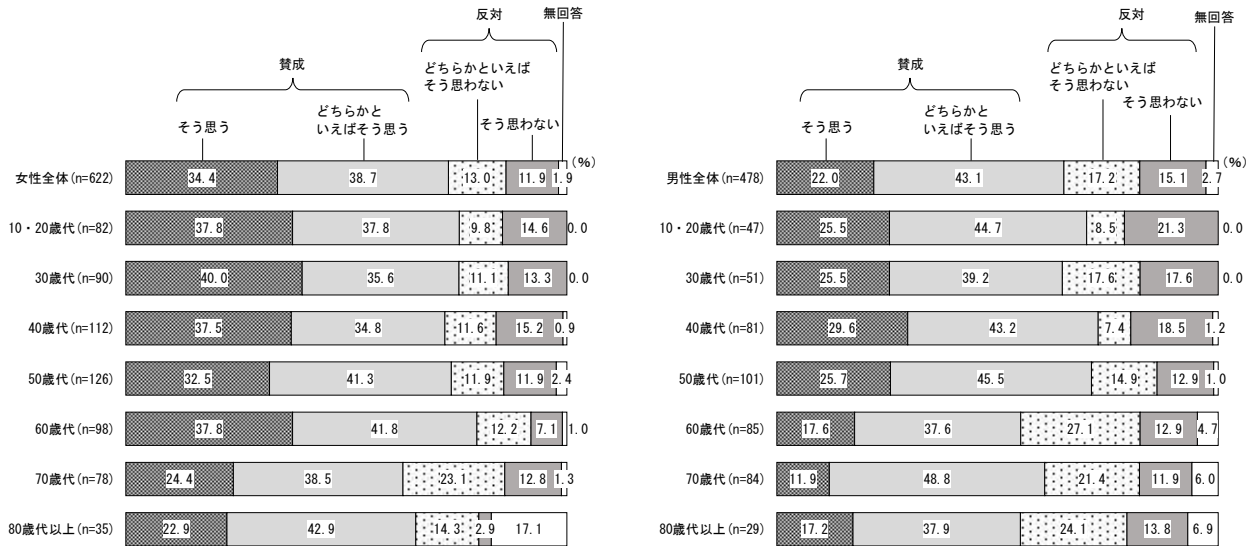
第3章 調査結果

■夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである

性・年代別にみると、女性は10・20歳代から60歳代まで《賛成》が7割台から8割台となっています。

男性は10・20歳代から50歳代まで《賛成》が6割台から7割台となっています。(図表3-1-5)

図表 3-1-5 結婚観/夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである
(性・年代別)

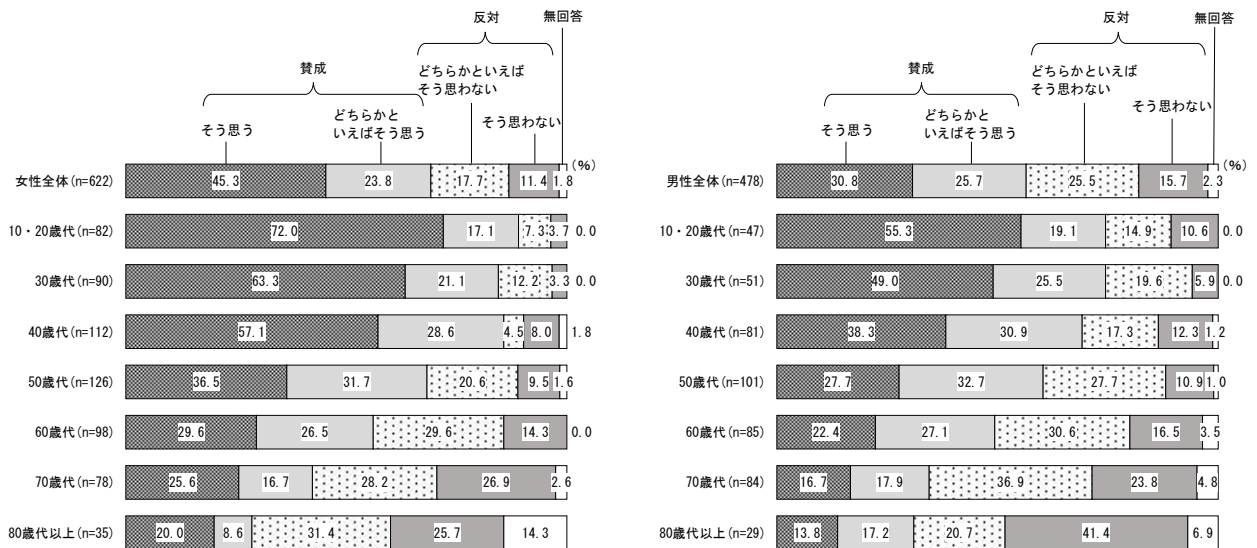


■結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

性・年代別にみると、女性は10・20歳代で《賛成》が89.1%と多くなっていますが、年代が上がるに従って「そう思う」は減っていきます。

男性は10・20歳代と30歳代で《賛成》が7割台となっていますが、年代が上がるに従って「そう思う」は減っていきます。(図表3-1-6)

図表 3-1-6 結婚観/結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない
(性・年代別)

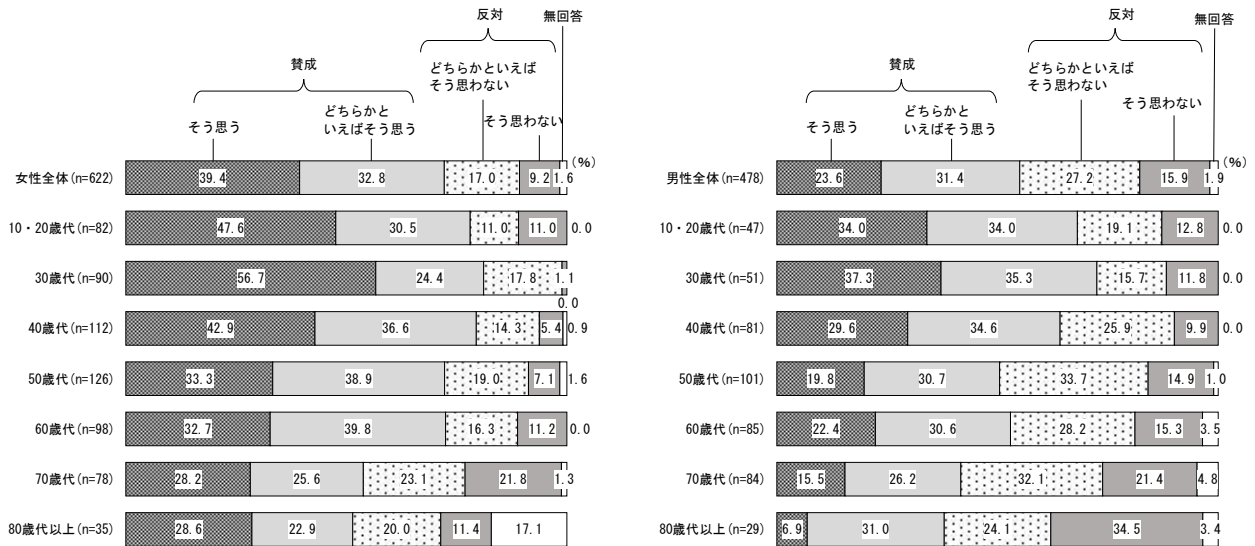


■結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

性・年代別にみると、女性は10・20歳代から60歳代で《賛成》が7割台から8割台になっています。

男性は10・20歳代から40歳代で《賛成》が6割台から7割台になっています。(図表 3-1-7)

図表 3-1-7 結婚観/結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい
(性・年代別)

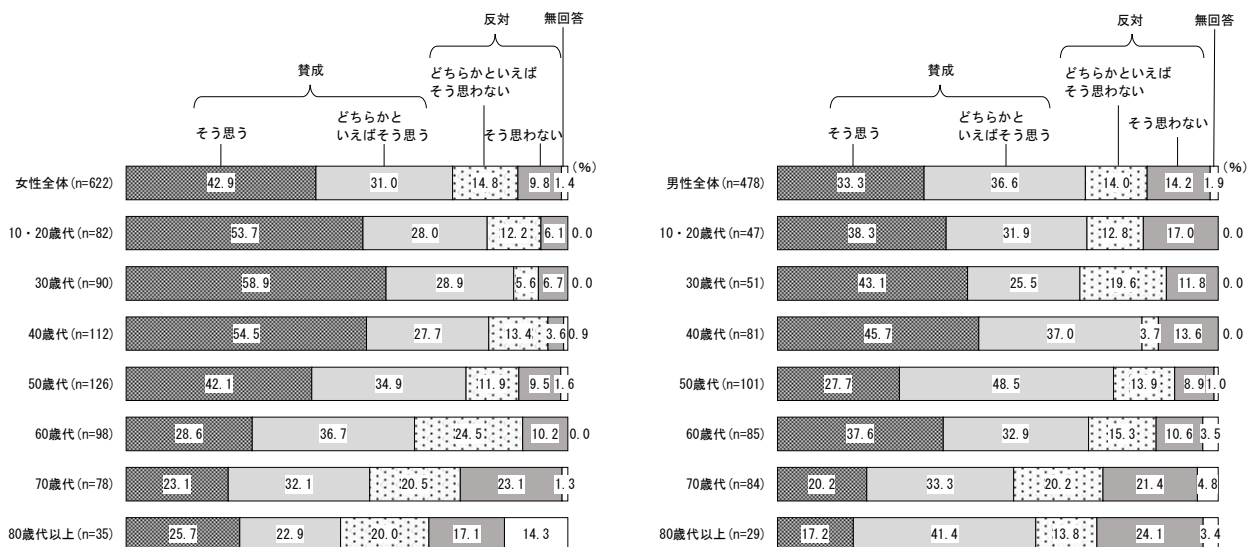


■未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ

性・年代別にみると、女性は10・20歳代から40歳代で《賛成》が8割台になっていますが、30歳代以降は、年代が上がるに従って減っていきます。

男性は40歳代の《賛成》がピークで82.7%となっています。(図表 3-1-8)

図表 3-1-8 結婚観/未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ
(性・年代別)

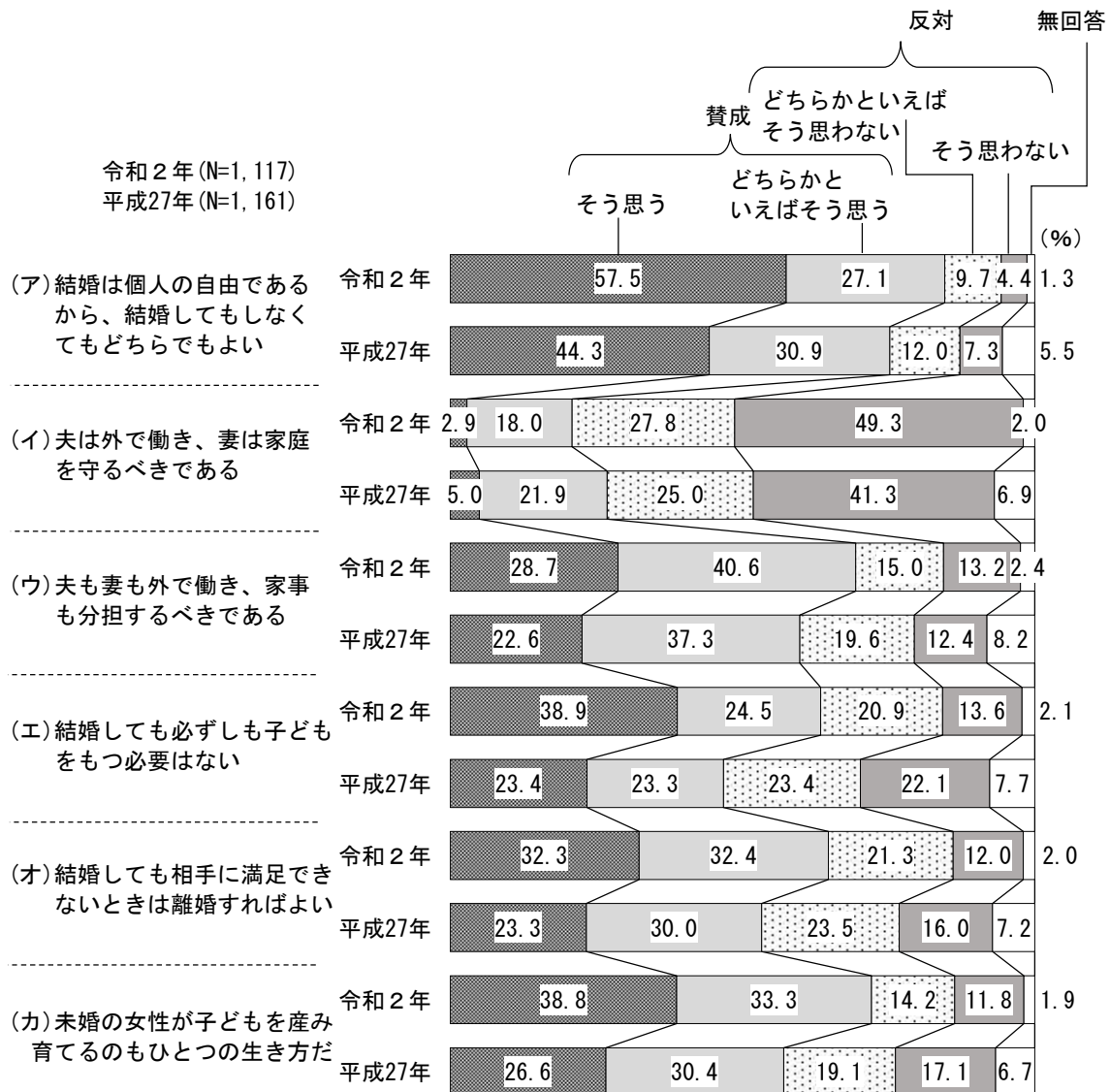


【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について《反対》は77.1%で平成27年調査（66.3%）より10.8ポイント増えています。

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」について《賛成》は63.4%で平成27年調査（46.7%）より16.7ポイント増えています。（図表3-1-9）

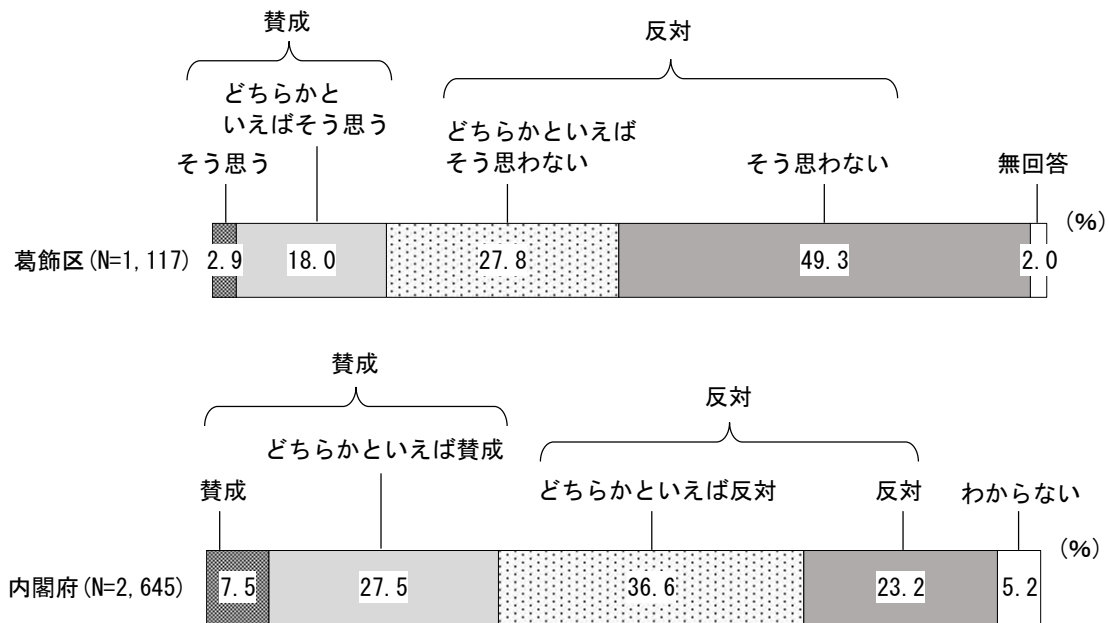
図表3-1-9 結婚観（全体、平成27年調査）



【内閣府調査との比較】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について内閣府調査と比較すると、《反対》は、葛飾区 77.1%、内閣府調査 59.8%で、葛飾区が 17.3 ポイント高くなっています。(図表 3-1-10)

図表 3-1-10 結婚観『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』
(全体、内閣府調査(令和元年))



※内閣府調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の項目のみたずねている。

※内閣府調査では、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」「わからない」でたずねている。

※内閣府調査には、「無回答」はなし。

4 家庭生活

(1) 家事などの分担

問4 家庭の中で、あなたは（ア）～（シ）にあげることを、どの程度行っていますか。（○はそれぞれ1つずつ）

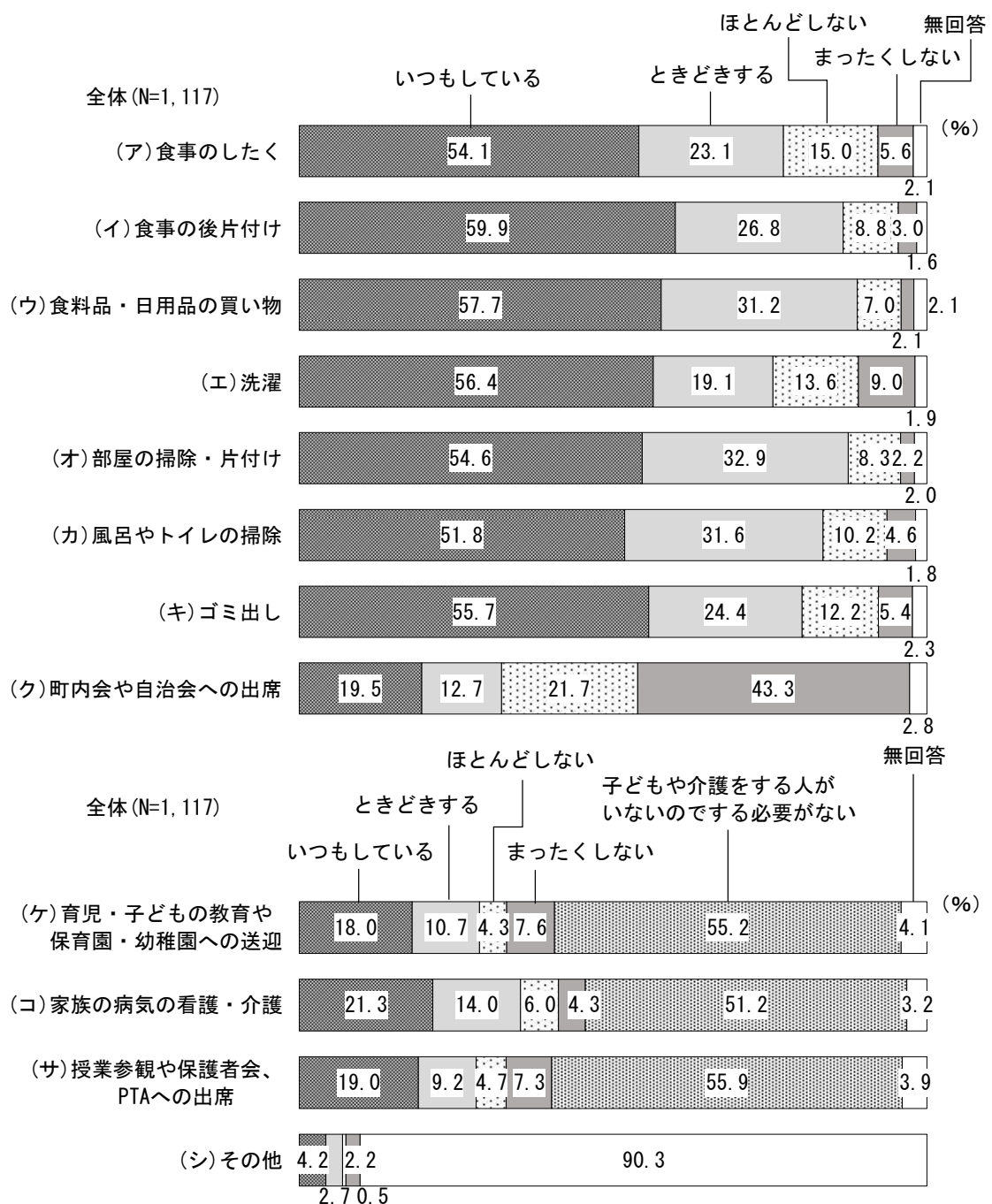
【全体】

家事などの分担の頻度についてたずねました。

「いつもしている」の多い順にみると、全体では『食事の後片付け』が59.9%で最も多く、『食料品・日用品の買い物』、『洗濯（56.4%）』、『ゴミ出し（55.7%）』が続いています。

（図表4-1-1）

図表4-1-1 家事などの分担（全体）



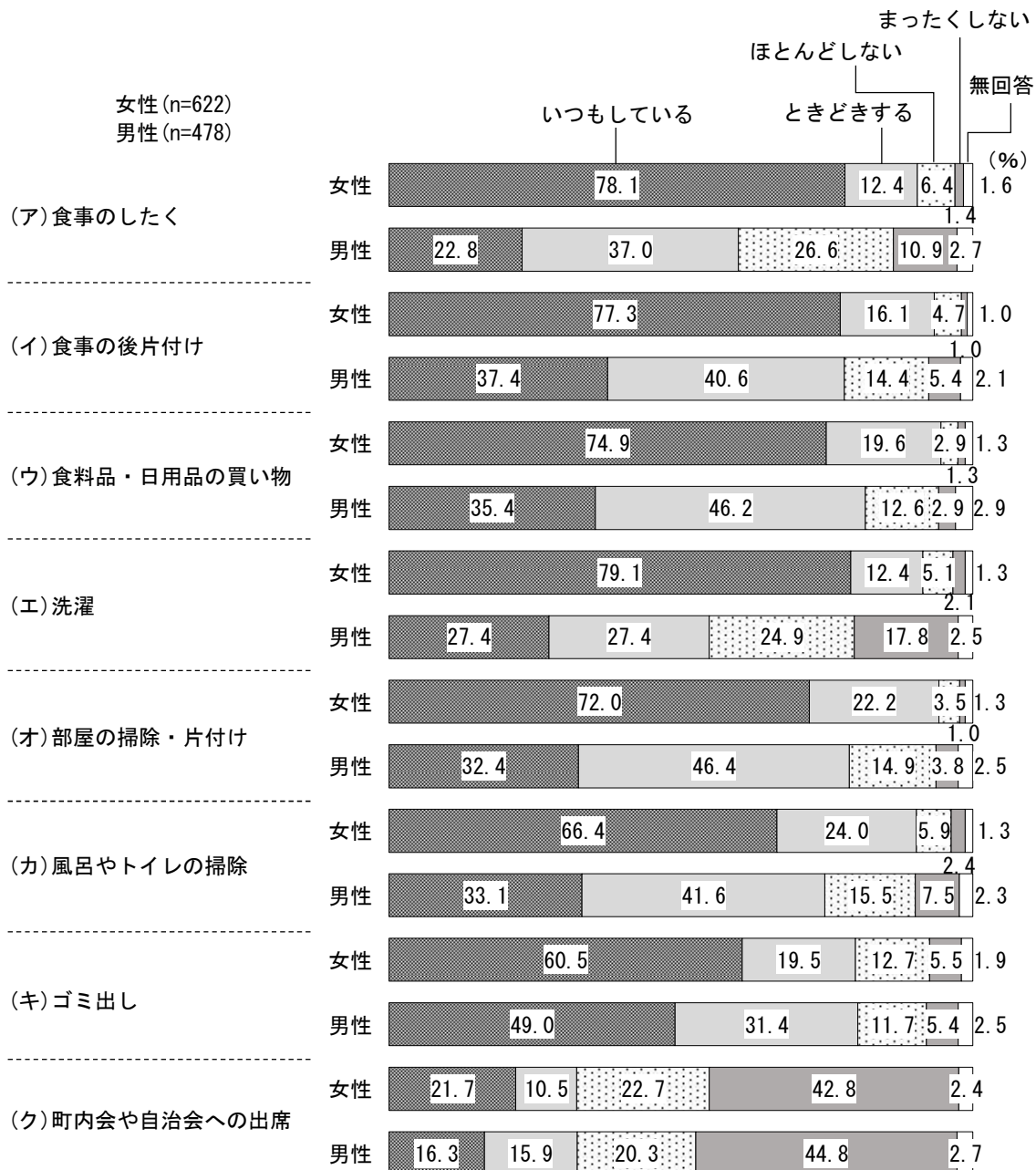
【性別】

性別にみると、すべての項目で「いつもしている」は女性が男性を上回っています。

「いつもしている」の多い順にみると、女性は『洗濯 (79.1%)』が最も多く、『食事のしたく (78.1%)』、『食事の後片付け (77.3%)』、『食料品・日用品の買い物 (74.9%)』、『部屋の掃除・片付け (72.0%)』が7割台となっています。

男性は『ゴミ出し (49.0%)』が4割台で最も多く、『食事の後片付け (37.4%)』、『食料品・日用品の買い物 (35.4%)』が続いています。(図表 4-1-2-①)

図表 4-1-2-① 家事などの分担 (性別)



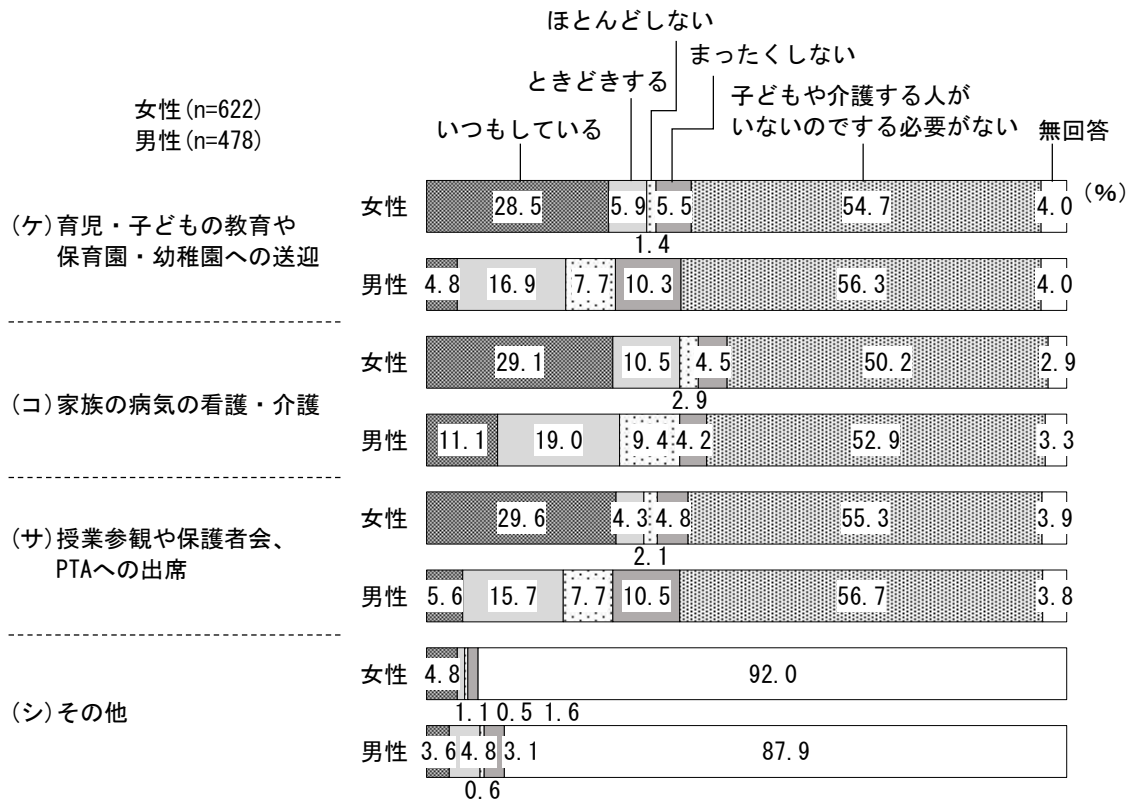
第3章 調査結果

【性別】

育児や介護の分担について「いつもしている」を多い順にみると、女性は『授業参観や保護者会、PTA への出席 (29.6%)』が最も多く、『家族の病気の看護・介護 (29.1%)』、『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎 (28.5%)』が続いています。

男性は『家族の病気の看護・介護 (11.1%)』が最も多く、『授業参観や保護者会・PTA への出席 (5.6%)』、『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎 (4.8%)』は1割未満です。(図表 4-1-2-②)

図表 4-1-2-② 家事などの分担 (性別)



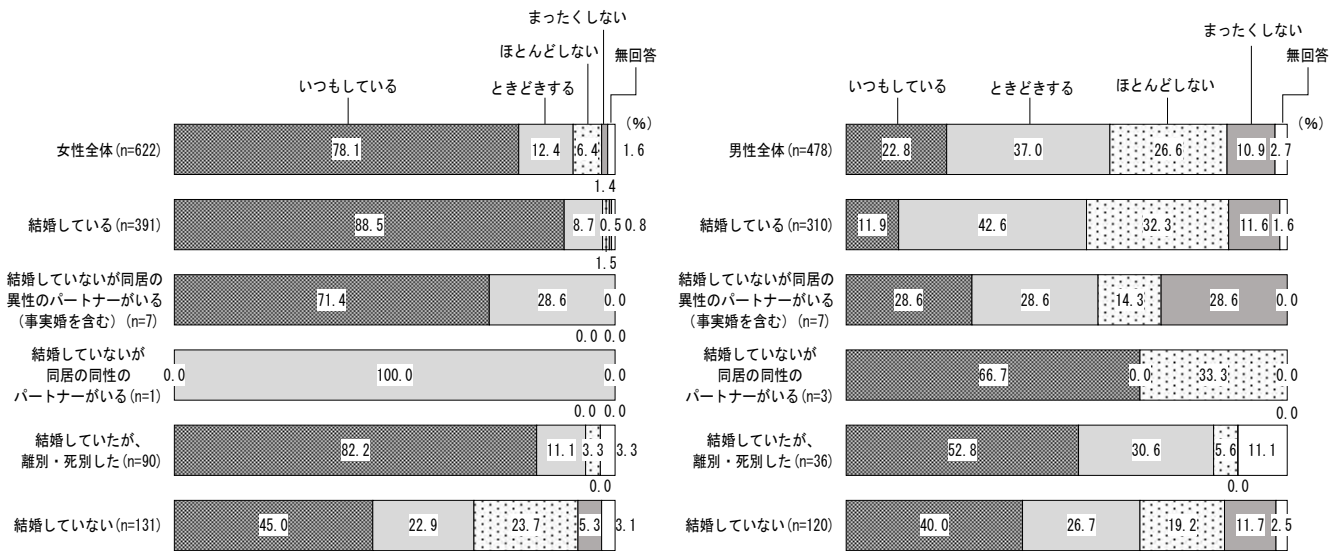
【性・未既婚別】

■ 食事のしたく

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が88.5%です。

既婚の男性で「いつもしている」は11.9%にとどまり、「ほとんどしない」が32.3%、「まったくしない」が11.6%となっています。(図表 4-1-3)

図表 4-1-3 家事などの分担/食事のしたく (性・未既婚別)

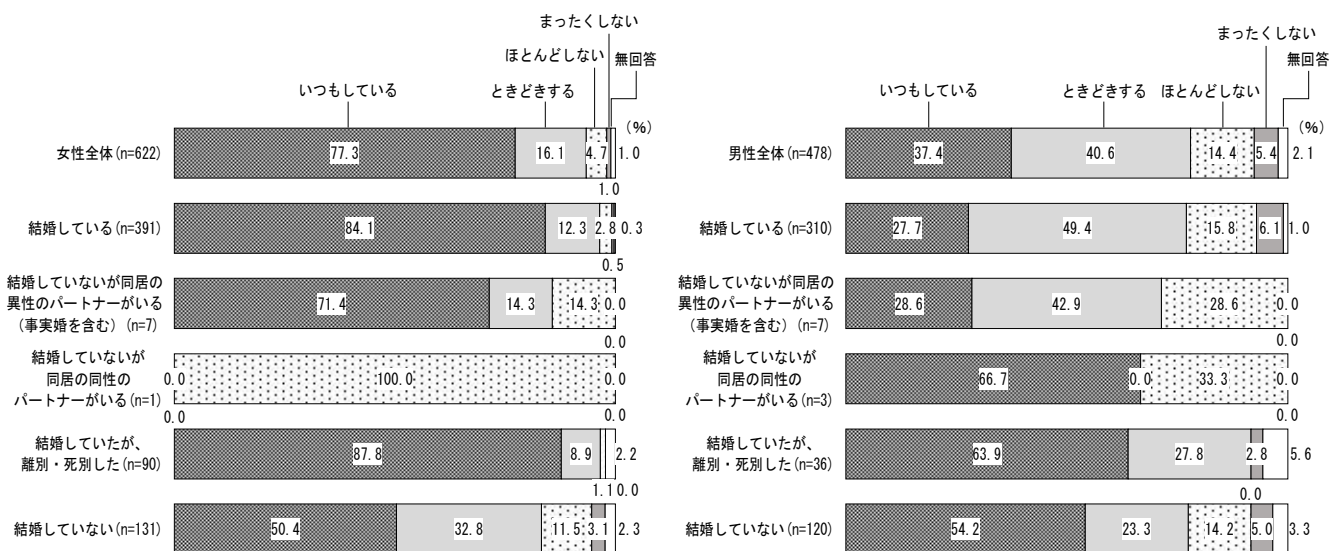


■ 食事の後片付け

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が84.1%です。

既婚の男性で「いつもしている」は27.7%で、「ほとんどしない」が15.8%、「まったくしない」が6.1%となっています。(図表 4-1-4)

図表 4-1-4 家事などの分担/食事の後片付け (性・未既婚別)



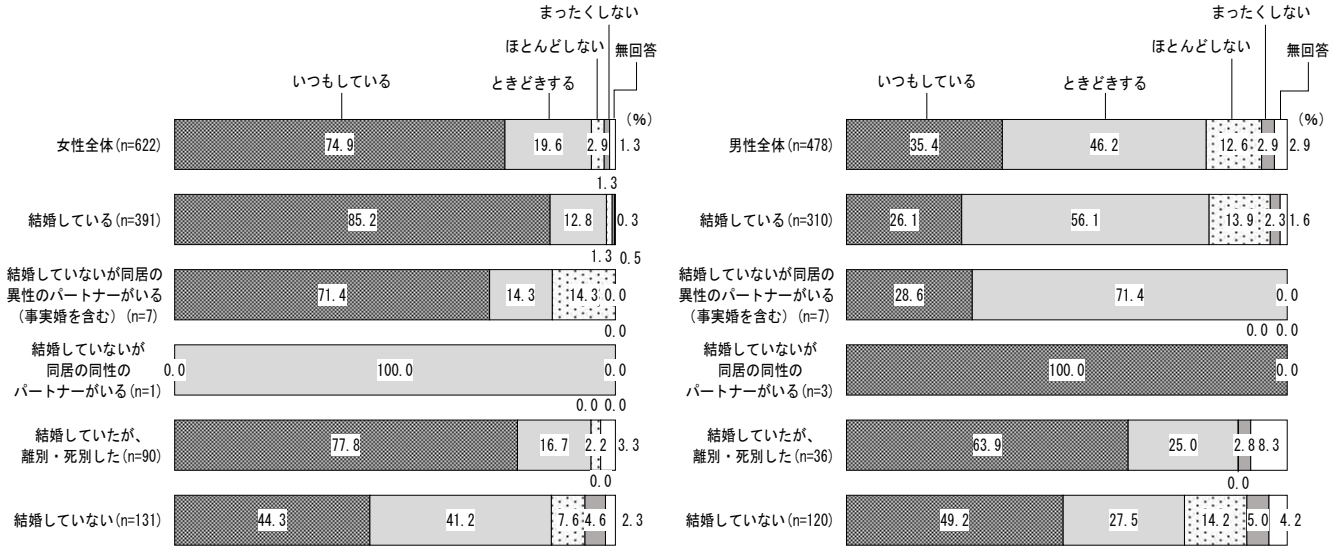
第3章 調査結果

■ 食料品・日用品の買い物

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が85.2%です。

既婚の男性で「いつもしている」は26.1%で、「ほとんどしない」が13.9%、「まったくしない」が2.3%となっています。(図表4-1-5)

図表4-1-5 家事などの分担/食料品・日用品の買い物(性・未既婚別)

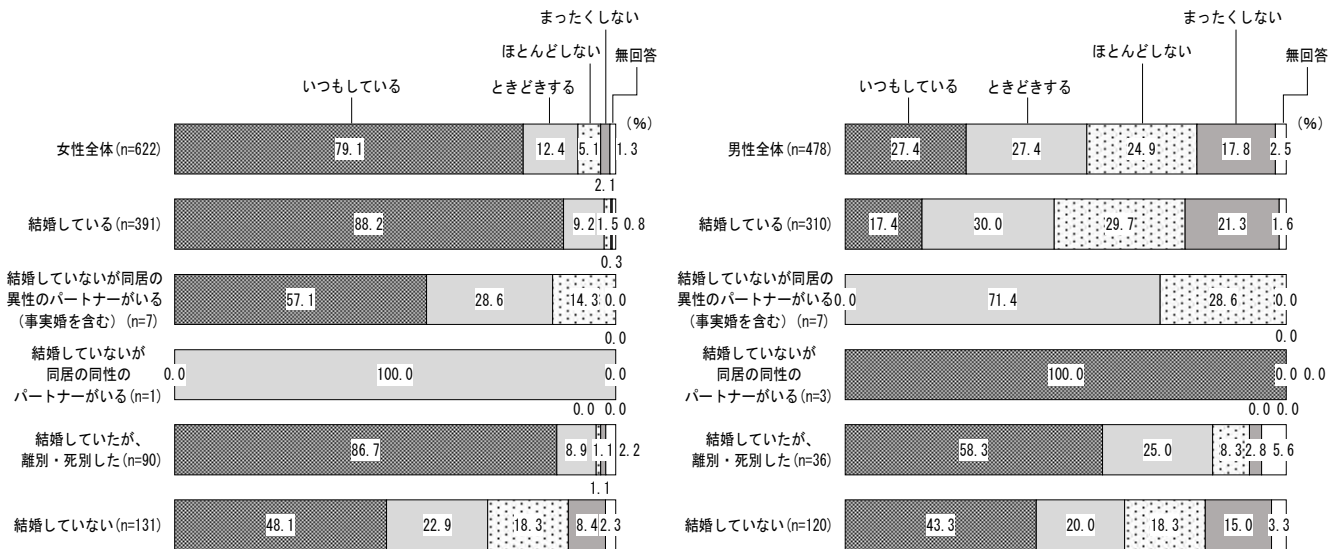


■ 洗濯

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が88.2%です。

既婚の男性で「いつもしている」は17.4%にとどまり、「ほとんどしない」が29.7%、「まったくしない」が21.3%となっています。(図表4-1-6)

図表4-1-6 家事などの分担/洗濯(性・未既婚別)

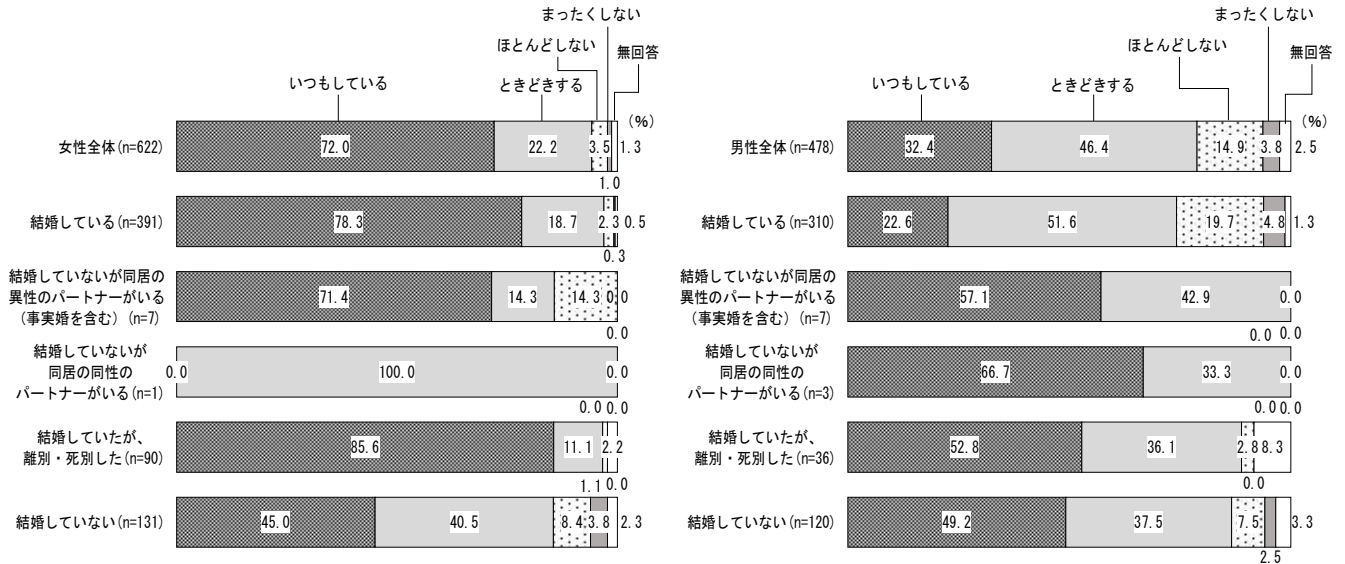


■ 部屋の掃除・片付け

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が78.3%です。

既婚の男性で「いつもしている」は22.6%にとどまり、「ほとんどしない」が19.7%、「まったくくしない」が4.8%となっています。(図表4-1-7)

図表4-1-7 家事などの分担/部屋の掃除・片付け (性・未既婚別)

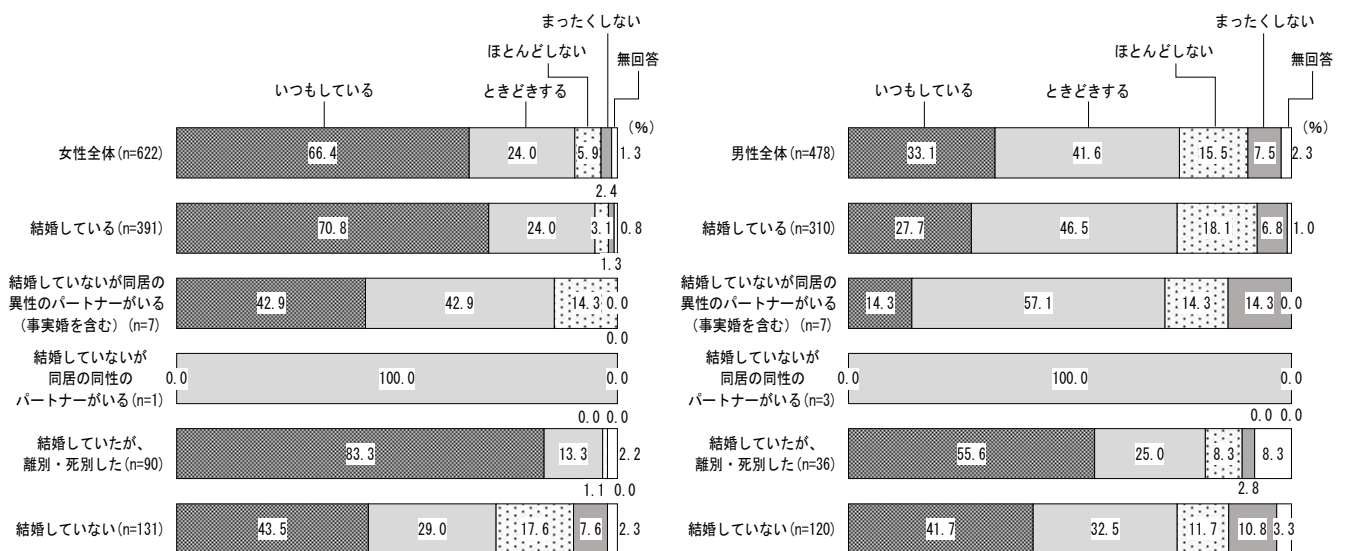


■ 風呂やトイレの掃除

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が70.8%です。

既婚の男性で「いつもしている」は27.7%にとどまり、「ほとんどしない」が18.1%、「まったくくしない」が6.8%となっています。(図表4-1-8)

図表4-1-8 家事などの分担/風呂やトイレの掃除 (性・未既婚別)



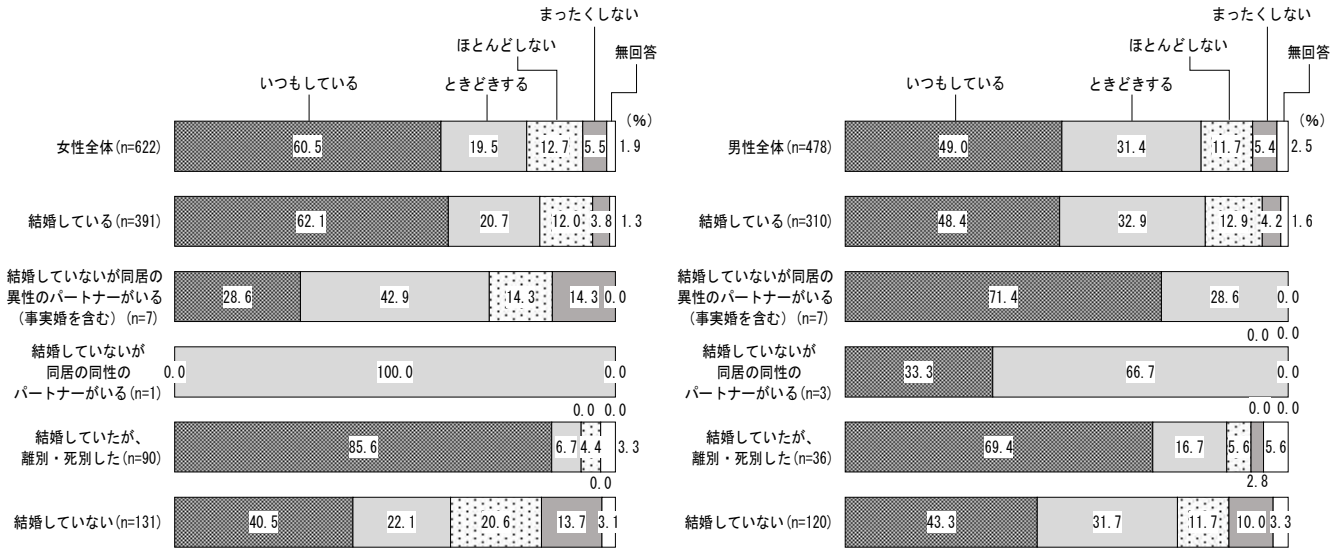
第3章 調査結果

■ ゴミ出し

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が62.1%です。

既婚の男性で「いつもしている」は48.4%で、食事のしたく、後片付け、食料品・日用品の買い物、洗濯、部屋の掃除など他の家事よりも多くなっています。(図表 4-1-9)

図表 4-1-9 家事などの分担/ゴミ出し (性・未既婚別)

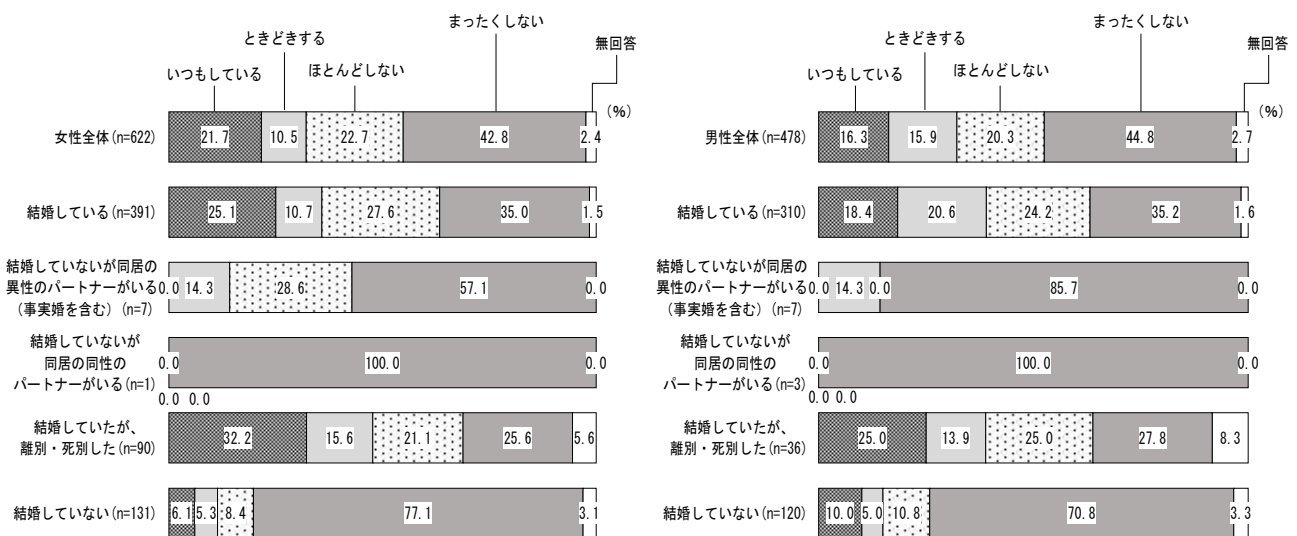


■ 町内会や自治会への出席

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が25.1%で、食事のしたく、食事に後片付け、食料品・日用品の買い物、洗濯などの家事に比べて低くなっています。

既婚の男性で「いつもしている」は18.4%です。(図表 4-1-10)

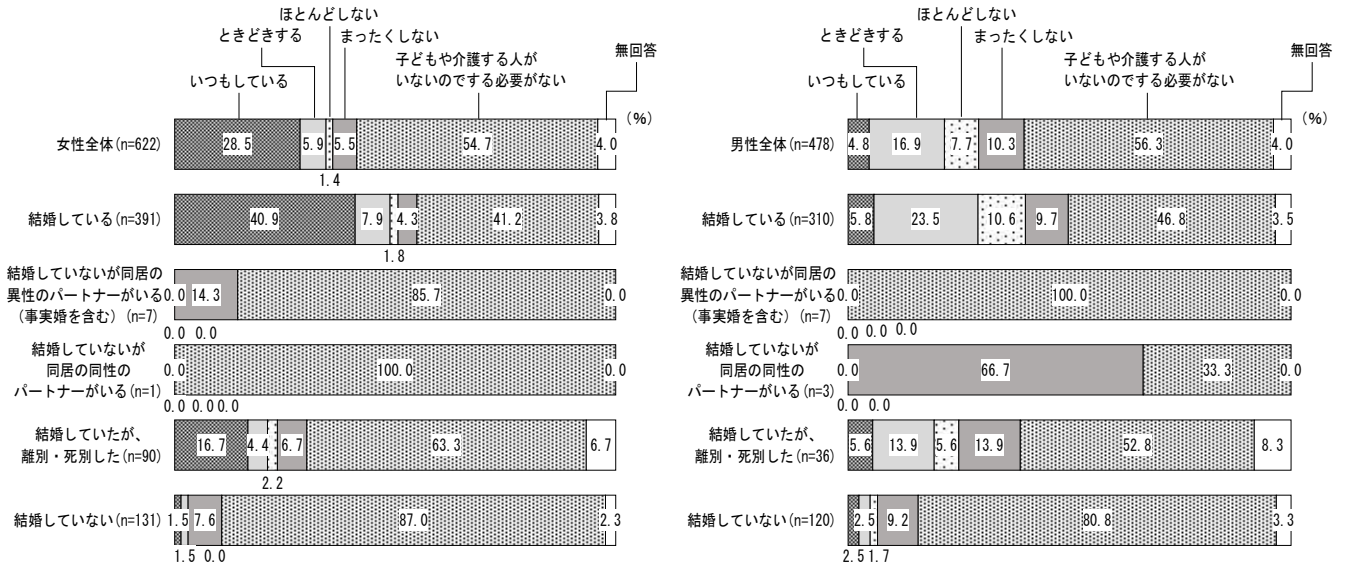
図表 4-1-10 家事などの分担/町内会や自治会への出席 (性・未既婚別)



■ 育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が40.9%です。既婚の男性で「いつもしている」は5.8%となっています。(図表 4-1-11)

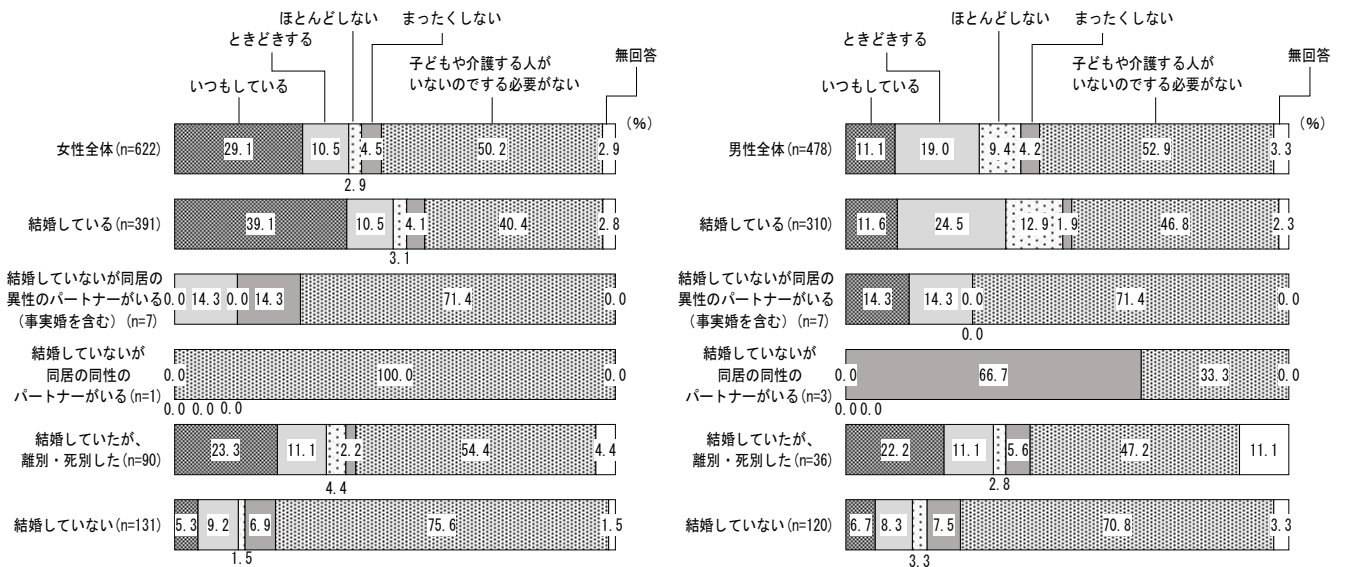
図表 4-1-11 家事などの分担/育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎 (性・未既婚別)



■ 家族の病気の看護・介護

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が39.1%です。既婚の男性で「いつもしている」は11.6%となっています。(図表 4-1-12)

図表 4-1-12 家事などの分担/家族の病気の看護・介護 (性・未既婚別)

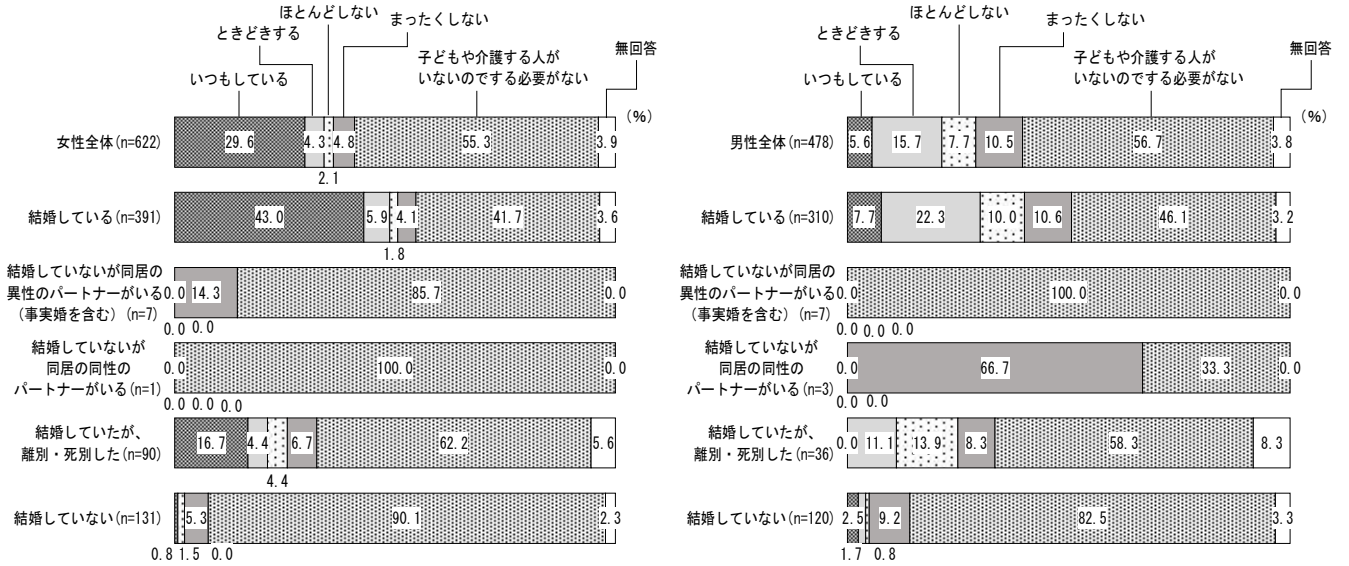


第3章 調査結果

■ 授業参観や保護者会、PTA への出席への出席

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「いつもしている」が43.0%です。既婚の男性で「いつもしている」は7.7%となっています。(図表 4-1-13)

図表 4-1-13 家事などの分担/授業参観や保護者会、PTA への出席への出席 (性・未既婚別)



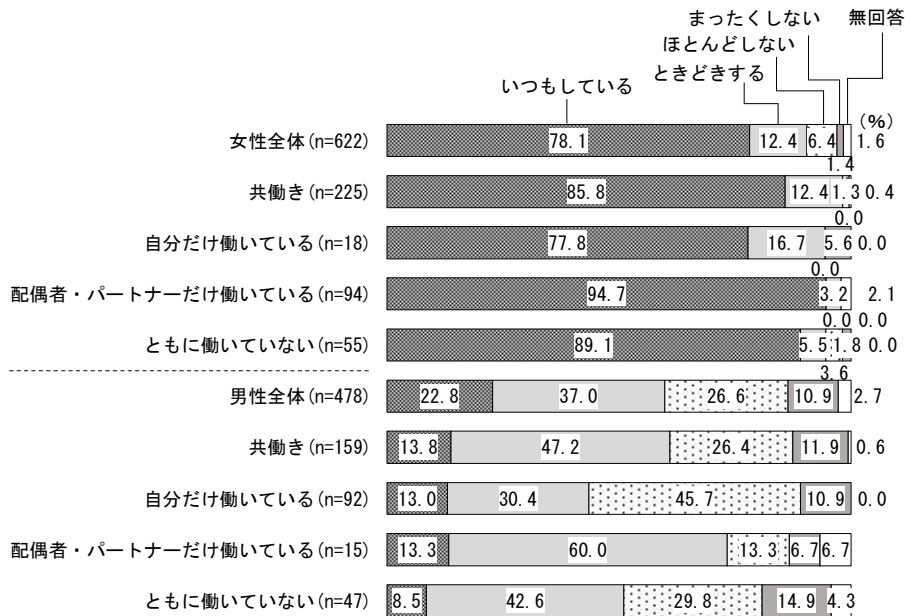
【性・共働き状況別】

■ 食事のしたく

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が85.8%です。

共働きの男性で「いつもしている」は13.8%にとどまり、「ほとんどしない」が26.4%、「まったくしない」が11.9%となっています。(図表4-1-14)

図表4-1-14 家事などの分担/食事のしたく(性・共働き状況別)

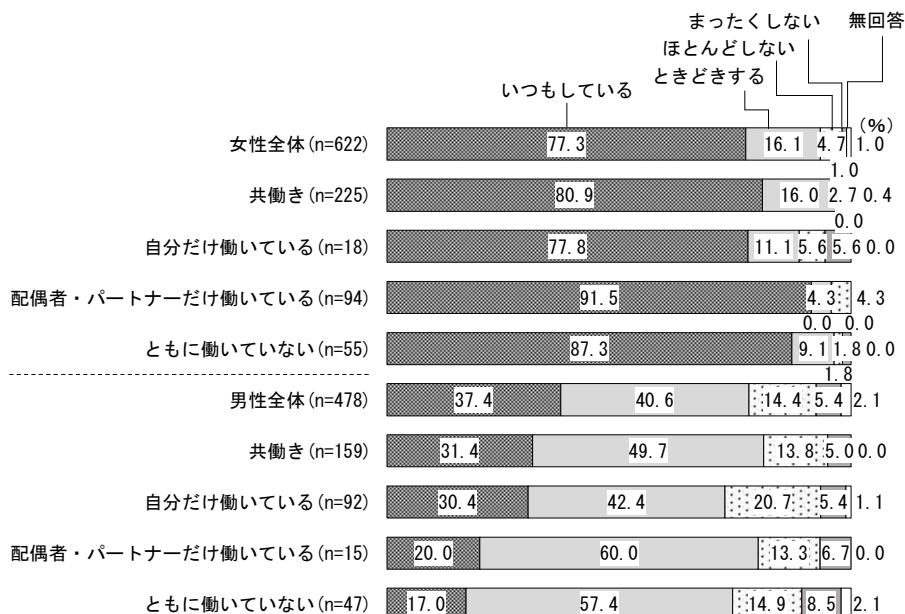


■ 食事の後片付け

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が80.9%です。

共働きの男性で「いつもしている」は31.4%ですが、「ときどきする」が49.7%となっています。(図表4-1-15)

図表4-1-15 家事などの分担/食事の後片付け(性・共働き状況別)



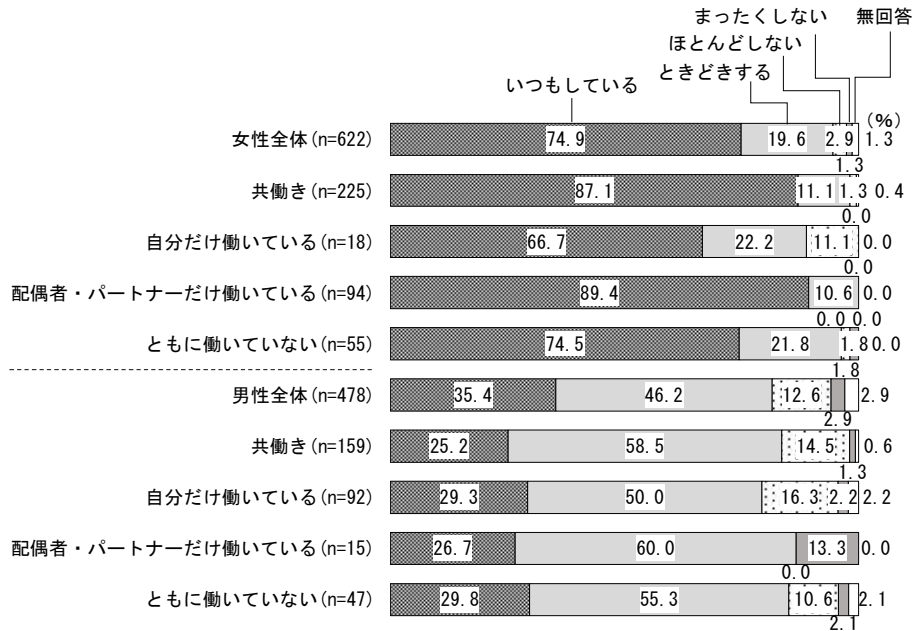
第3章 調査結果

■食料品・日用品の買い物

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が87.1%です。

共働きの男性で「いつもしている」は25.2%ですが、「ときどきする」が58.5%となっています。（図表4-1-16）

図表4-1-16 家事などの分担/食料品・日用品の買い物（性・共働き状況別）

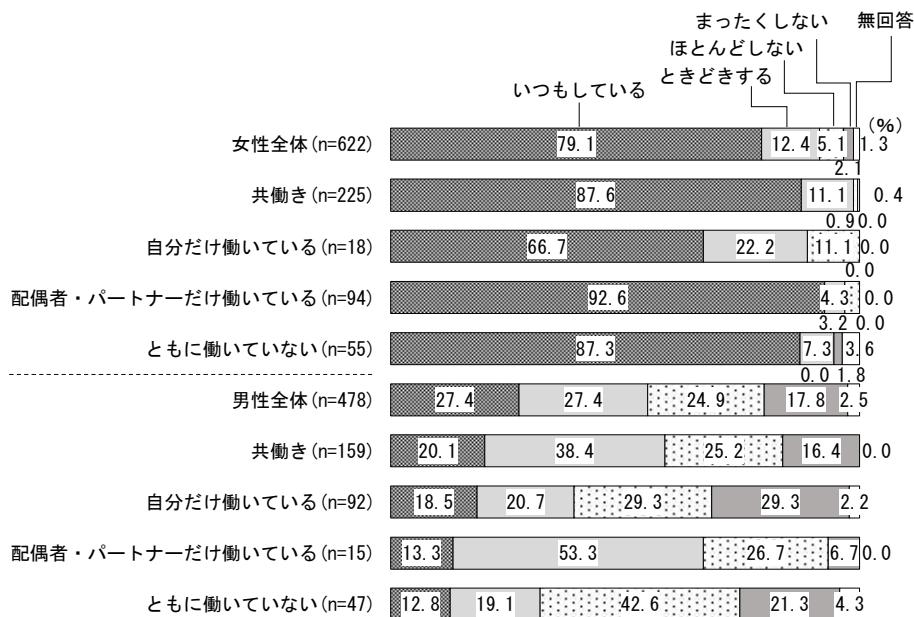


■洗濯

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が87.6%です。

共働きの男性で「いつもしている」は20.1%にとどまり、「ほとんどしない」が25.2%、「まったくしない」が16.4%となっています。（図表4-1-17）

図表4-1-17 家事などの分担/洗濯（性・共働き状況別）

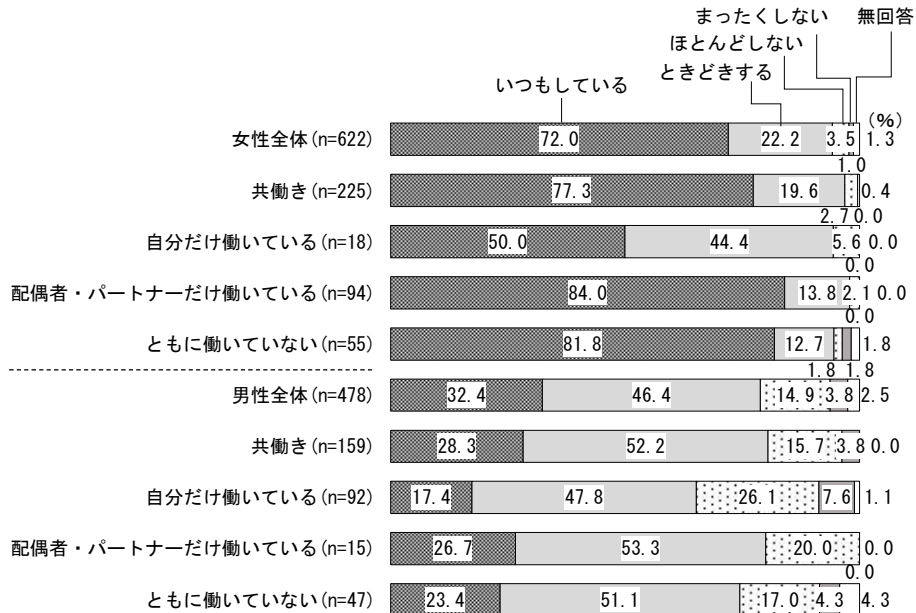


■部屋の掃除・片付け

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が77.3%です。

共働きの男性で「いつもしている」は28.3%ですが、「ときどきする」が52.2%となっています。(図表4-1-18)

図表4-1-18 家事などの分担/部屋の掃除・片付け(性・共働き状況別)

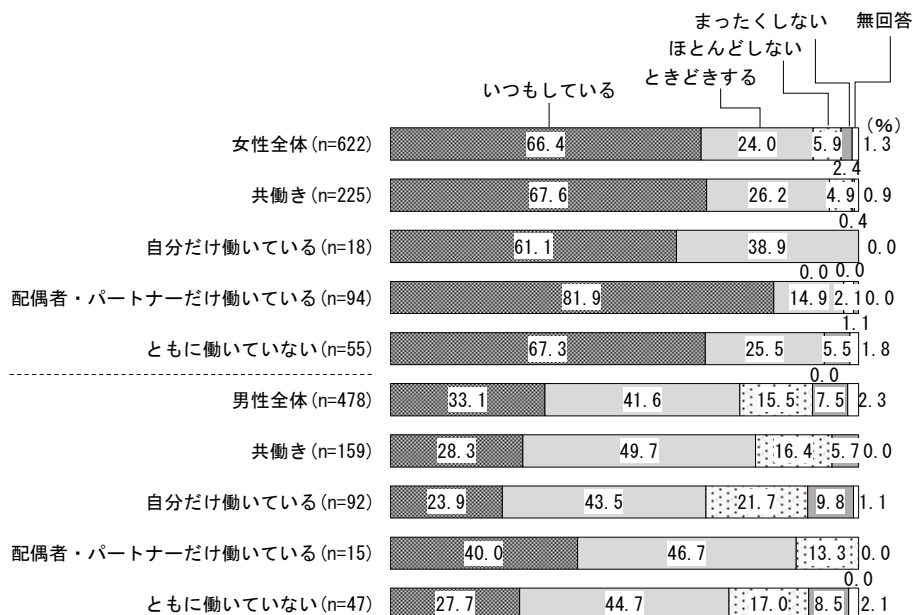


■風呂やトイレの掃除

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が67.6%です。

共働きの男性で「いつもしている」は28.3%ですが、「ときどきする」が49.7%となっています。(図表4-1-19)

図表4-1-19 家事などの分担/風呂やトイレの掃除(性・共働き状況別)

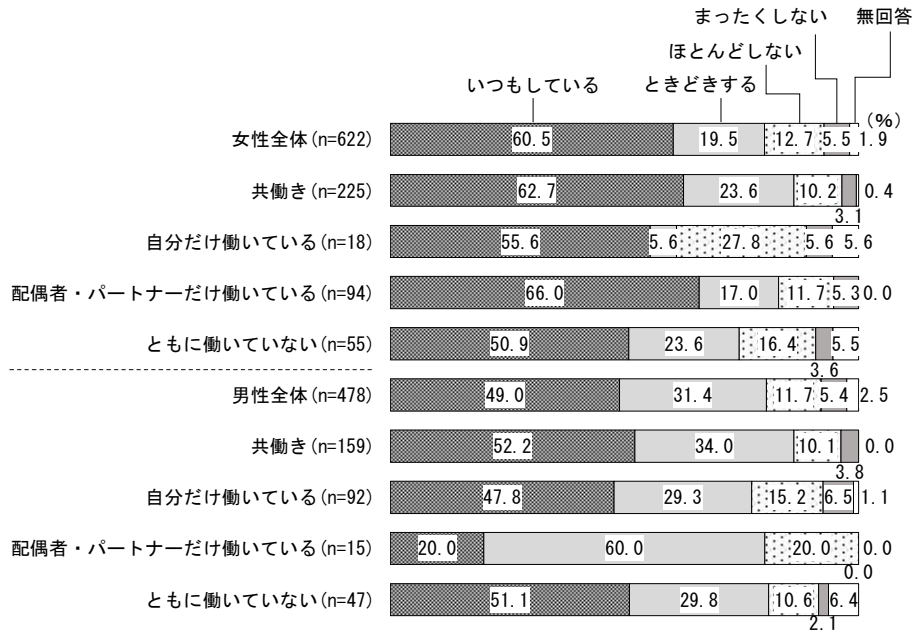


第3章 調査結果

■ ゴミ出し

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が62.7%です。共働きの男性で「いつもしている」は52.2%となっています。(図表4-1-20)

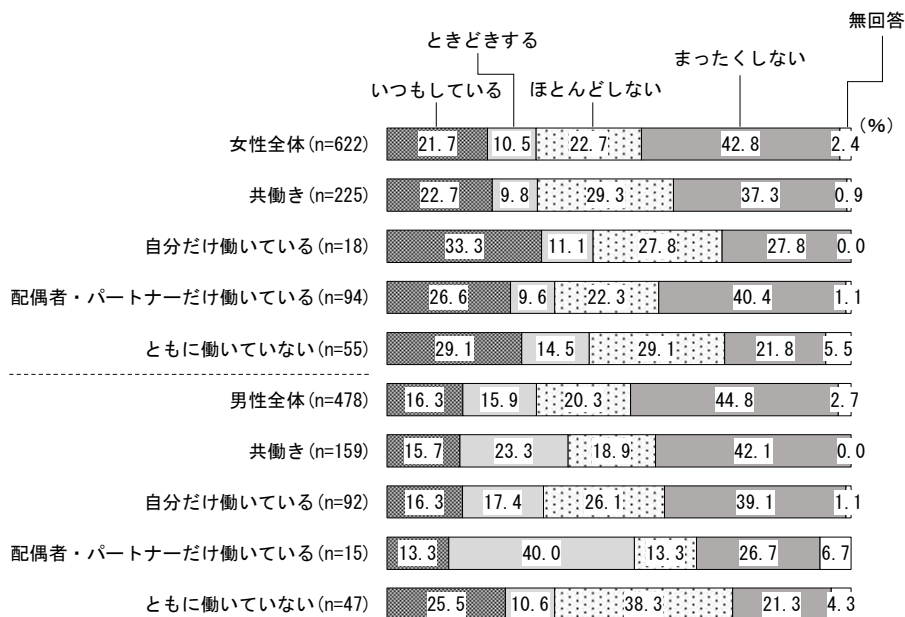
図表4-1-20 家事などの分担/ゴミ出し（性・共働き状況別）



■ 町内会や自治会への出席

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が22.7%です。共働きの男性で「いつもしている」は15.7%となっています。(図表4-1-21)

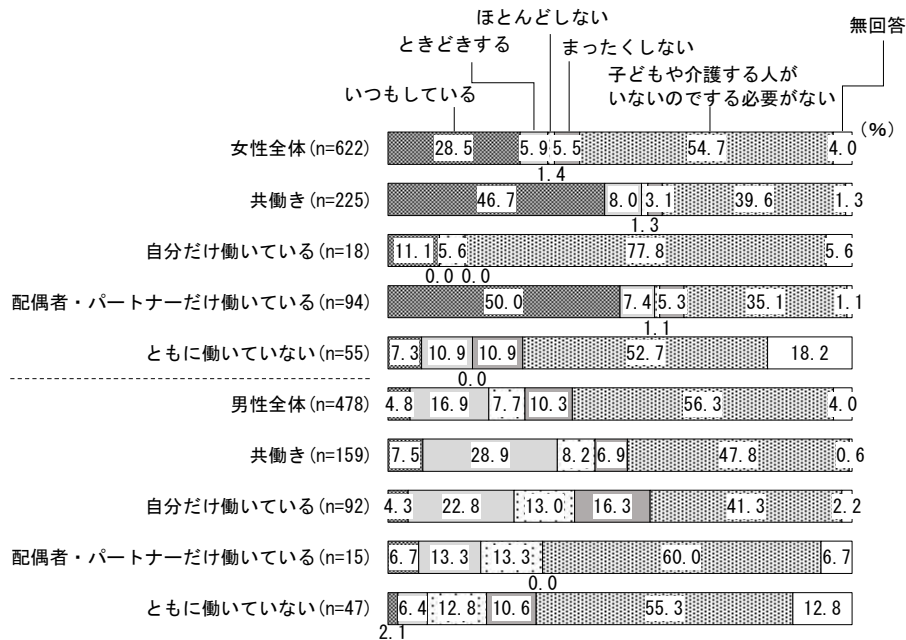
図表4-1-21 家事などの分担/町内会や自治会への出席（性・共働き状況別）



■ 育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は、「いつもしている」が46.7%です。共働きの男性で「いつもしている」は7.5%ですが、「ときどきする」が28.9%となっています。(図表4-1-22)

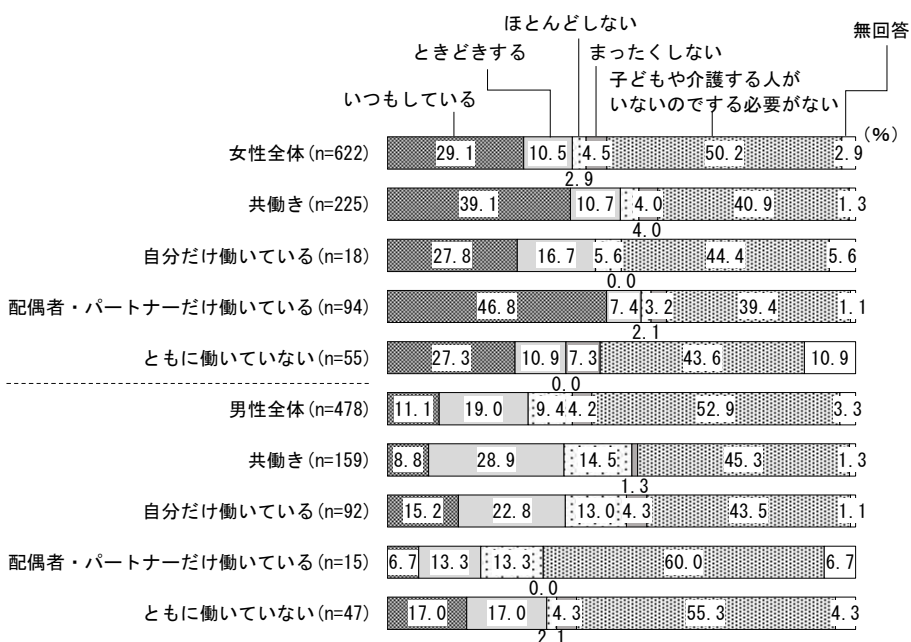
図表4-1-22 家事などの分担/育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎（性・共働き状況別）



■ 家族の病気の看護・介護

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が39.1%です。共働きの男性で「いつもしている」は8.8%ですが、「ときどきする」が28.9%となっています。(図表4-1-23)

図表4-1-23 家事などの分担/家族の病気の看護・介護（性・共働き状況別）



第3章 調査結果

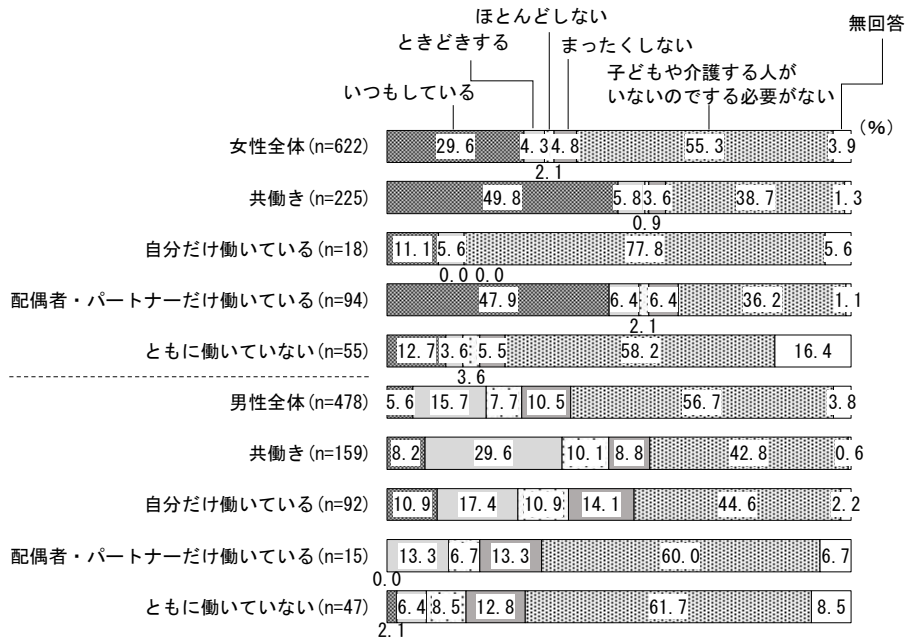
■ 授業参観や保護者会、PTA への出席

性・共働き状況別にみると、共働きの女性は「いつもしている」が49.8%です。

共働きの男性で「いつもしている」は8.2%ですが、「ときどきする」が29.6%となっています。

(図表 4-1-24)

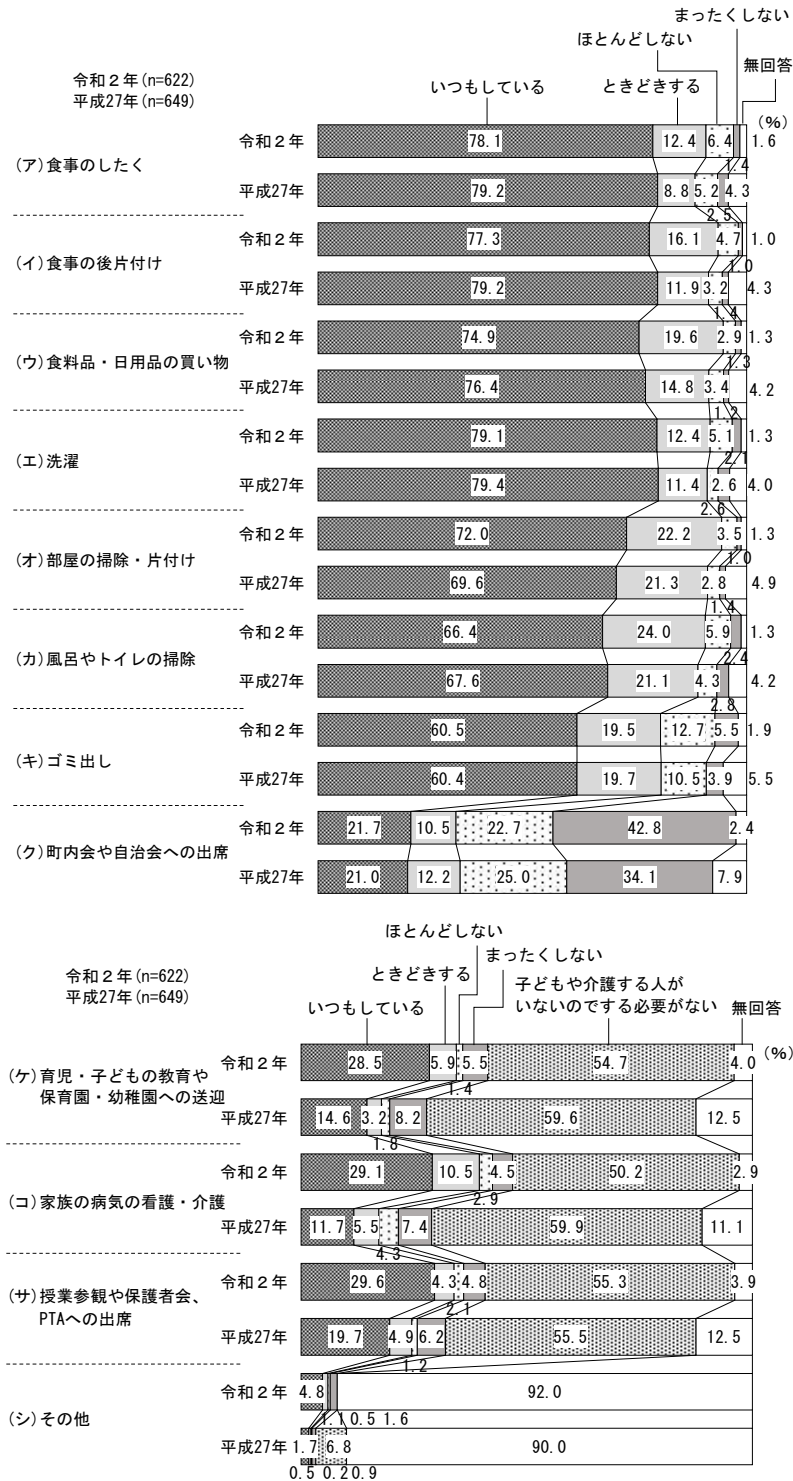
図表 4-1-24 家事などの分担/授業参観や保護者会、PTA への出席 (性・共働き状況別)



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、女性は『ゴミ出し』、『育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎』、『家族の病気の看護・介護』、『授業参観や保護者会、PTAへの出席』、『その他』で、「いつもしている」が増えています。(図表4-1-25-①)

図表4-1-25-① 家事などの分担（女性、平成27年調査）



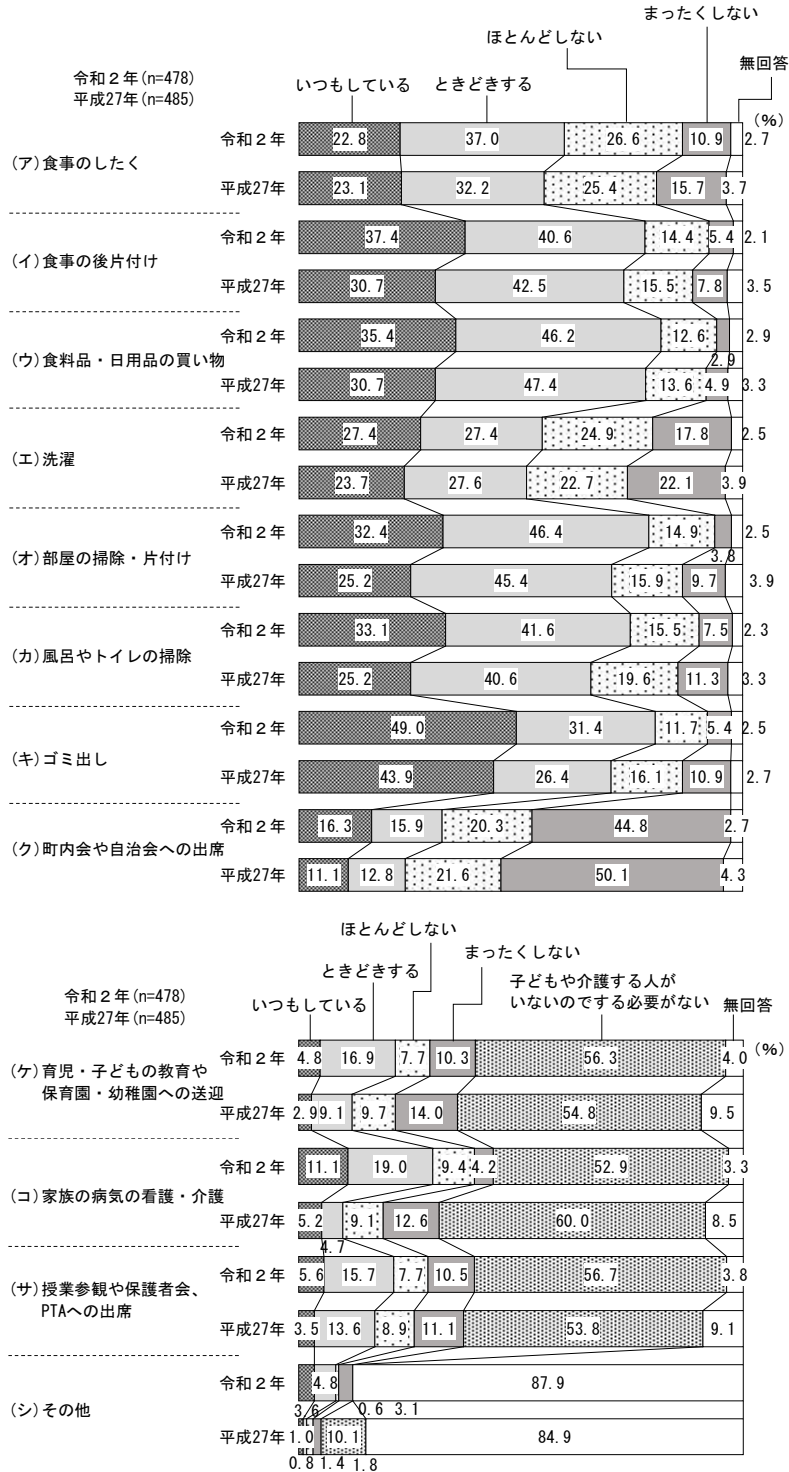
※平成27年調査では、(オ)「部屋の掃除・片付け」は「部屋の掃除」、(ケ)「育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎」は「保育園・幼稚園への送迎」、(コ)「家族の病気の看護・介護」は「介護・看護」、(サ)「授業参観や保護者会、PTAへの出席」は「授業参観や保護者会への出席」でたずねている。

第3章 調査結果

【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、男性は『食事のしたく』以外のすべての項目で「いつもしている」が増えています。(図表4-1-25-②)

図表4-1-25-② 家事などの分担（男性、平成27年調査）



※平成27年調査では、(オ)「部屋の掃除・片付け」は「部屋の掃除」、(ケ)「育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎」は「保育園・幼稚園への送迎」、(コ)「家族の病気の看護・介護」は「介護・看護」、(サ)「授業参観や保護者会、PTAへの出席」は「授業参観や保護者会への出席」でたずねている。

(2) 男性の家庭参画の度合い

問5 あなたは、家庭生活において男性は家事・育児・介護などについて、どれくらい取り組めばよいと思いますか。(○は1つだけ)

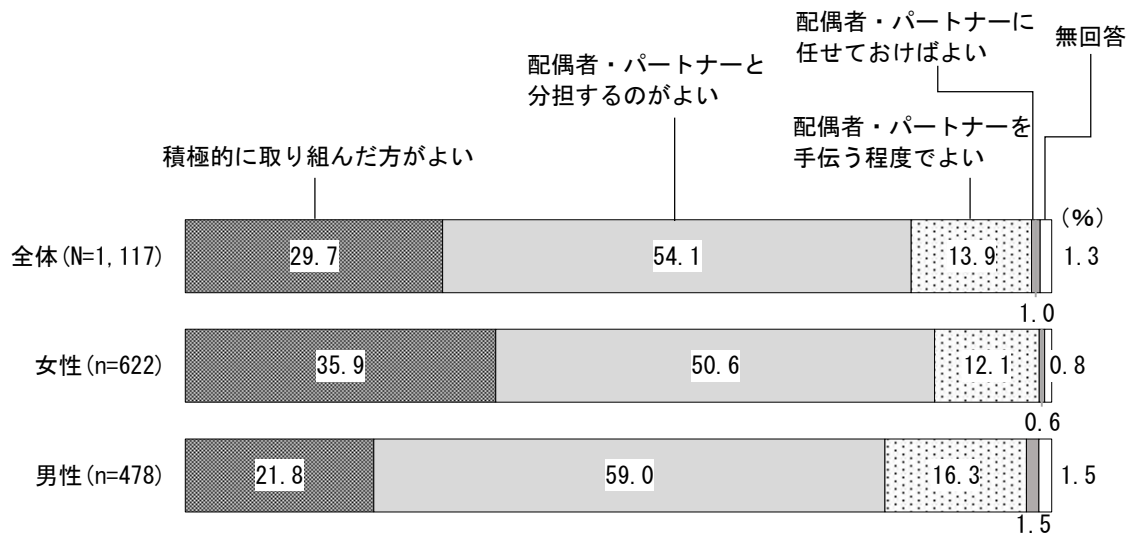
【全体】

全体では、「配偶者・パートナーと分担するのがよい (54.1%)」が最も多く、「積極的に取り組んだ方がよい (29.7%)」、「配偶者・パートナーを手伝う程度でよい (13.9%)」が続いています。(図表 4-2-1)

【性別】

性別にみると、女性は「積極的に取り組んだ方がよい (女性：35.9%、男性：21.8%)」で男性を14.1ポイント上回っています。(図表 4-2-1)

図表 4-2-1 男性の家庭参画の度合い (全体、性別)



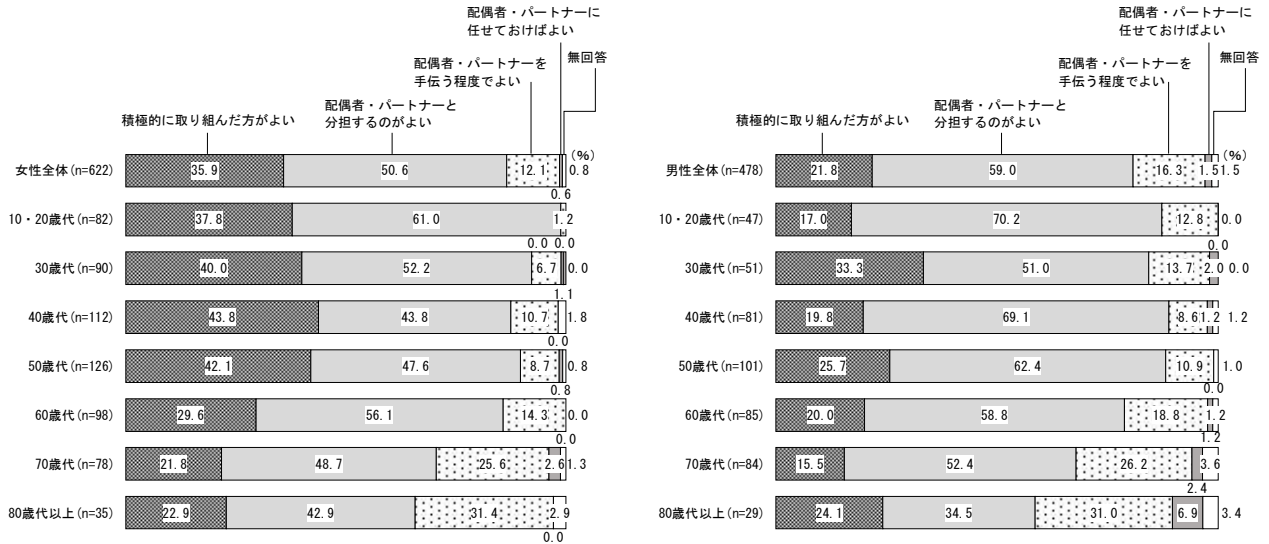
第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代、30歳代、60歳代で「配偶者・パートナーと分担するのがよい」が5割台から6割台となっています。また、30歳代から40歳代は「積極的に取り組んだ方がよい」が4割を超えています。

男性は10・20歳代、40歳代、50歳代で「配偶者・パートナーと分担するのがよい」が6割台から7割台となっています。また、30歳代は「積極的に取り組んだ方がよい」が33.3%となっています。(図表4-2-2)

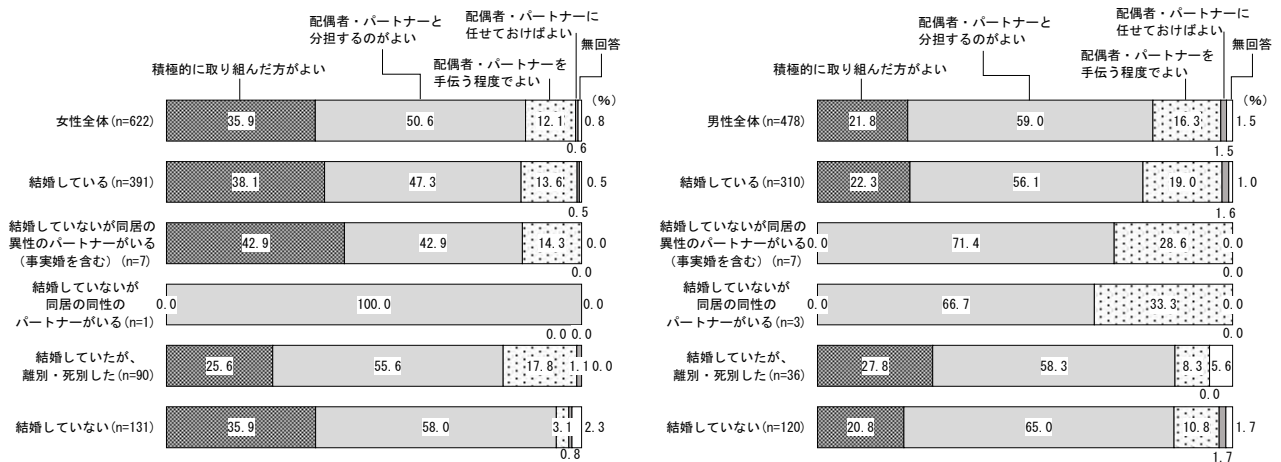
図表4-2-2 男性の家庭参画の度合い（性・年代別）



【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、「積極的に取り組んだ方がよい」は、既婚でも（女性：38.1%、男性22.3%）未婚でも（女性：35.9%、男性：20.8%）女性が男性を上回っています。(図表4-2-3)

図表4-2-3 男性の家庭参画の度合い（性・未既婚別）



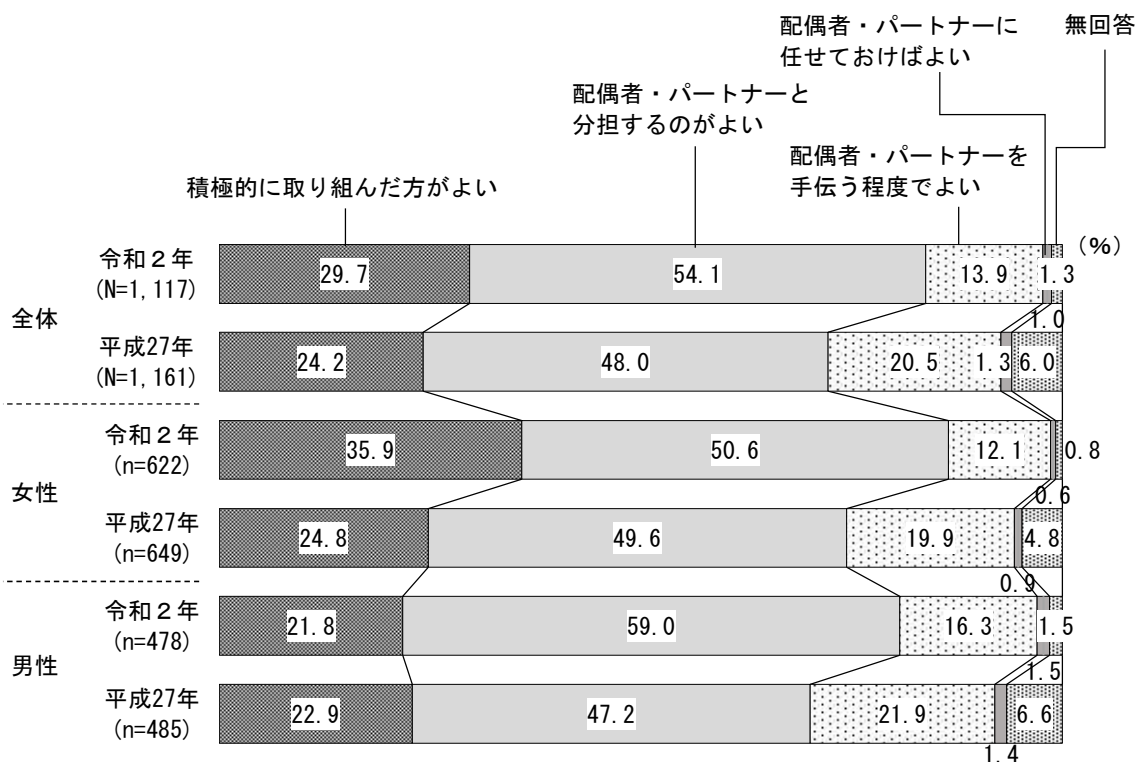
【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、全体では、「積極的に取り組んだ方がよい（令和2年調査：29.7%、平成27年調査：24.2%）」が5.5ポイント、「配偶者・パートナーと分担するのがよい（令和2年調査：54.1%、平成27年調査：48.0%）」が6.1ポイント増えています。

性別にみると、女性は「積極的に取り組んだ方がよい（令和2年調査：35.9%、平成27年調査：24.8%）」が11.1ポイント、「配偶者・パートナーと分担するのがよい（令和2年調査：50.6%、平成27年調査49.6%）」が1ポイント増えています。

男性は「積極的に取り組んだ方がよい（令和2年調査：21.8%、平成27年調査：22.9%）」は1.1ポイント減っていますが、「配偶者・パートナーと分担するのがよい（令和2年調査：59.0%、平成27年調査：47.2%）」は11.8ポイント増えています。（図表4-2-4）

図表4-2-4 男性の家庭参画の度合い（全体、性別、平成27年調査）



問5-1 問5で回答した理由をご記入ください。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

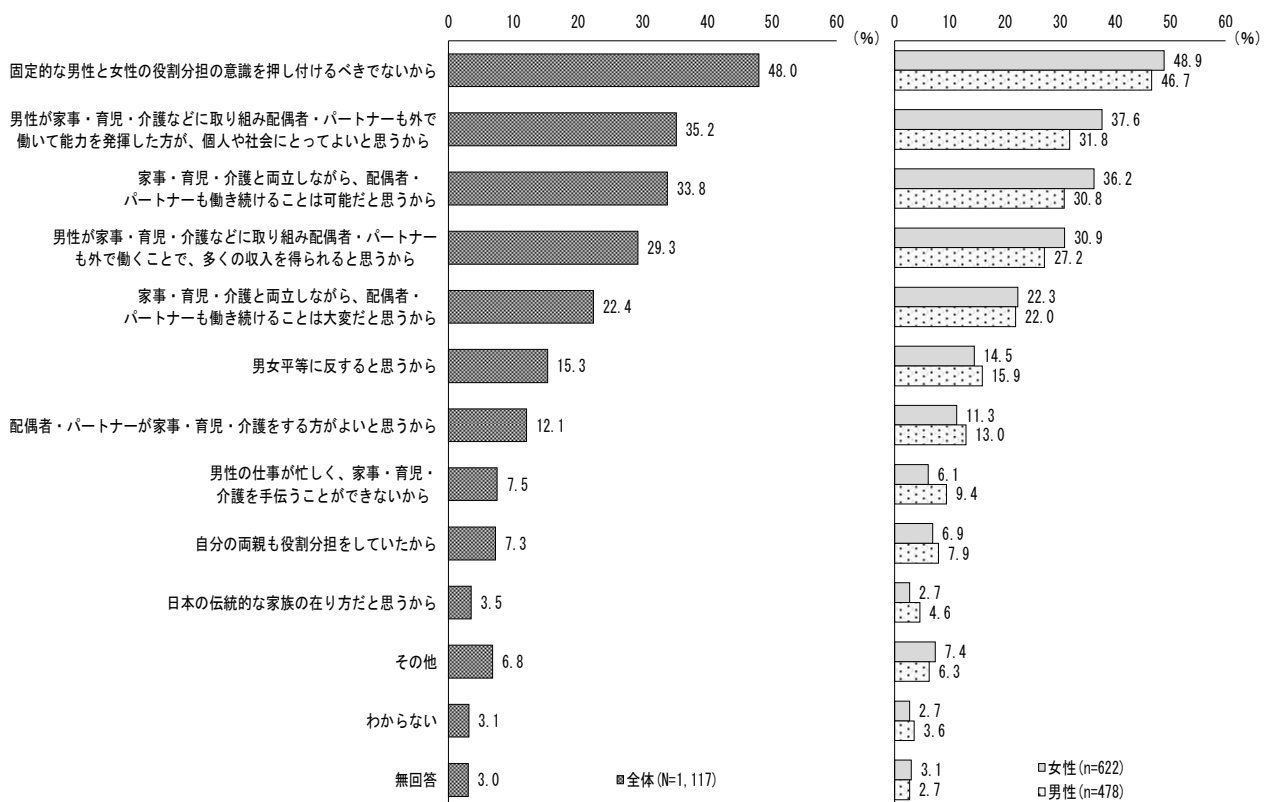
全体では、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでないから (48.0%)」が最も多く、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから (35.2%)」、「家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思うから (33.8%)」が続いています。(図表 4-2-5)

【性別】

性別にみると、男女ともに「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでないから (女性：48.9%、男性 46.7%)」が最も多くなっています。

男女の違いをみると、「男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから (女性：37.6%、男性：31.8%)」、「家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思うから (女性：36.2%、男性：30.8%)」で、女性が男性を5ポイント以上、上回っています。(図表 4-2-5)

図表 4-2-5 問5で回答した理由 (全体、性別：複数回答)

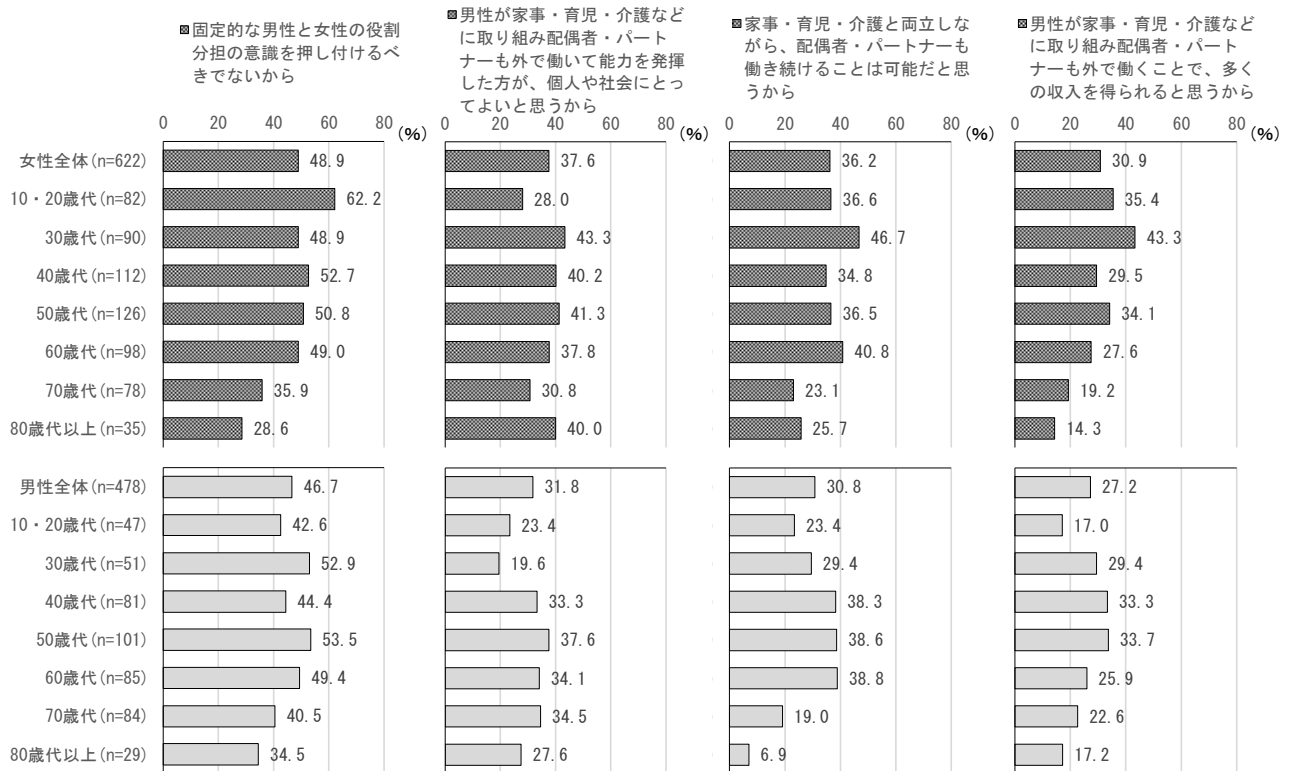


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代で「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでないから」が6割を超えています。

男性は30歳代と50歳代で「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでないから」が5割を超えています。(図表4-2-6)

図表4-2-6 問5で回答した理由(性・年代別、上位4項目:複数回答)



第3章 調査結果

(3) 男性の家庭参画に必要なこと

問6 男性が家事・育児・介護にさらに参加するためには、何が必要だと思いますか。
(○はあてはまるものすべて)

【全体】

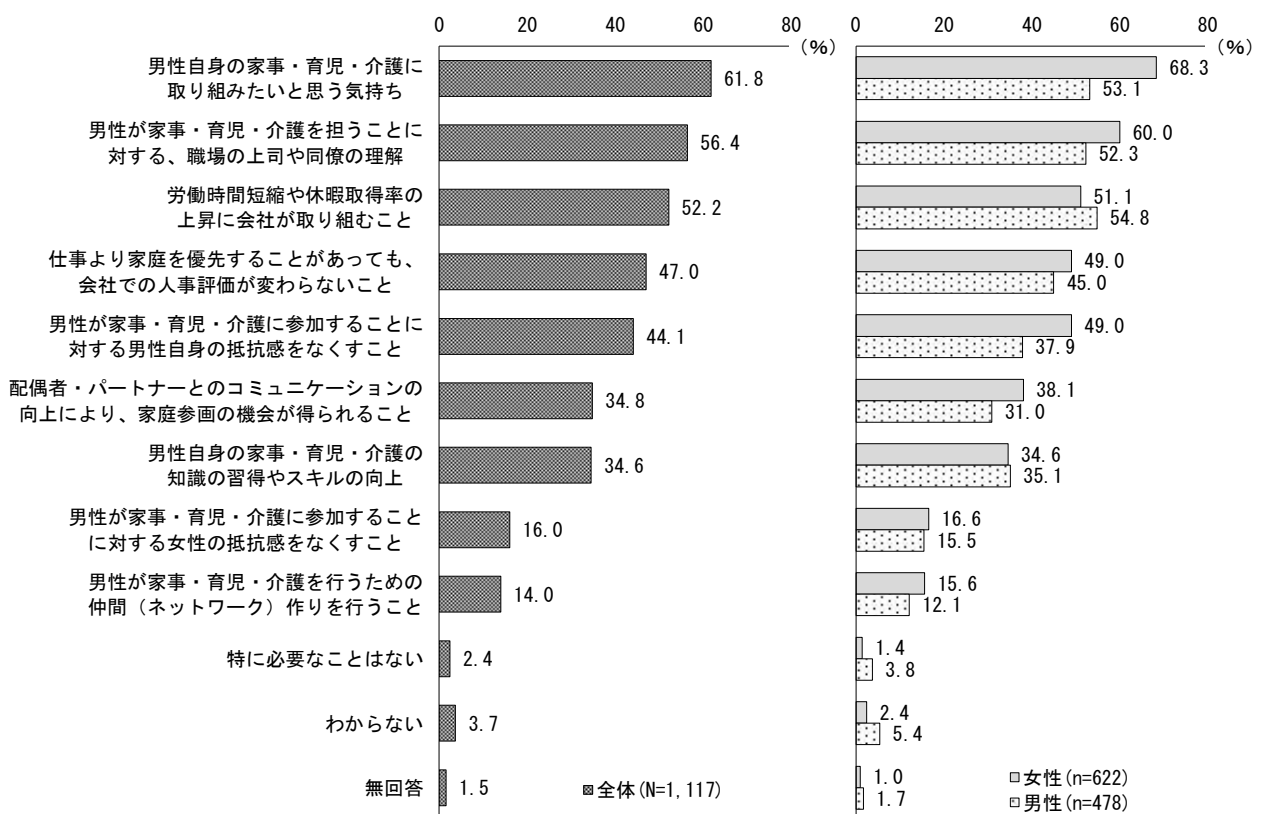
全体では、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち (61.8%)」が最も多く、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解 (56.4%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組むこと (52.2%)」が続いています。(図表 4-3-1)

【性別】

性別にみると、女性は「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち (68.3%)」が最も多く、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解 (60.0%)」、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組むこと (51.1%)」が続いています。

男性は「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組むこと (54.8%)」が最も多く、「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち (53.1%)」、「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解 (52.3%)」が続いています。(図表 4-3-1)

図表 4-3-1 男性の家庭参画に必要なこと (全体、性別：複数回答)

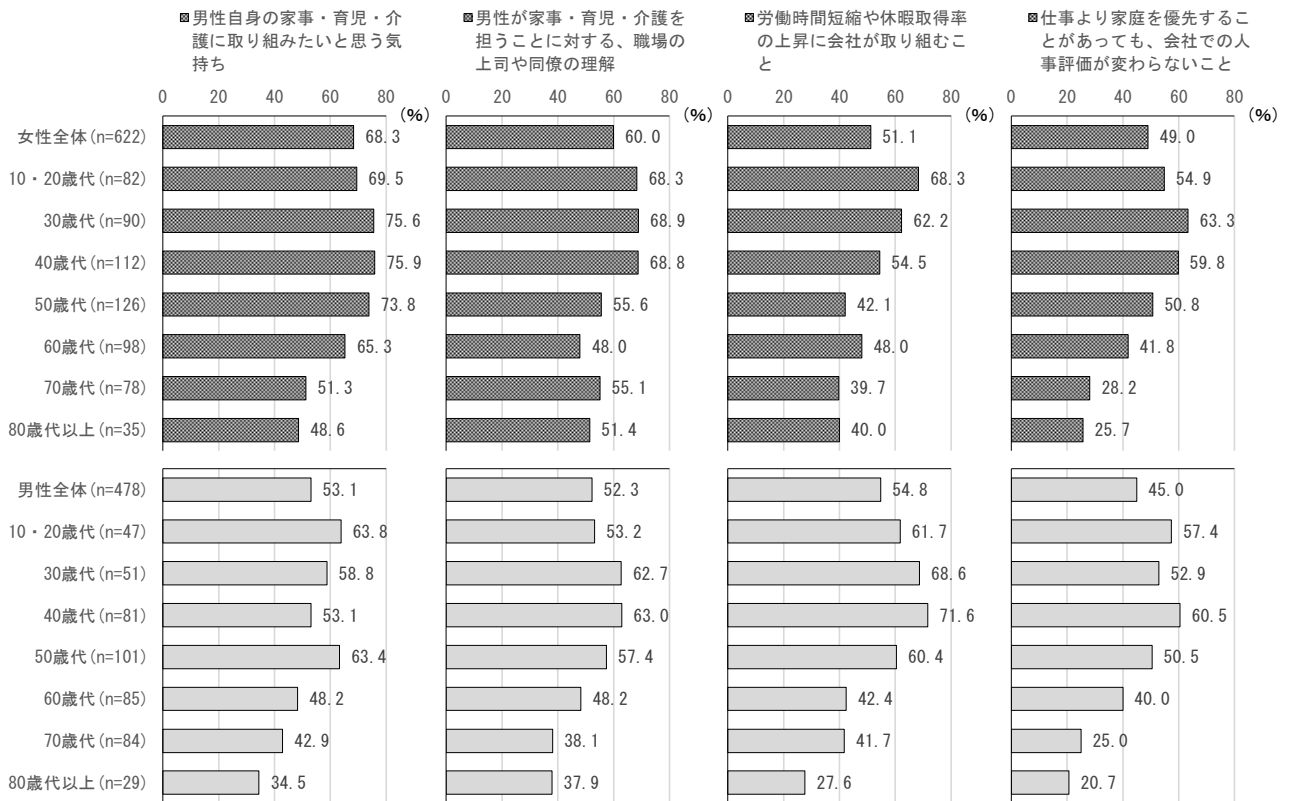


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代から50歳代で「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち」が7割台となっています。また、10・20歳代から40歳代で「男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解」が6割台となっています。

男性は10・20歳代と40歳代で「男性自身の家事・育児・介護に取り組みたいと思う気持ち」が6割台になっています。また、40歳代は、「労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組むこと」が7割台となっています。(図表 4-3-2)

図表 4-3-2 男性の家庭参画に必要なこと（性・年代別、上位4項目：複数回答）



5 就労

(1) 職業

問7 あなたの職業は、次のどれですか。(○は1つだけ)

【全体】

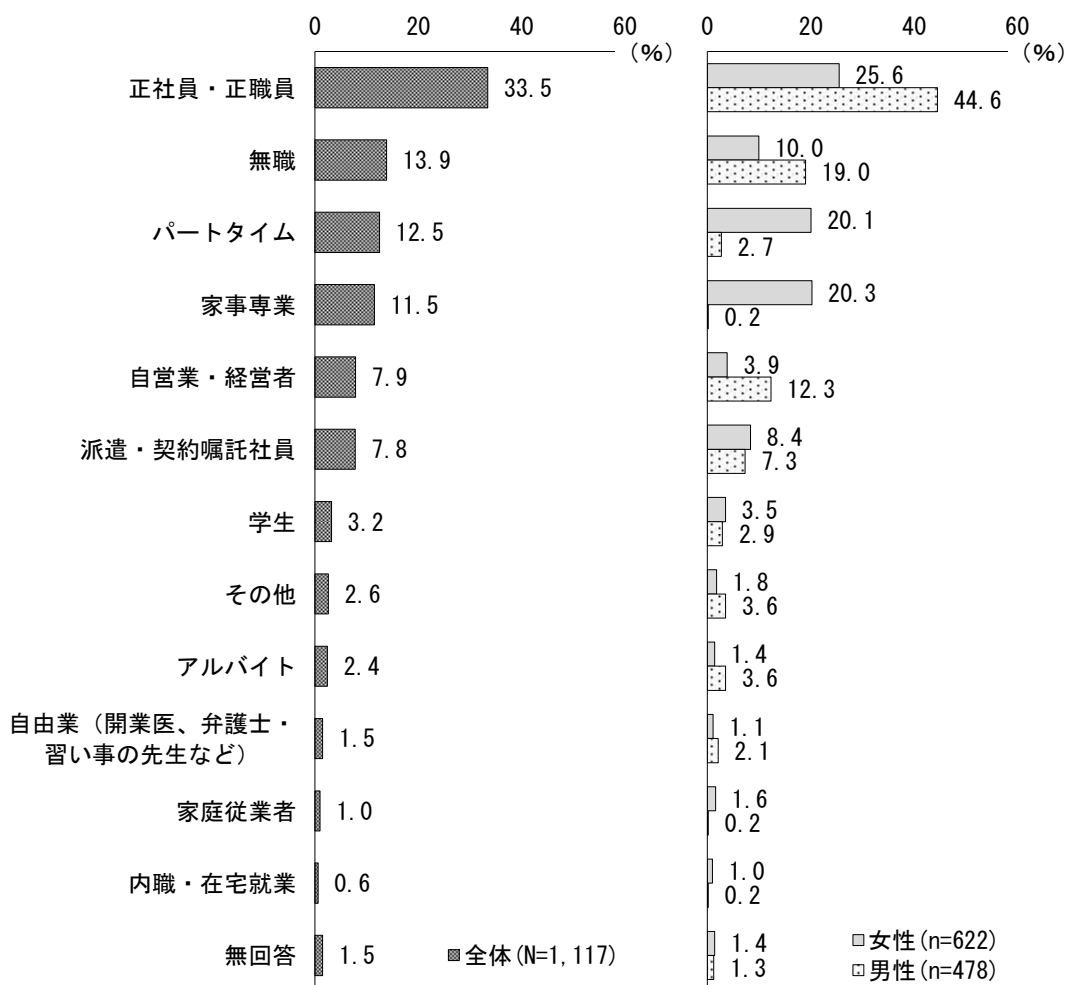
全体では、「正社員・正職員 (33.5%)」が最も多く、「パートタイム (12.5%)」、「家事専業 (11.5%)」が続いています。「無職」は13.9%です。(図表 5-1-1)

【性別】

性別にみると、女性は「正社員・正職員 (25.6%)」が最も多く、「家事専業 (20.3%)」、「パートタイム (20.1%)」が続いています。

男性は「正社員・正職員 (44.6%)」が最も多くなっています。(図表 5-1-1)

図表 5-1-1 職業 (全体、性別)

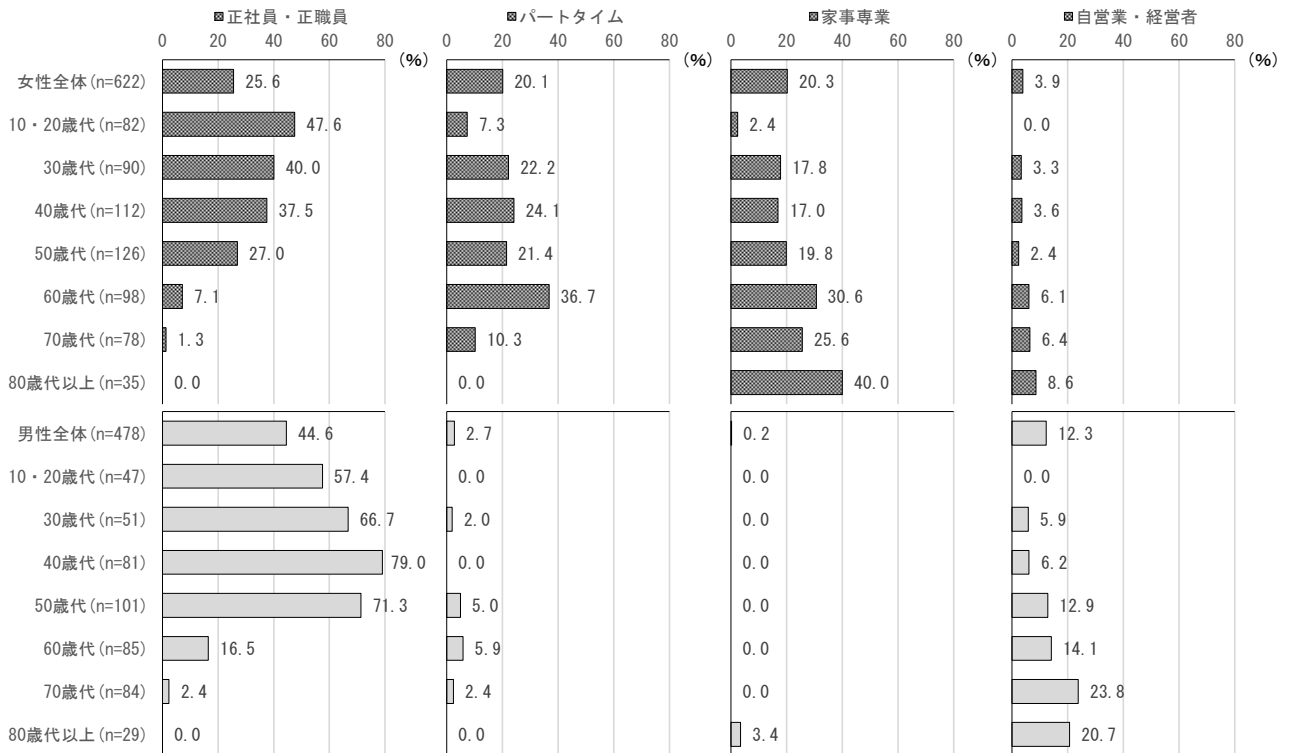


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代から50歳代で「正社員・正職員」が最も多くなっています。また、60歳代は「パートタイム」が最も多く、70歳代と80歳代以上は「家事専業」が最も多くなっています。

男性は10・20歳代から50歳代で「正社員・正職員」が最も多くなっており、特に40歳代と50歳代は7割を超えています。(図表5-1-2)

図表5-1-2 職業（性・年代別、上位4項目）



第3章 調査結果

(2) 職場での男女差別

問7で1～9のいずれかをお答えの方に
 問7-1 あなたの職場では、次のような男女の差別がありますか。
 (○はあてはまるものすべて)

【全体】

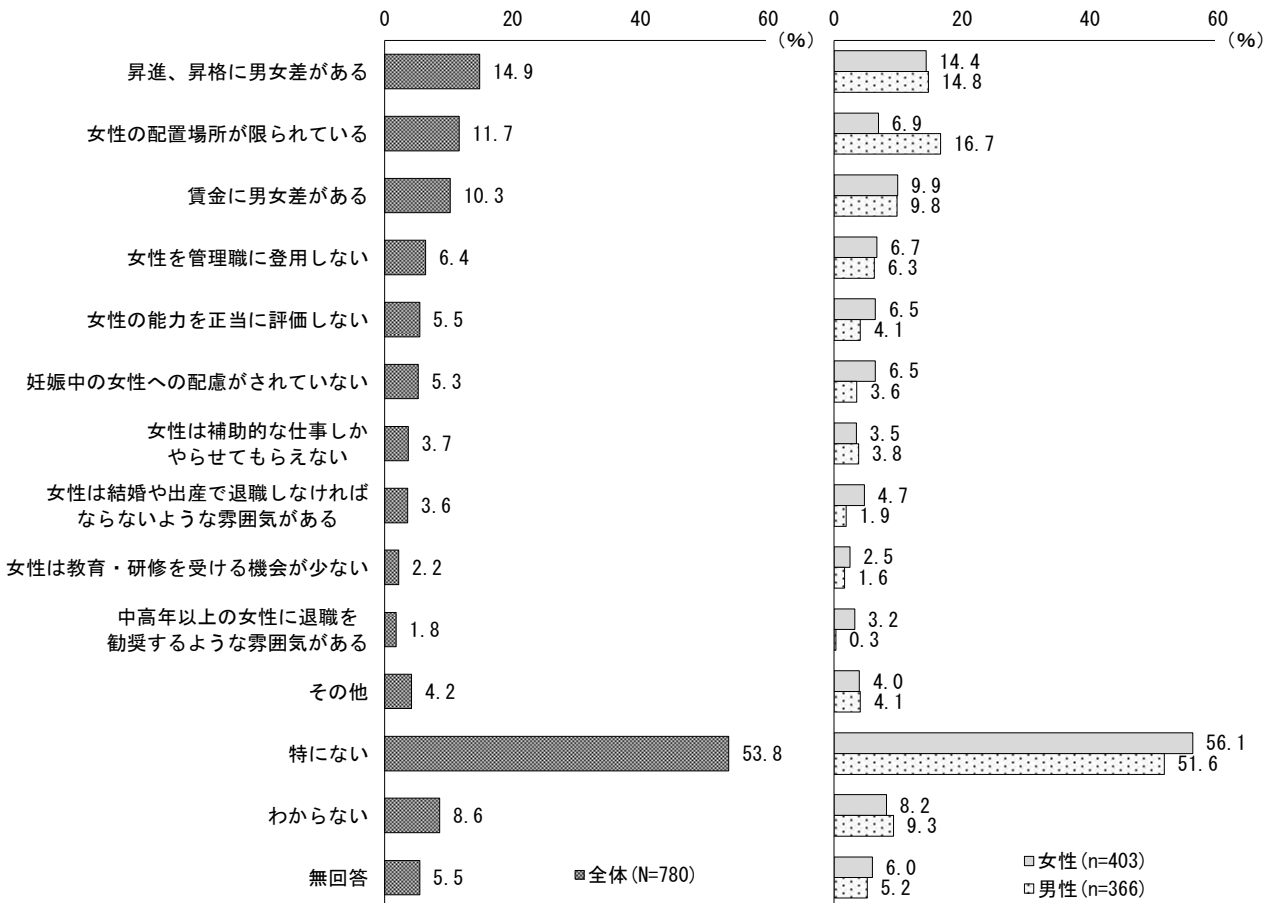
何らかの仕事をしている人に、その内容や待遇の問題点についてたずねました。
 全体では、「昇進、昇格に男女差がある (14.9%)」が最も多く、「女性の配置場所が限られている (11.7%)」、「賃金に男女差がある (10.3%)」が続いています。(図表 5-2-1)

【性別】

性別にみると、女性は「昇進、昇格に男女差がある (14.4%)」が最も多く、「賃金に男女差がある (9.9%)」、「女性の配置場所が限られている (6.9%)」が続いています。男性は「女性の配置場所が限られている (16.7%)」が最も多く、「昇進、昇格に男女差がある (14.8%)」、「賃金に男女差がある (9.8%)」が続いています。

男女の違いをみると、男性は「女性の配置場所が限られている (女性：6.9%、男性：16.7%)」で女性を9.8ポイント上回っています。(図表 5-2-1)

図表 5-2-1 職場での男女差別 (全体、性別：複数回答)
 <働いている人>

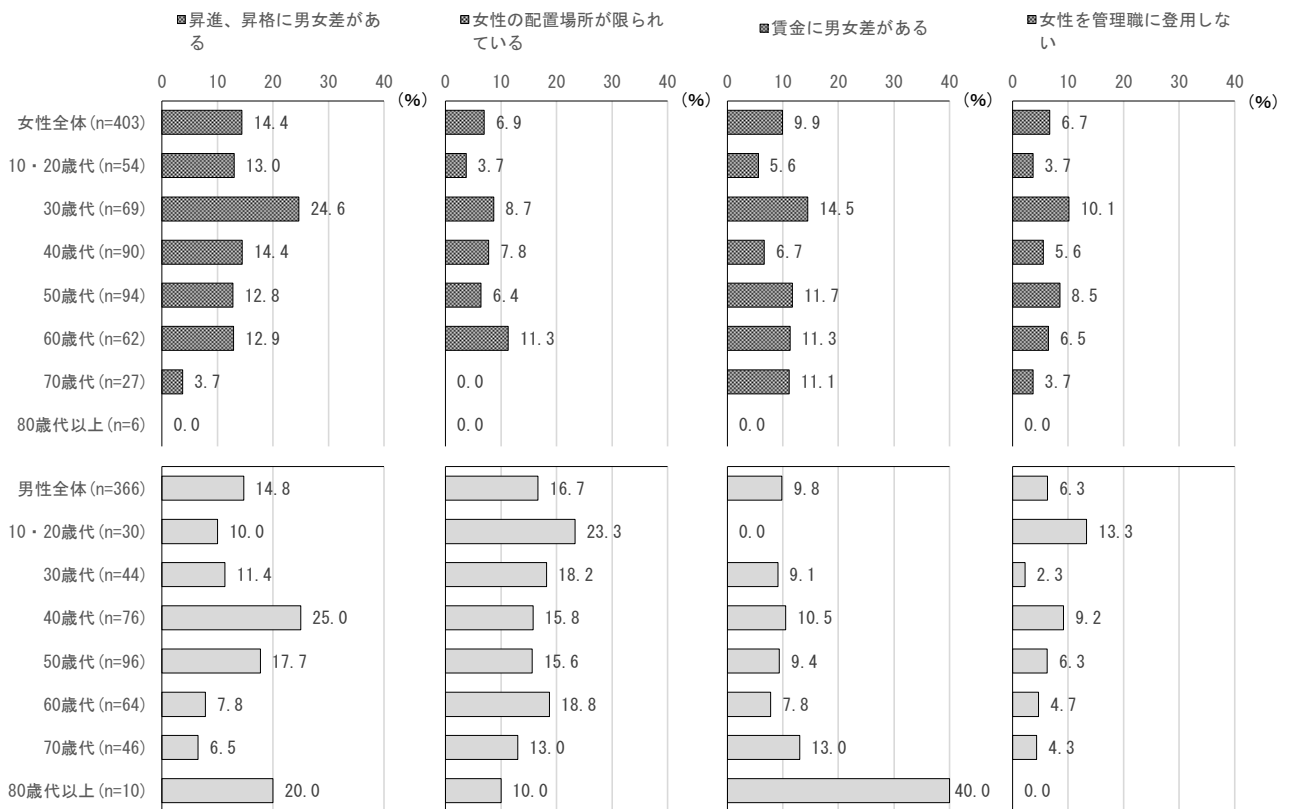


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代で「昇進、昇格に男女差がある（24.6%）」が他の年代に比べて多くなっています。

男性は10・20歳代で「女性の配置場所が限られている」が23.3%となっています。また、40歳代で「昇進、昇格に男女差がある（25.0%）」、80歳代以上で「賃金に男女差がある（40.0%）」が他の年代に比べて多くなっています。（図表 5-2-2）

図表 5-2-2 職場での男女差別（性・年代別、上位4項目：複数回答）
 <働いている人>

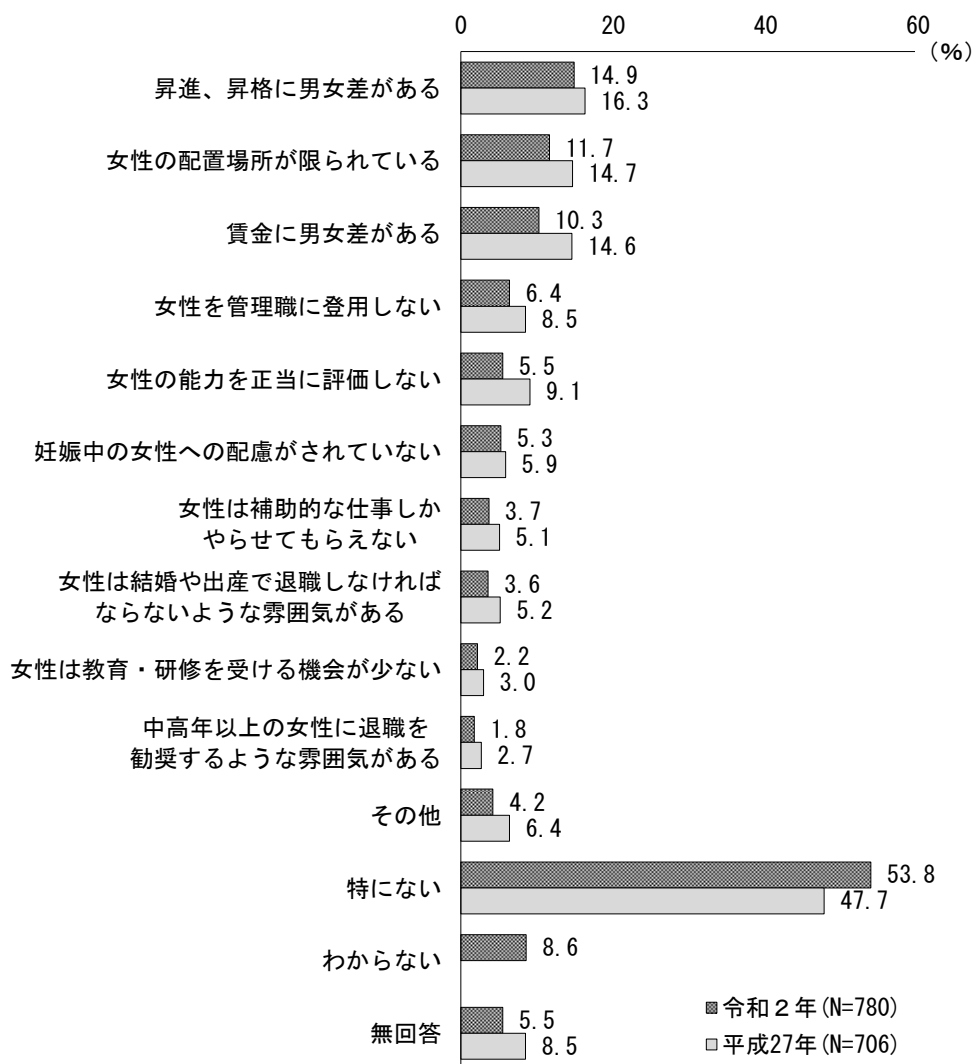


第3章 調査結果

【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、全体の傾向に大きな変化はありませんが、「特にない」が増えて他の設問は減少しています。(図表5-2-3)

図表5-2-3 職場での男女差別（全体、平成27年調査：複数回答）
＜働いている人＞



※平成27年調査には、「わからない」はなし。

(3) 女性の働き方についての意識

問8 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。
(○は1つだけ)

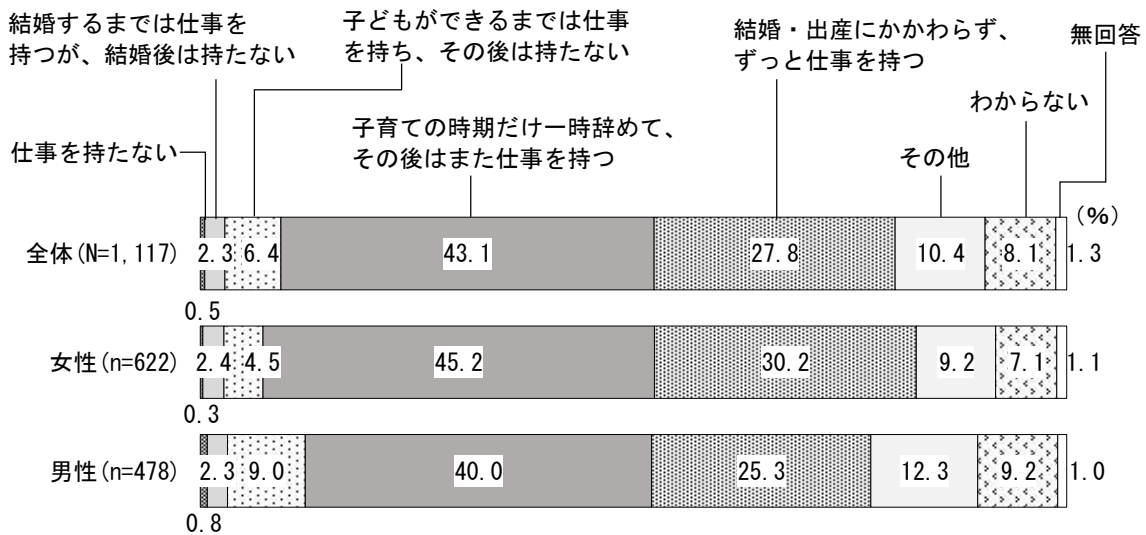
【全体】

全体では、「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ (43.1%)」が最も多く、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ (27.8%)」が続いています。(図表 5-3-1)

【性別】

性別にみると、女性は「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ (女性：45.2%、男性 40.0%)」、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ (女性：30.2%、男性：25.3%)」、「結婚するまでは仕事を持つが、結婚後は持たない (女性：2.4%、男性：2.3%)」で男性を上回っています。(図表 5-3-1)

図表 5-3-1 女性の働き方についての意識 (全体、性別)



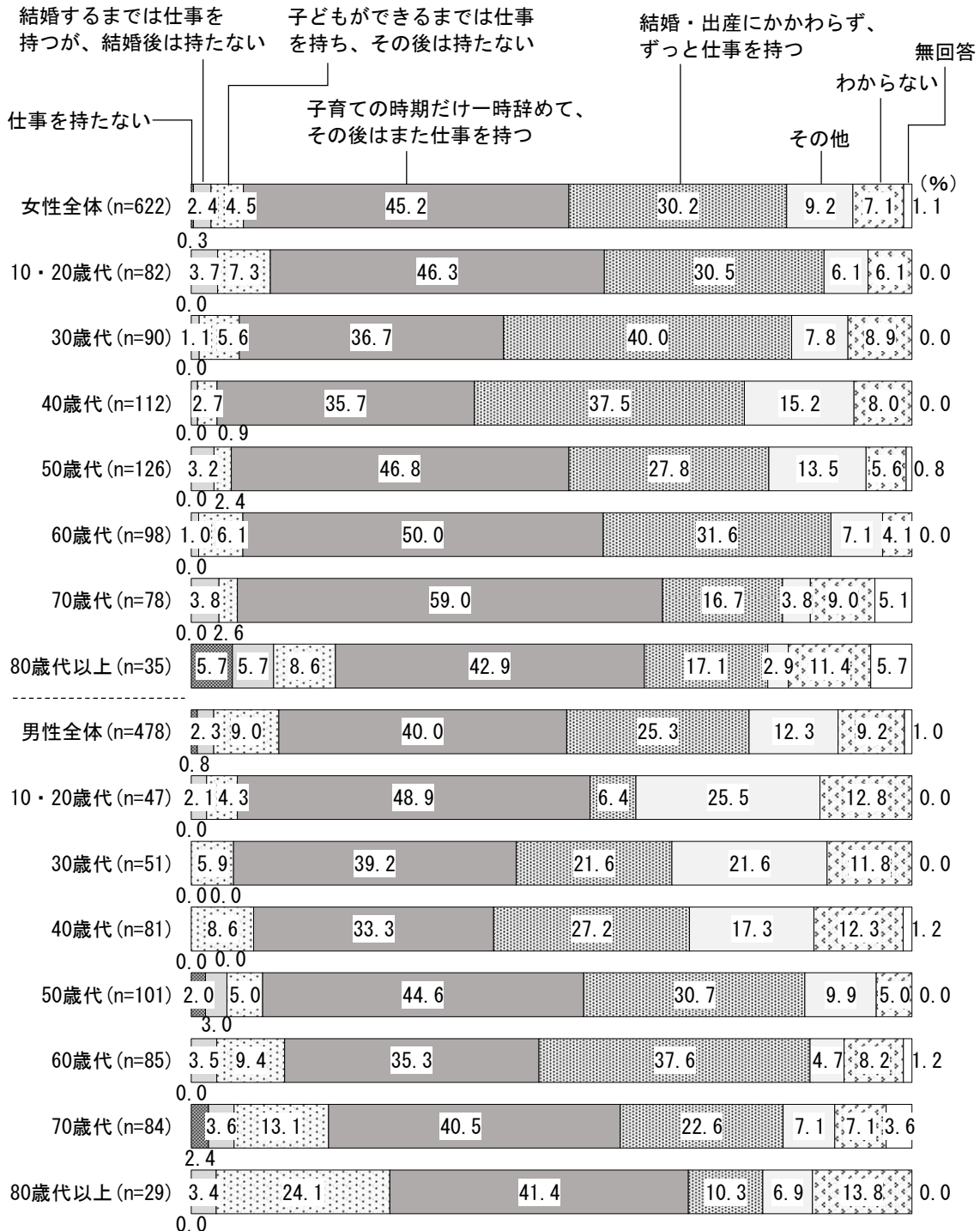
第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代と40歳代を除きいずれの年代も「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」が最も多くなっていますが、10・20歳代から40歳代、60歳代は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ」が3割以上となっており、特に30歳代は40.0%と他の年代に比べて多くなっています。

男性も女性とほぼ同様に60歳代を除きいずれの年代も「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」が最も多くなっていますが、50歳代から60歳代は「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ」が3割台となっています。(図表5-3-2)

図表5-3-2 女性の働き方についての意識（性・年代別）

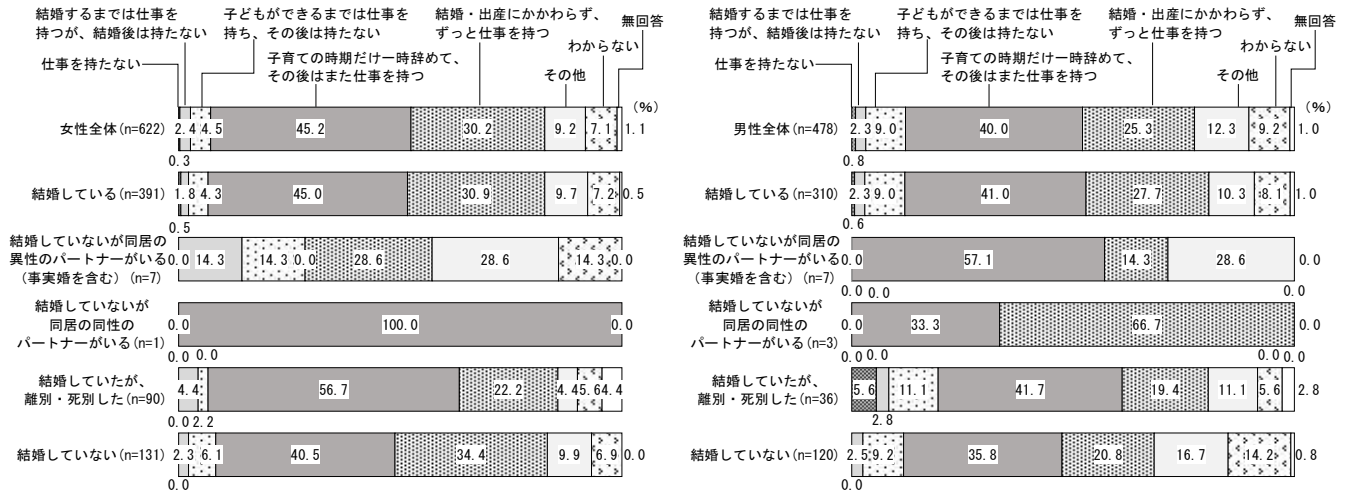


【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、女性は既婚・未婚いずれも「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」が最も多くなっています。

男性も女性同様いずれも「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」が最も多くなっています。(図表 5-3-3)

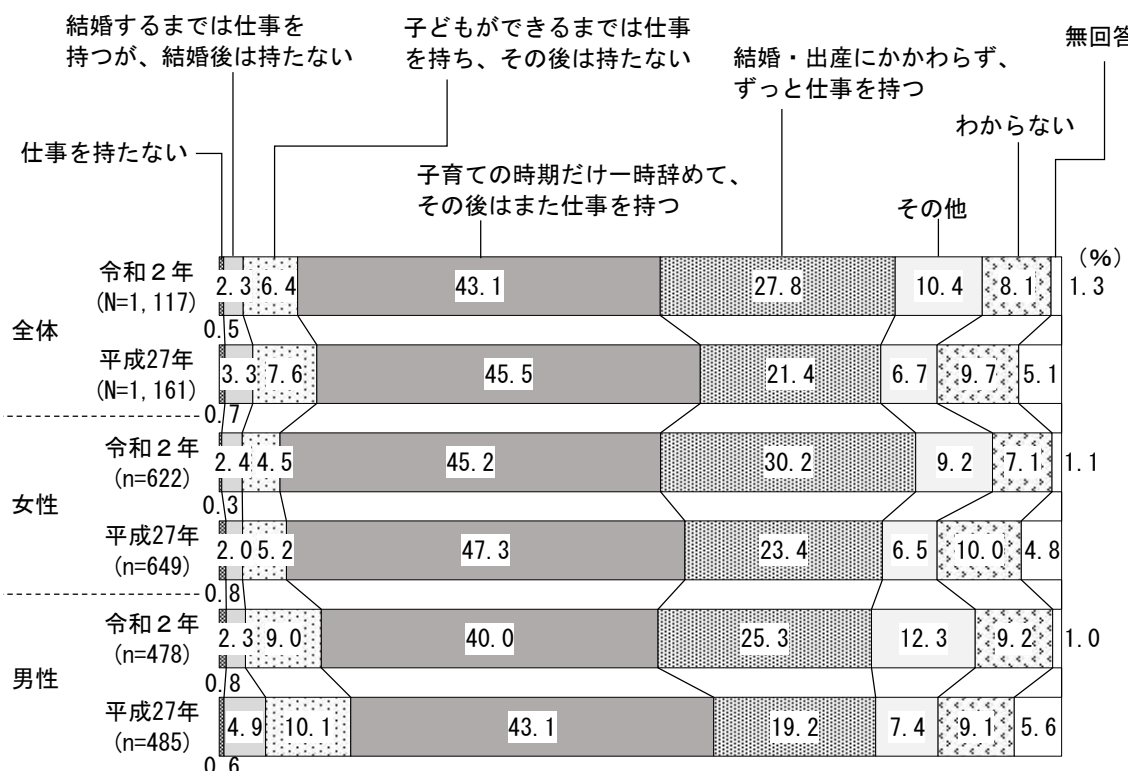
図表 5-3-3 女性の働き方についての意識（性・未既婚別）



【平成 27 年調査との比較】

平成 27 年調査と比較すると、男女ともに「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ」が増えています。(図表 5-3-4)

図表 5-3-4 女性の働き方についての意識（全体、性別、平成 27 年調査）



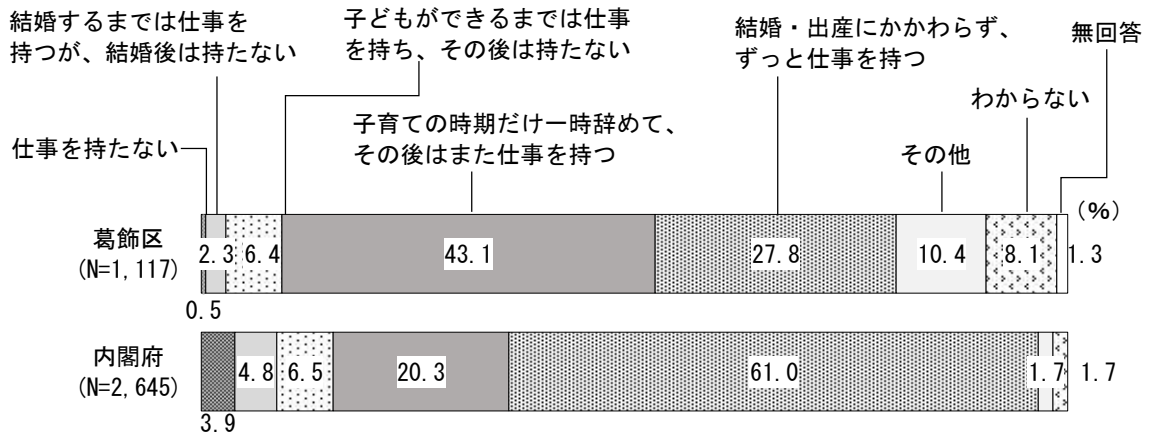
第3章 調査結果

【内閣府調査との比較】

内閣府調査と比較すると選択肢の文言が一致していませんが、葛飾区は「子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ」（中断再就職型）が内閣府調査よりも高く、「結婚・出産にかかわらずずっと仕事を持つ」（職業継続型）が内閣府調査よりも低くなっています。

（図表 5-3-5）

図表 5-3-5 女性の働き方についての意識（全体、内閣府調査（令和元年））



問8-1 問8で回答した理由をご記入ください。(〇はあてはまるものすべて)

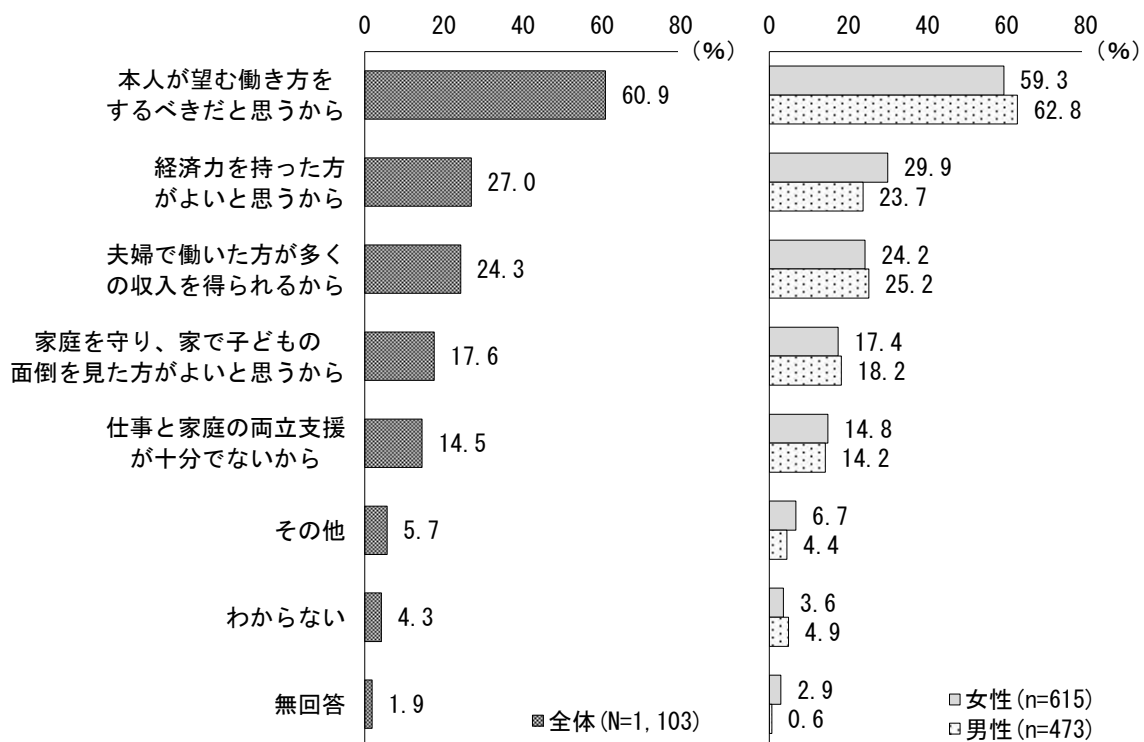
【全体】

全体では、「本人が望む働き方をすべきだと思うから (60.9%)」が最も多く、「経済力を持った方がよいと思うから (27.0%)」、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから (24.3%)」が続いています。(図表 5-3-6)

【性別】

性別にみると、男女ともに「本人が望む働き方をすべきだと思うから (女性：59.3%、男性 62.8%)」が最も多くなっています。

図表 5-3-6 問8で回答した理由 (全体、性別、複数回答)



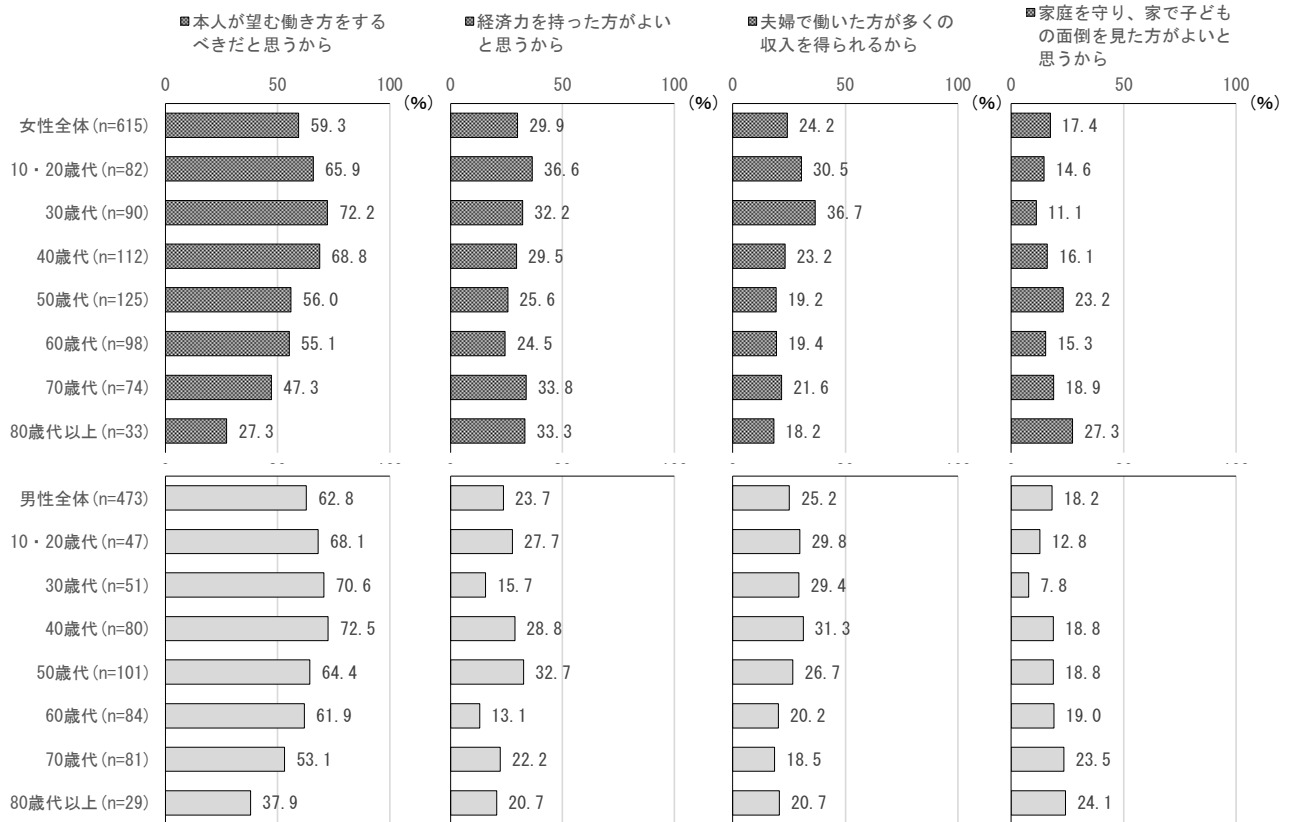
第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代で「本人が望む働き方をするべきだと思うから」が7割を超えています。

男性は30歳代と40歳代で「本人が望む働き方をするべきだと思うから」が7割を超えています。(図表5-3-7)

図表5-3-7 問8で回答した理由(性・年代別、上位4項目：複数回答)



(4) 女性の再就職に対する支援

問9 結婚や妊娠・出産により仕事を辞めた女性が再び仕事を持つことを希望する場合、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

全体では、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実 (62.5%)」が最も多く、「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実 (60.3%)」、「家族や周囲などの理解と協力 (56.1%)」が続いています。(図表 5-4-1)

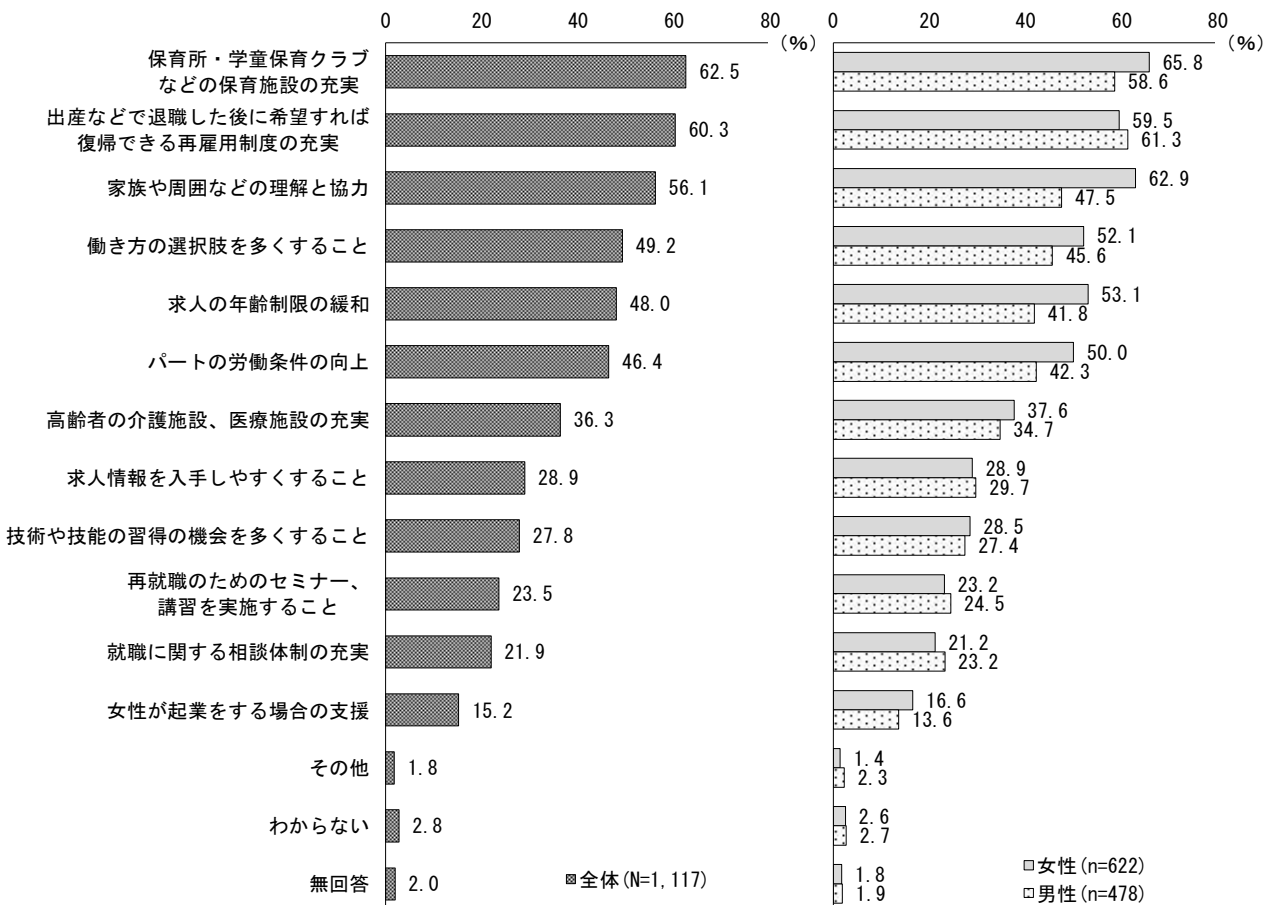
【性別】

性別にみると、女性は「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実 (65.8%)」、「家族や周囲などの理解と協力 (62.9%)」が6割台、「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実 (59.5%)」、「求人の年齢制限の緩和 (53.1%)」、「働き方の選択肢を多くすること (52.1%)」、「パートの労働条件の向上 (50.0%)」が5割台となっています。

男性は「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実 (61.3%)」が6割台、「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実 (58.6%)」が5割台となっています。

男女の違いをみると、女性は「家族や周囲などの理解と協力 (女性：62.9%、男性：47.5%)」、「求人の年齢制限の緩和 (女性 53.1%、男性：41.8%)」で男性をそれぞれ 15.4 ポイント、11.3 ポイント上回っています。(図表 5-4-1)

図表 5-4-1 女性の再就職に対する支援 (全体、性別：複数回答)



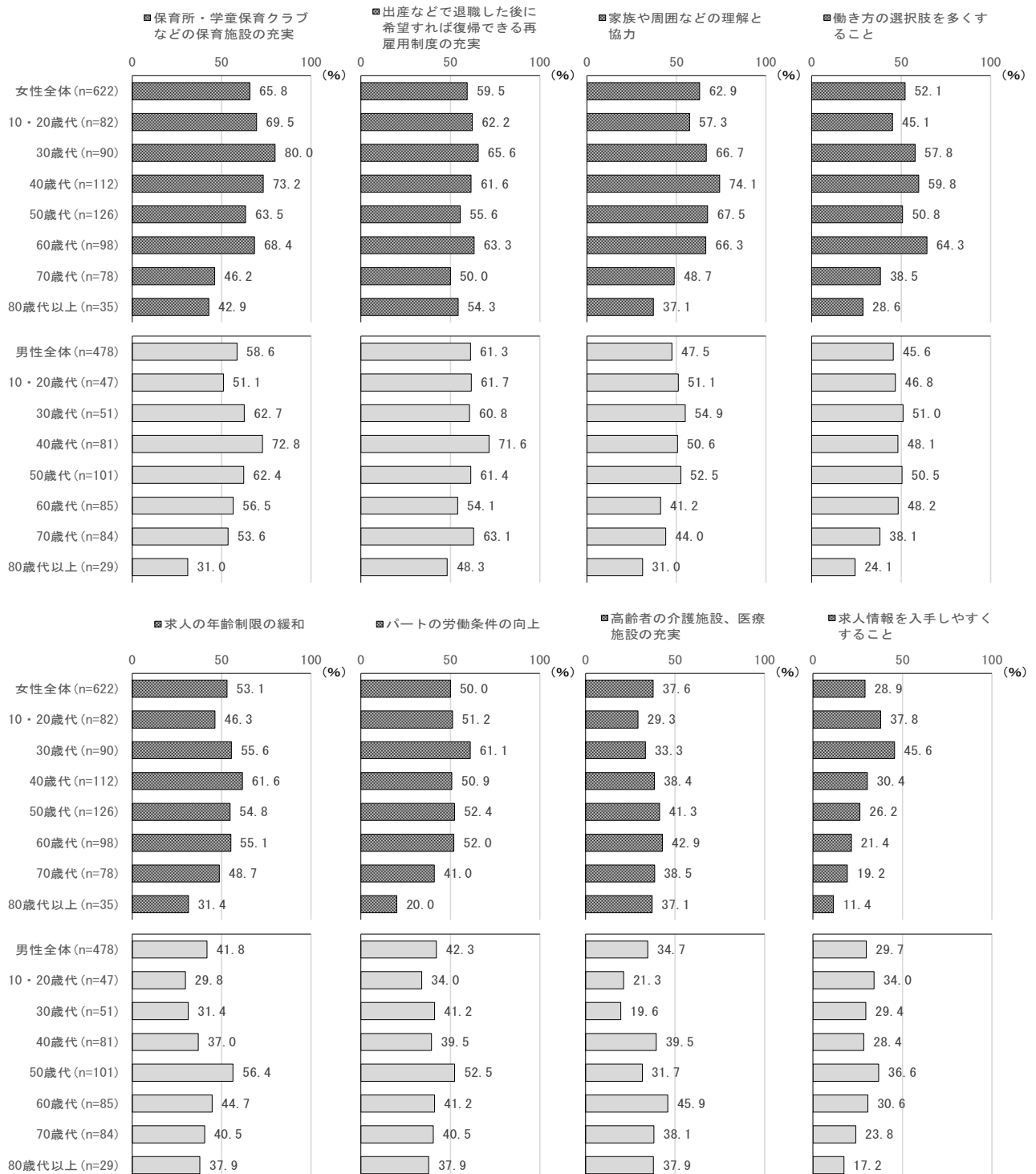
第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代で「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実」が8割台となっています。また、40歳代は「家族や周囲などの理解と協力」が他の年代に比べて多くなっています。

男性は40歳代で「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実」、50歳代で「求人年齢制限の緩和」、「パートの労働条件の向上」が他の年代に比べて多くなっています。(図表5-4-2)

図表5-4-2 女性の再就職に対する支援（性・年代別、上位8項目：複数回答）

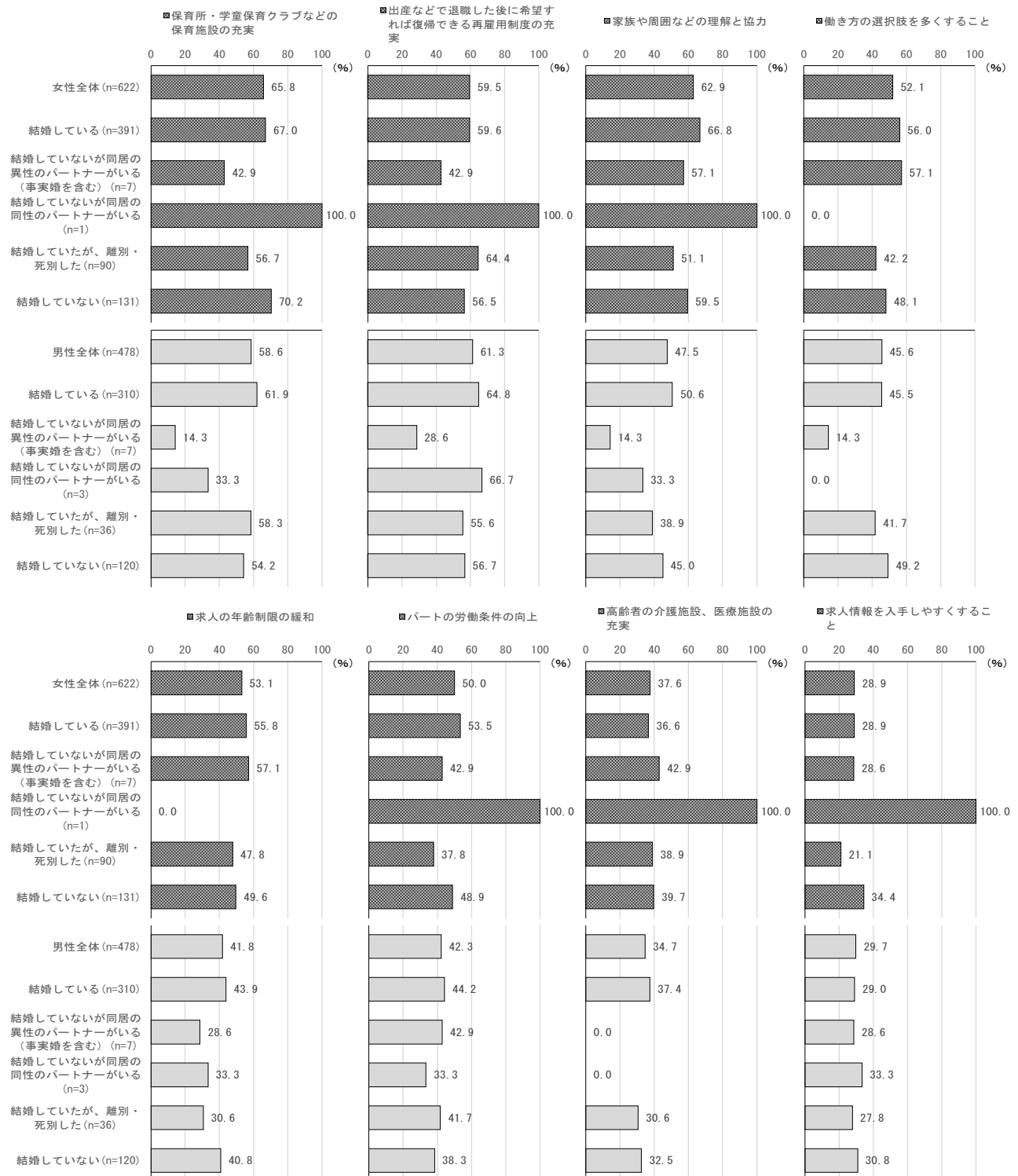


【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、女性は既婚・未婚いずれも「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実」が他に比べて多くなっています。

男性は既婚・未婚いずれも「出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実」が他に比べて多くなっています。(図表 5-4-3)

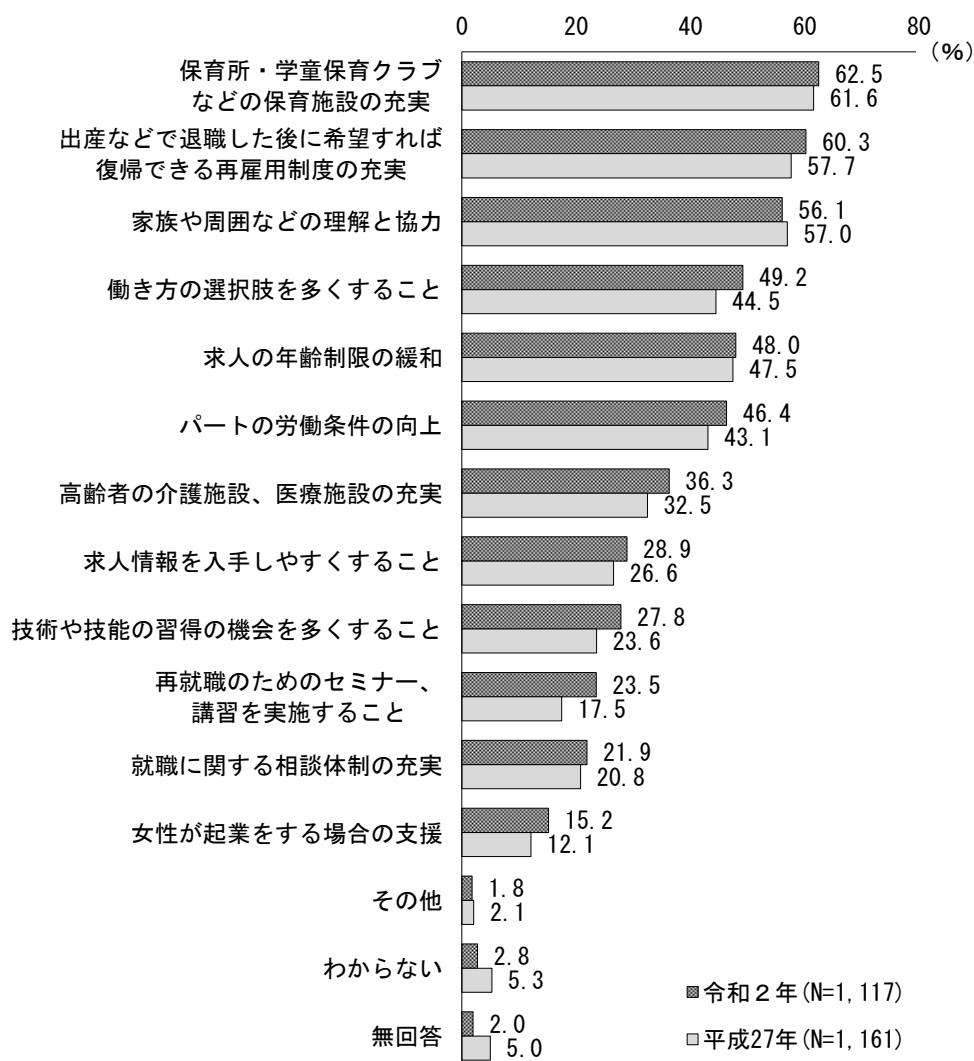
図表 5-4-3 女性の再就職に対する支援（性・未既婚別、上位8項目：複数回答）



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、令和2年調査、平成27年調査ともに「保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実」が最も多くなっています。また、「働き方の選択肢を多くすること」が平成27年調査から増えて、5位から4位にあがっています。(図表5-4-4)

図表5-4-4 女性の再就職に対する支援（全体、平成27年調査：複数回答）



※平成27年調査では、「家族の周囲などの理解と協力」は「家族の理解と協力」、「働き方の選択肢を多くすること」は「働く場を多くすること」でたずねている。

(5) 育児休業・介護休業の利用状況

問10 あなたは育児休業・介護休業を利用したことがありますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

■ 育児休業

【全体】

全体では、「利用したことがある」が6.9%、「利用したことはない」が46.6%となっています。
(図表 5-5-1)

【性別】

性別にみると、「利用したことがある」は女性が11.4%、男性が1.3%となっています。
(図表 5-5-1)

■ 介護休業

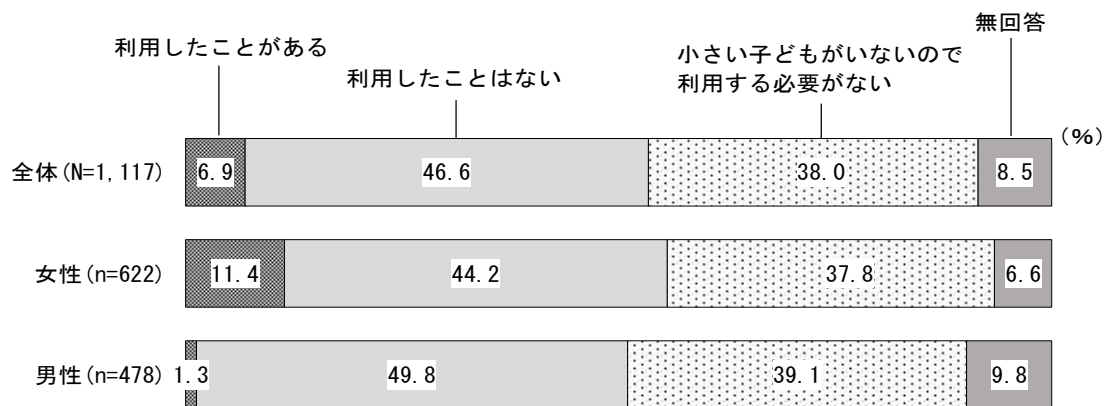
【全体】

全体では、「利用したことがある」が1.2%、「利用したことはない」が38.9%となっています。
(図表 5-5-2)

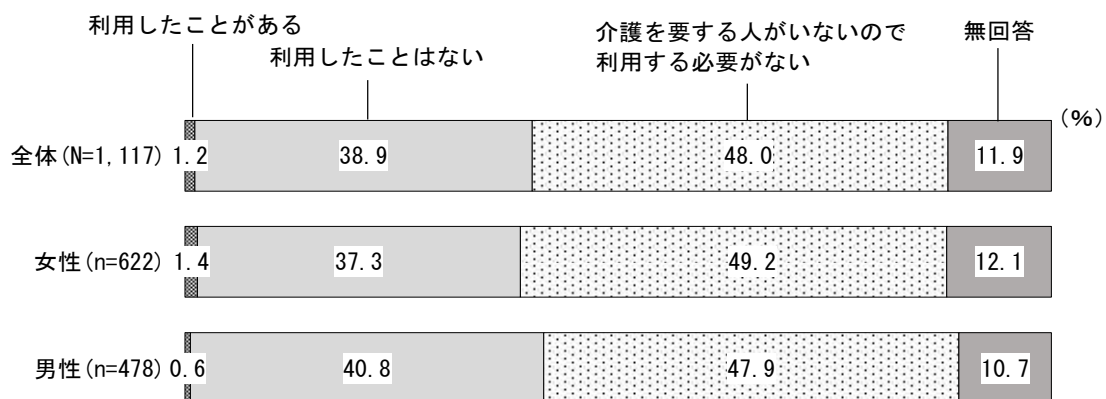
【性別】

性別にみると、「利用したことがある」が女性は1.4%、男性は0.6%となっています。(図表 5-5-2)

図表 5-5-1 育児休業の利用状況（全体、性別）



図表 5-5-2 介護休業の利用状況（全体、性別）



第3章 調査結果

■ 育児休業

【性・年代別】

性・年代別にみると、「利用したことがある」は女性の30歳代で27.8%、40歳代で19.6%、となっています。男性は30歳代で「利用したことがある」が3.9%となっています。(図表5-5-3)

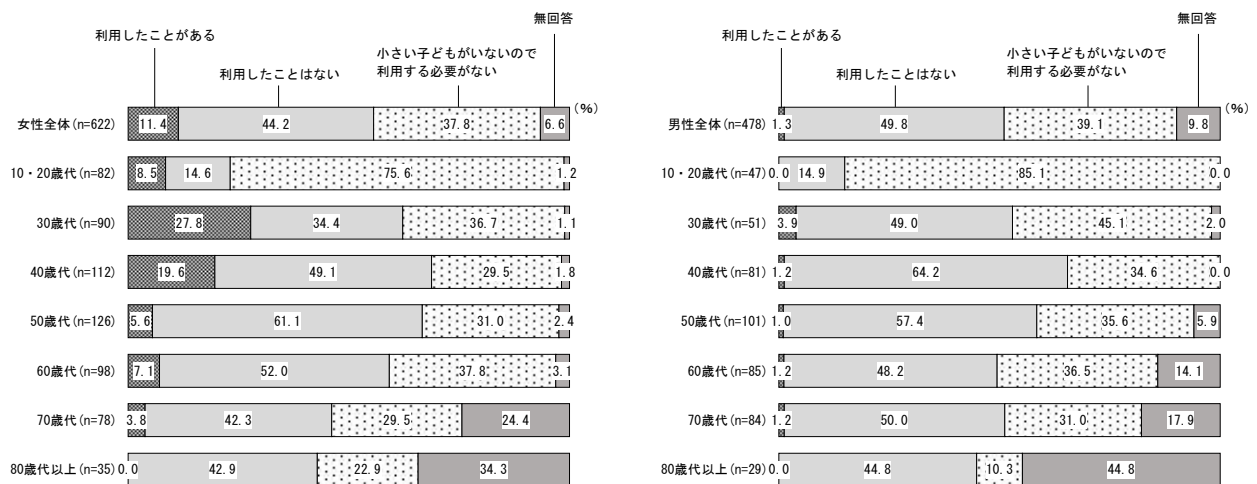
■ 介護休業

【性・年代別】

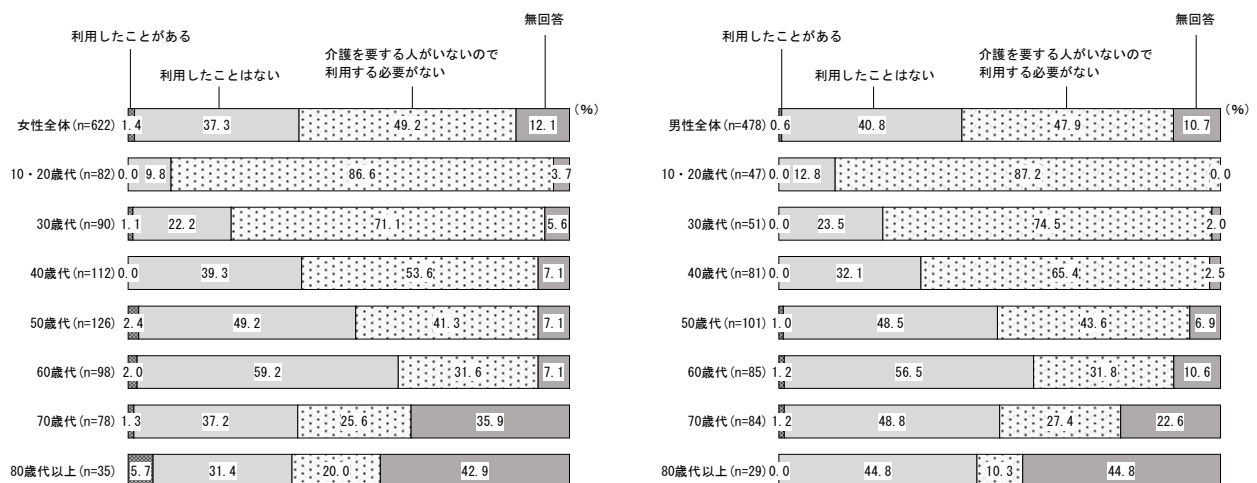
性・年代別にみると、「利用したことがある」は女性の30歳代と50歳代以降でみられ、それぞれ1.1%、2.4%、2.0%、1.3%、5.7%となっています。

男性は50歳代から70歳代で「利用したことがある」がそれぞれ1%台となっています。(図表5-5-4)

図表 5-5-3 育児休業の利用状況（性・年代別）



図表 5-5-4 介護休業の利用状況（性・年代別）



【平成27年調査との比較】

■育児休業

平成27年調査と比較すると、女性は「利用したことがある（令和2年調査：11.4%、平成27年調査：9.4%）」が2.0ポイント増えています。

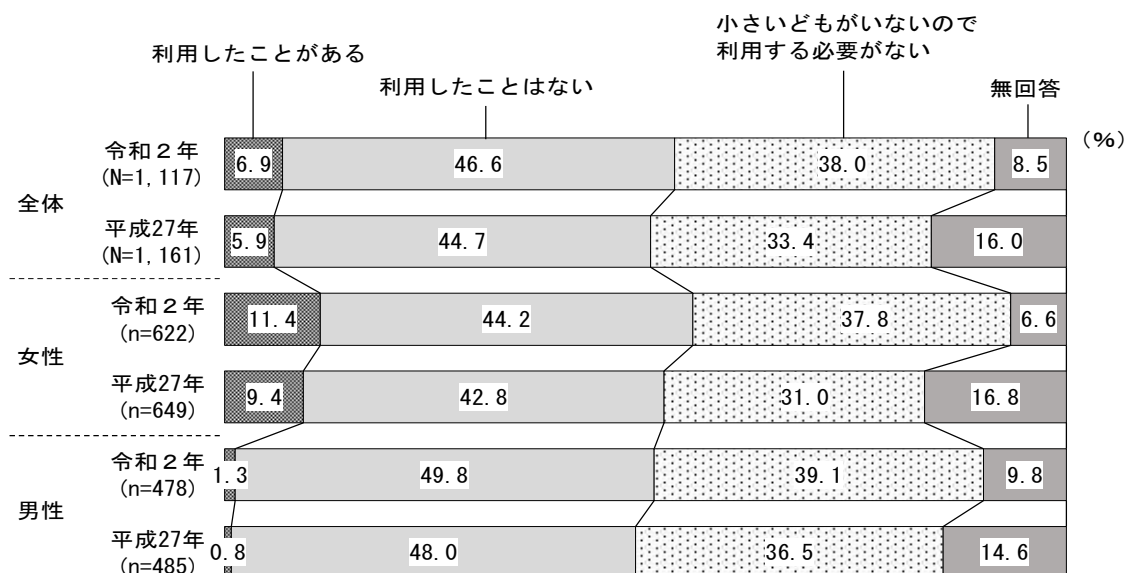
男性は「利用したことがある（令和2年調査：1.3%、平成27年調査：0.8%）」が0.5ポイント増えています。（図表5-5-5）

■介護休業

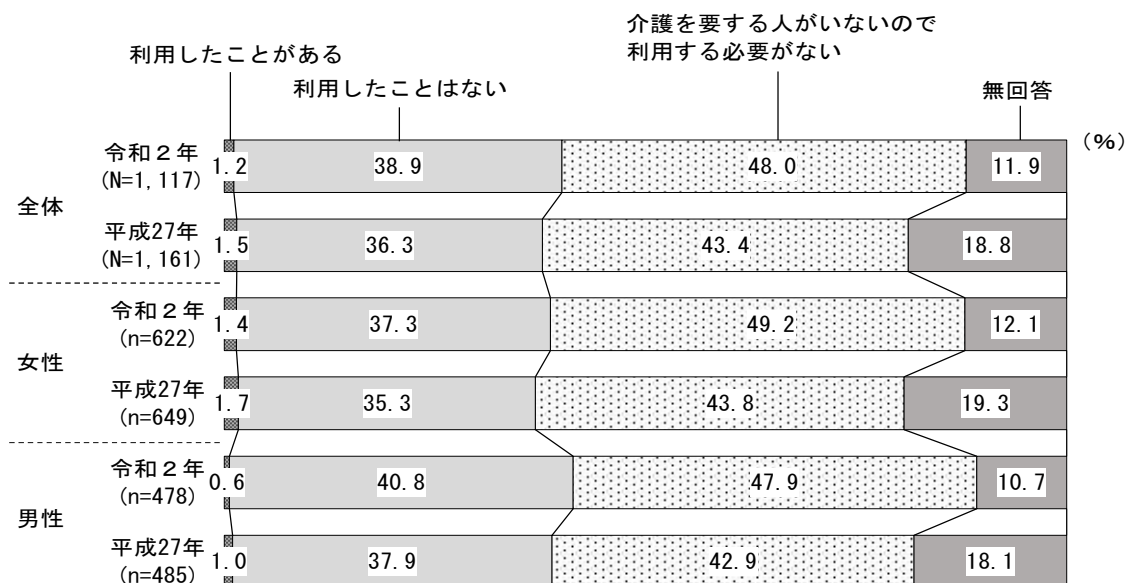
平成27年調査と比較すると、女性は「利用したことがある（令和2年調査：1.4%、平成27年調査：1.7%）」が0.3ポイント減っています。（図表5-5-6）

男性は「利用したことがある（令和2年調査：0.6%、平成27年調査：1.0%）」が0.4ポイント減っています。（図表5-5-6）

図表 5-5-5 育児休業の利用状況（全体、性別、平成27年調査）



図表 5-5-6 介護休業の利用状況（全体、性別、平成27年調査）



第3章 調査結果

(6) 育児休業・介護休業の利用期間

問10で「1. 利用したことがある」とお答えの方に
 問10-1 どのくらいの期間、休暇を取りましたか。複数回利用したことがある方は、
 最近のケースでご回答ください。(回答の場合、○はどちらも1つ)

■育児休業

【全体】

育児休業を「利用したことがある」と回答した人に、その期間をたずねました。
 全体では、「6カ月～1年未満（41.6%）」が最も多く、「1年以上（36.4%）」、「3カ月未満（11.7%）」が続いています。(図表 5-6-1)

【性別】

性別にみると、男女ともに「6カ月～1年未満（女性：40.8%、男性：50.0%）」が最も多く、
 女性は「1年以上（39.4%）」が、男性は「3カ月未満（33.3%）」が続いています。(図表 5-6-1)

■介護休業

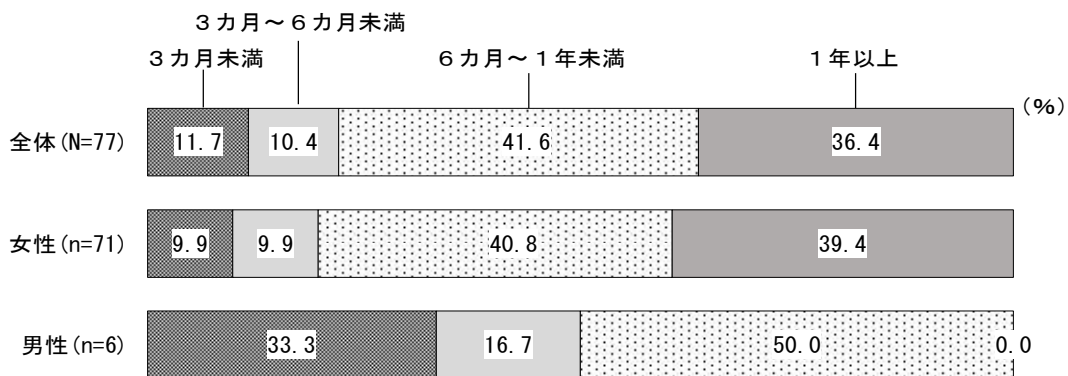
【全体】

介護休業を「利用したことがある」と回答した人に、その期間をたずねました。
 全体では、「1カ月未満（53.8%）」が最も多く、「1カ月～2カ月未満（23.1%）」、「3カ月以上（15.4%）」が続いています。(図表 5-6-2)

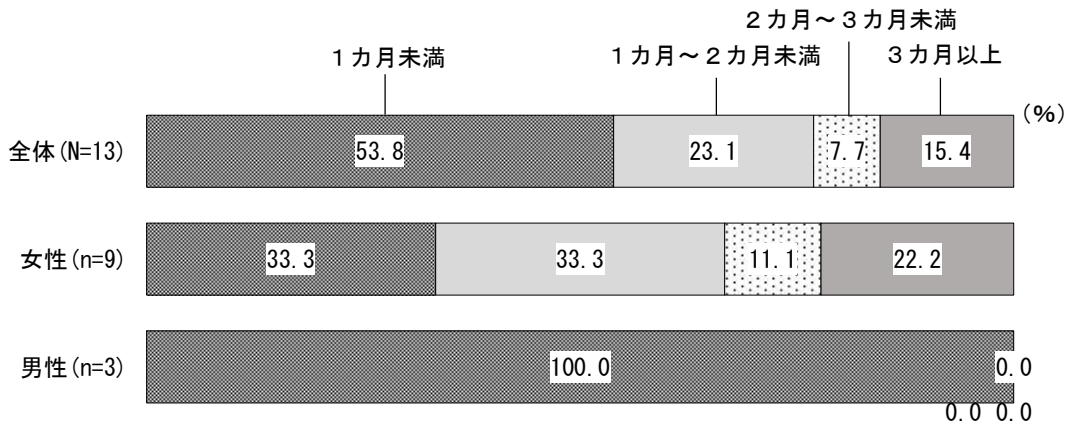
【性別】

性別にみると、男女ともに「1カ月未満（女性：33.3%、男性：100.0%）」が最も多くなっ
 ています。(図表 5-6-2)

図表 5-6-1 育児休業の利用期間（全体、性別）＜育児休業を利用したことがある人＞



図表 5-6-2 介護休業の利用期間（全体、性別）＜介護休業を利用したことがある人＞



【平成27年調査との比較】

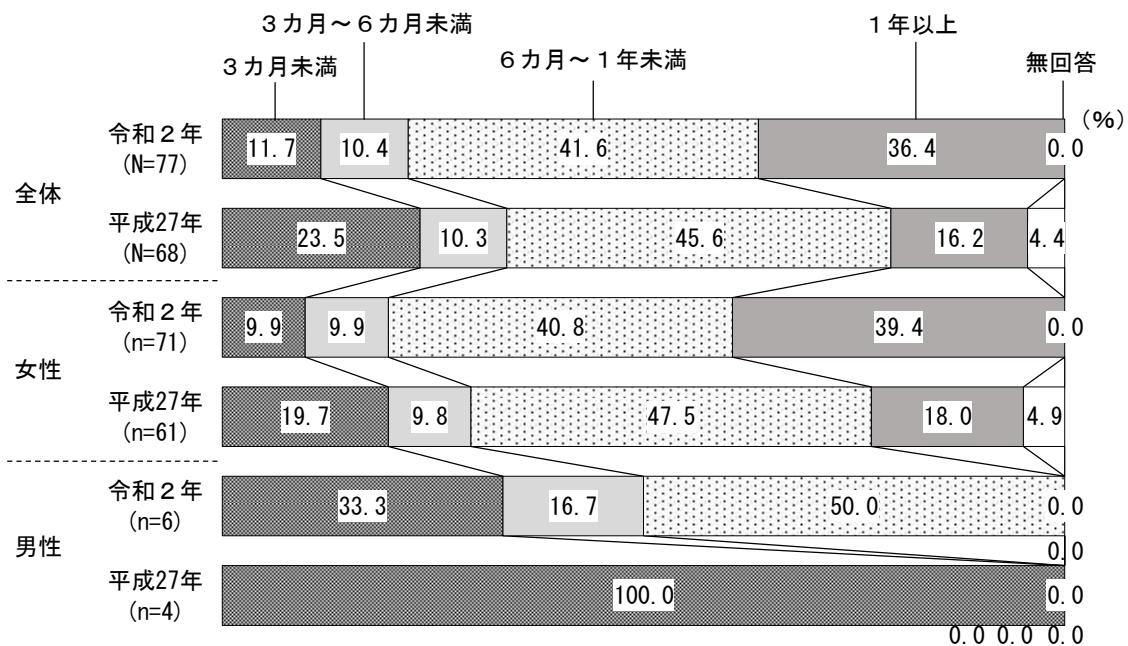
■育児休業

平成27年調査と比較すると、女性は「1年以上（令和2年調査：39.4%、平成27年調査：18.0%）」が21.4ポイント増えています。（図表5-6-3）

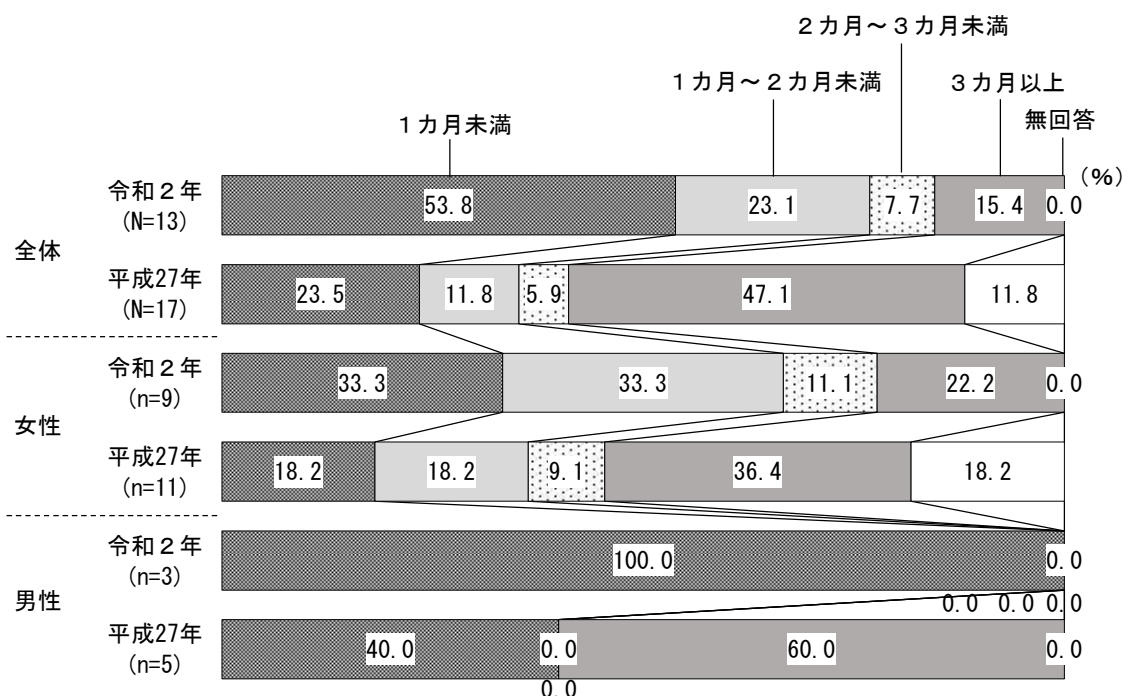
■介護休業

令和2年調査、平成27年調査ともに対象者数が20件未満のためグラフの掲載のみとします。（図表5-6-4）

図表5-6-3 育児休業の利用期間（全体、性別、平成27年調査）
 <育児休業を利用したことがある人>



図表5-6-4 介護休業の利用期間（全体、性別、平成27年調査）
 <介護休業を利用したことがある人>



第3章 調査結果

(7) 育児休業・介護休業を利用しなかった理由

問10で「2. 利用したことはない」とお答えの方に

問10-2 利用しなかった理由はなんですか。

(回答の場合、○はどちらもあてはまるものすべて)

■ 育児休業

【全体】

育児休業を「利用したことはない」と回答した方に理由をたずねました。

全体では、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから (22.7%)」が最も多く、「出産前に離職したから (20.2%)」、「前例がないから (12.1%)」、「代替要員がないから (9.4%)」が続いています。

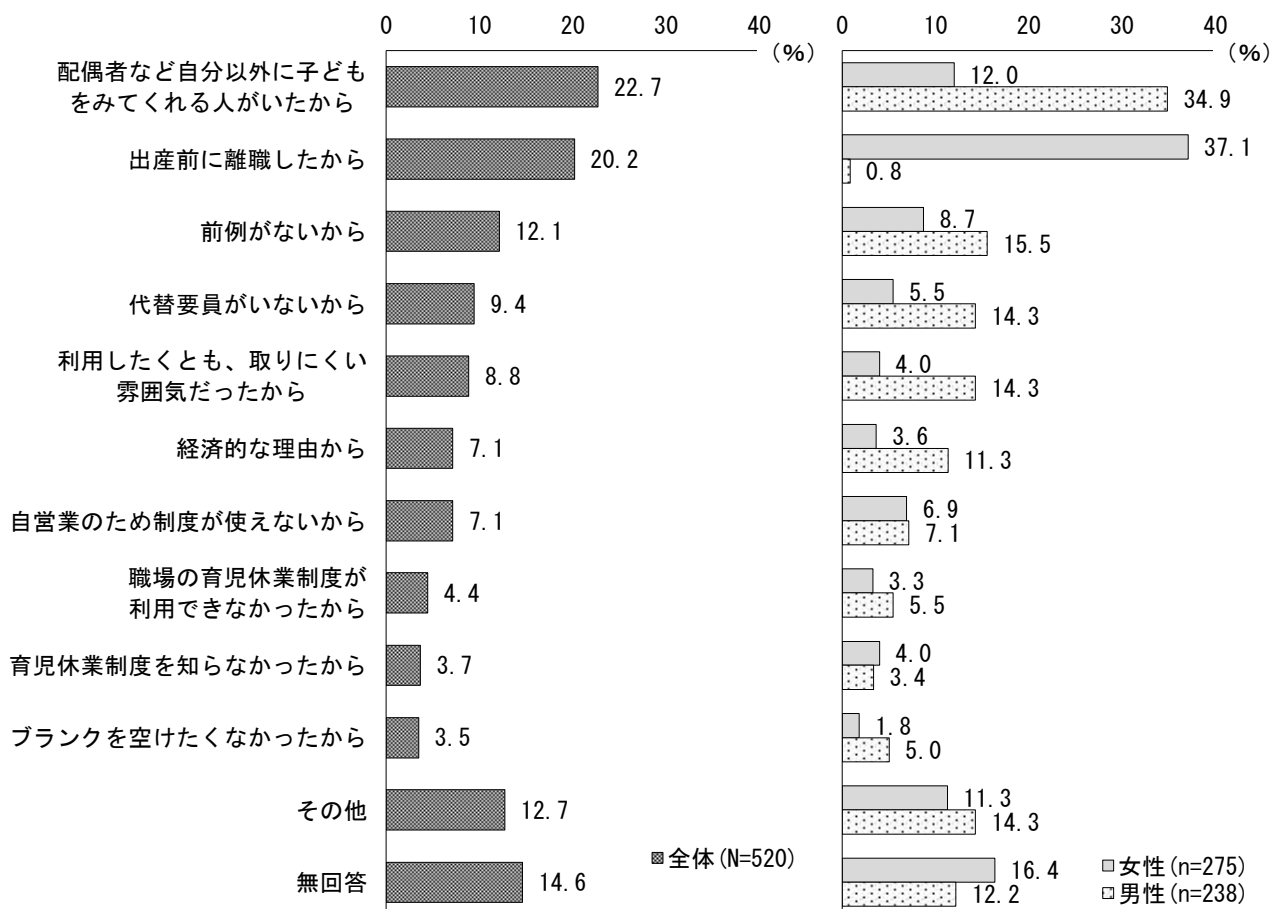
なお、「その他 (12.7%)」には、「自営」、「未婚」といった回答があがっています。(図表 5-7-1)

【性別】

性別にみると、女性は「出産前に離職したから (37.1%)」が最も多くなっています。

男性は「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから (34.9%)」が最も多くなっています。(図表 5-7-1)

図表 5-7-1 育児休業を利用しなかった理由 (全体、性別：複数回答)
 <育児休業を利用したことがない人>



■介護休業

【全体】

介護休業を「利用したことはない」と回答した方に理由をたずねました。

全体では、「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいたから（24.4%）」が最も多く、「前例がないから（14.0%）」、「代替要員がないから（10.1%）」が続いています。

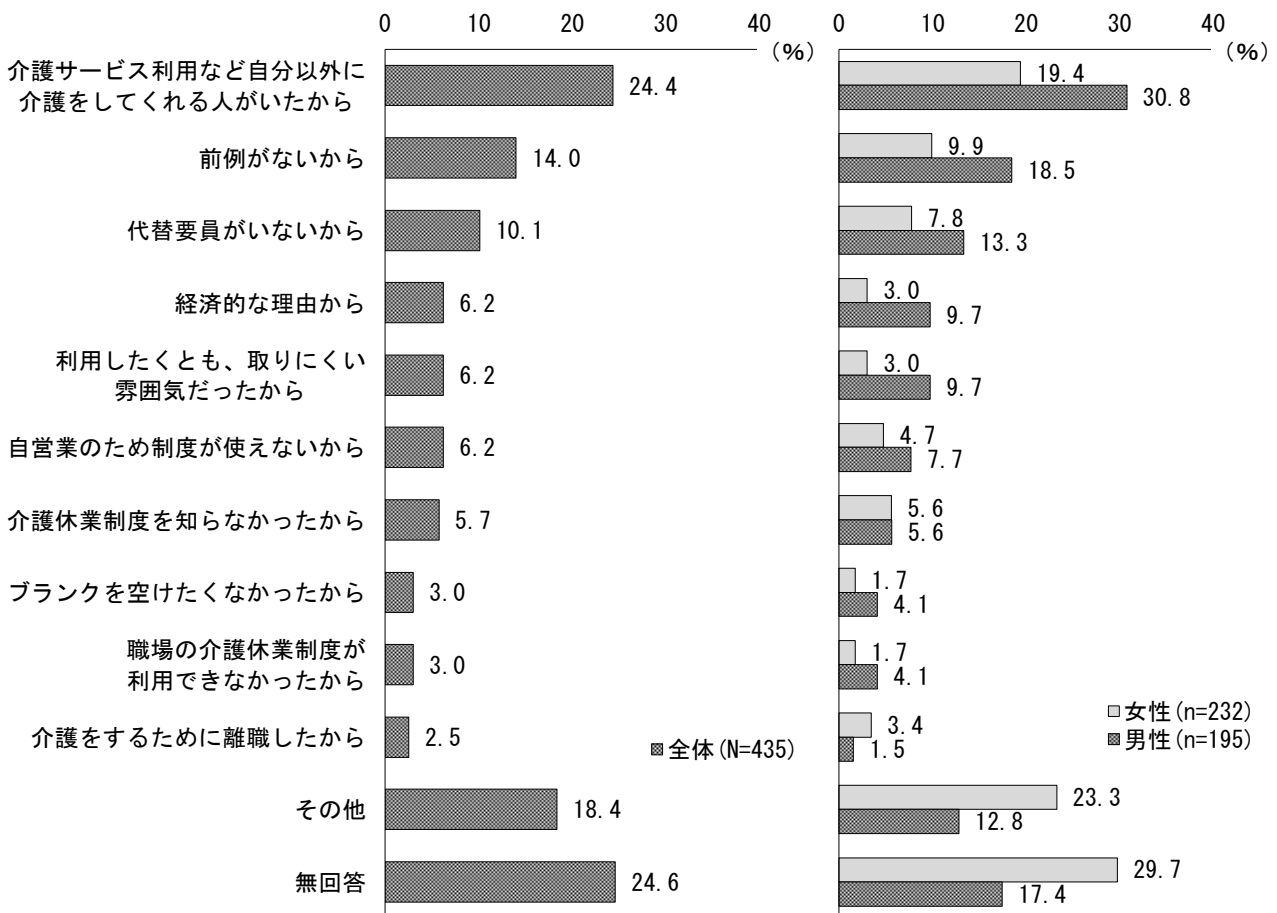
なお、「その他（18.4%）」には、「必要がない」、「仕事をしていない」といった回答があがっています。（図表 5-7-2）

【性別】

性別にみると、男女ともに「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいたから（女性：19.4%、男性：30.8%）」が最も多くなっています。

なお、「介護をするために離職したから」は、女性3.4%、男性1.5%となっています。（図表 5-7-2）

図表 5-7-2 介護休業を利用しなかった理由（全体、性別：複数回答）
 <介護休業を利用したことがない人>



第3章 調査結果

【性・年代別】

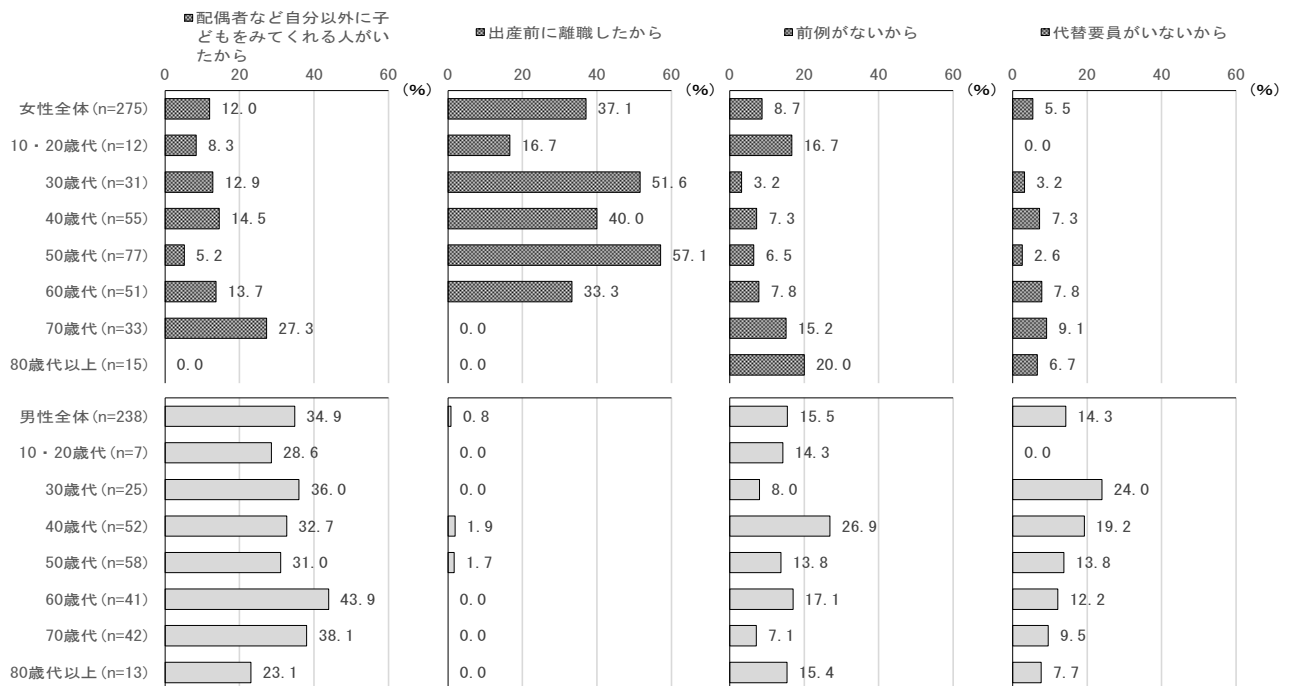
育児休業を利用しなかった理由について性・年代別にみると、女性は30歳代から50歳代で「出産前に離職したから」が多くなっており、特に50歳代は57.1%となっています。

男性は30歳代から70歳代で「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから」が3割を超えています。(図表5-7-3)

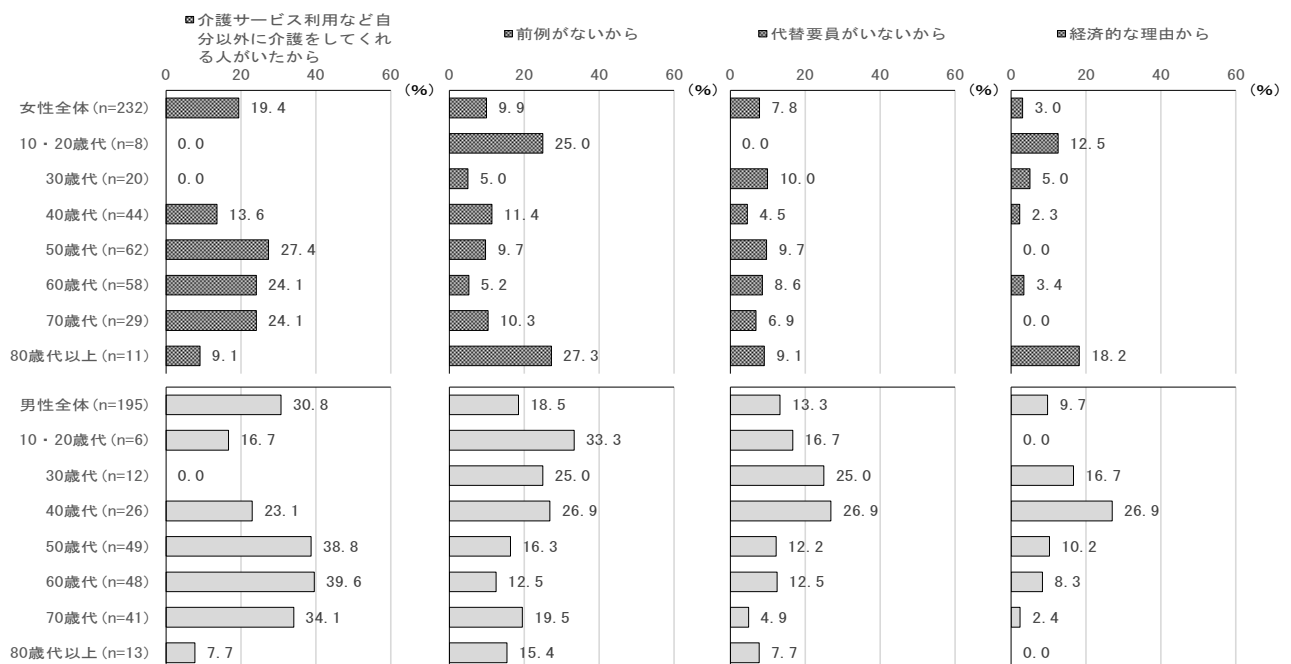
介護休業を利用しなかった理由について性・年代別にみると、女性は50歳代から70歳代で「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいたから」が2割台となっています。

男性も50歳代から70歳代で「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいたから」が3割台となっています。(図表5-7-4)

図表 5-7-3 育児休業を利用しなかった理由（性・年代別、上位4項目：複数回答）
 <育児休業を利用したことがない人>



図表 5-7-4 介護休業を利用しなかった理由（性・年代別、上位4項目：複数回答）
 <介護休業を利用したことがない人>



【平成27年調査との比較】

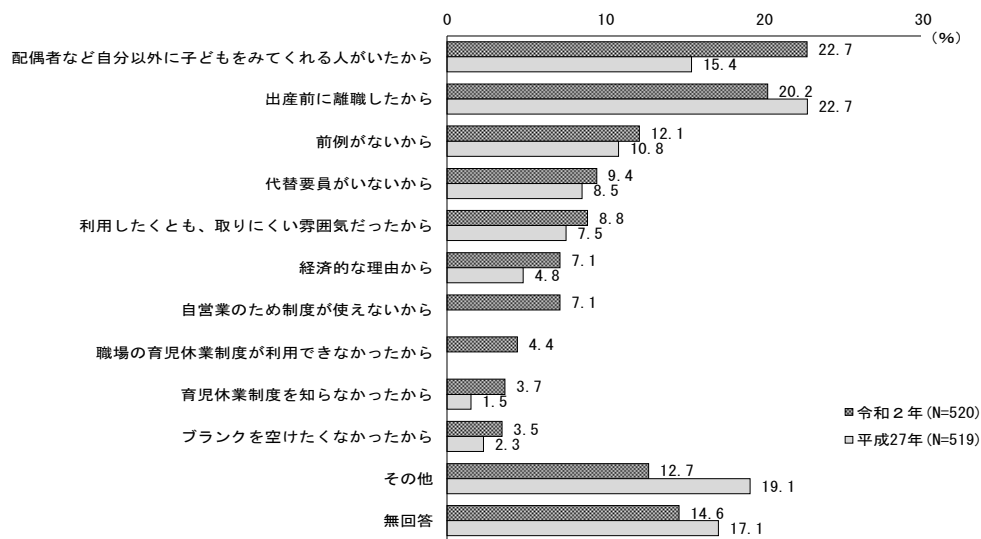
■育児休業

平成27年調査と比較すると、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから（令和2年調査：22.7%、平成27年調査：15.4%）」は7.3ポイント増えています。（図表5-7-5）

■介護休業

平成27年調査と比較すると、平成27年調査を上回る項目が多くなっており、特に「介護サービスなど自分以外に介護をしてくれる人がいたから（令和2年調査：24.4%、平成27年調査：15.4%）」は9.0ポイント増えています。（図表5-7-6）

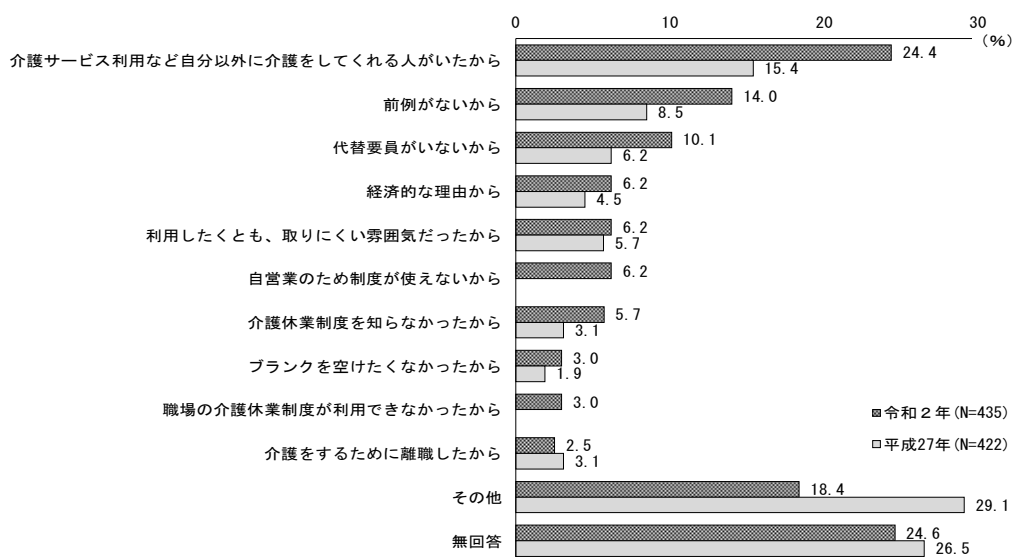
図表5-7-5 育児休業を利用しなかった理由（全体、平成27年調査：複数回答）
 ＜育児休業を利用したことがない人＞



※平成27年調査では、「配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから」は「自分以外に子どもをみてくれる人がいたから」でたずねている。

※平成27年調査には、「自営業のため制度が使えないから」と「職場の育児休業制度が利用できなかったから」はなし。

図表5-7-6 介護休業を利用しなかった理由（全体、平成27年調査：複数回答）
 ＜介護休業を利用したことがない人＞



※平成27年調査では、「介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいたから」は「自分以外に介護をしてくれる人がいたから」でたずねている。

※平成27年調査には、「自営業のため制度が使えないから」と「職場の介護休業制度が利用できなかったから」はなし。

6 ワーク・ライフ・バランス

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知状況

問11 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。

(○は1つだけ)

【全体】

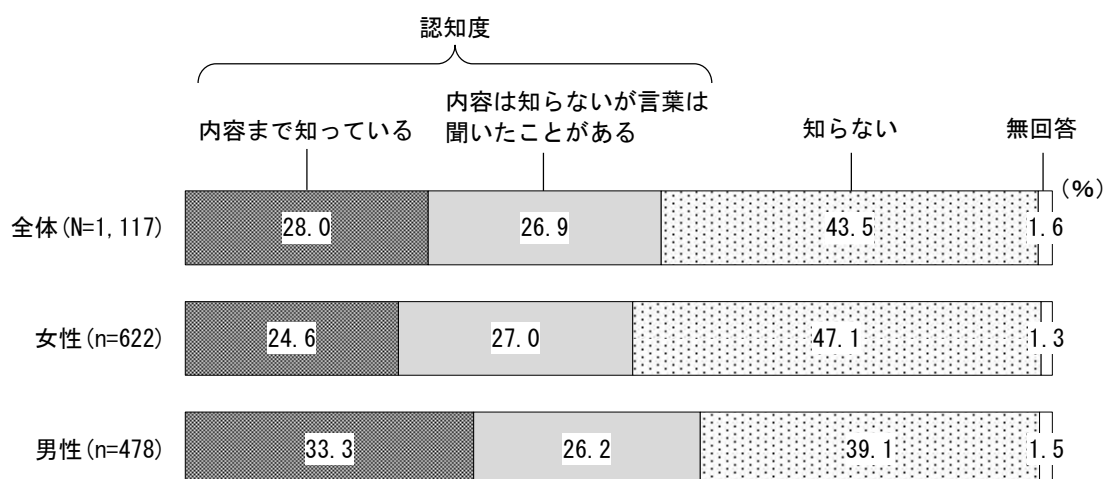
全体では、「内容まで知っている」が28.0%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が26.9%となっており、両者をあわせた《認知度》は54.9%となっています。

一方、「知らない」は43.5%となっています。(図表6-1-1)

【性別】

性別にみると、《認知度》は女性が51.6%、男性が59.5%となっています。(図表6-1-1)

図表6-1-1 認知状況(全体、性別)

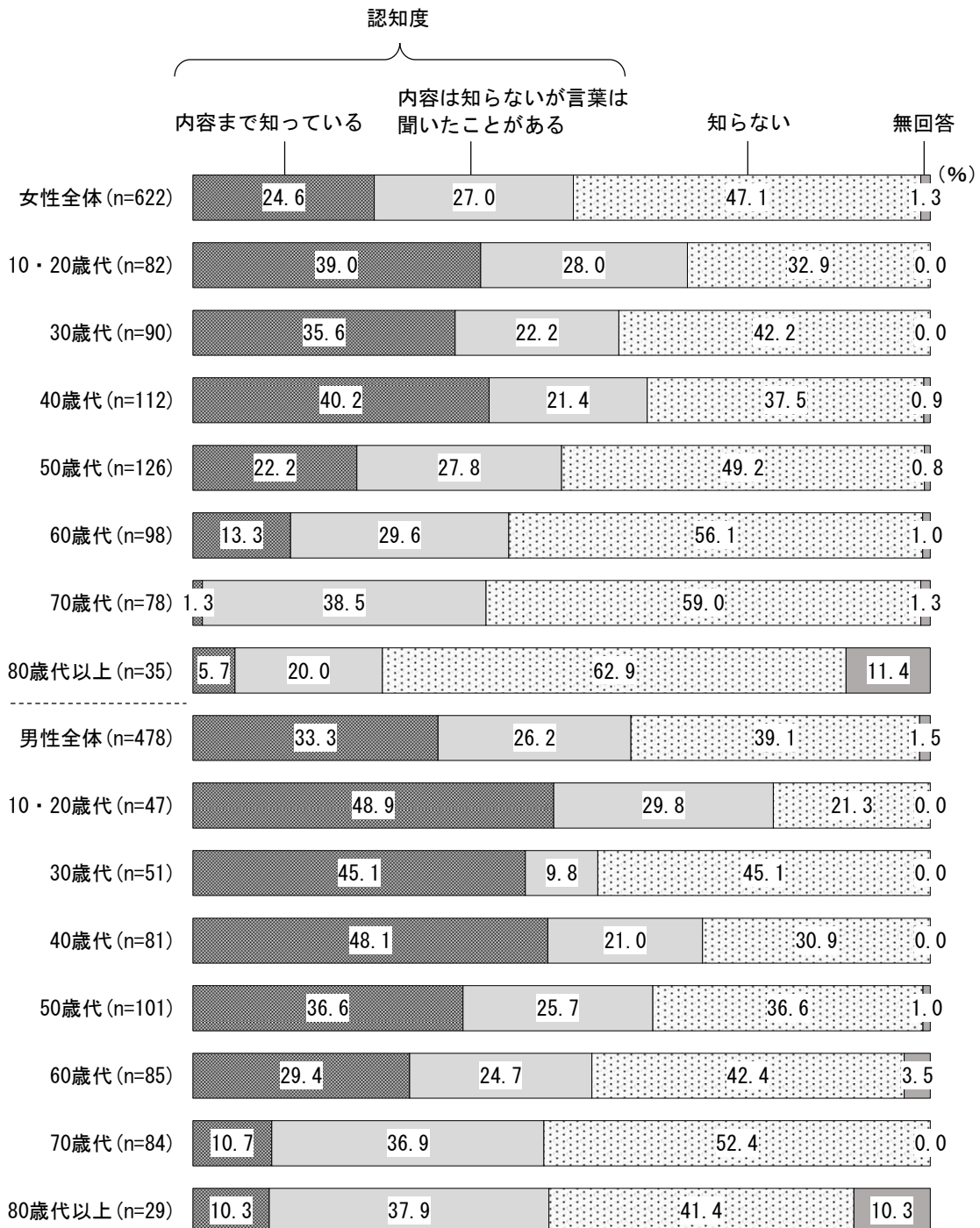


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代から40歳代で「内容まで知っている」が4割前後と多くなっていますが、40歳代以降は年齢が上がるに従って低くなっていきます。女性の《認知度》が一番高いのは10・20歳代の67.0%となっています。

男性は10・20歳代で「内容まで知っている」が48.9%と多くなっており、《認知度》も10・20歳代が78.7%と高くなっています。(図表6-1-2)

図表 6-1-2 認知状況（性・年代別）



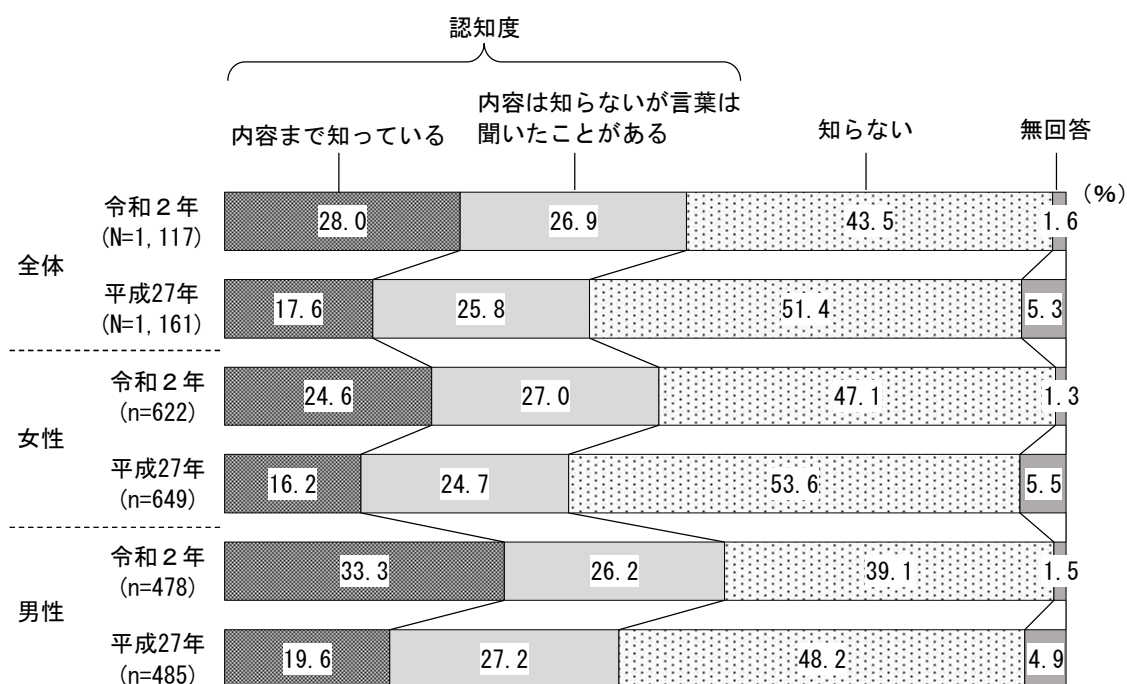
【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、全体の《認知度》（「内容まで知っている」と「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」の合計）は54.9%で平成27年調査（43.4%）よりも11.5ポイント高くなっています。

性別にみると、女性の《認知度》は51.6%で平成27年調査（40.9%）よりも10.7ポイント高くなっています。

男性の《認知度》は59.5%で平成27年調査（46.8%）よりも12.7ポイント高くなっています。
（図表6-1-3）

図表6-1-3 認知状況（全体、性別、平成27年調査）



(2) 優先度の希望と現実

問12 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度について、(ア)希望と(イ)現実(現状)、それぞれお答えください。(○は1つだけ)

■希望

【全体】

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度について希望をたずねました。

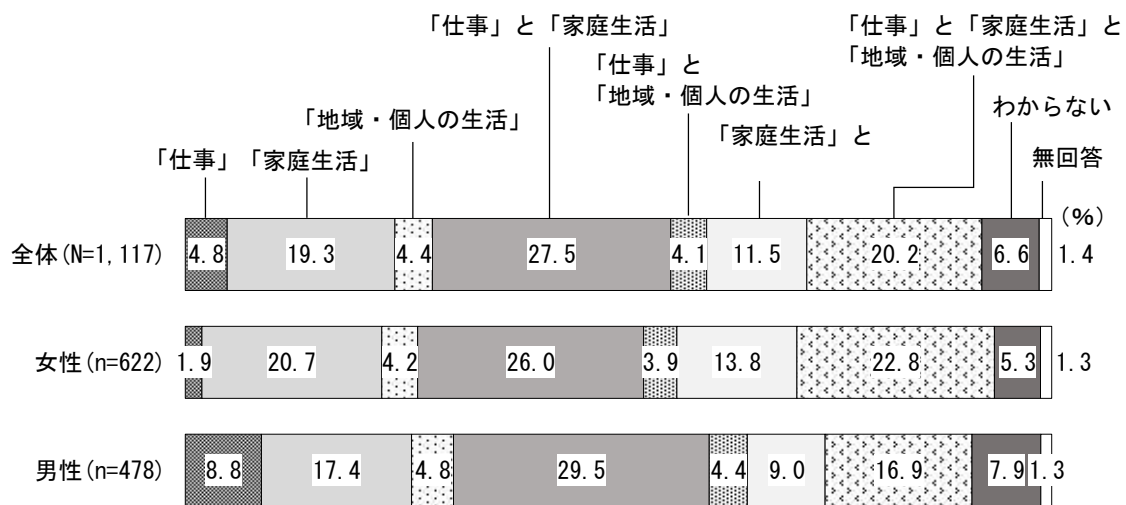
全体では、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(27.5%)』が最も多く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい(20.2%)』、『「家庭生活」を優先したい(19.3%)』が続いています。(図表6-2-1)

【性別】

性別にみると、女性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(26.0%)』と『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい(22.8%)』、『「家庭生活」を優先したい(20.7%)』が2割台となっています。

男性は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(29.5%)』が最も多くなっています。(図表6-2-1)

図表6-2-1 優先度の希望(全体、性別)



第3章 調査結果

■現実

【全体】

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度について現実をたずねました。

全体では、『「仕事」を優先している（24.4%）』が最も多く、『「家庭生活」を優先している（23.0%）』、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（21.7%）』が続いています。（図表 6-2-2）

【性別】

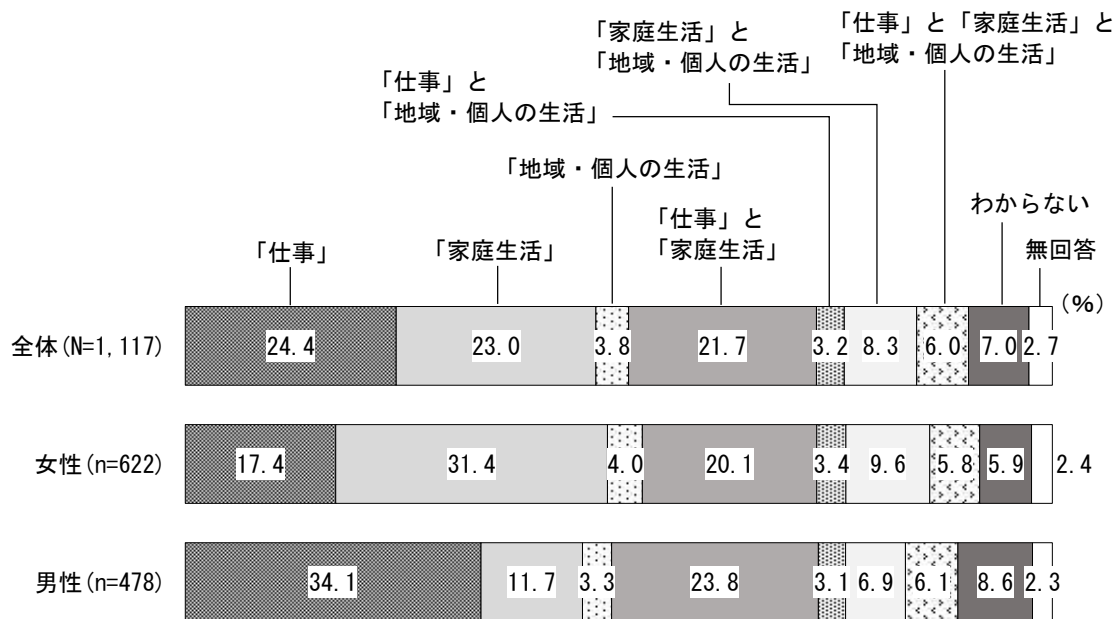
性別にみると、女性は『「家庭生活」を優先している（31.4%）』が最も多くなっています。男性は『「仕事」を優先している（34.1%）』が最も多くなっています。（図表 6-2-2）

■希望と現実の差

『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』について希望と現実の差をみると、女性は希望が26.0%、現実が20.1%で差は5.9ポイントとなっています。

男性は希望が29.5%、現実が23.8%で差は5.7ポイントとなっています。（図表 6-2-1、6-2-2）

図表 6-2-2 優先度の現実（全体、性別）



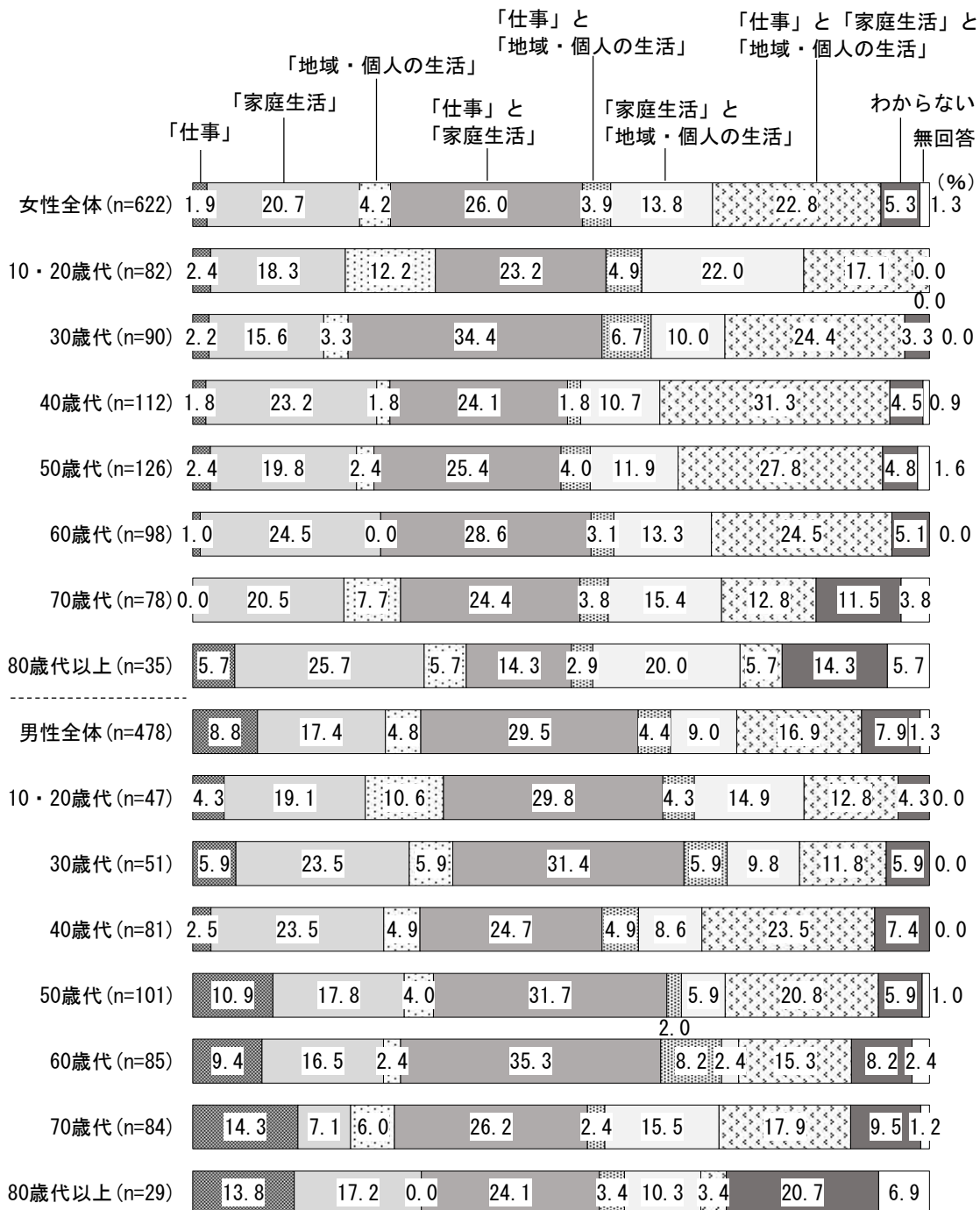
■ 希望

【性・年代別】

優先度の希望について性・年代別にみると、女性は30歳代で『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が3割を超えています。

男性は30歳代、50歳代、60歳代で『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が3割を超えています。(図表6-2-3)

図表 6-2-3 優先度の希望 (性・年代別)



第3章 調査結果

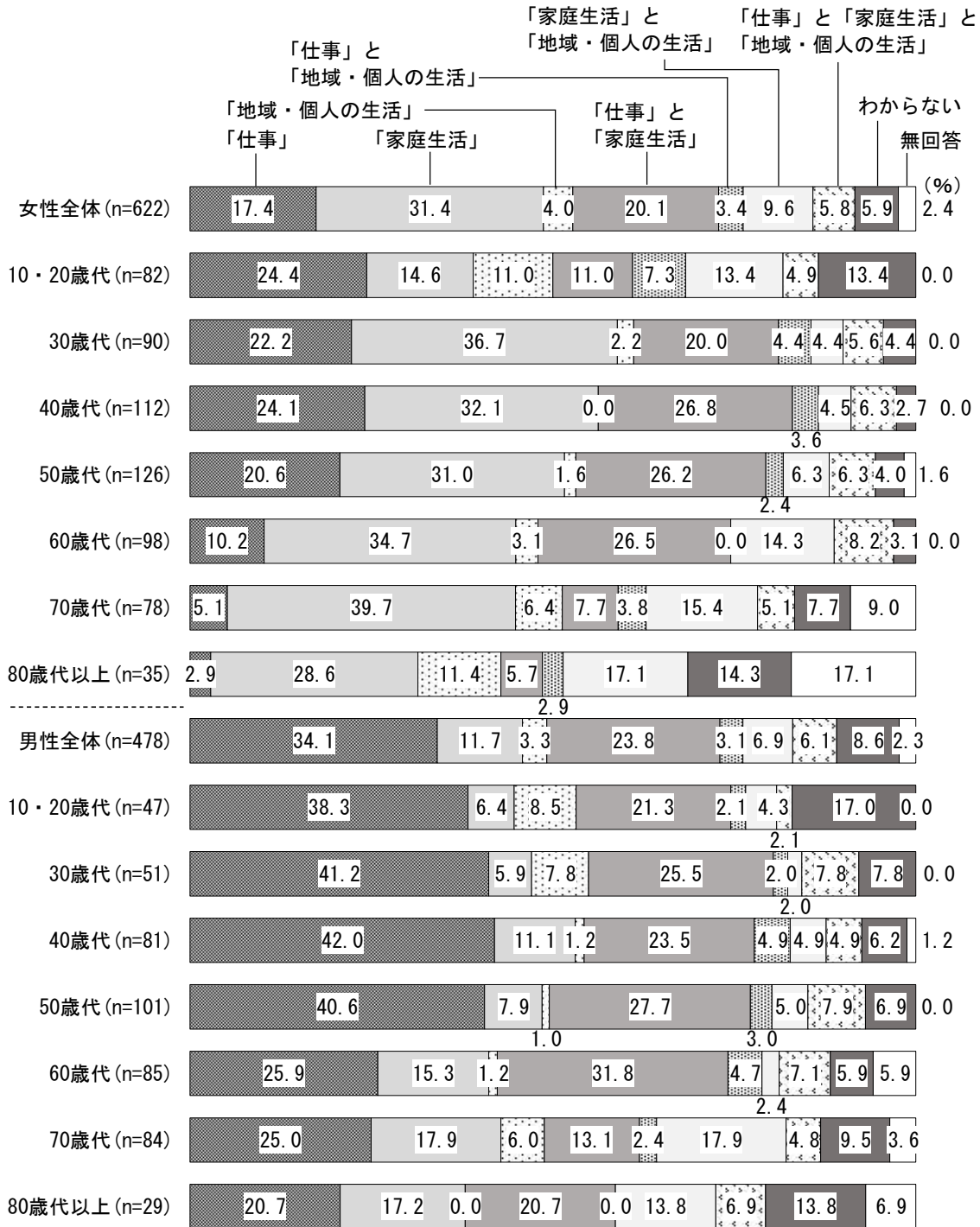
■ 現実

【性・年代別】

優先度の現実について性・年代別にみると、女性は10・20歳代と80歳代以上を除きいずれの年代も『「家庭生活」を優先している』が3割を超えています。

男性は30歳代から50歳代で『「仕事」を優先している』が4割台となっています。また、男性で『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』の希望と現実の差は10・20歳代で8.5ポイント、30歳代で5.9ポイントとなっています。(図表6-2-4)

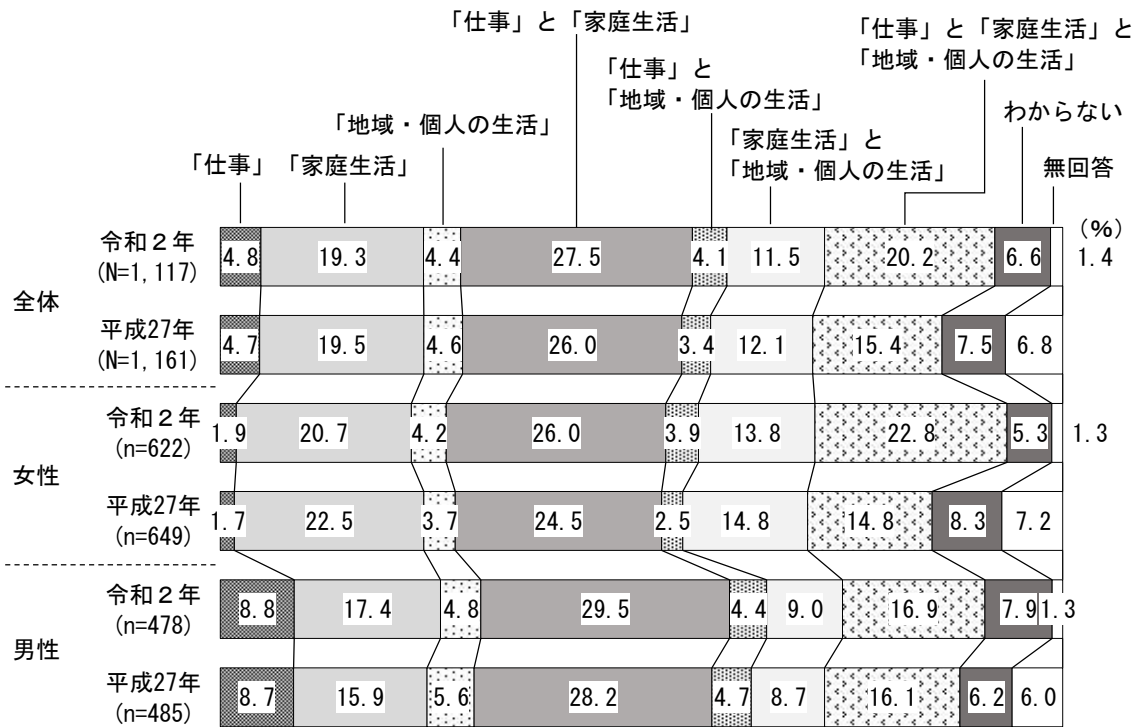
図表 6-2-4 優先度の現実 (性・年代別)



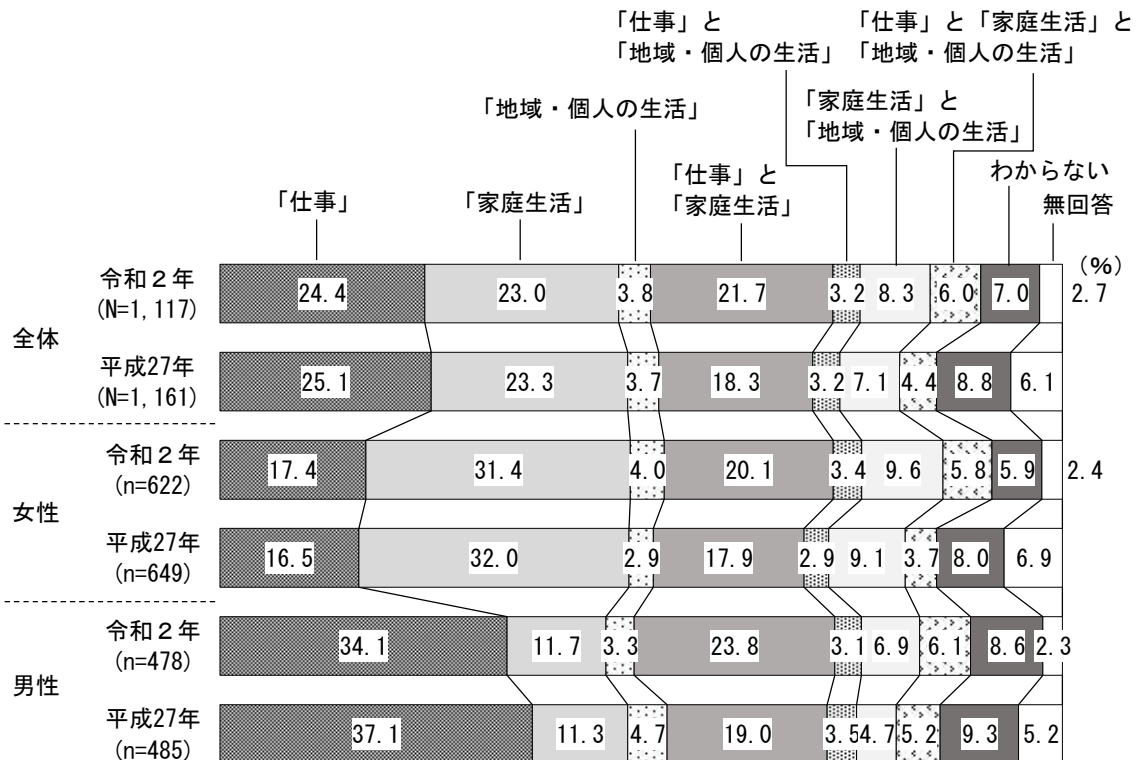
【平成27年調査との比較】

『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』の希望と現実の差について平成27年調査と比較すると、女性は6.6ポイントから5.9ポイントに、男性は9.2ポイントから5.7ポイントに差が縮まっています。(図表6-2-5、図表6-2-6)

図表6-2-5 優先度の希望 (全体、性別、平成27年調査)



図表6-2-6 優先度の現実 (全体、性別、平成27年調査)



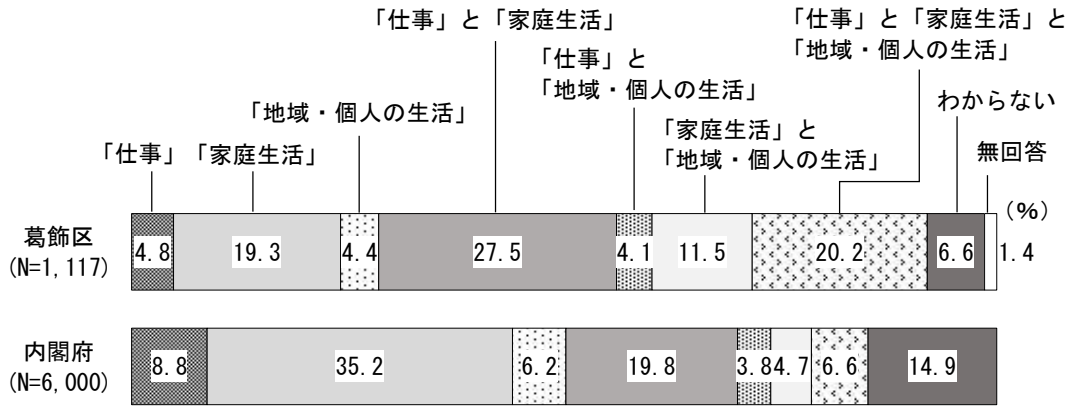
第3章 調査結果

【内閣府調査との比較】

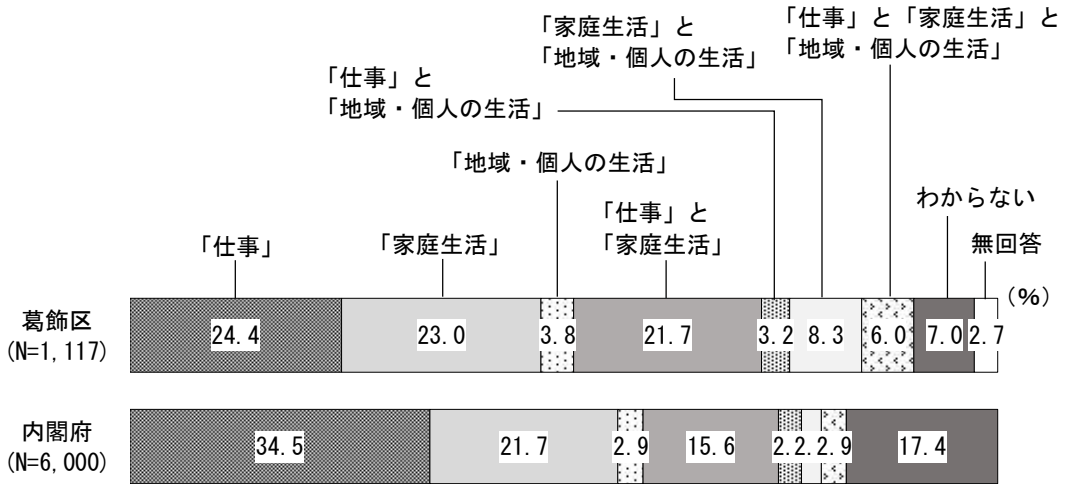
『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』について平成30年の内閣府調査と比較すると、希望では、葛飾区(27.5%)は内閣府(19.8%)よりも7.7ポイント高くなっており、現実でも葛飾区(21.7%)は内閣府(15.6%)よりも6.1ポイント高くなっています。

『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』について希望と現実の差を比較すると、葛飾区(5.8ポイント)は、内閣府(4.2ポイント)より差が大きくなっています。(図表6-2-7、図表6-2-8)

図表 6-2-7 優先度の希望 (全体、内閣府調査 (平成 30 年))



図表 6-2-8 優先度の現実 (全体、内閣府調査 (平成 30 年))



※内閣府調査には、「無回答」はなし。

(3) ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと

問13 ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

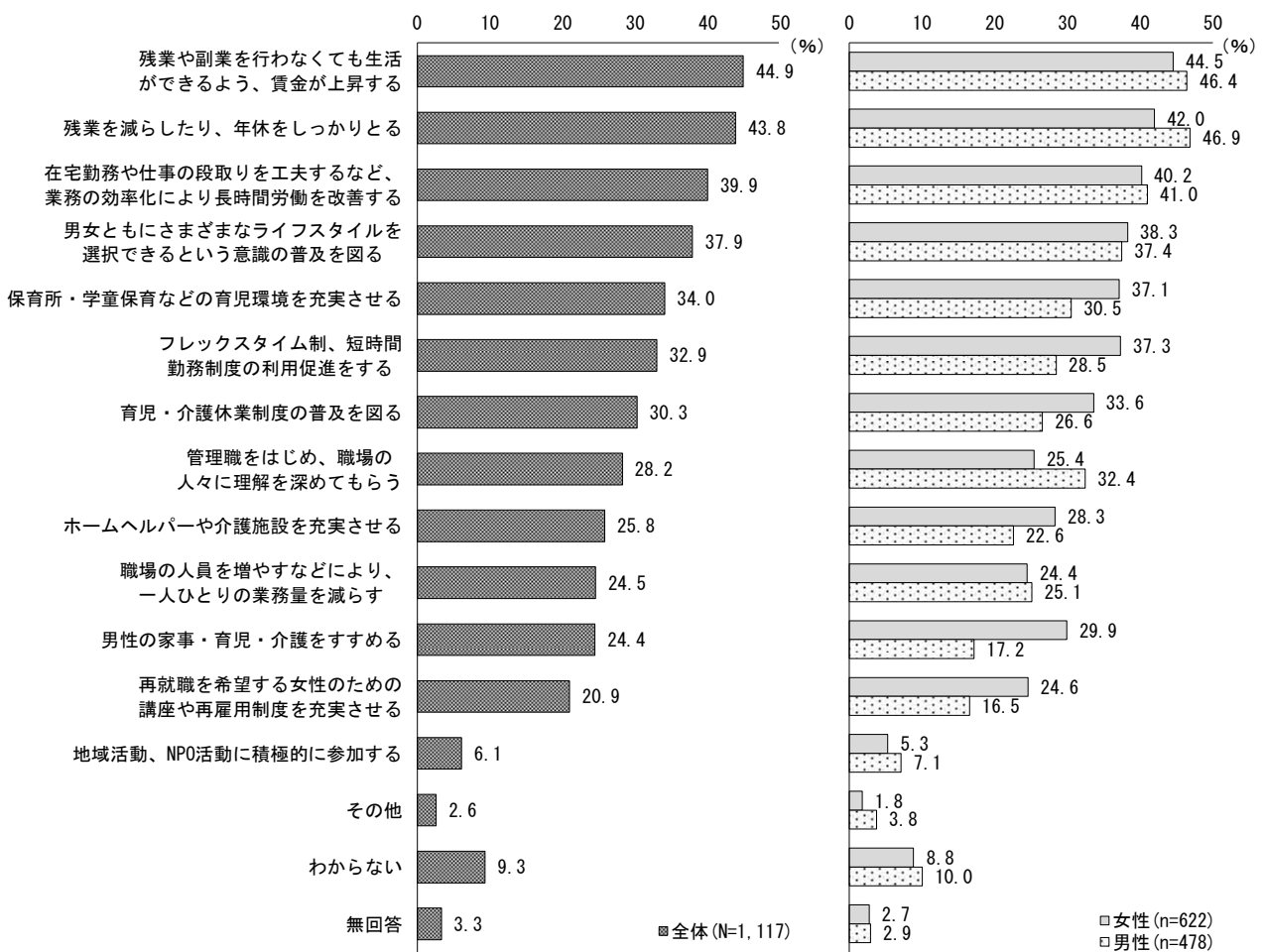
全体では、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する (44.9%)」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる (43.8%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する (39.9%)」が続いています。(図表 6-3-1)

【性別】

性別にみると、女性は「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する (44.5%)」が最も多く、「残業を減らしたり、年休をしっかりとる (42.0%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する (40.2%)」が続いています。

男性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる (46.9%)」が最も多く、「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する (46.4%)」、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する (41.0%)」が続いています。(図表 6-3-1)

図表 6-3-1 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと (全体、性別：複数回答)



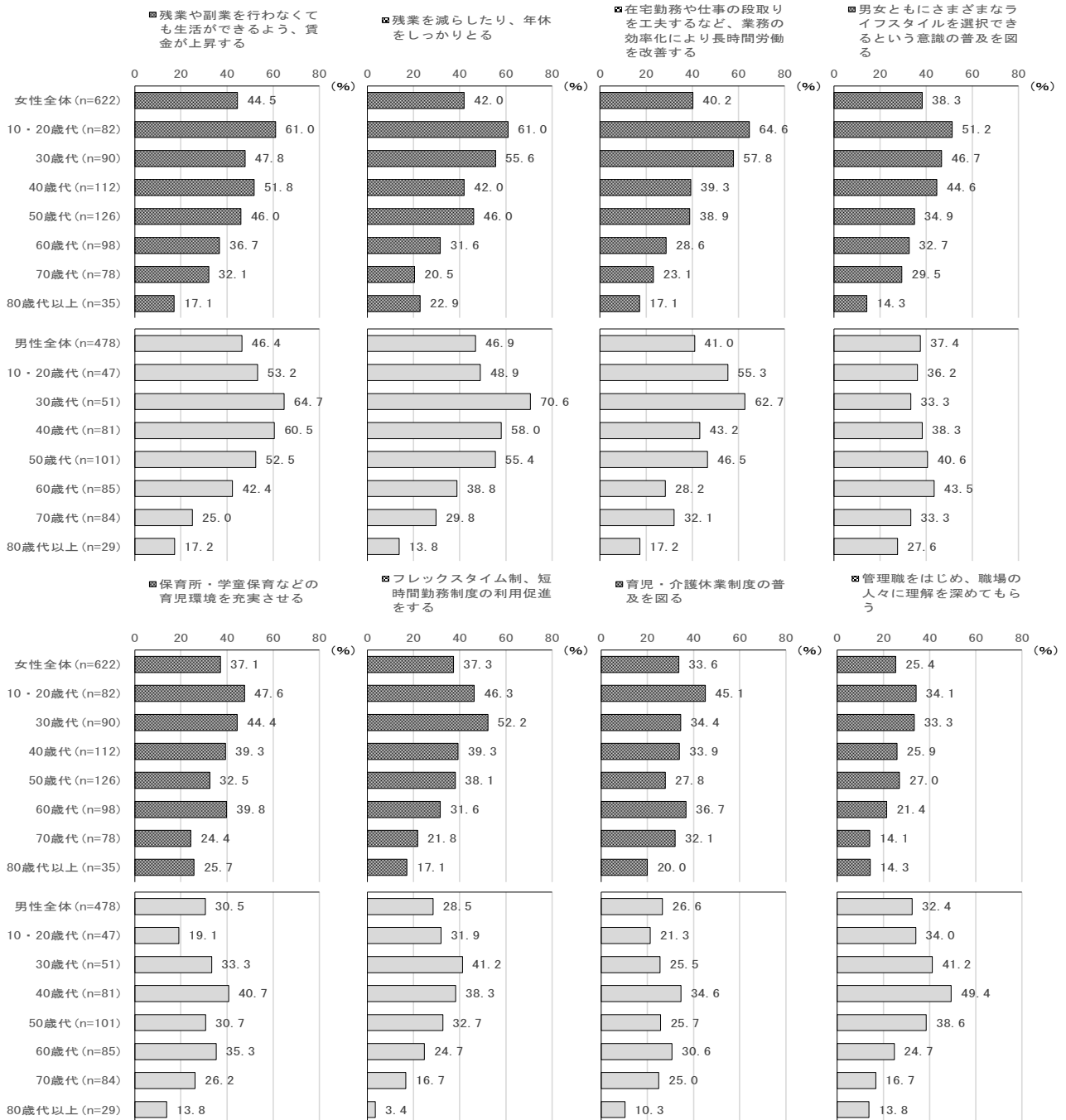
第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代と30歳代で「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する（10・20歳代：64.6%、30歳代：57.8%）」、40歳代で「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する（51.8%）」が最も多くなっています。

男性は10・20歳代で「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する（55.3%）」、30歳代で「残業を減らしたり、年休をしっかりとる（70.6%）」、40歳代で「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する（60.5%）」が最も多くなっています。（図表6-3-2）

図表 6-3-2 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと
(性・年代別、上位8項目：複数回答)

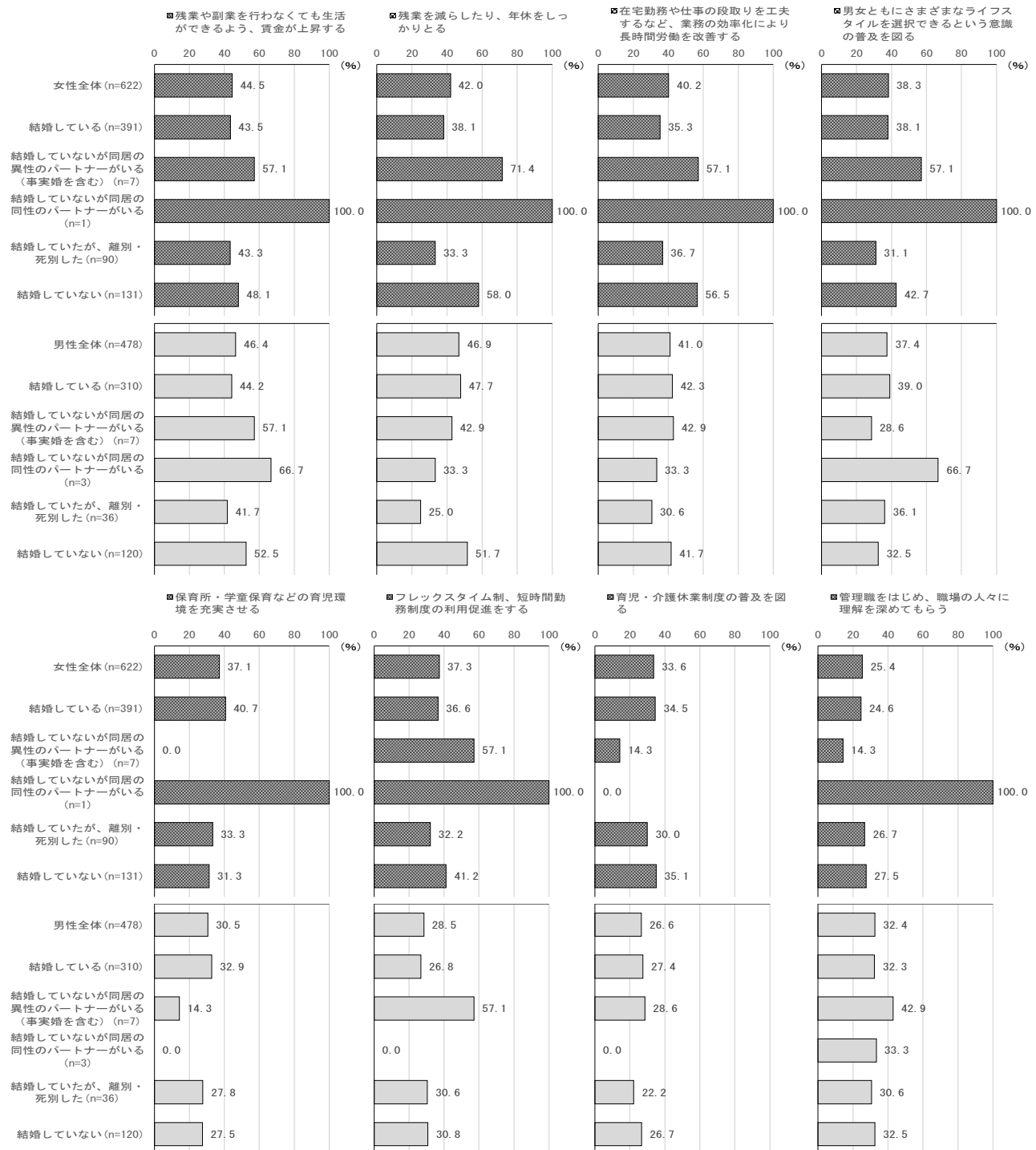


【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、既婚の女性は「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する（43.5%）」、未婚の女性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる（58.0%）」が最も多くなっています。

既婚の男性は「残業を減らしたり、年休をしっかりとる（47.7%）」、未婚の男性は「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する（52.5%）」が最も多くなっています。（図表 6-3-3）

図表 6-3-3 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと
(性・未既婚別、上位8項目：複数回答)



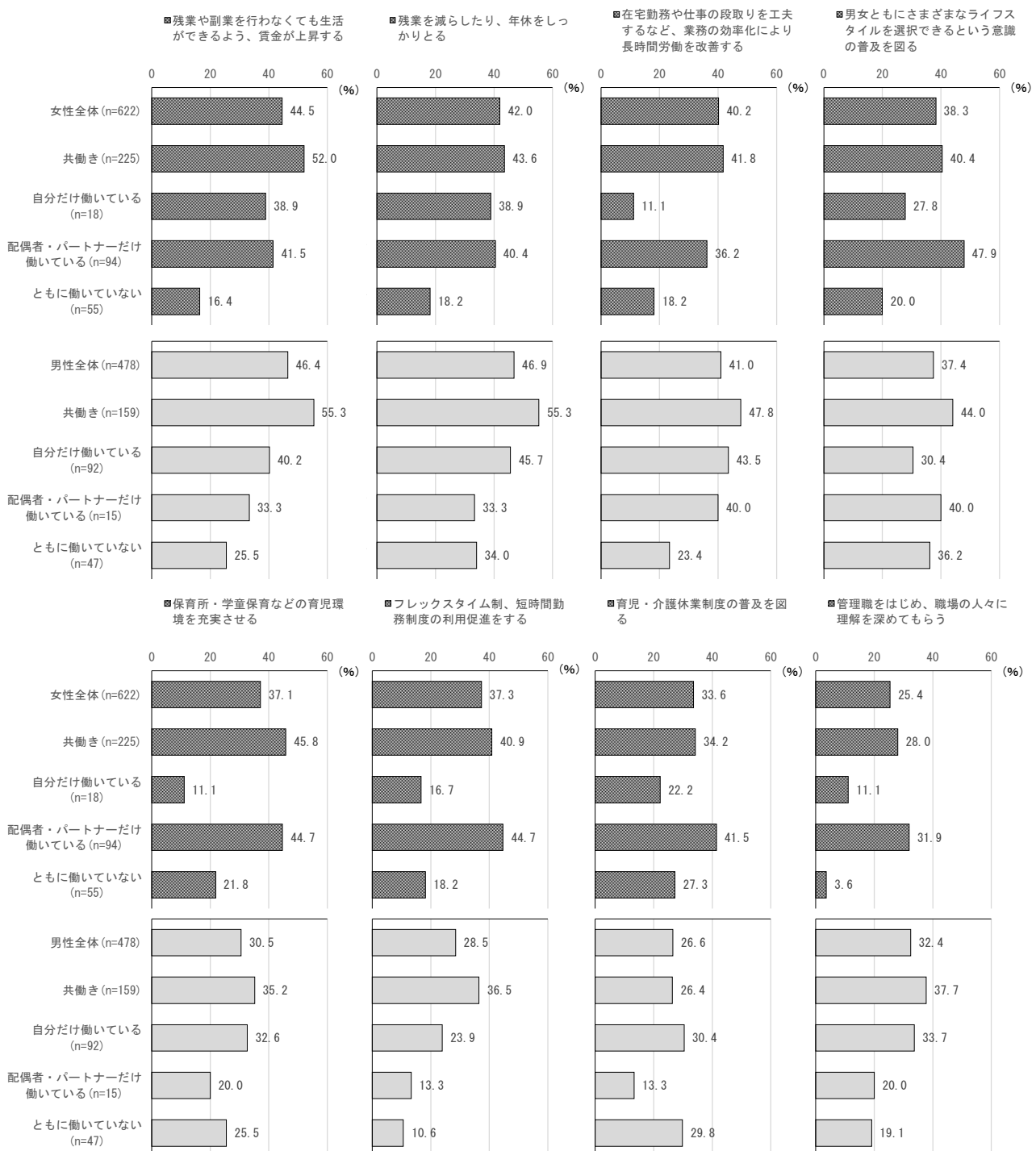
第3章 調査結果

【性・共働き状況別】

性・共働き状況別にみると、女性は共働きで「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する（52.0%）」、配偶者・パートナーだけ働いているで「男女ともにさまざまなライフスタイルを選択できるという意識の普及を図る（47.9%）」が最も多くなっています。

男性は共働きで「残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する（55.3%）」と「残業を減らしたり、年休をしっかりとる（55.3%）」が最も多くなっています。（図表 6-3-4）

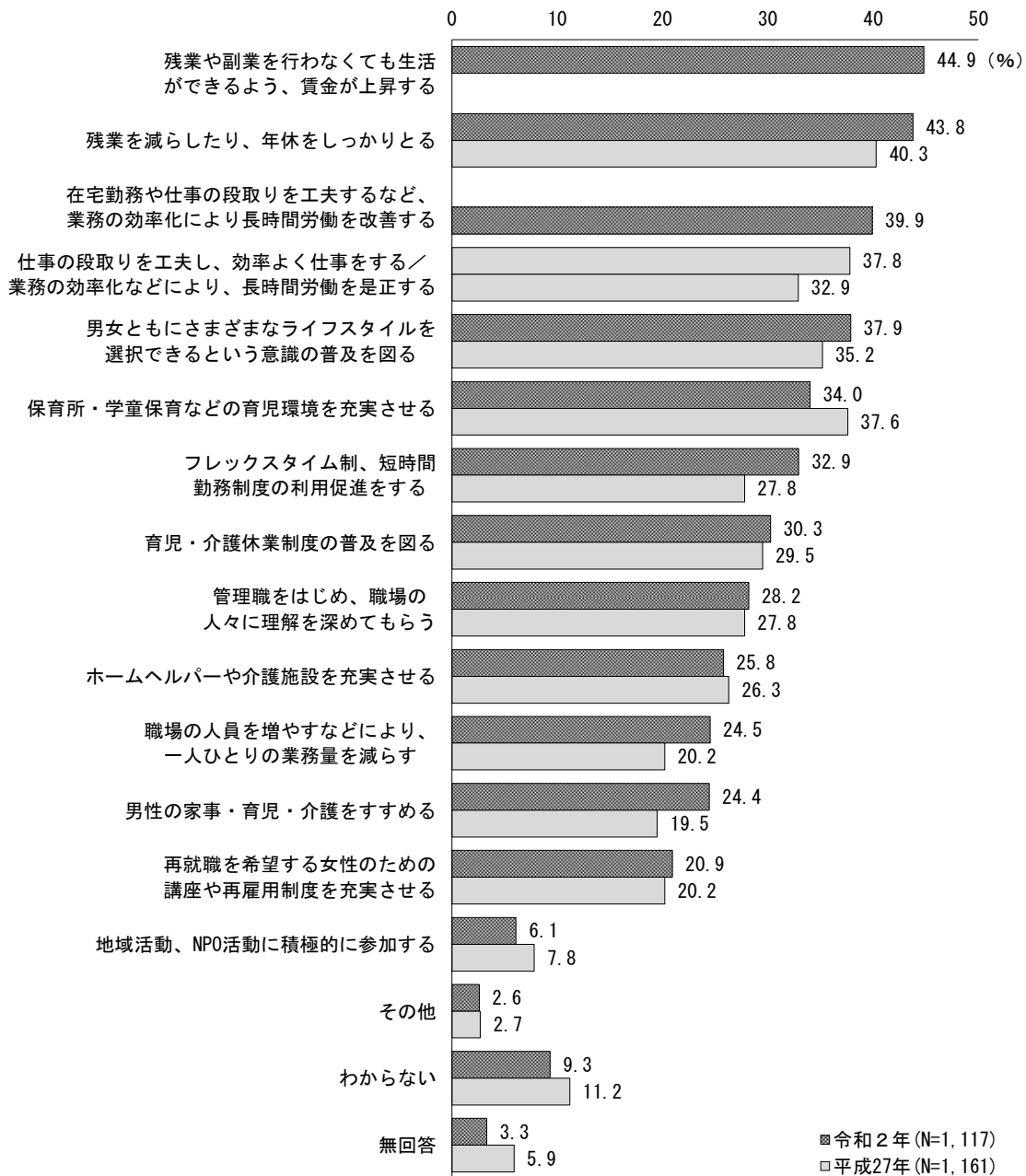
図表 6-3-4 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと
(性・共働き状況別、上位8項目：複数回答)



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、令和2年調査、平成27年調査ともに「残業を減らしたり、年休をしっかりとる」が4割を超えています。また、「フレックスタイム制、短時間勤務制度の利用促進をする（令和2年調査：32.9%、平成27年調査：27.8%）」は、5.1ポイント増えています。（図表6-3-5）

図表 6-3-5 ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと
（全体、平成27年調査：複数回答）



※令和2年調査では、「仕事の段取りと工夫し、効率よく仕事をする」と「業務の効率化などにより、長時間労働を是正する」を合わせ、「在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する」でたずねている。

※平成27年調査では、「男女ともにさまざまなライフスタイルを選択できるという意識の普及を図る」は「男女ともに仕事も家庭もという意識の普及を図る」でたずねている。

※平成27年調査には、「残業や副業が行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する」はなし。

7 セクシュアル・ハラスメント

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

問 14 セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)は一定の人間関係の中で発生し、職場だけでなく、あらゆる場所で男女ともに受ける可能性があります。あなたはこれまでに、職場・学校・地域で、次のような不愉快な経験をしたことがありますか。(○は職場、学校、地域ごとにあてはまるものすべて)

■ 職場

【全体】

職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

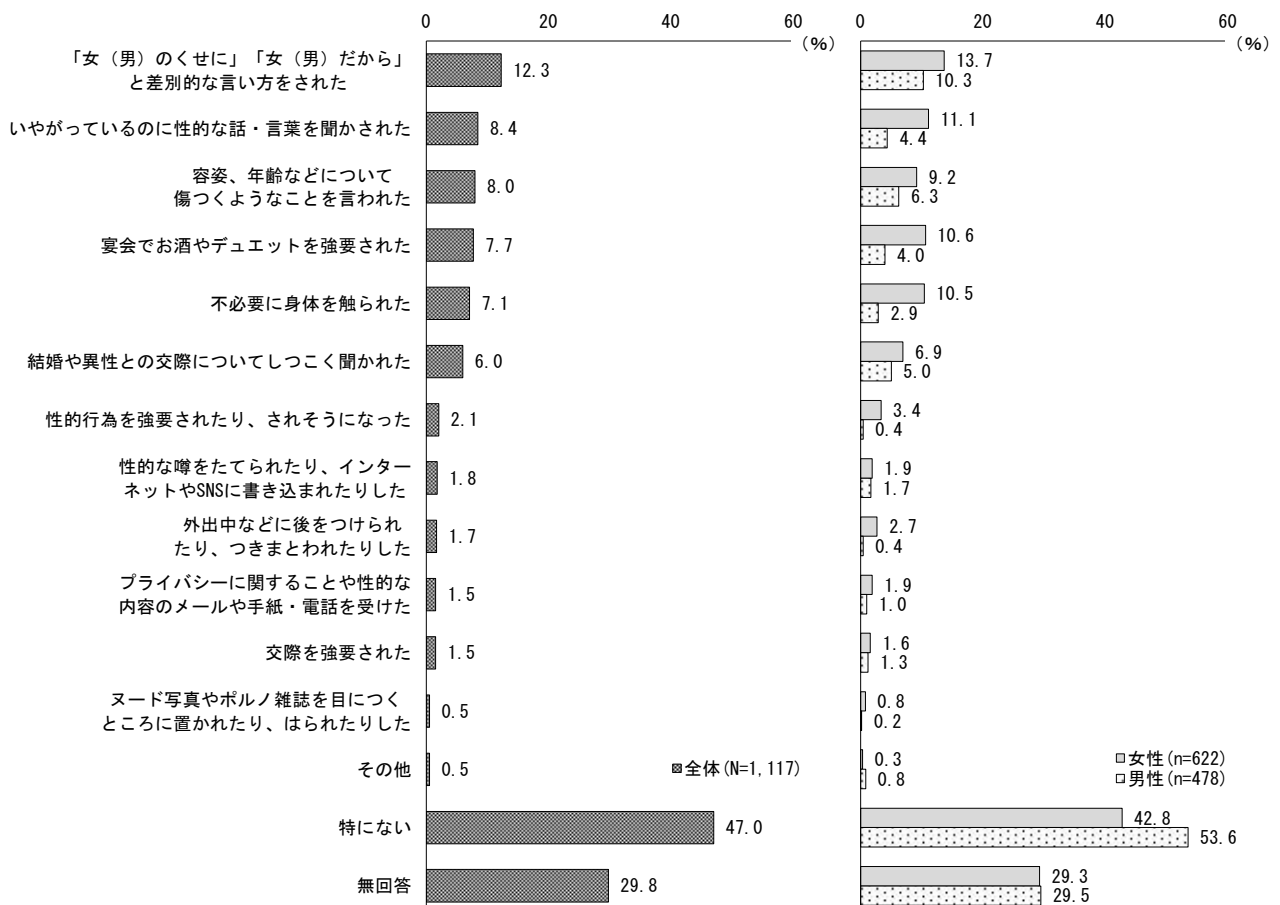
全体では、『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(12.3%)』が最も多く、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(8.4%)』、『容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた(8.0%)』が続いています。(図表 7-1-1)

【性別】

性別にみると、女性は『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(13.7%)』、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた(11.1%)』、『宴会でお酒やデュエットを強要された(10.6%)』、『不必要に身体を触られた(10.5%)』が1割台となっています。

男性は『「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(10.3%)』が最も多くなっています。また、『特にない』は女性 42.8%、男性 53.6%で男性が多くなっています。(図表 7-1-1)

図表 7-1-1 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無(全体、性別)



■学校

【全体】

学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

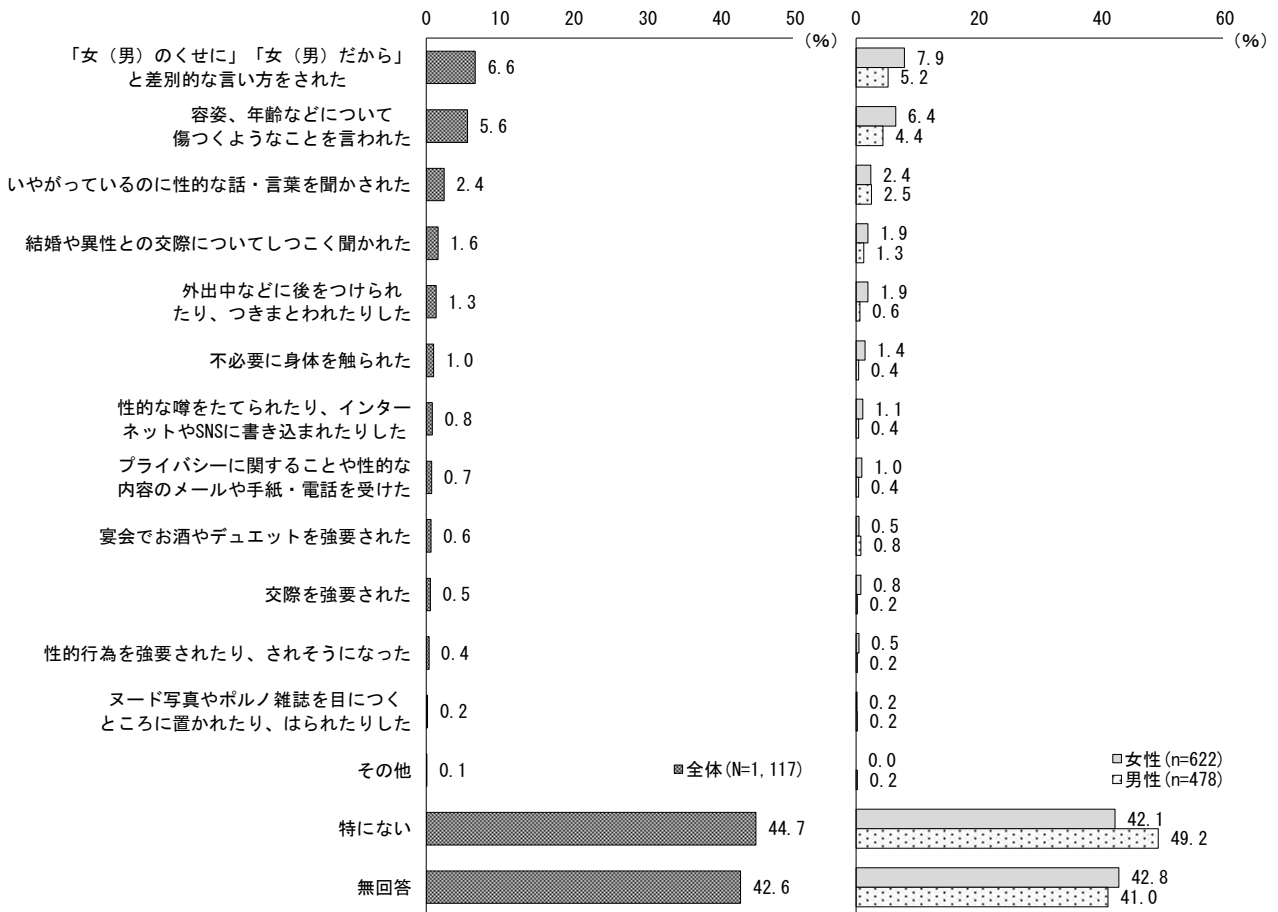
全体では、『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（6.6%）』と『容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた（5.6%）』が多くなっています。

（図表 7-1-2）

【性別】

性別にみると、男女ともに『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（女性：7.9%、男性 5.2%）』が最も多くなっています。また、『特にない』は女性 42.1%、男性 49.2%で男性が多くなっています。（図表 7-1-2）

図表 7-1-2 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、性別）



第3章 調査結果

■ 地域

【全体】

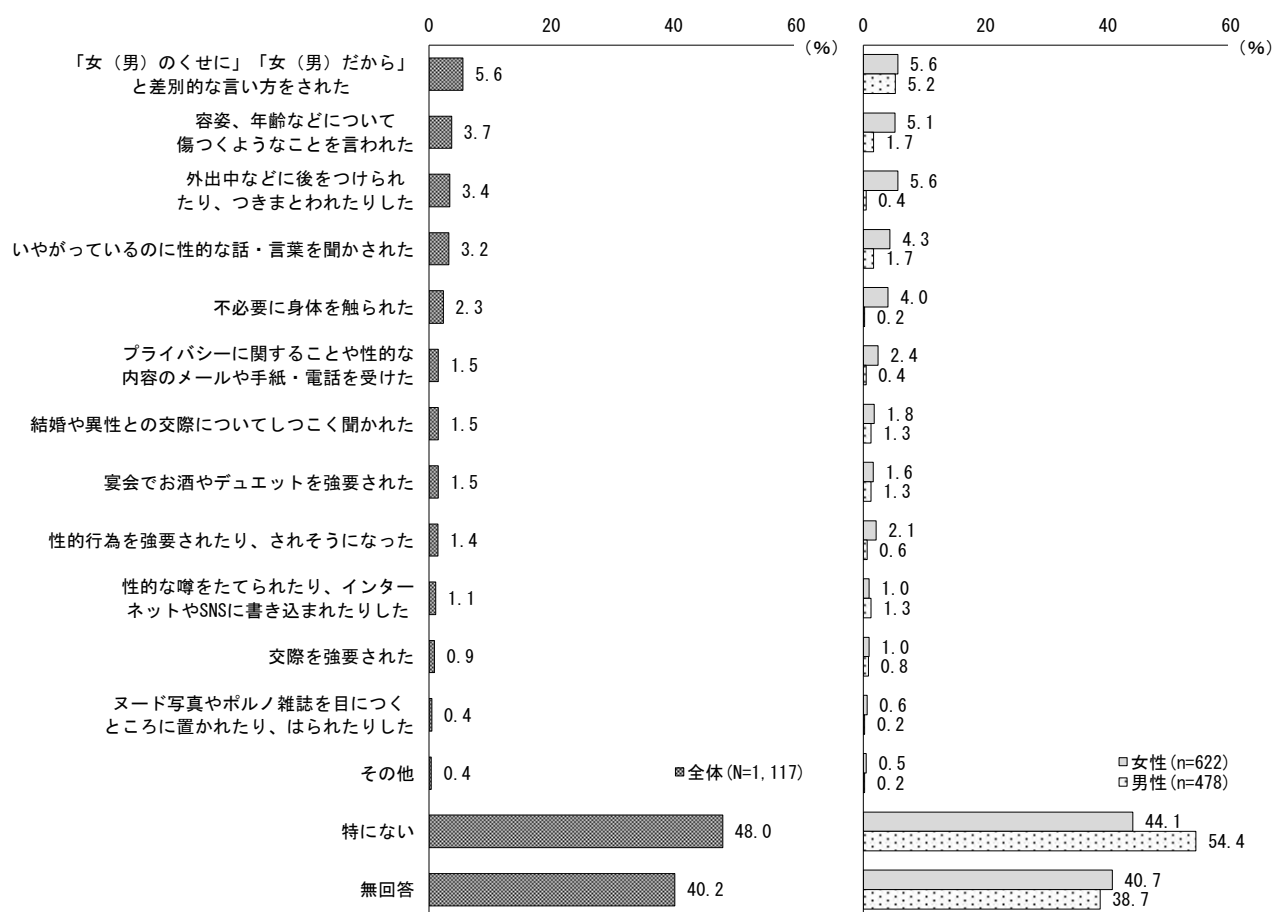
地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてたずねました。

全体では、『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（5.6%）、『容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた（3.7%）、『外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした（3.4%）、『いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた（3.2%）』が多くなっています。（図表 7-1-2）

【性別】

性別にみると、男女ともに『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（女性：5.6%、男性 5.2%）』が最も多くなっています。また、『特にない』は女性 44.1%、男性 54.4%で男性が多くなっています。（図表 7-1-3）

図表 7-1-3 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、性別）



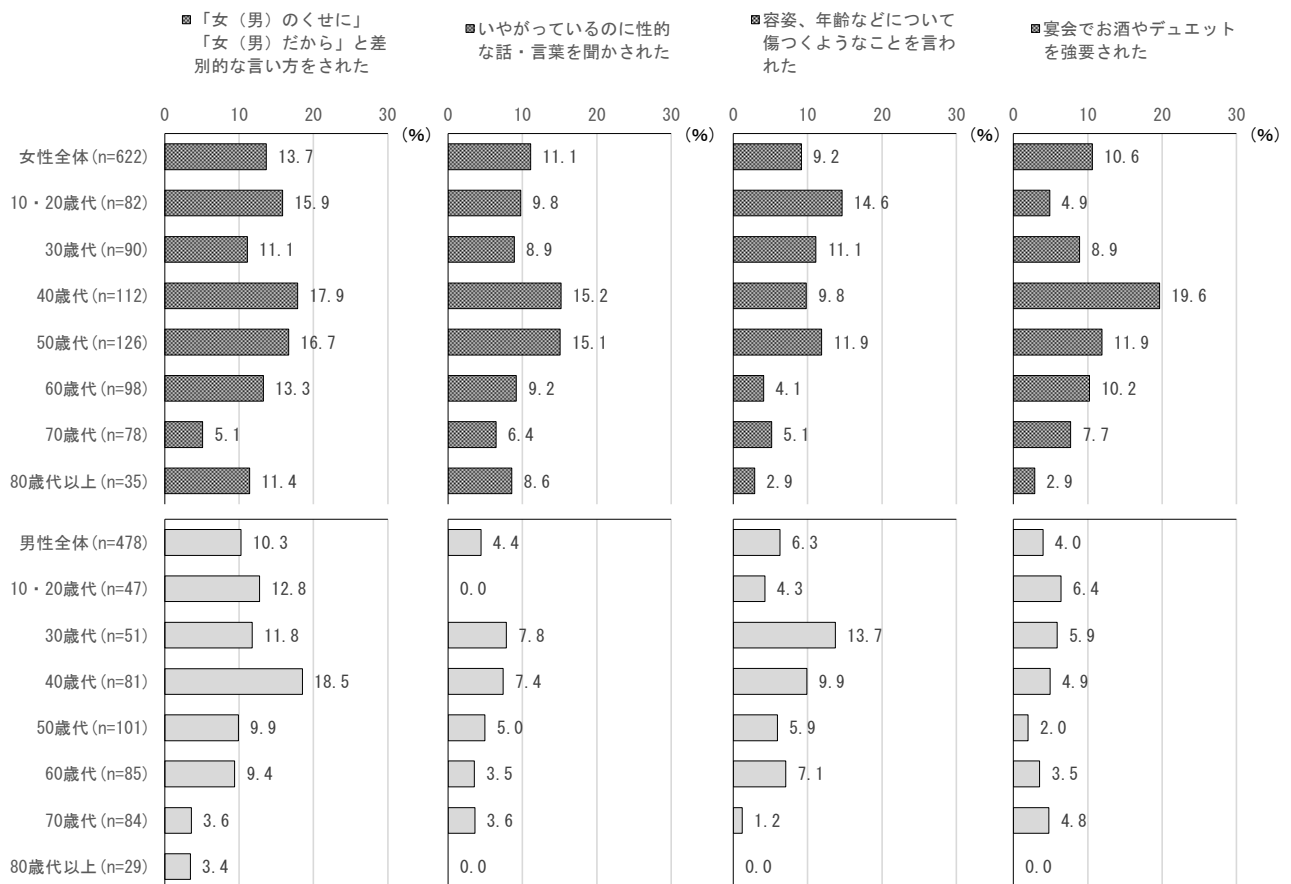
■ 職場

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代で『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（15.9%）、40歳代で『宴会でお酒やデュエットを強要された（19.6%）』が最も多くなっています。

男性は10・20歳代と40歳代で『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（10・20歳代：12.8%、40歳代：18.5%）、30歳代で『容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた（13.7%）』が最も多くなっています。（図表7-1-4）

図表7-1-4 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位4項目）



第3章 調査結果

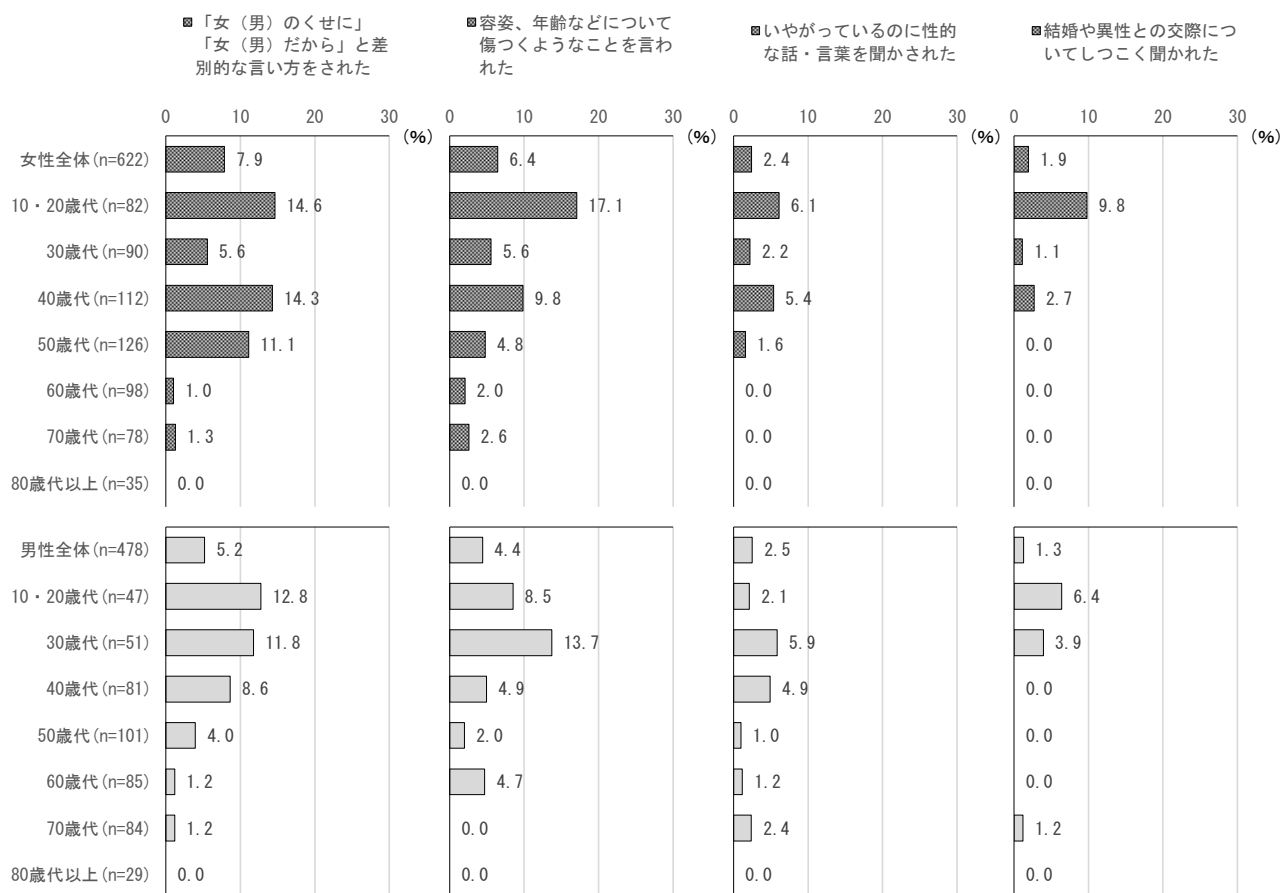
■学校

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代で『容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた（17.1%）』、40歳代と50歳代で『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（40歳代：14.3%、50歳代：11.1%）』が最も多くなっています。

男性は10・20歳代で『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（12.8%）』、30歳代で『容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた（13.7%）』が最も多くなっています。（図表7-1-5）

図表7-1-5 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位4項目）



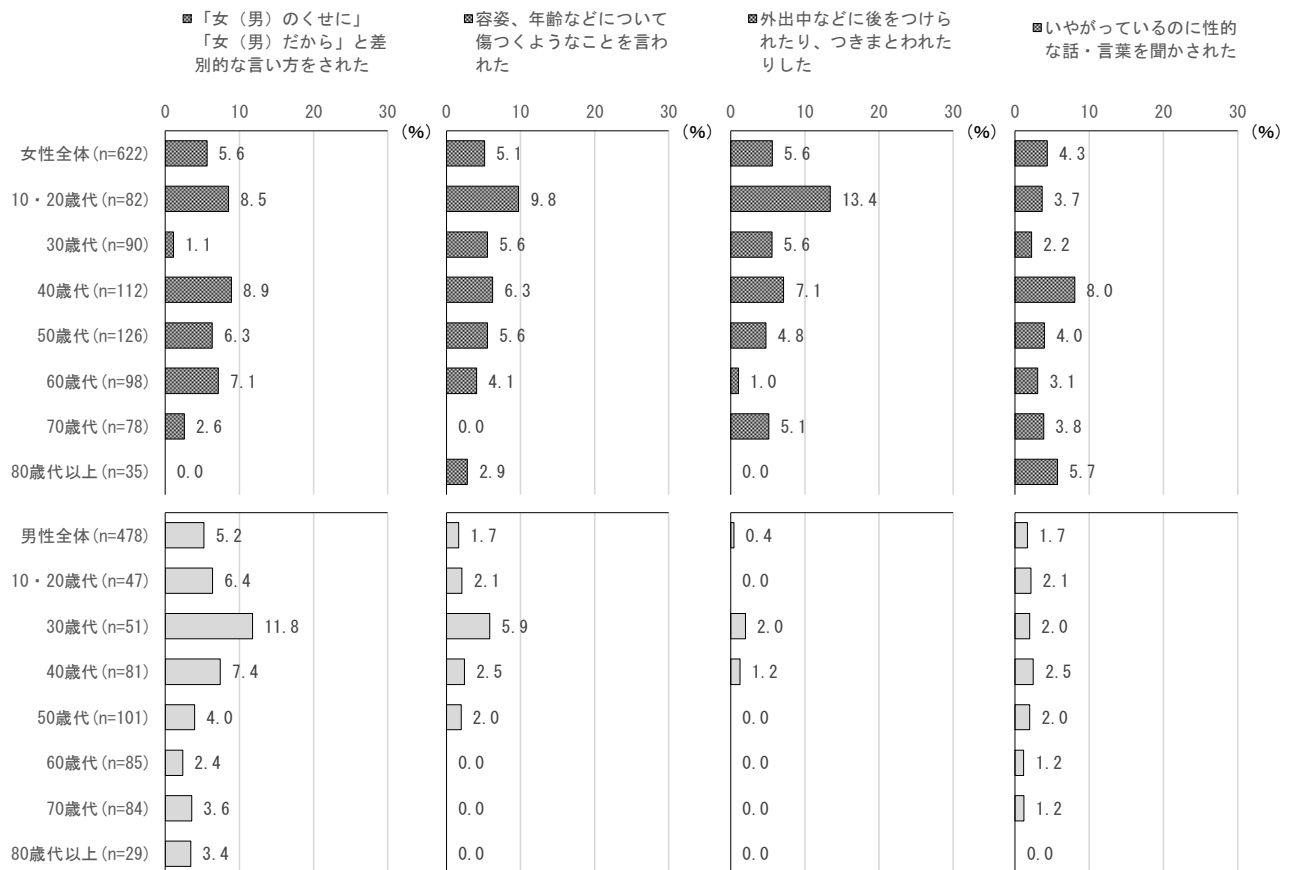
■ 地域

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代で『外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした（13.4%）』が最も多くなっています。

男性は30歳代で『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた（11.8%）』が最も多くなっています。（図表7-1-6）

図表7-1-6 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性・年代別、上位4項目）



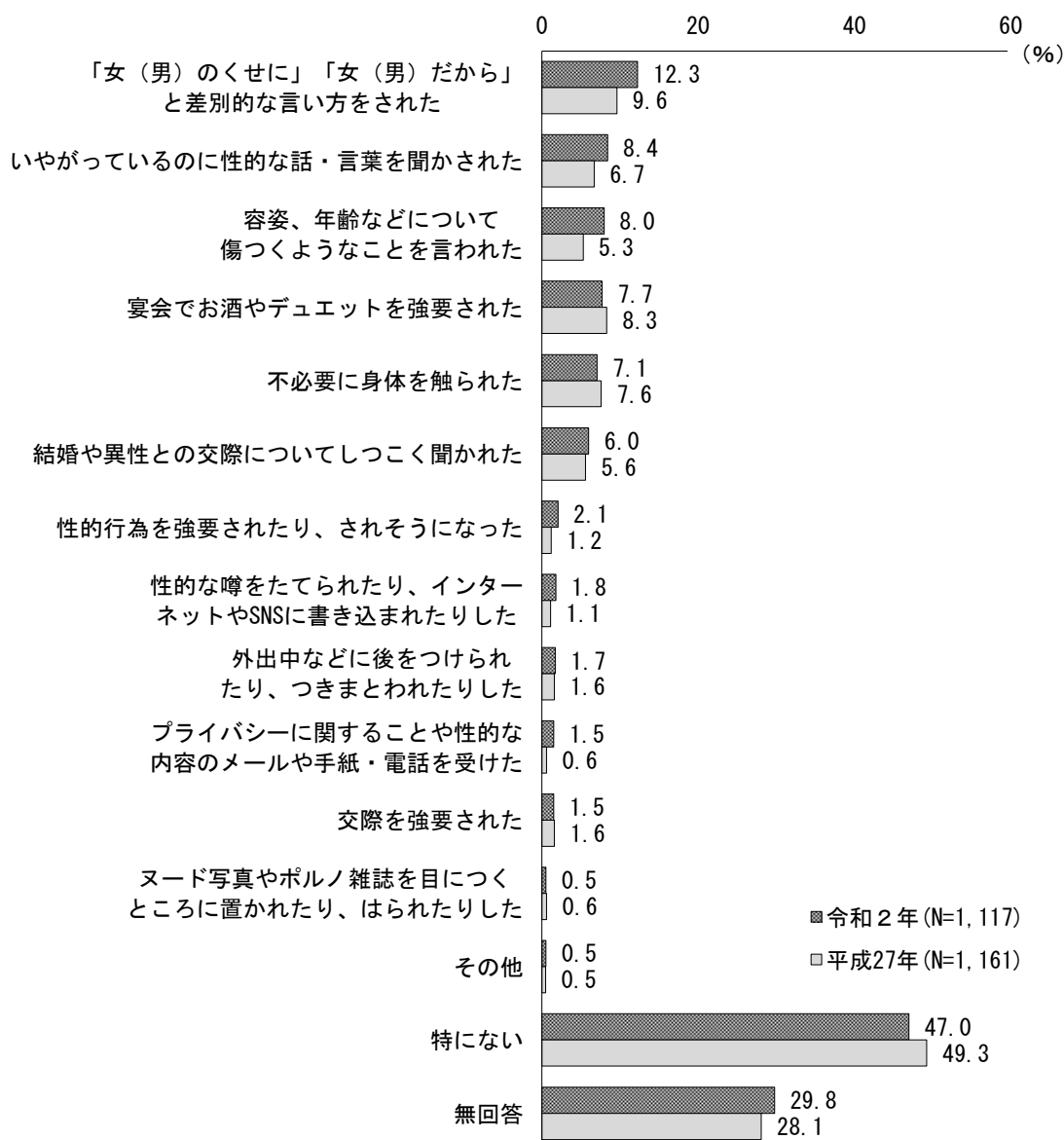
第3章 調査結果

■ 職場

【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、「いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた」と「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた」が平成27年調査から増えて、それぞれ2位、3位にあがっています。(図表7-1-7)

図表7-1-7 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、平成27年調査）



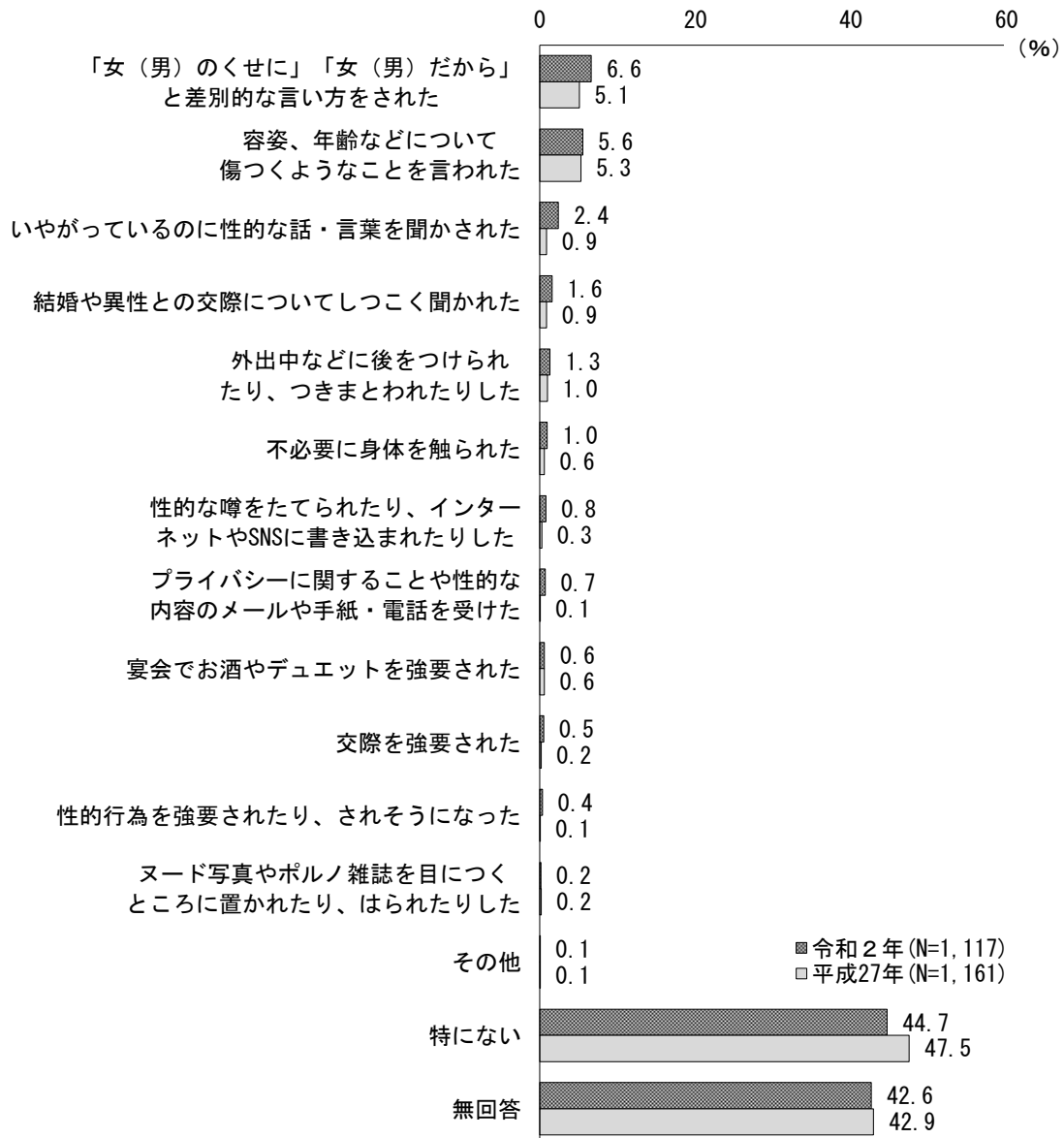
※平成27年調査では、「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた」は「容姿について傷つくようなことを言われた」、「不必要に身体を触られた」は「異性に不必要に身体を触られた」、「性的行為を強要されたり、されそうになった」は「性的行為を強要された」、「性的な噂をたてられたり、インターネットやSNSに書き込まれたりした」は「性的な噂をたてられたり、ネットに書き込まれたりした」、「外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」は「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」でたずねている。

■学校

【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、上位2項目は平成27年調査と同じです。(図表7-1-8)

図表7-1-8 学校でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、平成27年調査）



※平成27年調査では、「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた」は「容姿について傷つくようなことを言われた」、「不必要に身体を触られた」は「異性に不必要に身体を触られた」、「性的行為を強要されたり、されそうになった」は「性的行為を強要された」、「性的な噂をたてられたり、インターネットや SNS に書き込まれたりした」は「性的な噂をたてられたり、ネットに書き込まれたりした」、「外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」は「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」でたずねている。

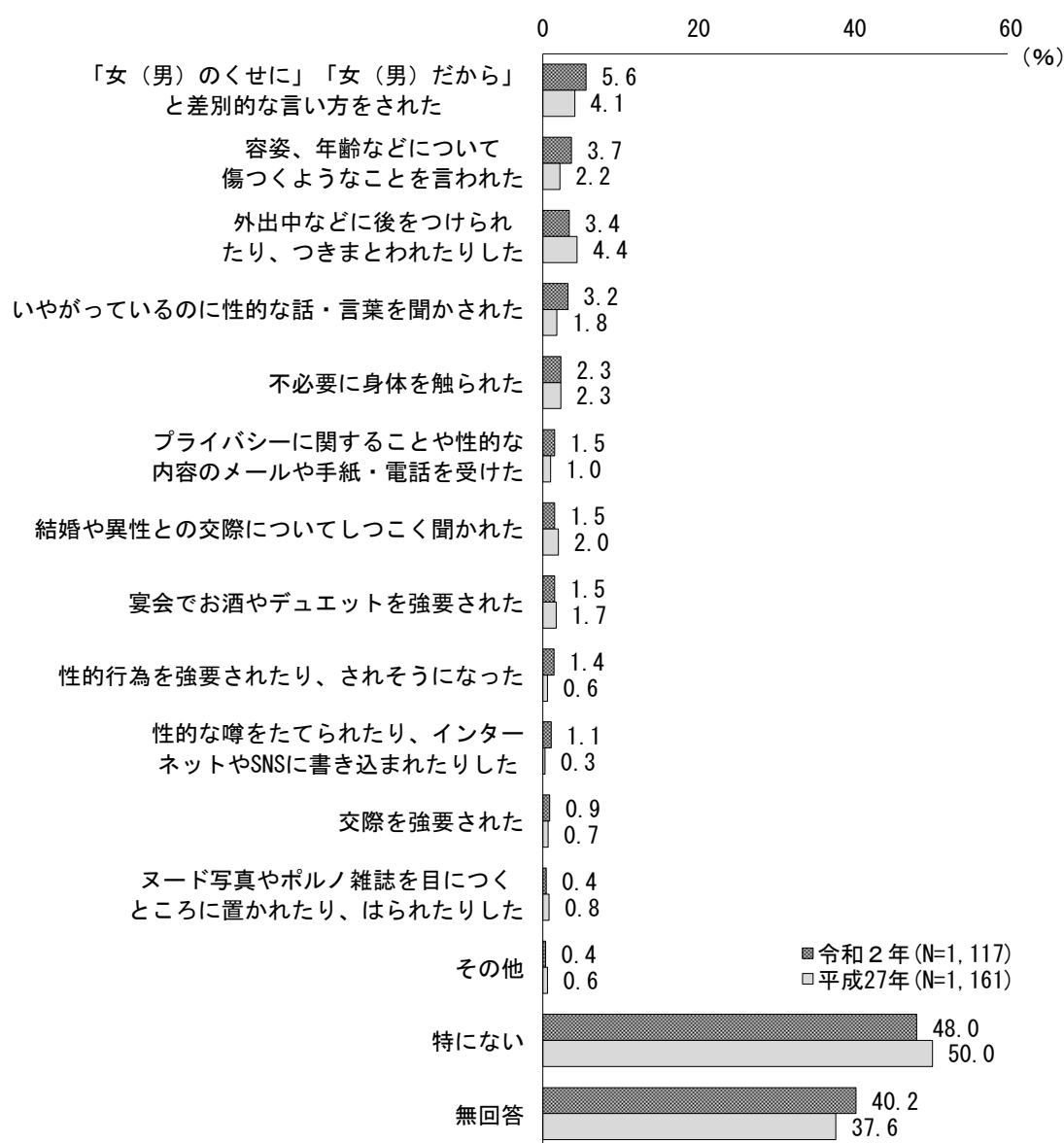
第3章 調査結果

■ 地域

【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた」が平成27年調査から増えて、2位にあがっています。(図表7-1-9)

図表7-1-9 地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験の有無（全体、平成27年調査）



※平成27年調査では、「容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた」は「容姿について傷つくようなことを言われた」、「不必要に身体を触られた」は「異性に不必要に身体を触られた」、「性的行為を強要されたり、されそうになった」は「性的行為を強要された」、「性的な噂をたてられたり、インターネットやSNSに書き込まれたりした」は「性的な噂をたてられたり、ネットに書き込まれたりした」、「外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」は「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」でたずねている。

(2) 相談の有無

問15は、問14の(ア)～(ス)に、1つでも○をつけた方におうかがいします。
 問15 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つだけ)

【全体】

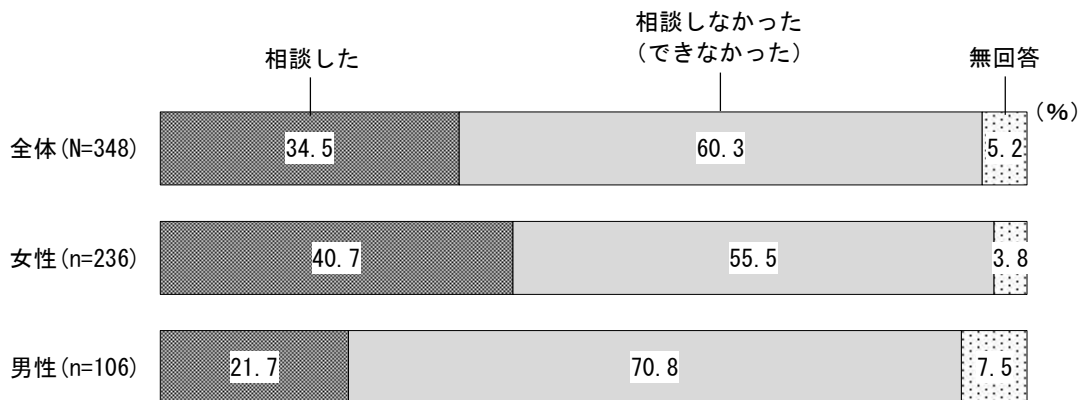
何らかのセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答した人に、その時の対応をたずねました。

全体では、「相談した」が34.5%、「相談しなかった(できなかった)」が60.3%となっています。(図表7-2-1)

【性別】

性別にみると、「相談した」は女性が40.7%、男性が21.7%で、女性が男性を19.0ポイント上回っています。(図表7-2-1)

図表7-2-1 相談の有無(全体、性別)
 <セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人>

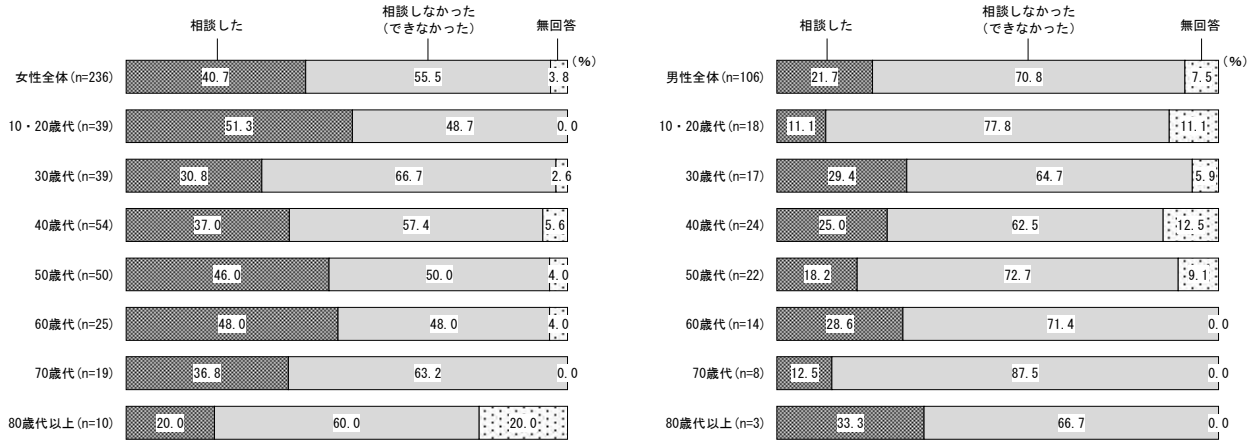


第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代で「相談した」が5割を超えています。(図表7-2-2)

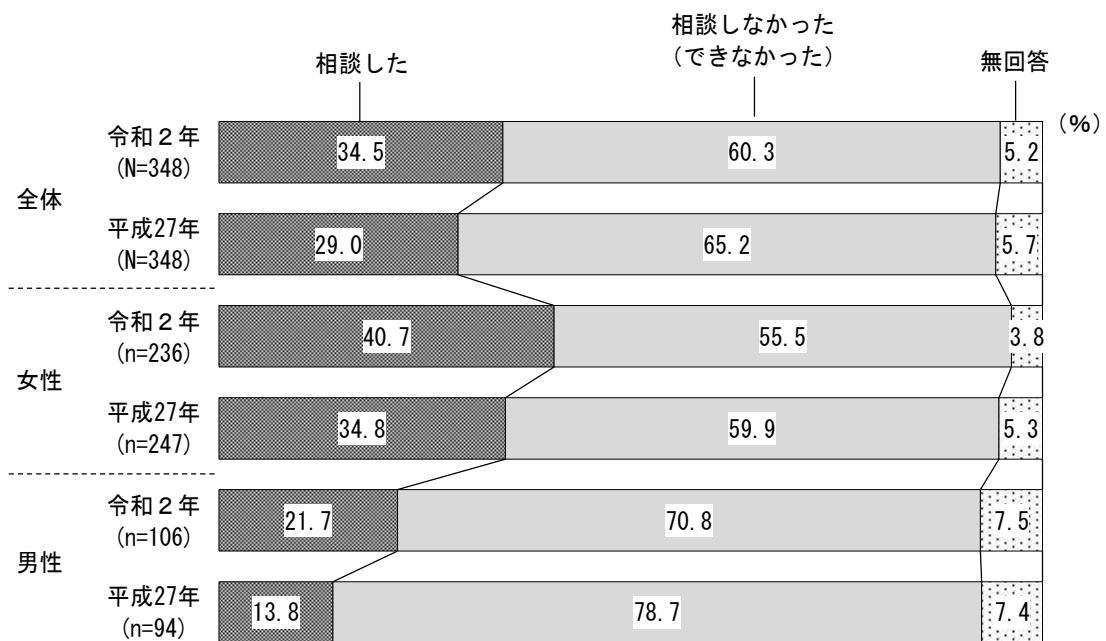
図表7-2-2 相談の有無（性・年代別）
 <セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人>



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、「相談した」は全体（34.5%）では5.5ポイント増えています。性別にみると、女性（40.7%）は5.9ポイント増え、男性（21.7%）も7.9ポイント増えています。(図表7-2-3)

図表7-2-3 相談の有無（全体、性別、平成27年調査）
 <セクシュアル・ハラスメントを経験したことがある人>



(3) 相談先

問15で「1. 相談した」とお答えの方に
問15-1 そのとき、だれ（どこ）に相談しましたか。（〇はあてはまるものすべて）

【全体】

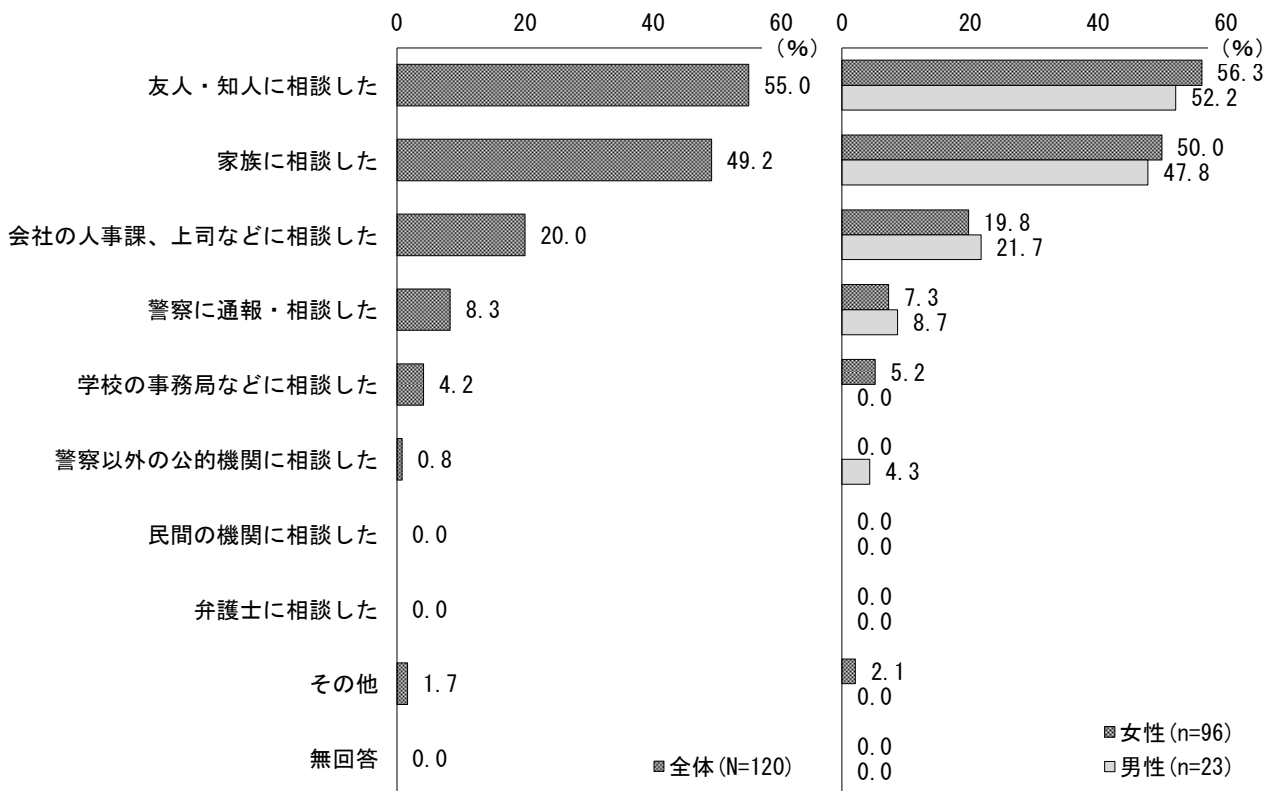
セクシュアル・ハラスメントについて「相談した」と回答した人に、その相談先をたずねました。

全体では、「友人・知人に相談した（55.0%）」が最も多く、「家族に相談した（49.2%）」、「会社の人事課、上司などに相談した（20.0%）」が続いています。（図表7-3-1）

【性別】

性別にみると、男女ともに「友人・知人に相談した（女性：56.3%、男性：52.2%）」が最も多く、「家族に相談した（女性：50.0%、男性：47.8%）」、「会社の人事課、上司などに相談した（女性：19.8%、男性：21.7%）」が続いています。（図表7-3-1）

図表7-3-1 相談先（全体、性別：複数回答）
<セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人>

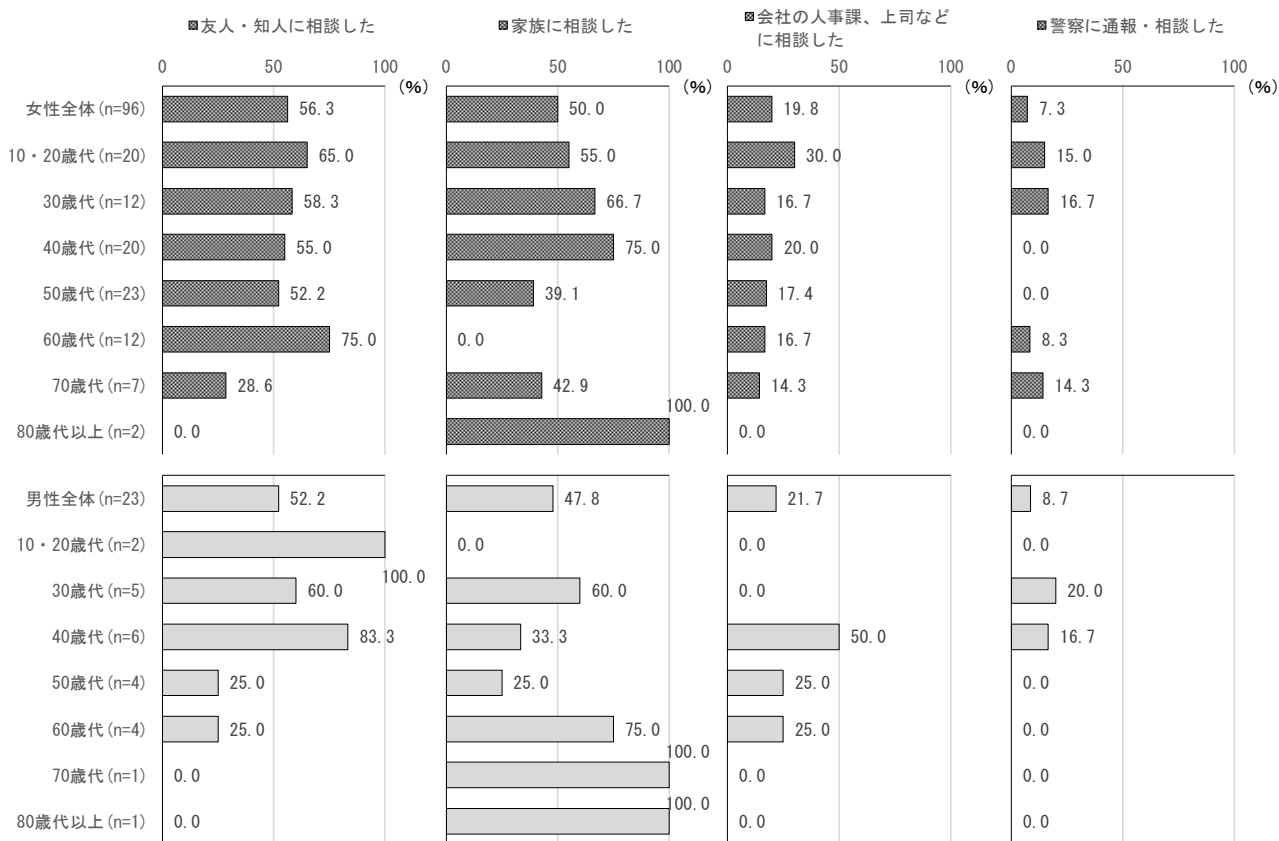


第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代と40歳代で「家族に相談した」が6割台から7割台となっています。(図表7-3-2)

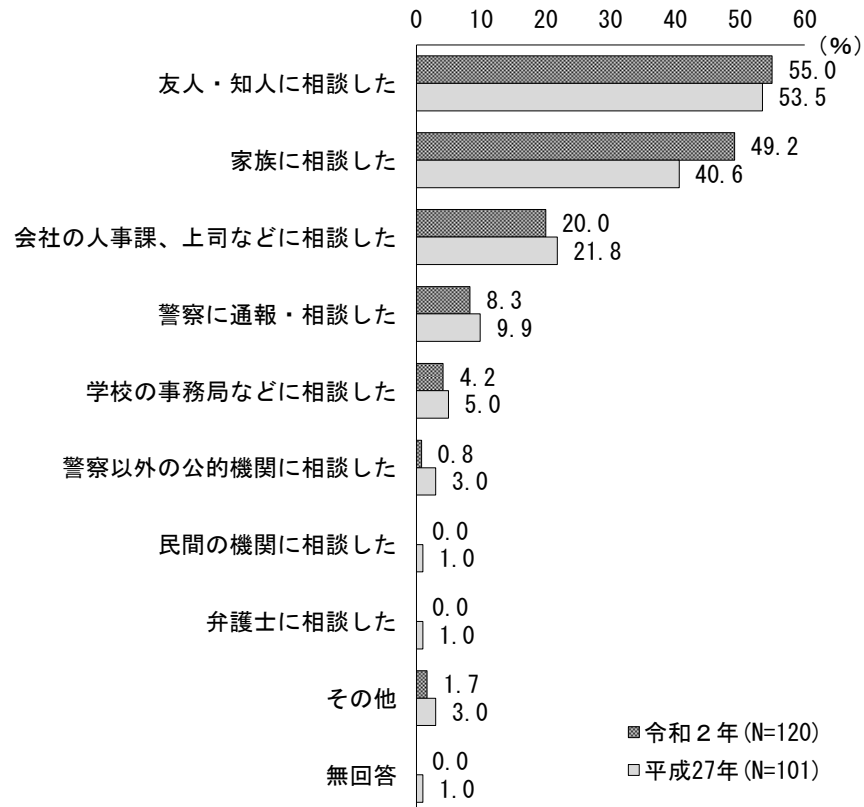
図表7-3-2 相談先（性・年代別、上位4項目：複数回答）
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人>



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、「友人・知人に相談した（令和2年調査：55.0%、平成27年調査53.5%）」、「家族に相談した（令和2年調査：49.2%、平成27年調査：40.6%）」が、それぞれ平成27年調査より1.5ポイント、8.6ポイント増えています。（図表7-3-3）

図表7-3-3 相談先（全体、平成27年調査：複数回答）
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談したことがある人>



第3章 調査結果

(4) 相談しなかった、できなかった理由

問15で「2. 相談しなかった（できなかった）」とお答えの方に
 問15-2 だれ（どこ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。
 （○はあてはまるものすべて）

【全体】

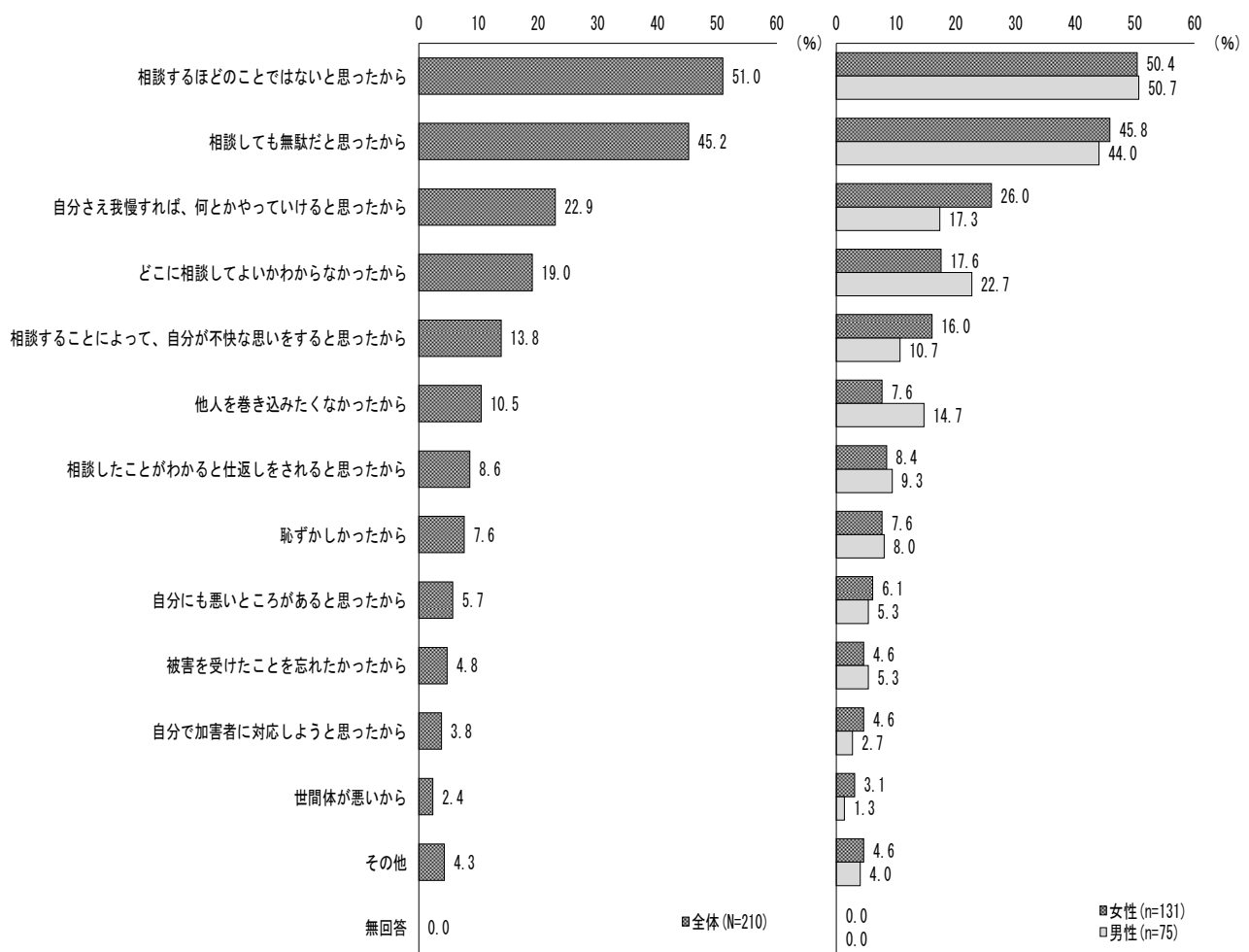
セクシュアル・ハラスメントについて「相談しなかった」と回答した人に、その理由をたずねました。

全体では、「相談するほどのことではないと思ったから（51.0%）」、「相談しても無駄だと思ったから（45.2%）」が4割を超えています。（図表7-4-1）

【性別】

性別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから（女性：50.4%、男性：50.7%）」が最も多く5割台となっています。（図表7-4-1）

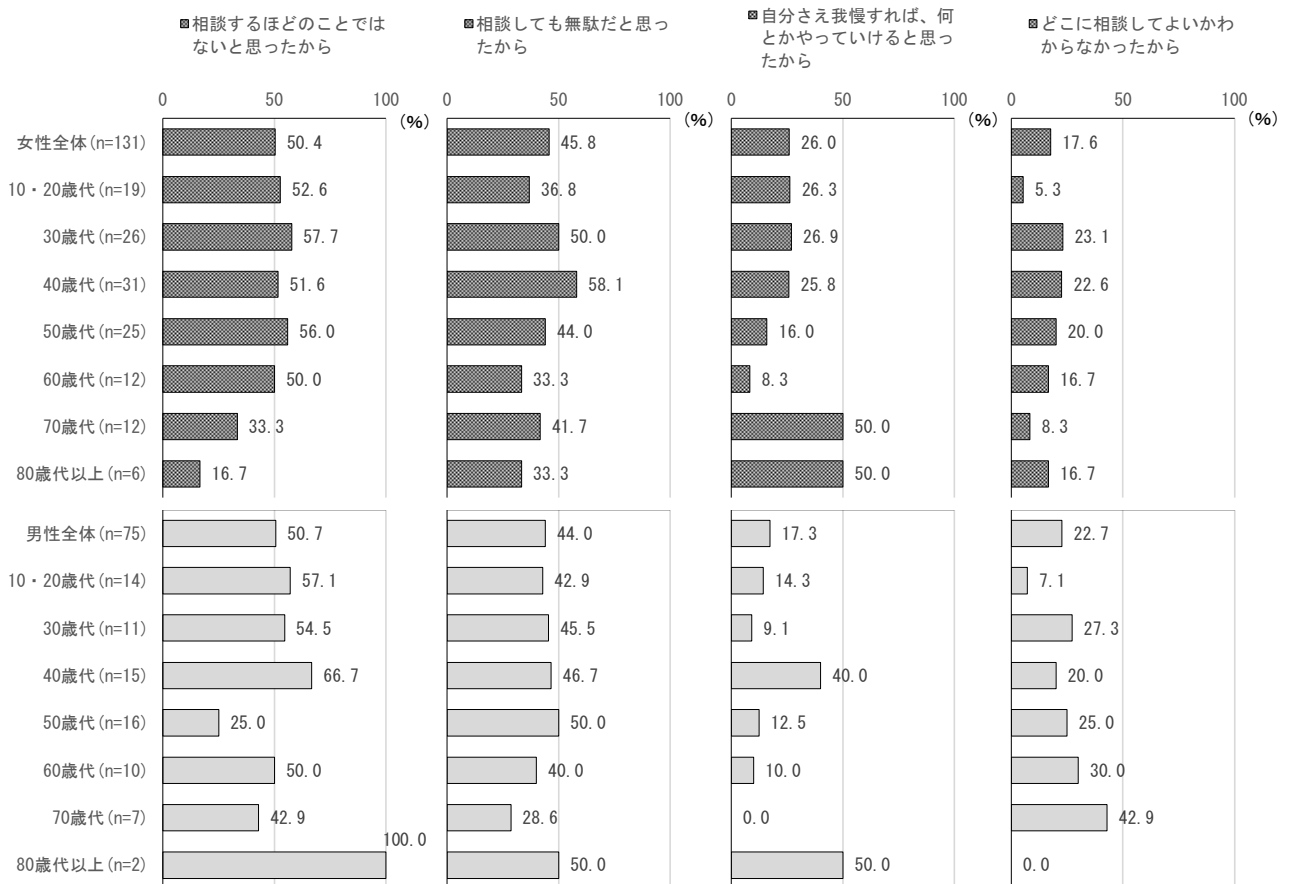
図表7-4-1 相談しなかった、できなかった理由（全体、性別：複数回答）
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった（できなかった）人>



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代と50歳代で「相談するほどのことではないと思ったから（30歳代：57.7%、50歳代：56.0%）」、40歳代で「相談しても無駄だと思ったから（58.1%）」が最も多くなっています。（図表7-4-2）

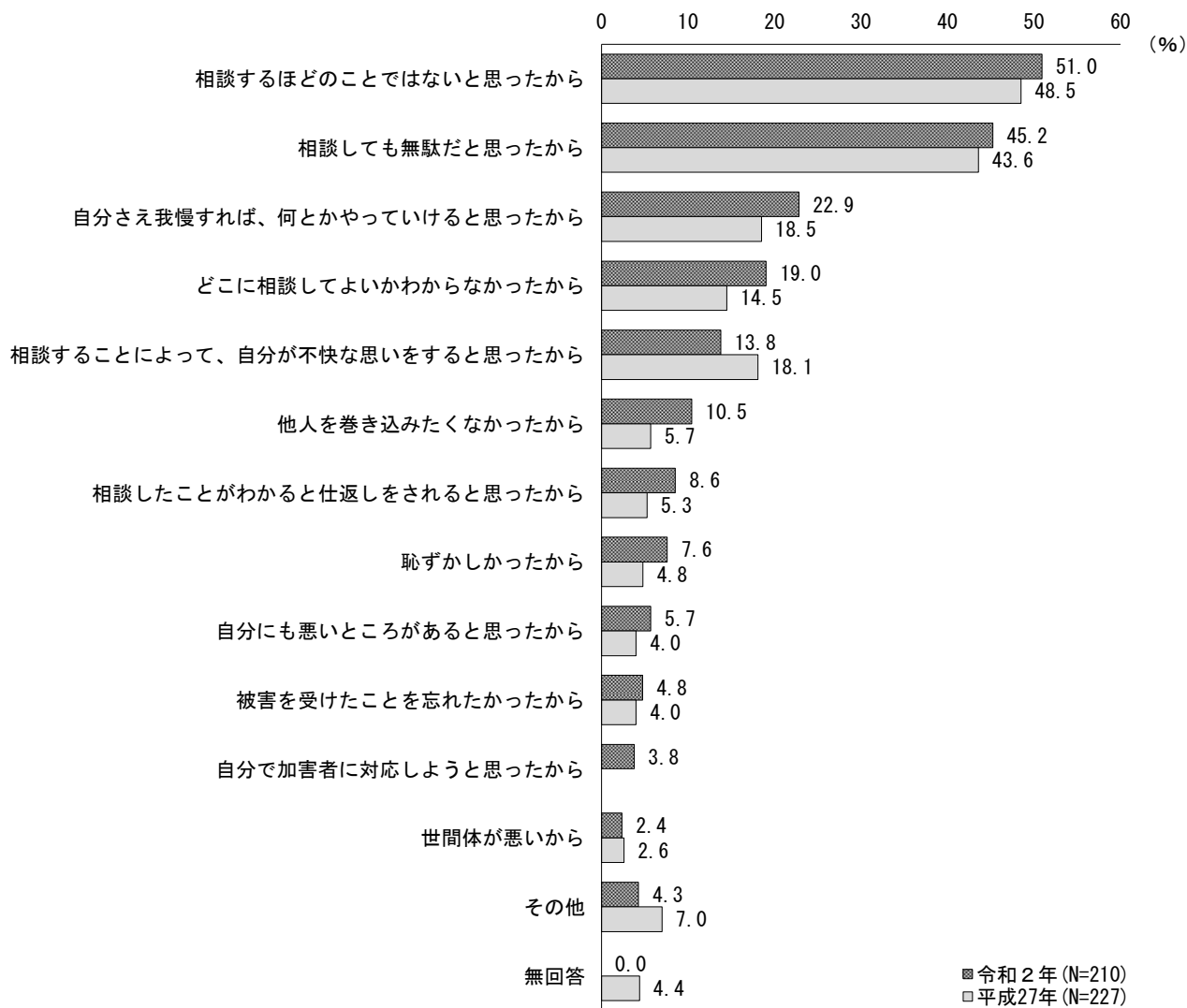
図表7-4-2 相談しなかった、できなかった理由（性・年代別、上位4項目：複数回答）
 ＜セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった（できなかった）人＞



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、多くの理由が平成27年調査に比べて増えています。(図表7-4-3)

図表7-4-3 相談しなかった、できなかった理由(全体、平成27年調査：複数回答)
 <セクシュアル・ハラスメントについて相談しなかった(できなかった)人>



平成27年調査には、「自分で加害者に対応しようと思ったから」はなし。

8 ドメスティック・バイオレンス

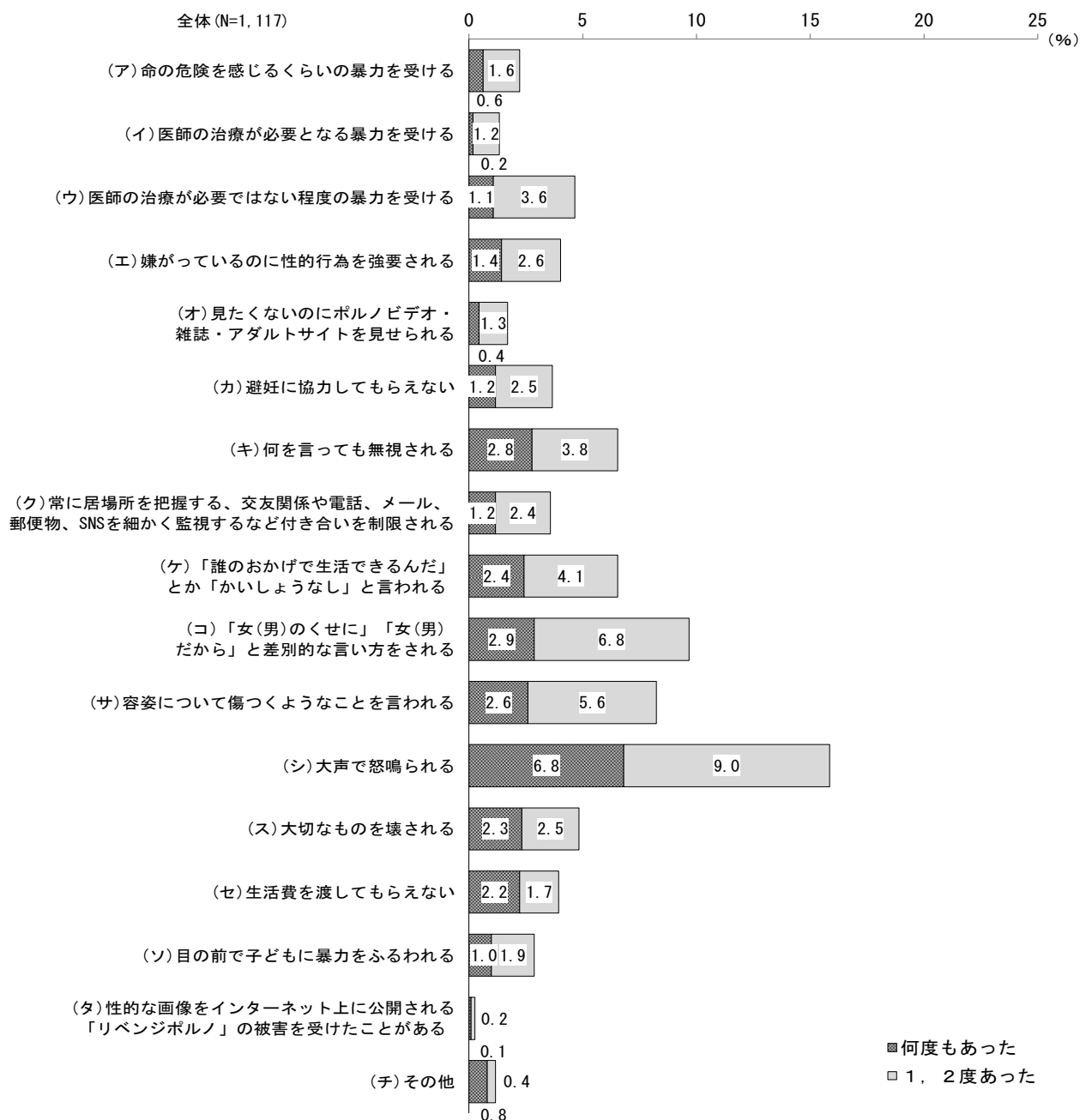
(1) ドメスティック・バイオレンスの経験の有無

問 16 「ドメスティック・バイオレンス」とは配偶者などに対し、著しい身体的または精神的苦痛を与える暴力的行為をいいますが、あなたはこれまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次のような経験がありますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

【全体】

全体では、「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した《暴力を受けた経験がある》は、『大声で怒鳴られる（15.8%）』が最も多く、『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされる（9.7%）』、『容姿について傷つくようなことを言われる（8.2%）』、『何を言っても無視される（6.6%）』が続いています。（図表 8-1-1）

図表 8-1-1 ドメスティック・バイオレンスの経験の有無（全体）



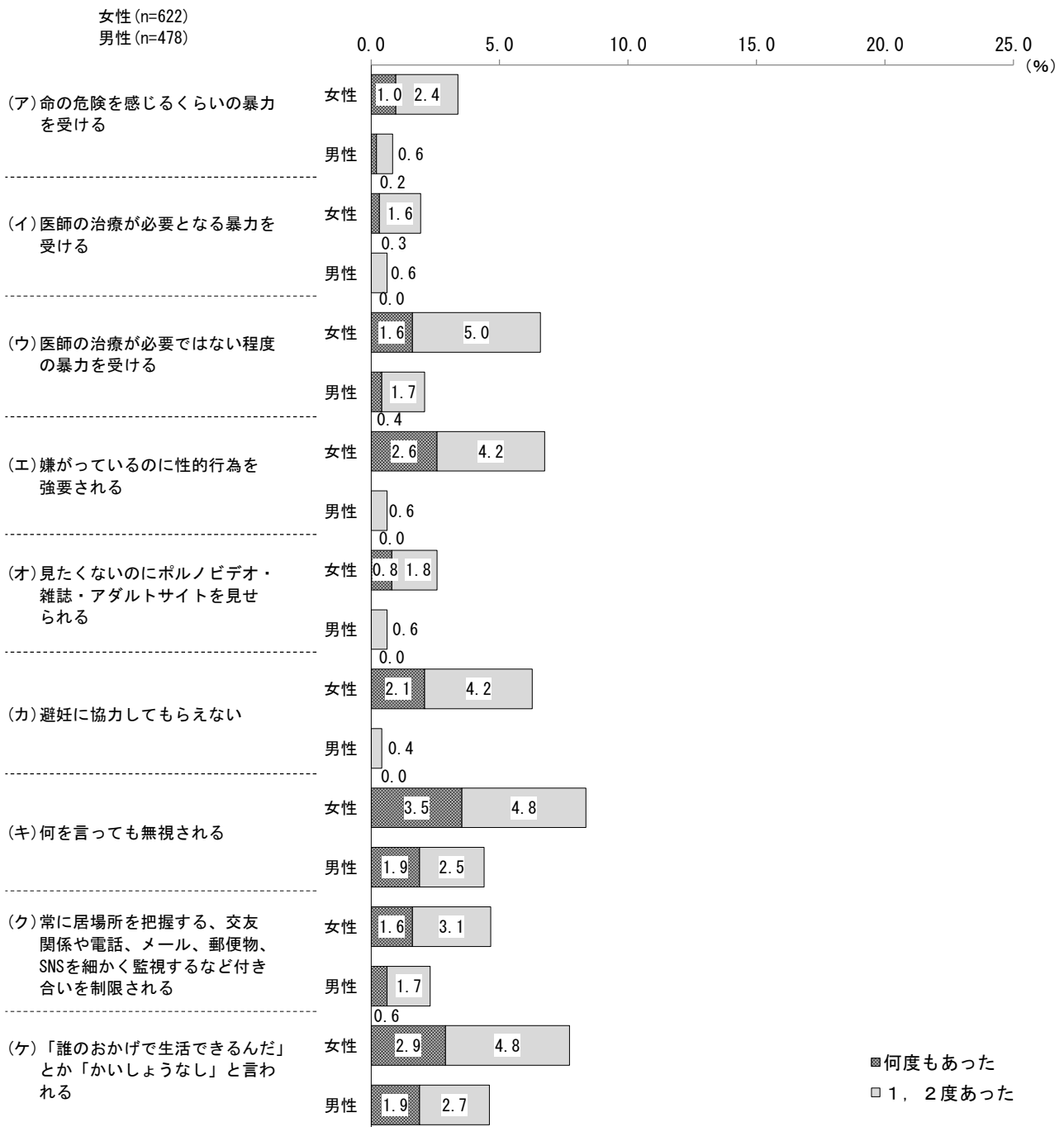
第3章 調査結果

【性別】

性別にみると、女性は『大声で怒鳴られる（20.1%）』が最も多く、『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされる（11.3%）』、『容姿について傷つくようなことを言われる（10.1%）』、『何を言っても無視される（8.3%）』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる（7.7%）』、『嫌がっているのに性的行為を強要される（6.8%）』が続いています。

また、『命の危険を感じるくらいの暴力を受ける』は3.4%（21人）、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は1.9%（12人）となっています。（図表8-1-2-①、②）

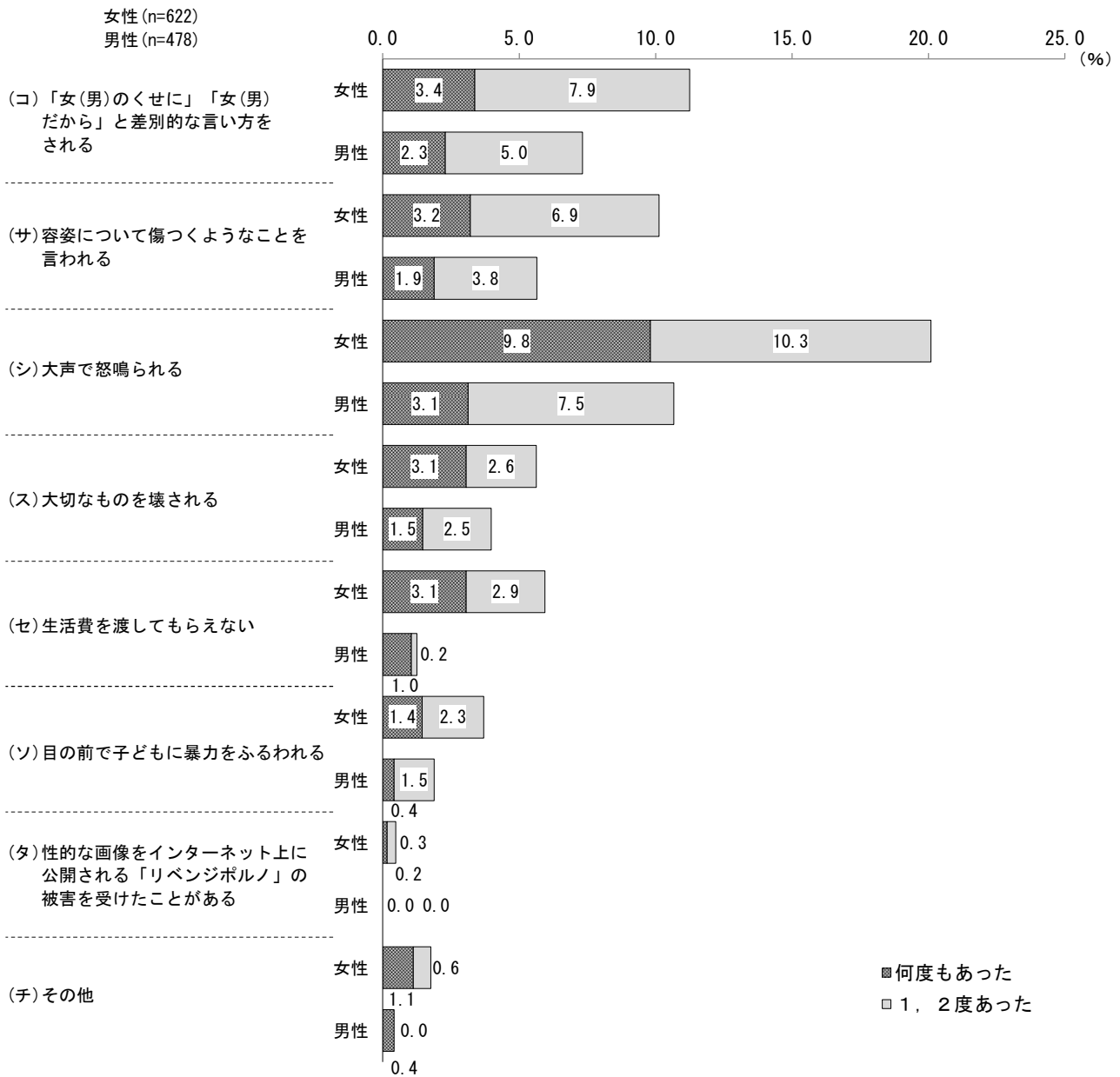
図表8-1-2-① ドメスティック・バイオレンスの経験の有無（性別）



男性は『大声で怒鳴られる（10.6%）』が最も多く、『「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされる（7.3%）』、『容姿について傷つくようなことを言われる（5.7%）』、『「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる（4.6%）』、『何を言っても無視される（4.4%）』、『大切なものを壊される（4.0%）』が続いています。

また、『命の危険を感じるくらいの暴力を受ける』は0.8%（4人）、『医師の治療が必要となる暴力を受ける』は0.6%（3人）となっています。（図表8-1-2-①、②）

図表 8-1-2-② ドメスティック・バイオレンスの経験の有無（性別）



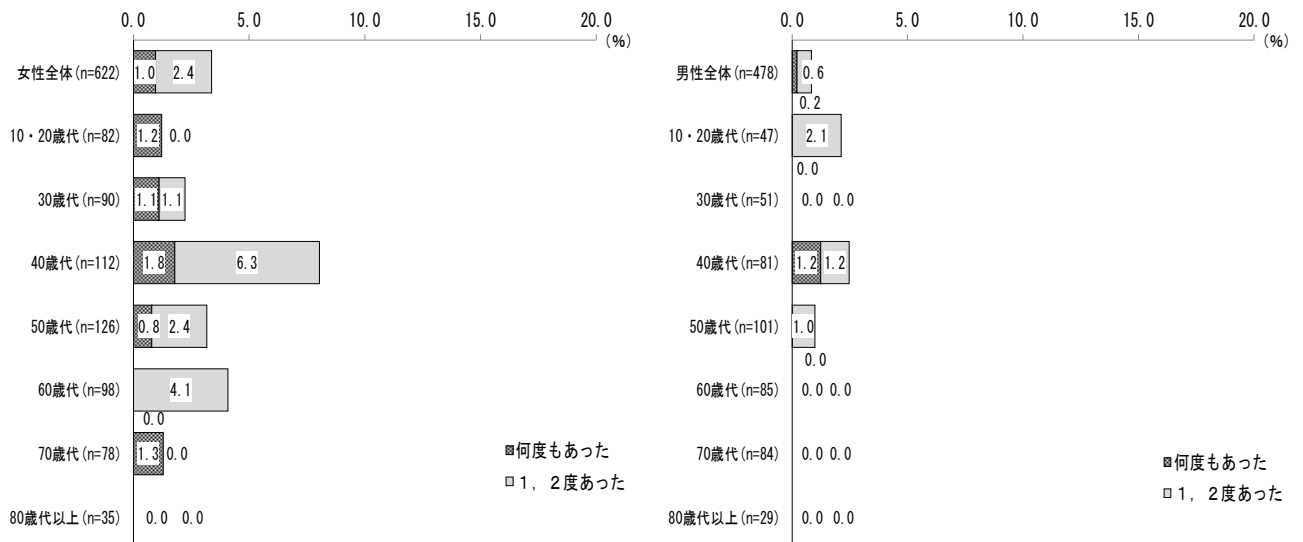
第3章 調査結果

【性・年代別】

■命の危険を感じるくらいの暴力を受ける

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で2.2%、40歳代で8.1%、50歳代で3.2%、60歳代で4.1%となっています。(図表8-1-3)

図表8-1-3 経験の有無/命の危険を感じるくらいの暴力を受ける(性・年代別)

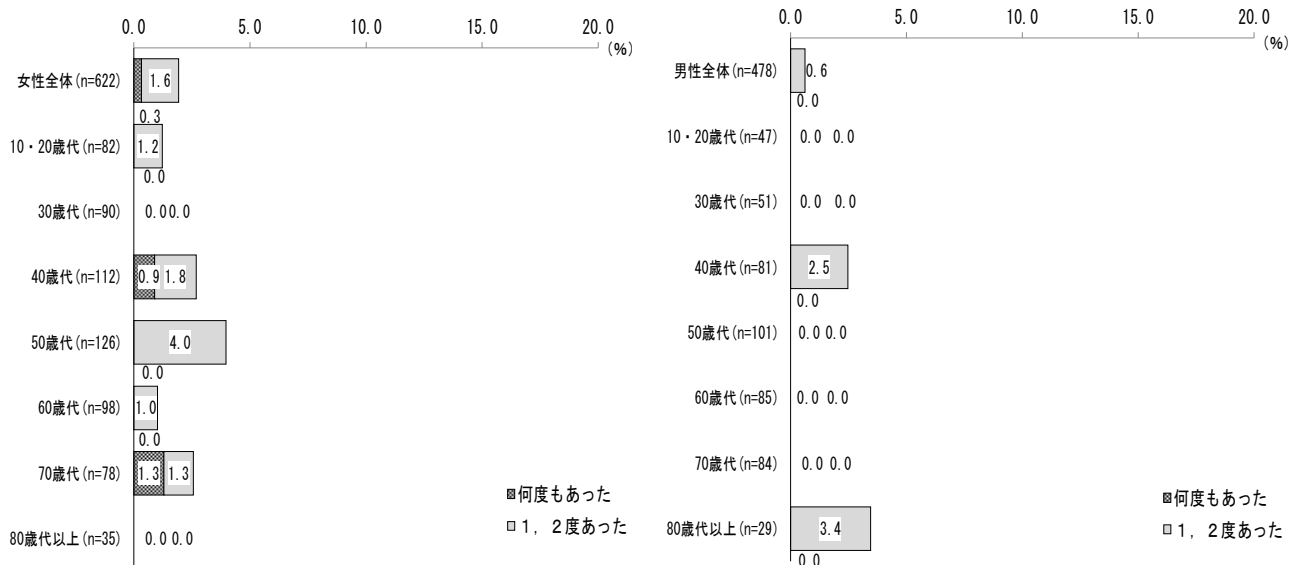


■医師の治療が必要となる暴力を受ける

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の40歳代で2.7%、50歳代で4.0%となっています。

男性は40歳代で2.5%、80歳代以上で3.4%となっています。(図表8-1-4)

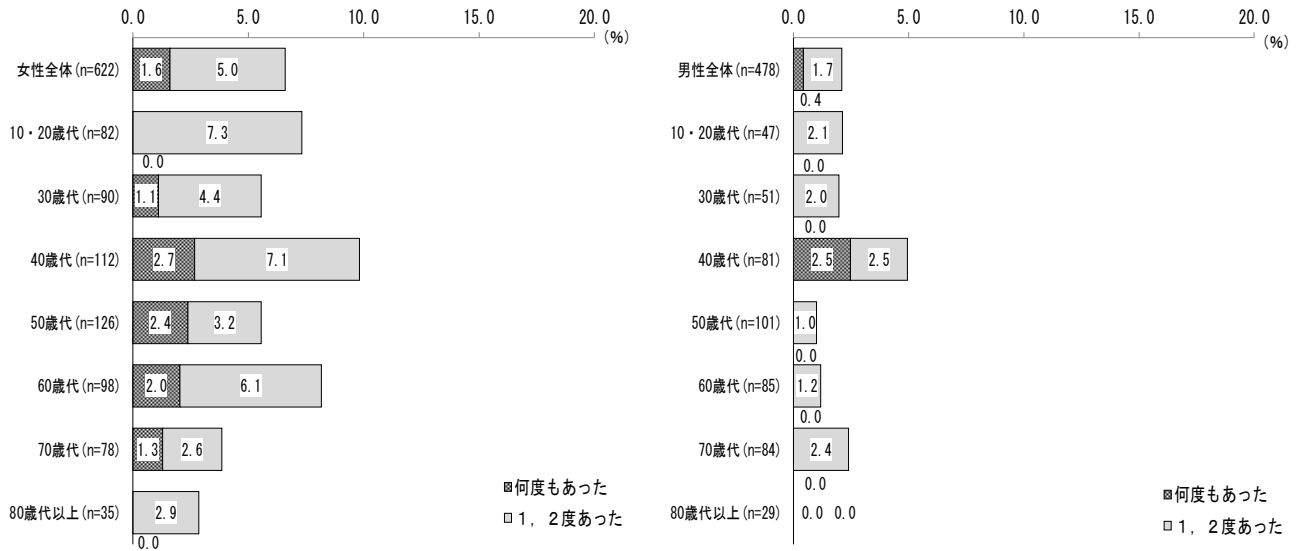
図表8-1-4 経験の有無/医師の治療が必要となる暴力を受ける(性・年代別)



■ 医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の10・20歳代で7.3%、30歳代で5.5%、40歳代で9.8%、50歳代で5.6%、60歳代で8.1%となっています。
男性は40歳代で5.0%となっています。(図表8-1-5)

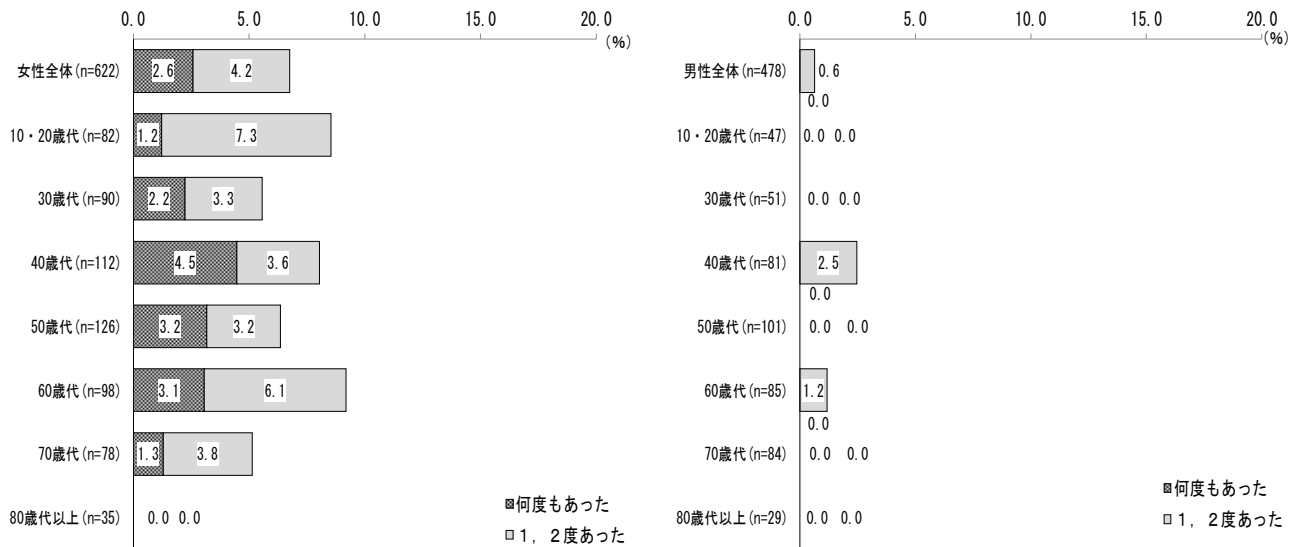
図表8-1-5 経験の有無/医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける(性・年代別)



■ 嫌がっているのに性的行為を強要される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の10・20歳代で9.9%、30歳代で5.5%、40歳代で8.1%、50歳代で6.4%、60歳代で9.2%となっています。
男性は40歳代で2.5%となっています。

図表8-1-6 経験の有無/嫌がっているのに性的行為を強要される(性・年代別)



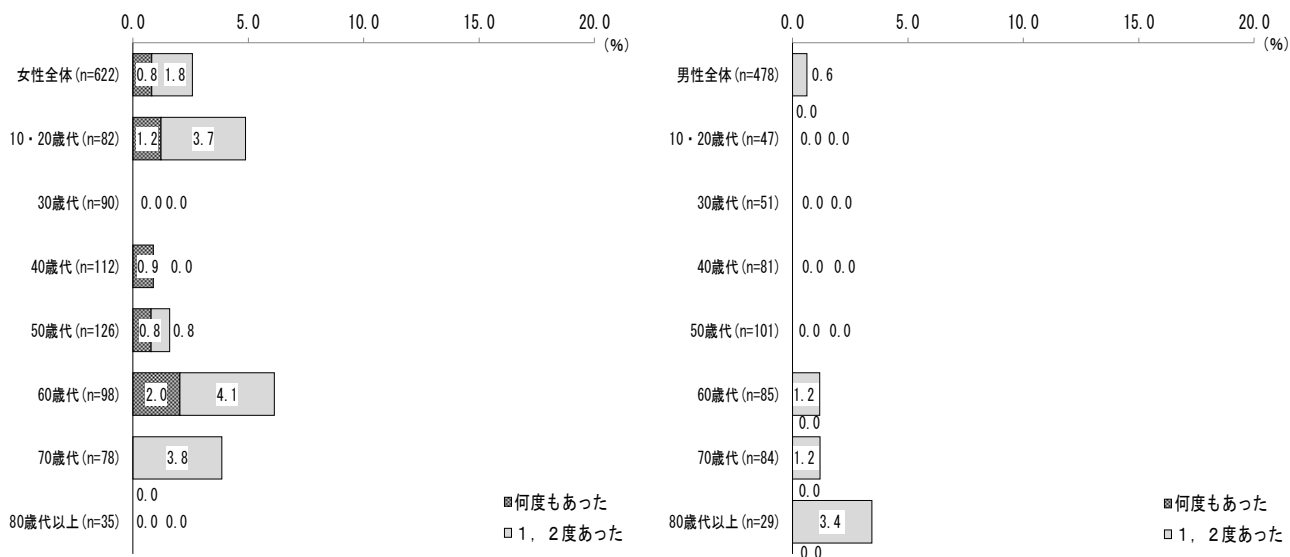
第3章 調査結果

■見たくないのにポルノビデオ・雑誌・アダルトサイトを見せられる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の10・20歳代で4.9%、50歳代で6.1%となっています。

男性は80歳代以上で3.4%となっています。(図表8-1-7)

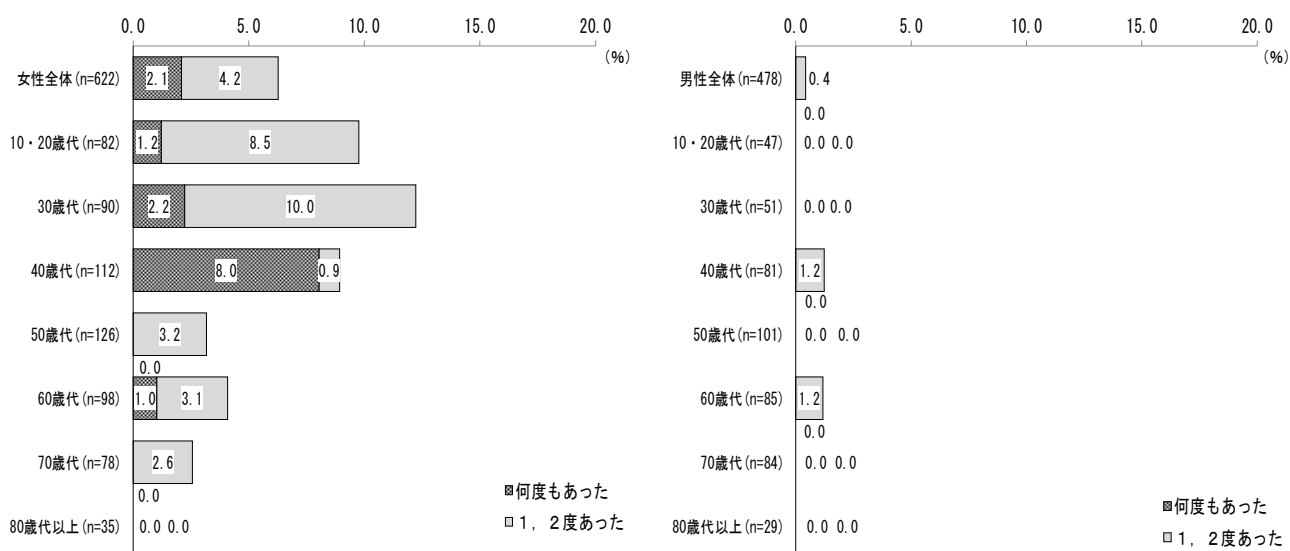
図表 8-1-7 経験の有無/見たくないのにポルノビデオ・雑誌・アダルトサイトを見せられる (性・年代別)



■避妊に協力してもらえない

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の10・20歳代で9.7%、30歳代で12.2%、40歳代で8.9%となっています。(図表8-1-8)

図表 8-1-8 経験の有無/避妊に協力してもらえない (性・年代別)

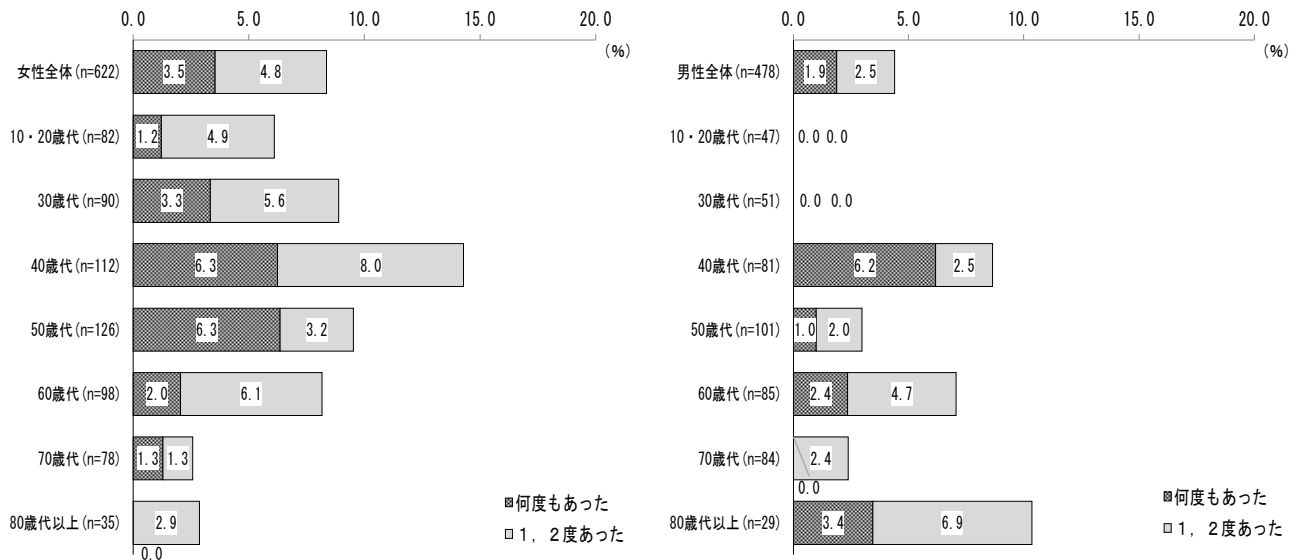


■何を言っても無視される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の40歳代は14.3%、50歳代は9.5%となっています。

男性は40歳代で8.7%、80歳代以上で10.3%となっています。(図表8-1-9)

図表8-1-9 経験の有無/何を言っても無視される(性・年代別)

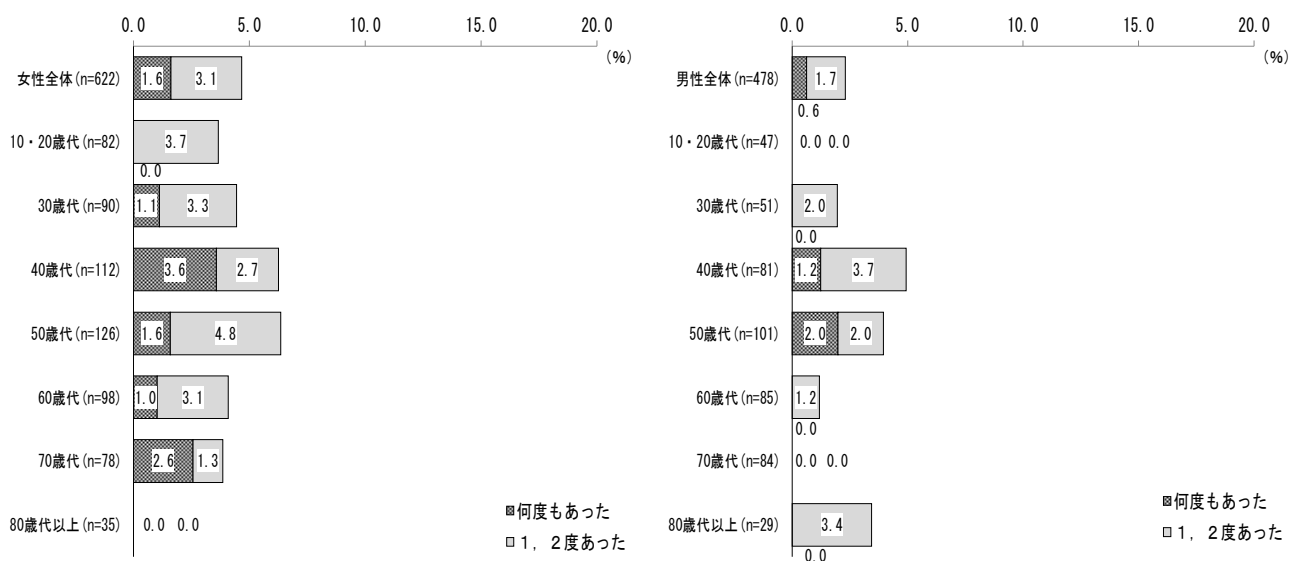


■常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNSを細かく監視するなど付き合いを制限される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の40歳代で6.3%、50歳代で6.4%となっています。

男性は40歳代で4.9%、50歳代で4.0%となっています。(図表8-1-10)

図表8-1-10 経験の有無/常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNSを細かく監視するなど付き合いを制限される(性・年代別)



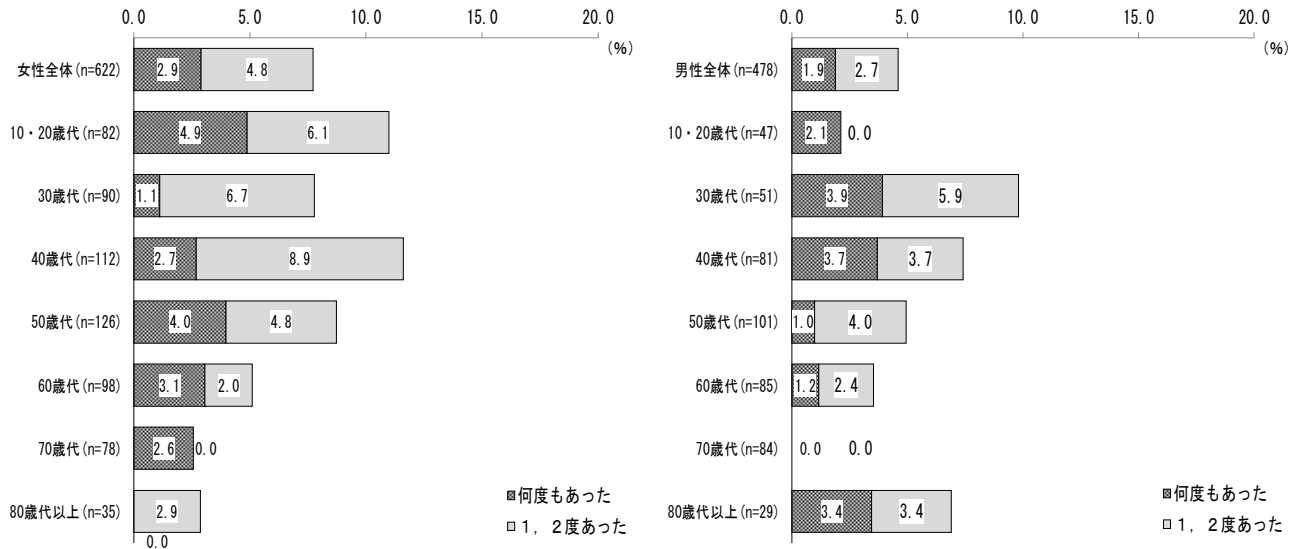
第3章 調査結果

■ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の10・20歳代で11.0%、40歳代で11.6%となっています。

男性は30歳代で9.8%、40歳代で7.4%となっています。(図表8-1-11)

図表 8-1-11 経験の有無 / 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる (性・年代別)

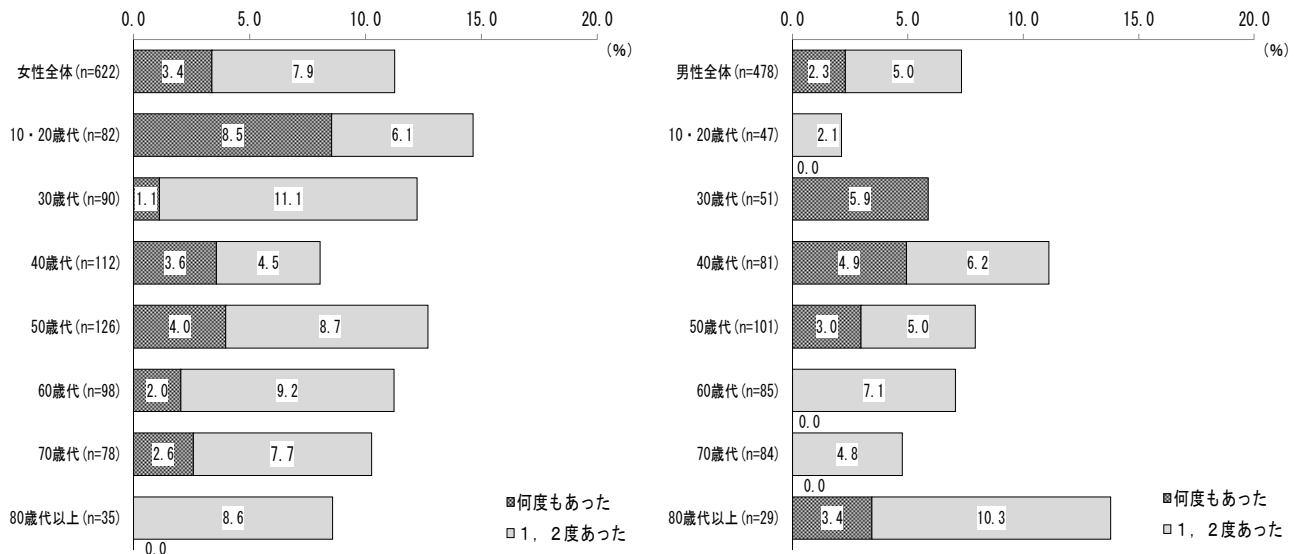


■ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の10・20歳代、30歳代、50歳代、60歳代で1割を超えており、特に10・20歳代は14.6%と他の年代に比べて多くなっています。

男性は40歳代で11.1%、80歳代以上で13.7%となっています。(図表8-1-12)

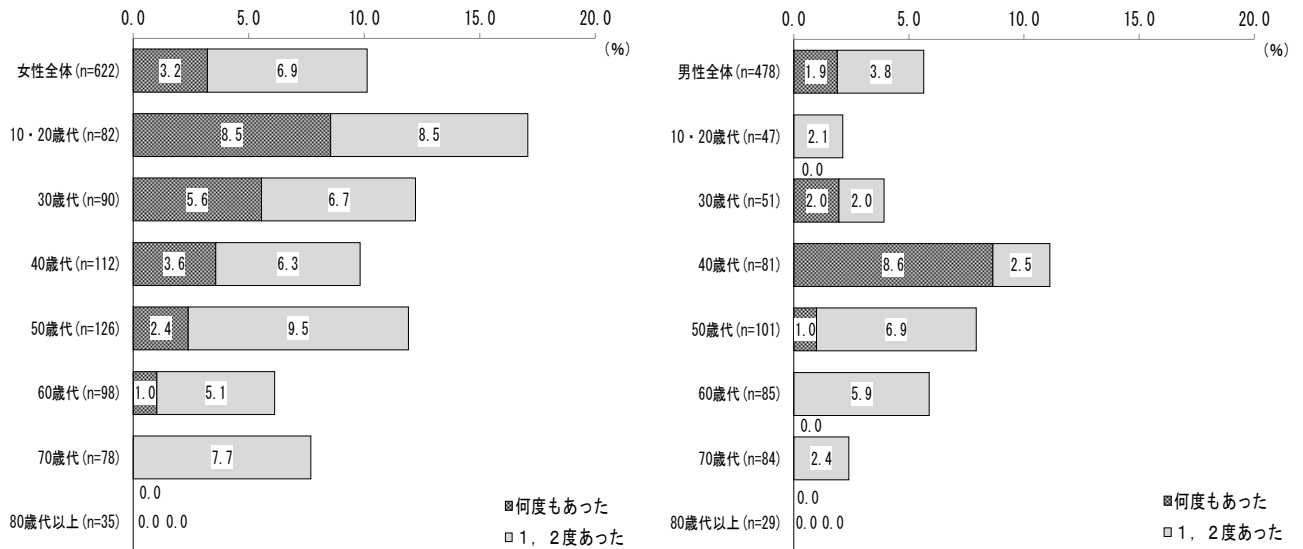
図表 8-1-12 経験の有無 / 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる (性・年代別)



■容姿について傷つくようなことを言われる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の10・20歳代、30歳代、50歳代で1割を超えており、特に10・20歳代は17.0%と他の年代に比べて多くなっています。
男性は40歳代で11.1%となっています。(図表8-1-13)

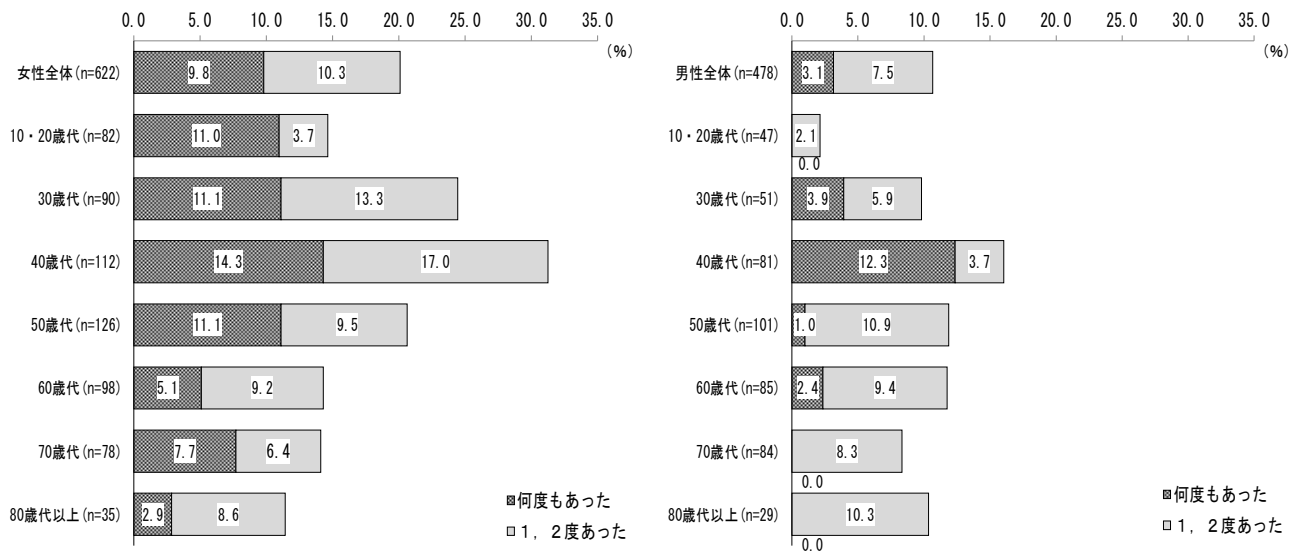
図表 8-1-13 経験の有無/容姿について傷つくようなことを言われる(性・年代別)



■大声で怒鳴られる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代から50歳代で2割を超えており、特に40歳代は31.3%と他の年代に比べて多くなっています。
男性は40歳代で16.0%となっています。(図表8-1-14)

図表 8-1-14 経験の有無/大声で怒鳴られる(性・年代別)



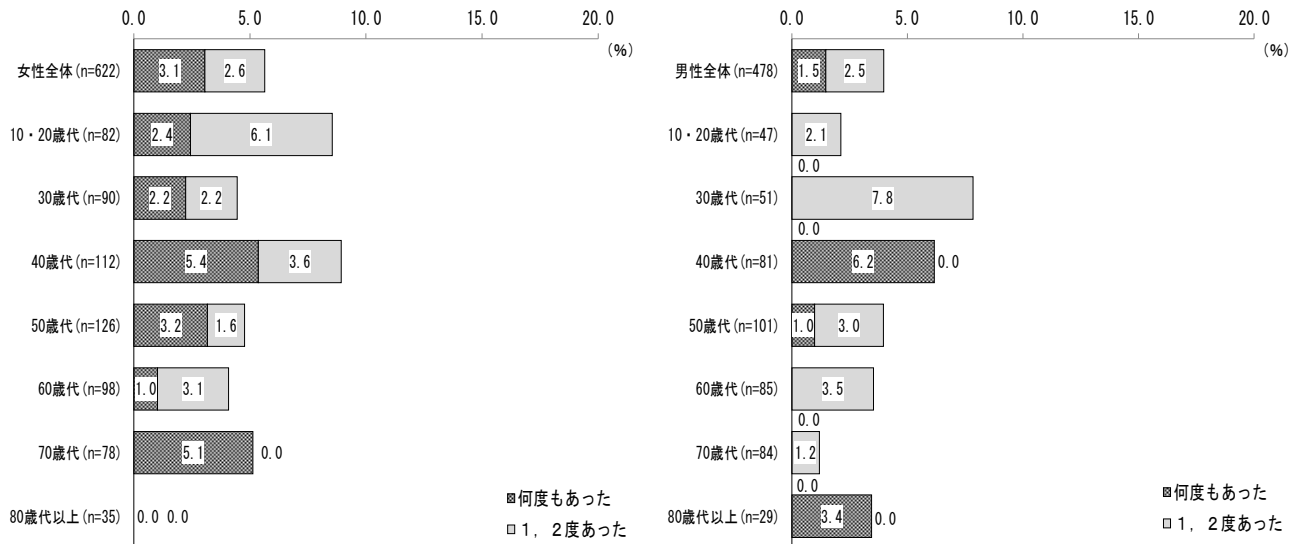
第3章 調査結果

■大切なものを壊される

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の10・20歳代で8.5%、40歳代で9.0%となっています。

男性は30歳代で7.8%、40歳代で6.2%となっています。(図表8-1-15)

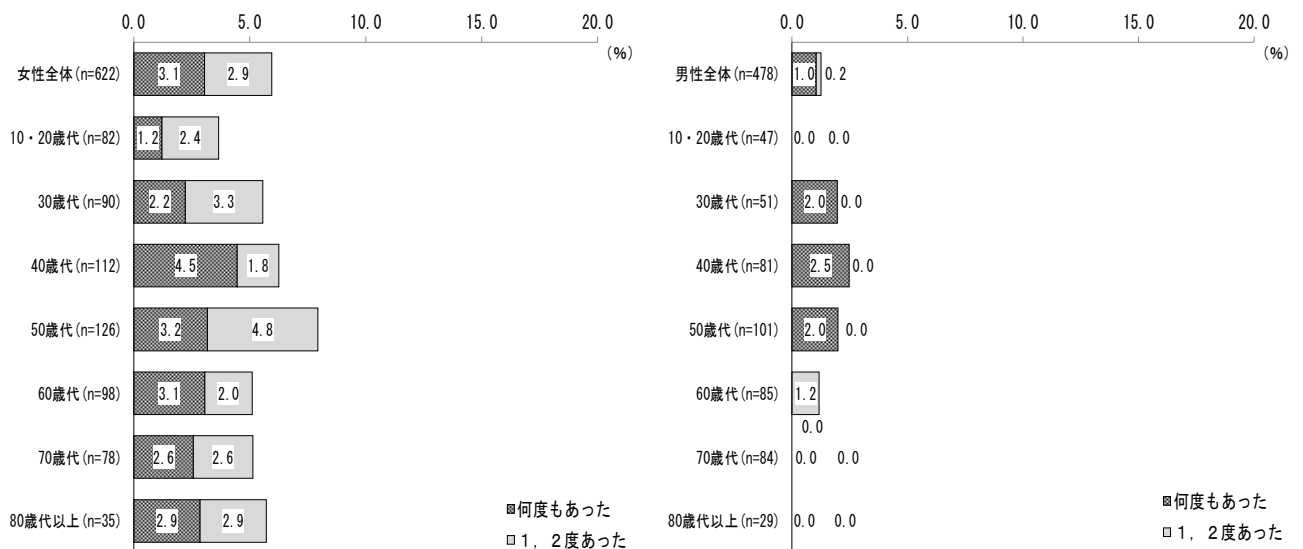
図表 8-1-15 経験の有無/大切なものを壊される(性・年代別)



■生活費を渡してもらえない

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の40歳代は6.3%、50歳代は8.0%、となっています。(図表8-1-16)

図表 8-1-16 経験の有無/生活費を渡してもらえない(性・年代別)

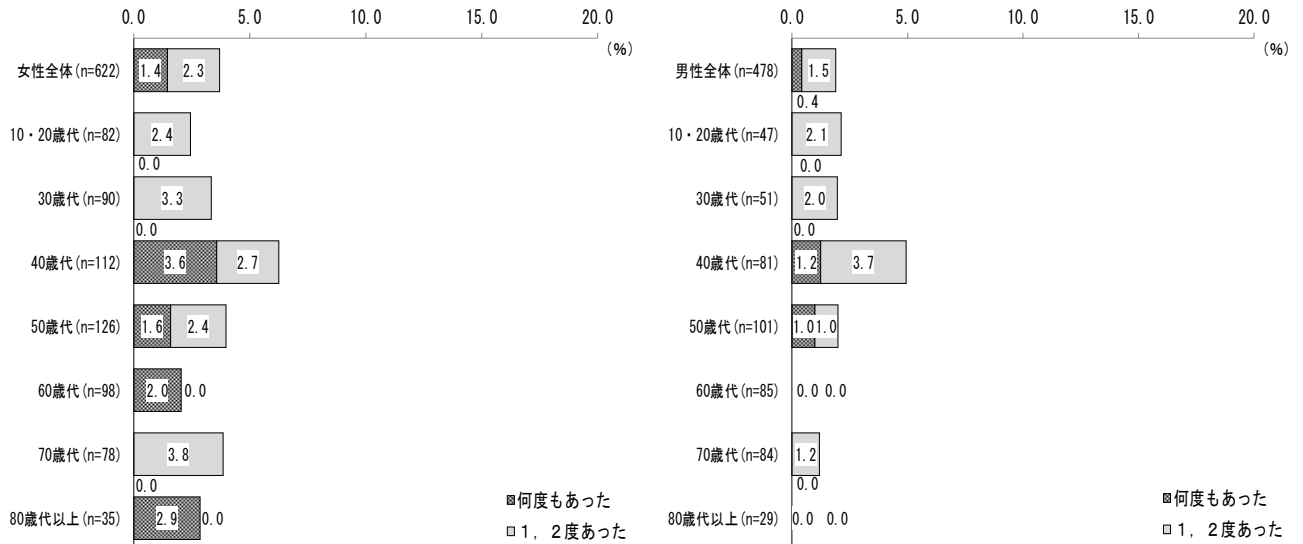


■ 目の前で子どもに暴力をふるわれる

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の40歳代で6.3%、50歳代で4.4%となっています。

男性は40歳代で4.9%となっています。(図表8-1-17)

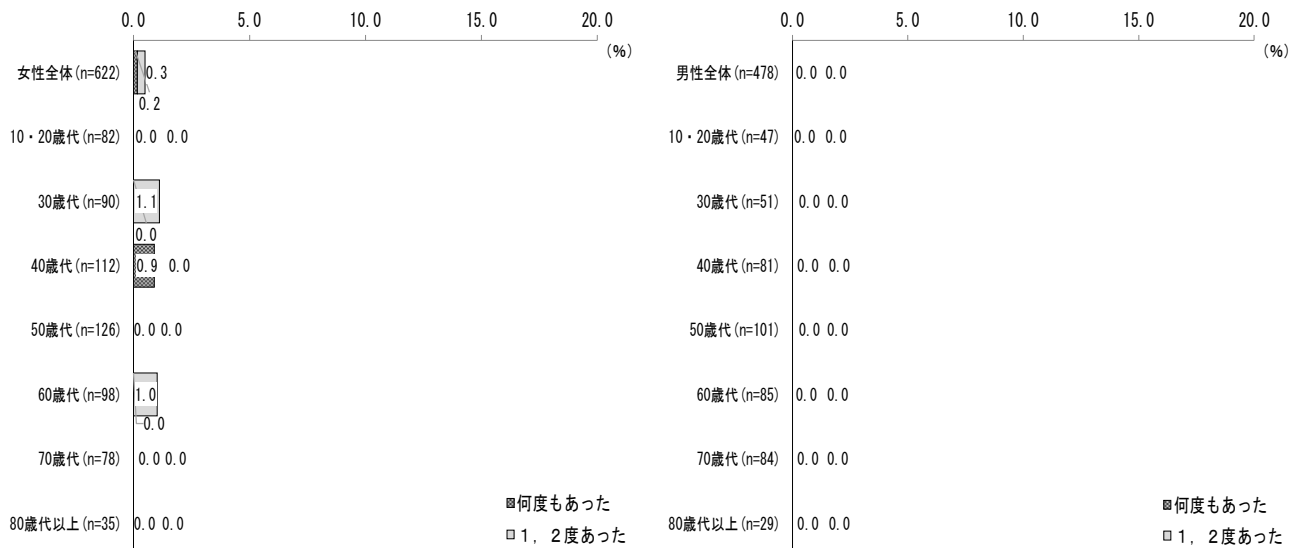
図表8-1-17 経験の有無/目の前で子どもに暴力をふるわれる(性・年代別)



■ 性的な画像をインターネット上に公開される「リベンジポルノ」の被害を受けたことがある

性・年代別にみると、《暴力を受けた経験がある》は、女性の30歳代で1.1%、60歳代で1.0%となっています。(図表8-1-18)

図表8-1-18 経験の有無/性的な画像をインターネット上に公開される「リベンジポルノ」の被害を受けたことがある(性・年代別)

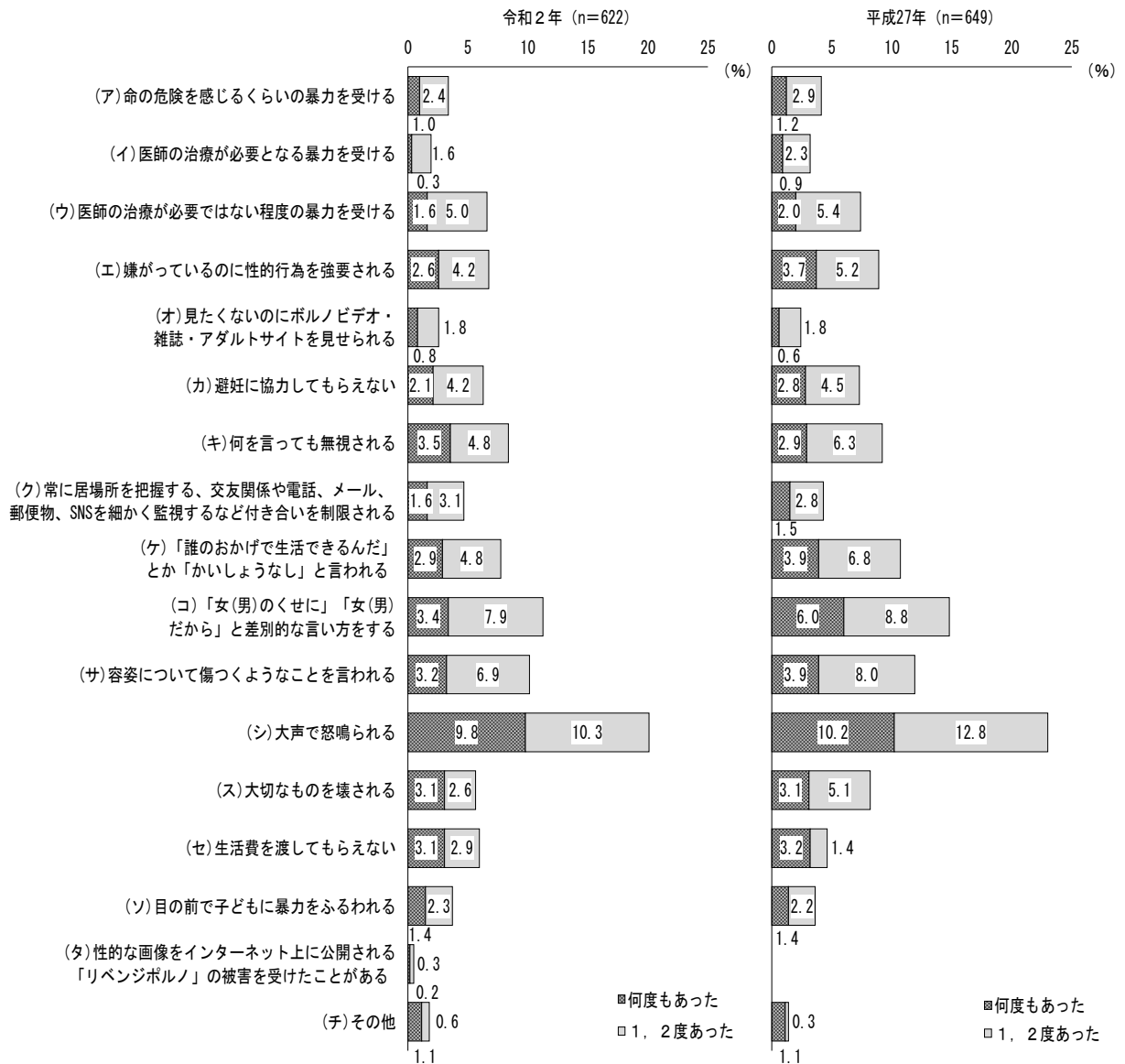


第3章 調査結果

【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、女性は16項目中4項目で平成27年調査よりも増えています。
 (図表8-1-18-①)

図表8-1-18-① ドメスティック・バイオレンスの経験（女性、平成27年調査）
 <暴力を受けた経験がある人の割合>



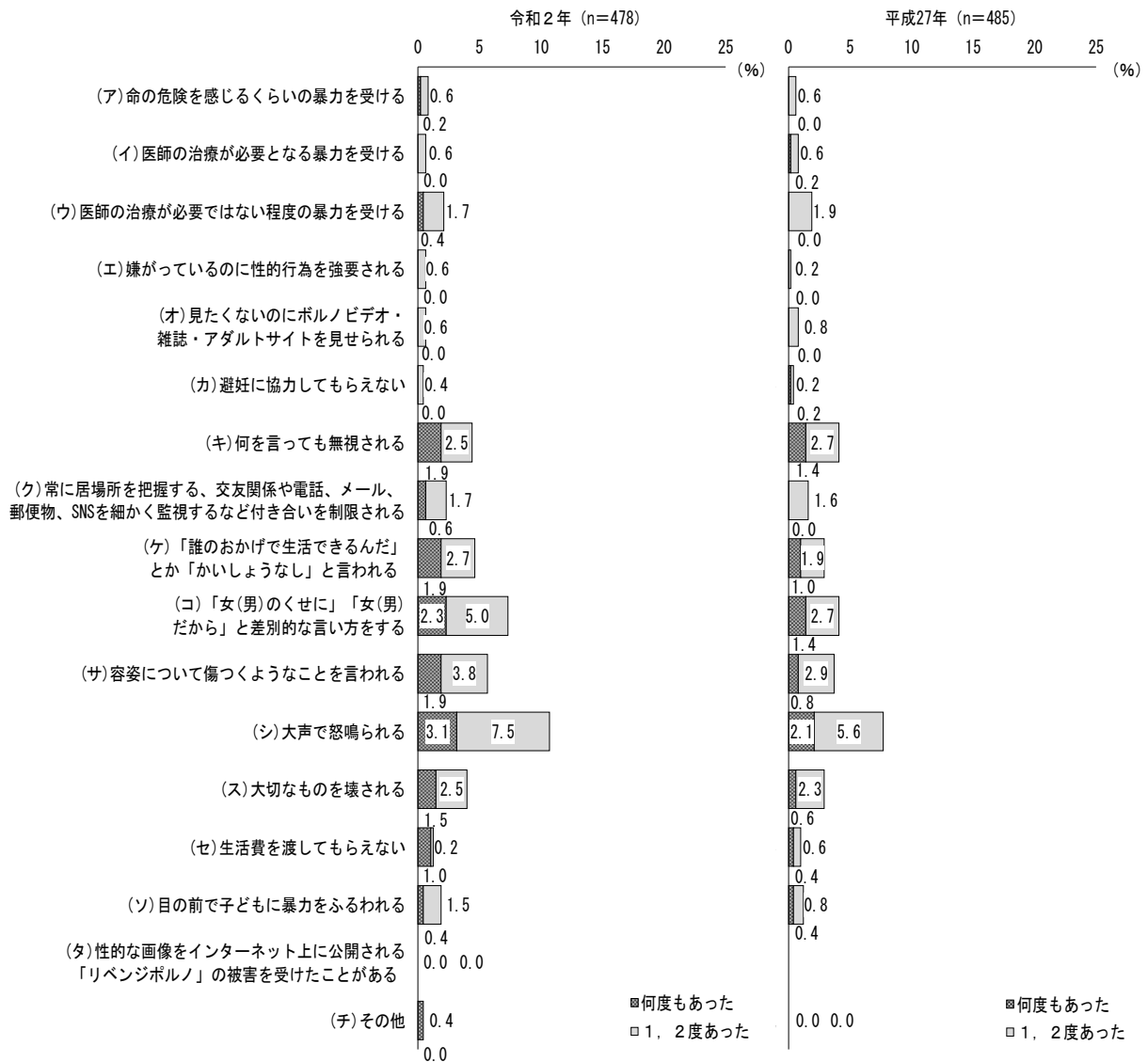
※平成27年調査では、(ク)「常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNSを細かく監視するなど付き合いを制限される」は「常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視するなどのつきまとい行為をされる」でたずねている。

※平成27年調査には、(タ)「性的な画像をインターネット上に公開される「リベンジポルノ」の被害を受けたことがある」はなし。

【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、男性は16項目中12項目で平成27年調査よりも増えています。特に『「女（男）のくせに」「女（男だから）」と差別的な言い方をされる』（令和2年調査：7.3%、平成27年調査：4.1%）は3.2ポイント増えています。（図表8-1-18-②）

図表8-1-18-② ドメスティック・バイオレンスの経験（男性、平成27年調査）
 <暴力を受けた経験がある人の割合>



※平成27年調査では、(ク)「常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNSを細かく監視するなど付き合いを制限される」は「常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物を細かく監視するなどのつきまとい行為をされる」でたずねている。
 ※平成27年調査には、(タ)「性的な画像をインターネット上に公開される「リベンジポルノ」の被害を受けたことがある」はなし。

第3章 調査結果

(2) 相談の有無

問17は、問16の(ア)～(チ)の「何度もあった」「1、2度あった」に、1つでも○をつけた方におうかがいします。
問17 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つだけ)

【全体】

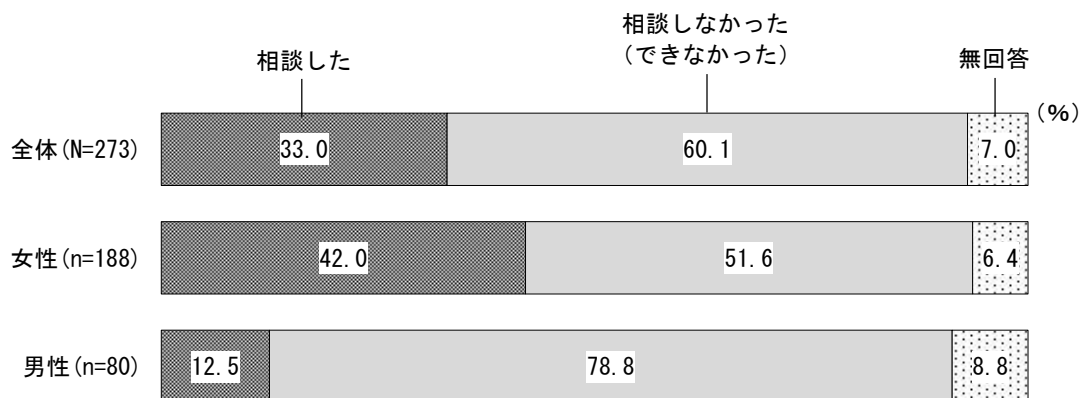
《暴力を受けた経験がある》と回答した人に、相談の有無をたずねました。

全体では、「相談した」が33.0%、「相談しなかった(できなかった)」が60.1%となっています。(図表8-2-1)

【性別】

性別にみると、「相談した」は女性が42.0%、男性が12.5%で、女性が男性を29.5ポイント上回っています。(図表8-2-1)

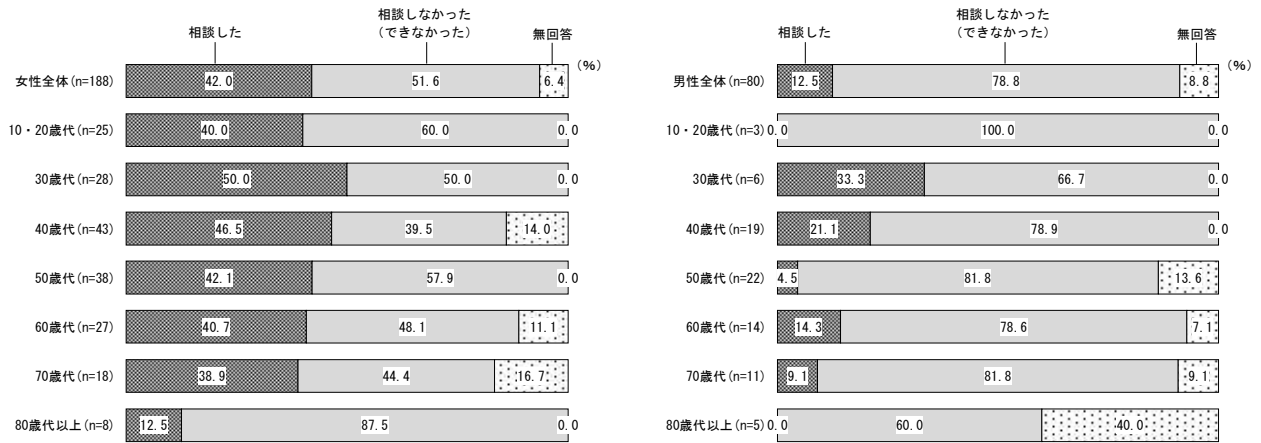
図表8-2-1 相談の有無(全体、性別)
＜暴力を受けた経験がある人＞



【性・年代別】

性・年代別にみると、「相談した」は女性の30歳代で50.0%、40歳代で46.5%となっています。(図表8-2-2)

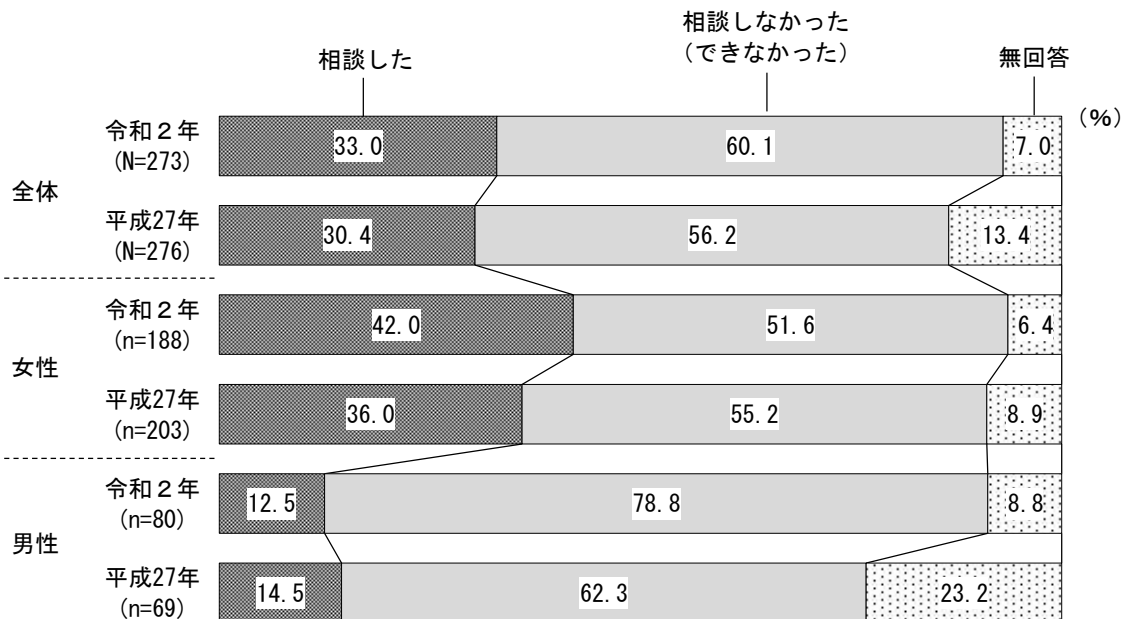
図表8-2-2 相談の有無（性・年代別）＜暴力を受けた経験がある人＞



【平成27年調査との比較】

「相談した」割合について平成27年調査と比較すると、女性（42.0%）は平成27年調査（36.0%）よりも6.0ポイント増えています。男性（12.5%）は平成27年調査（14.5%）よりも2.0ポイント減っています。(図表8-2-3)

図表8-2-3 相談の有無（全体、性別、平成27年調査）＜暴力を受けた経験がある人＞



第3章 調査結果

(3) 相談先

問17で「1. 相談した」とお答えの方に
問17-1 そのとき、だれ（どこ）に相談しましたか。（○はあてはまるものすべて）

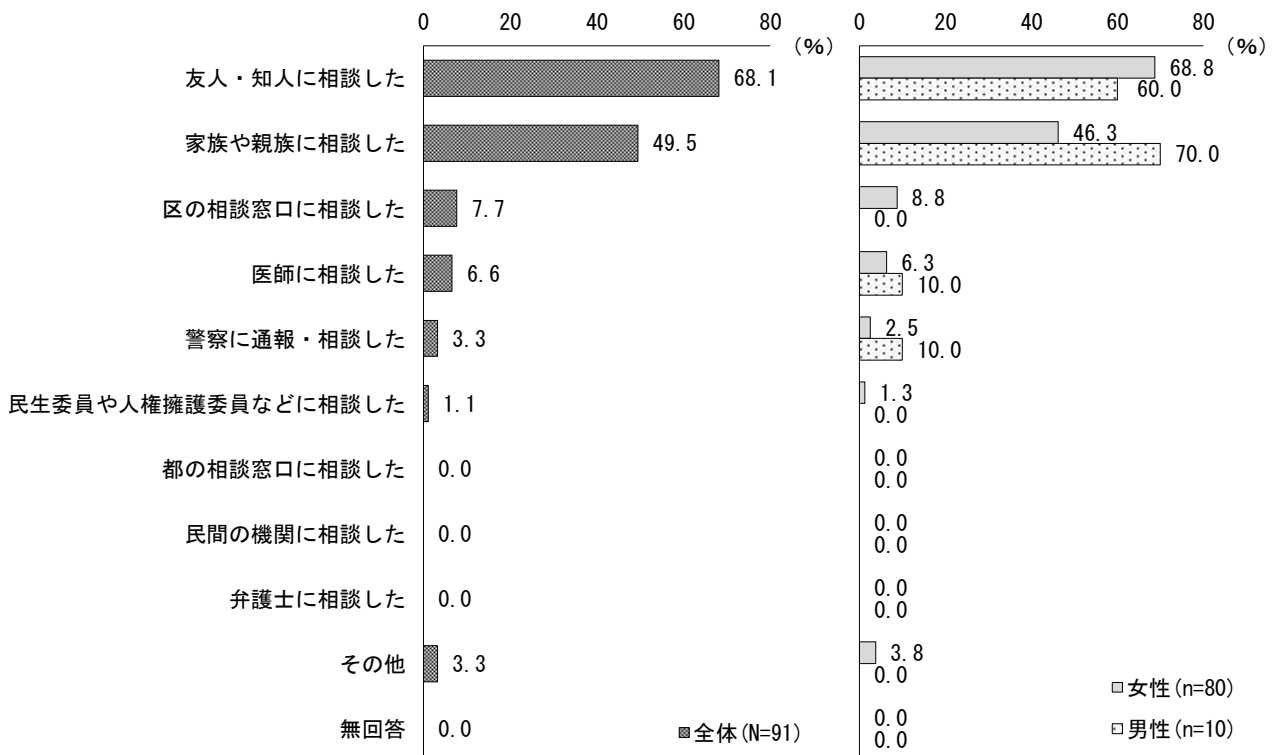
【全体】

暴力を受けたことを「相談した」と回答した人に、相談先をたずねました。
全体では、「友人・知人に相談した（68.1%）」が6割台で最も多く、「家族や親族に相談した（49.5%）」が4割台で続いています。（図表8-3-1）

【性別】

性別にみると、女性は「友人・知人に相談した（68.8%）」が最も多く、「家族や親族に相談した（46.3%）」が続いています。
男性は「家族や親族に相談した（70.0%）」が最も多く、「友人・知人に相談した（60.0%）」が続いています。（図表8-3-1）

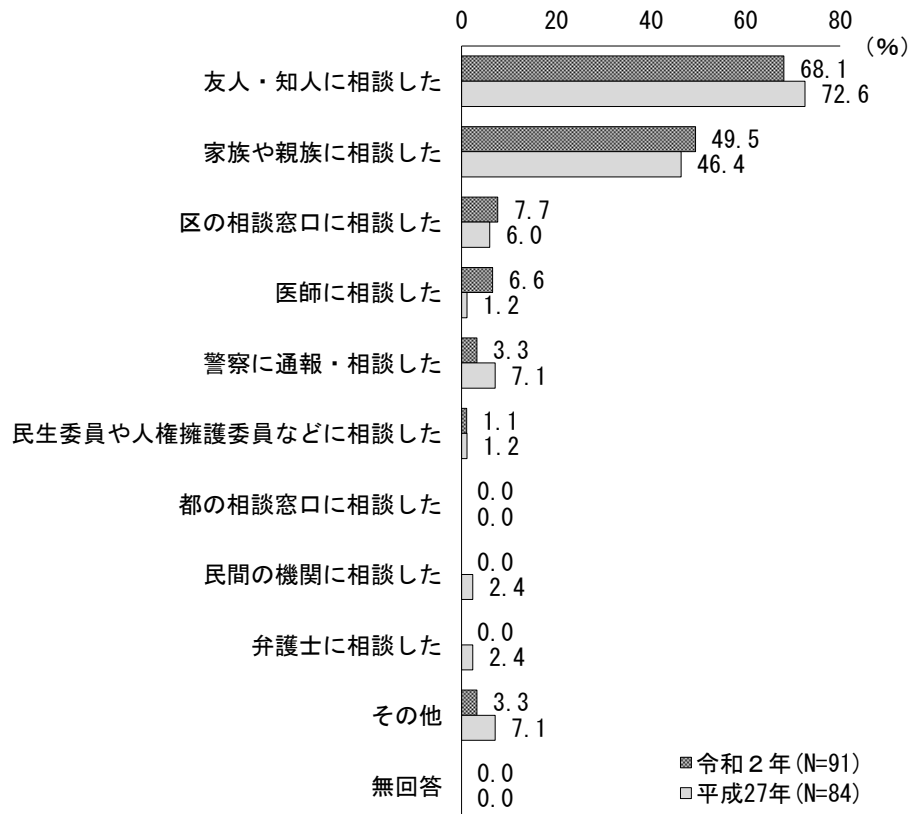
図表8-3-1 相談先（全体、性別：複数回答）
<ドメスティック・バイオレンスについて相談をしたことがある人>



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、1位「友人・知人に相談した（令和2年調査：68.1%、平成27年調査：72.6%）」、2位「家族に相談した（令和2年調査：49.5%、平成27年調査：46.4%）」の順位に変わりありませんが、「友人・知人に相談した」が4.5ポイント減り、「家族や親族に相談した」が3.1ポイント増えています。（図表8-3-2）

図表8-3-2 相談先（全体、平成27年調査：複数回答）
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談をしたことがある人>



※平成27年調査では、「家族や親族に相談した」は「家族に相談した」でたずねている。

第3章 調査結果

(4) 相談しなかった、できなかった理由

問17で「2. 相談しなかった（できなかった）」とお答えの方に
 問17-2 だれ（どこ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。
 （○はあてはまるものすべて）

【全体】

暴力を受けたことを「相談しなかった（できなかった）」と回答した人に、その理由をたずねました。

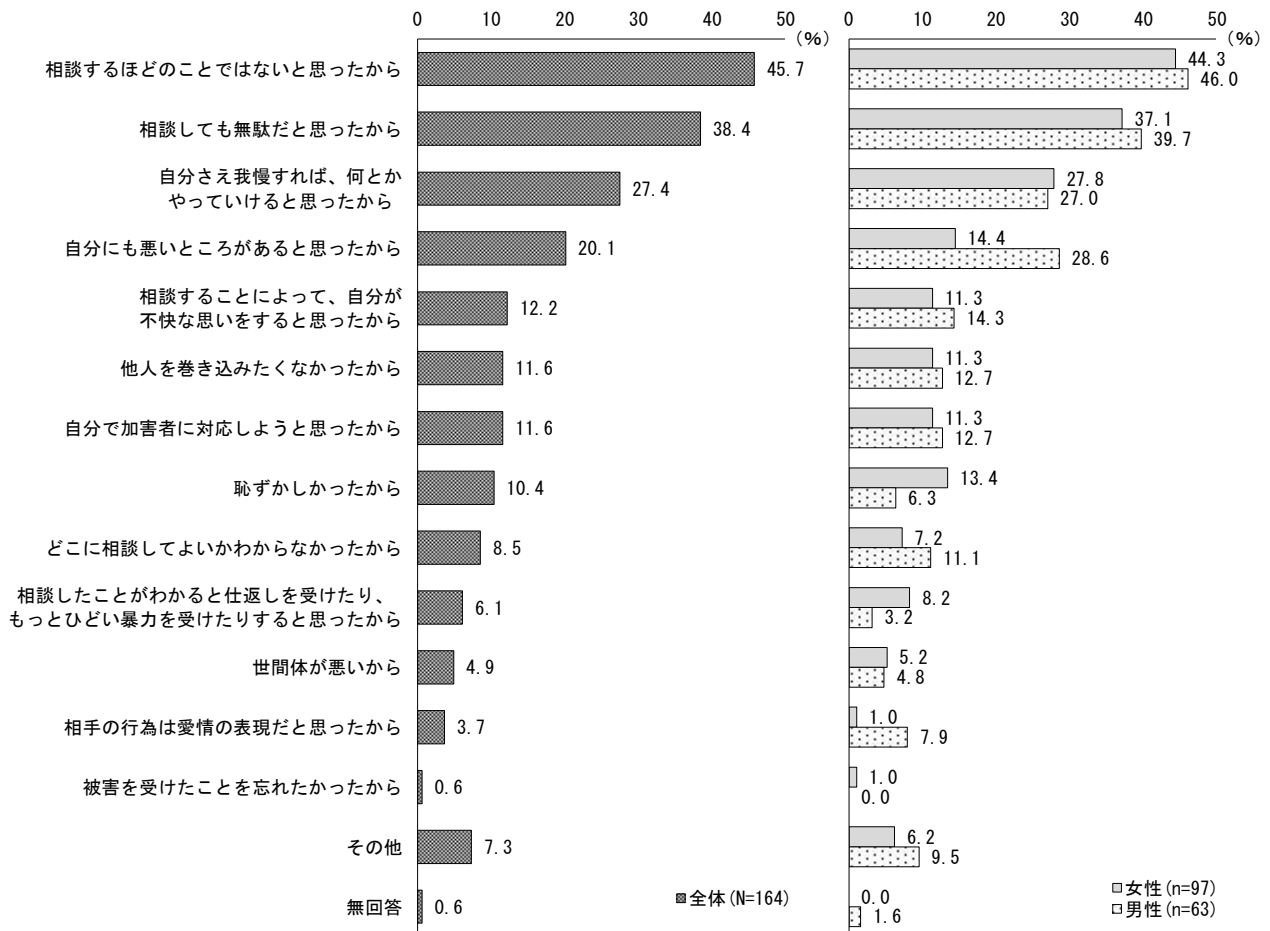
全体では、「相談するほどのことではないと思ったから（45.7%）」が最も多く、「相談しても無駄だと思ったから（38.4%）」、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから（27.4%）」、「自分にも悪いところがあると思ったから（20.1%）」が続いています。（図表 8-4-1）

【性別】

性別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから（女性：44.3%、男性：46.0%）」が最も多く、「相談しても無駄だと思ったから（女性：37.1%、男性39.7%）」が続いています。

男女の違いをみると、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから（女性：14.4%、男性：28.6%）」で女性を14.2ポイント上回っています。（図表 8-4-1）

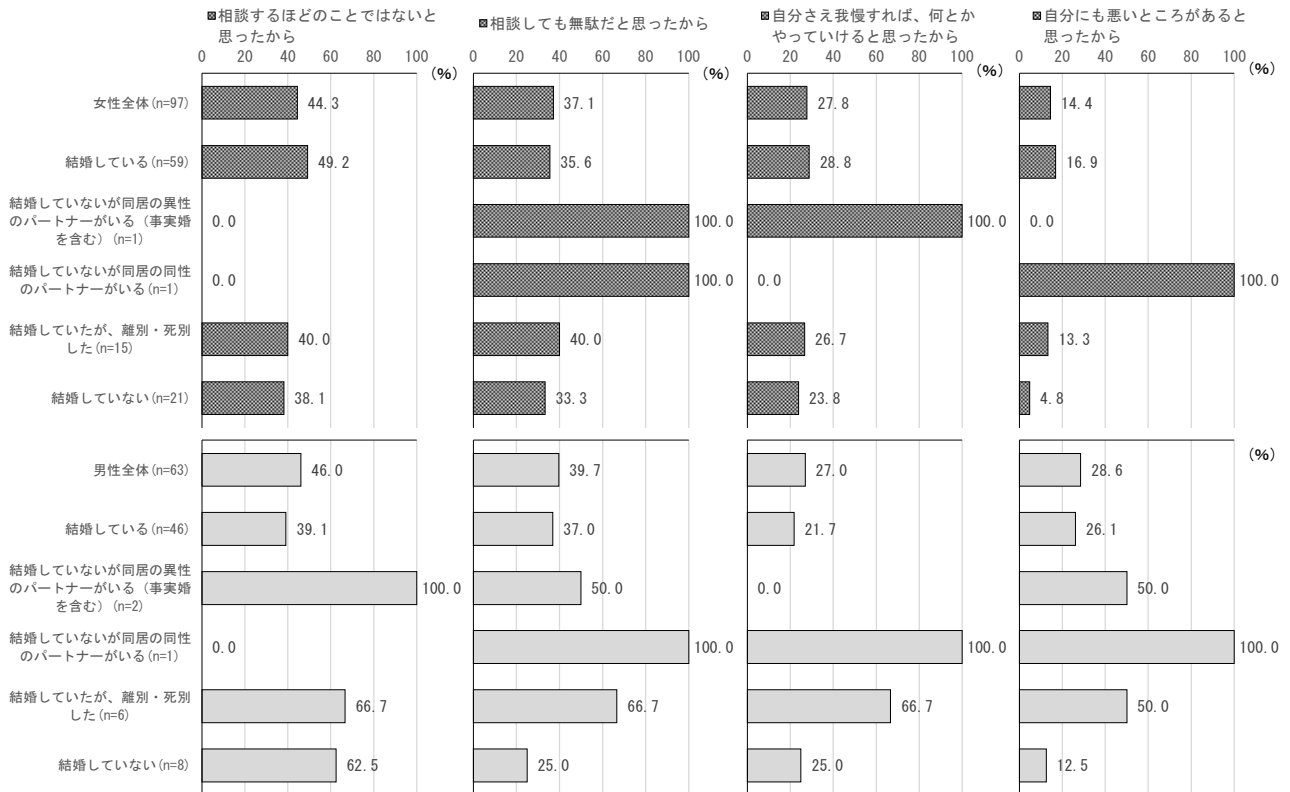
図表 8-4-1 相談しなかった、できなかった理由（全体、性別：複数回答）
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった（できなかった）人>



【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、男女ともに既婚で「相談するほどのことではないと思ったから」がそれぞれ49.2%、39.1%となっています。(図表8-4-2)

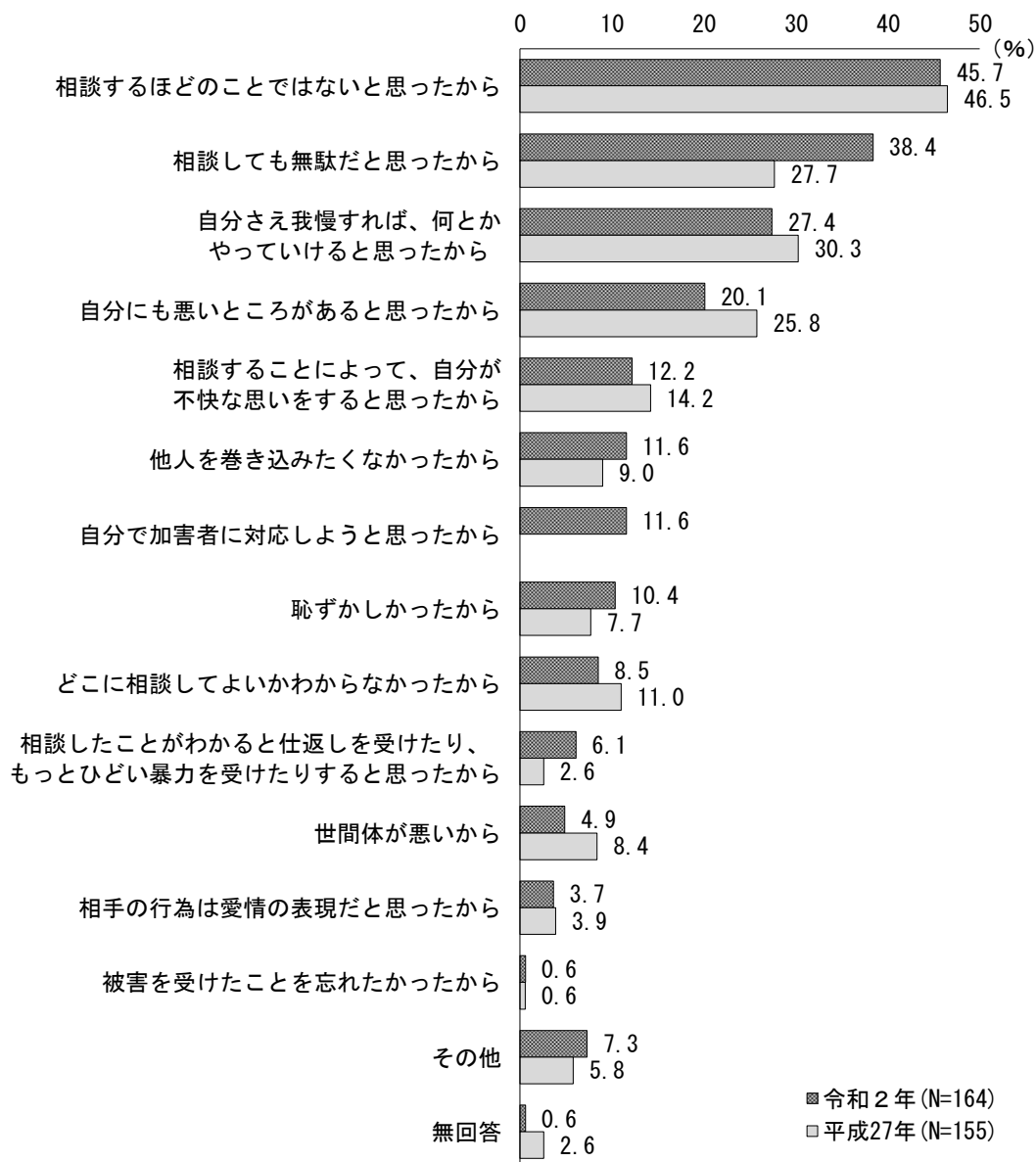
図表8-4-2 相談しなかった、できなかった理由（性・未既婚別、上位4項目：複数回答）
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった（できなかった）人>



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから（38.4%）」が10.7ポイント増えて、2位にあがっています。（図表8-4-3）

図表8-4-3 相談しなかった、できなかった理由（全体、平成27年調査：複数回答）
 <ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった（できなかった）人>



※平成27年調査には、「自分で加害者に対応しようと思ったから」はなし。

(5) ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策

問18 あなたは、ドメスティック・バイオレンスの防止および被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

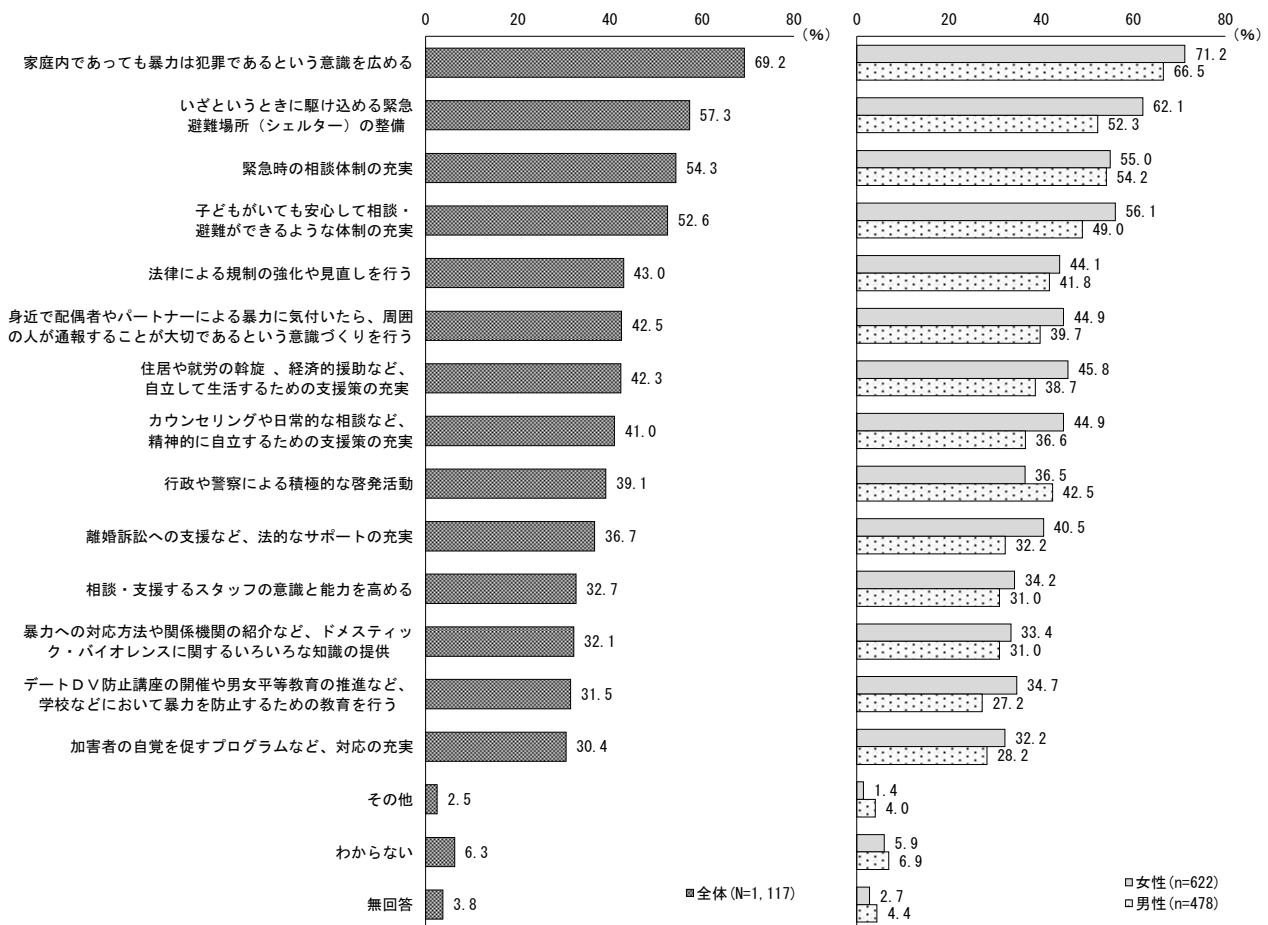
【全体】

全体では、「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める (69.2%)」が最も多く、「いざというときに駆け込める緊急避難場所 (シェルター) の整備 (57.3%)」、「緊急時の相談体制の充実 (54.3%)」、「子どもがいても安心して相談・避難ができるような体制の充実 (52.6%)」が続いています。(図表 8-5-1)

【性別】

性別にみると、男女ともに「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める (女性：71.2%、男性：66.5%)」が最も多くなっています。男女の違いをみると、女性は「いざというときに駆け込める緊急避難場所 (シェルター) の整備 (女性：62.1%、男性：52.3%)」で男性を9.8ポイント上回っています。(図表 8-5-1)

図表 8-5-1 ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策 (全体、性別：複数回答)

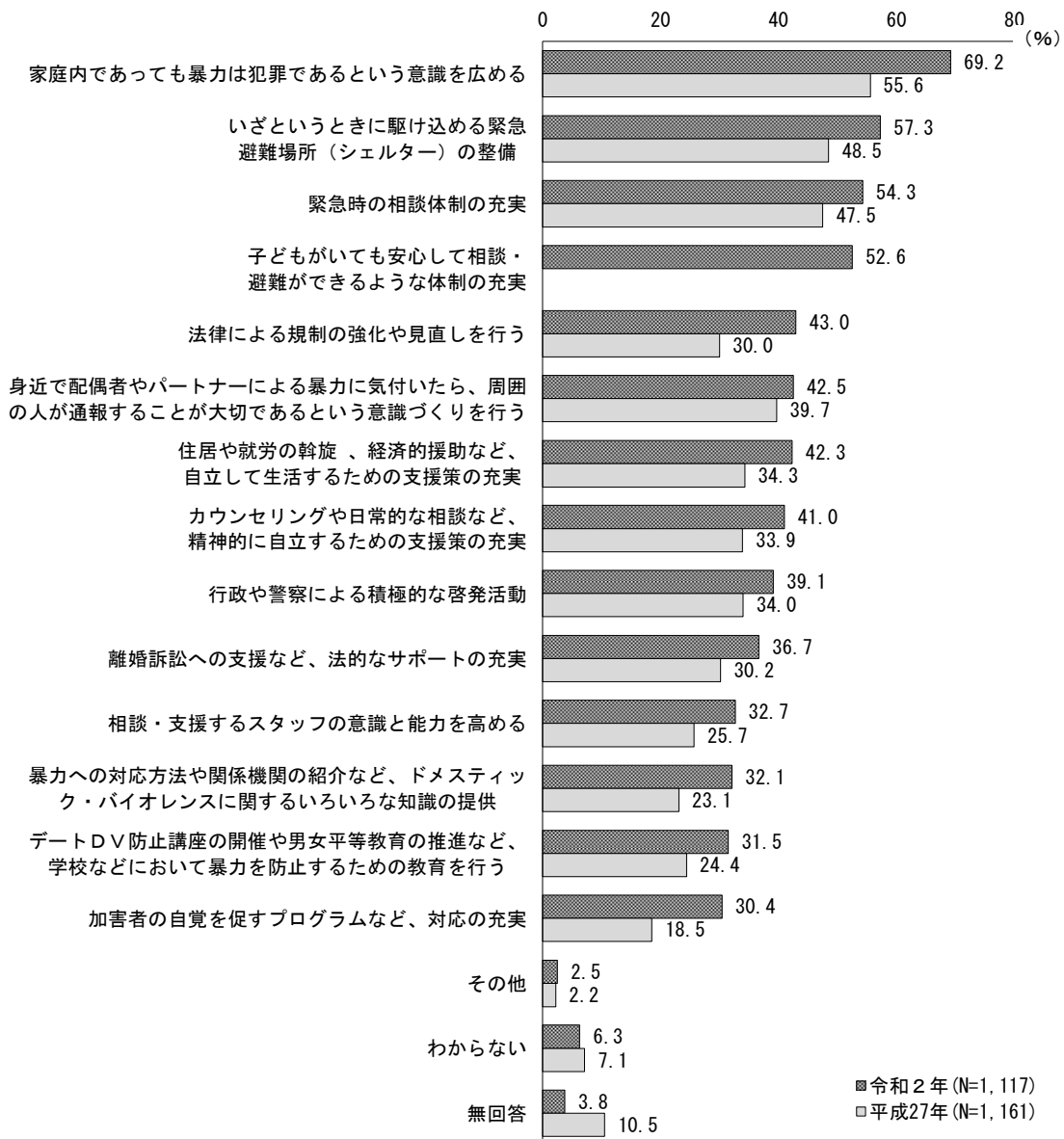


【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、令和2年調査、平成27年調査ともに「家庭内であっても暴力は犯罪であるという意識を広める」が最も多くなっており、令和2年調査（69.2%）は、平成27年調査（55.6%）から13.6ポイント増えています。

また、その他の項目についても平成27年調査より割合が増えています。（図表8-5-3）

図表8-5-3 ドメスティック・バイオレンスの防止及び被害者支援のために必要な対策（全体、平成27年調査：複数回答）



※平成27年調査では、「加害者の自覚を促すプログラムなど、対応の充実」は「加害者向けプログラムなど、対応の充実」でたずねている。

※平成27年調査には、「子どもがいても安心して相談・避難ができるような体制の充実」はなし。

9 性の表現

(1) 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識

問 19 テレビ、ビデオ、インターネット、映画、新聞、雑誌、広告などのメディアでの固定的な性別役割分担の表現や、女性に対する暴力、身体、性の表現について、あなたは日頃どのように感じていますか。(○はあてはまるものすべて)

【全体】

全体では、「子どもの目にふれないような配慮が足りない (29.0%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する (22.9%)」、「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている (22.6%)」、「女性の性を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ (20.7%)」が続いています。(図表 9-1-1)

【性別】

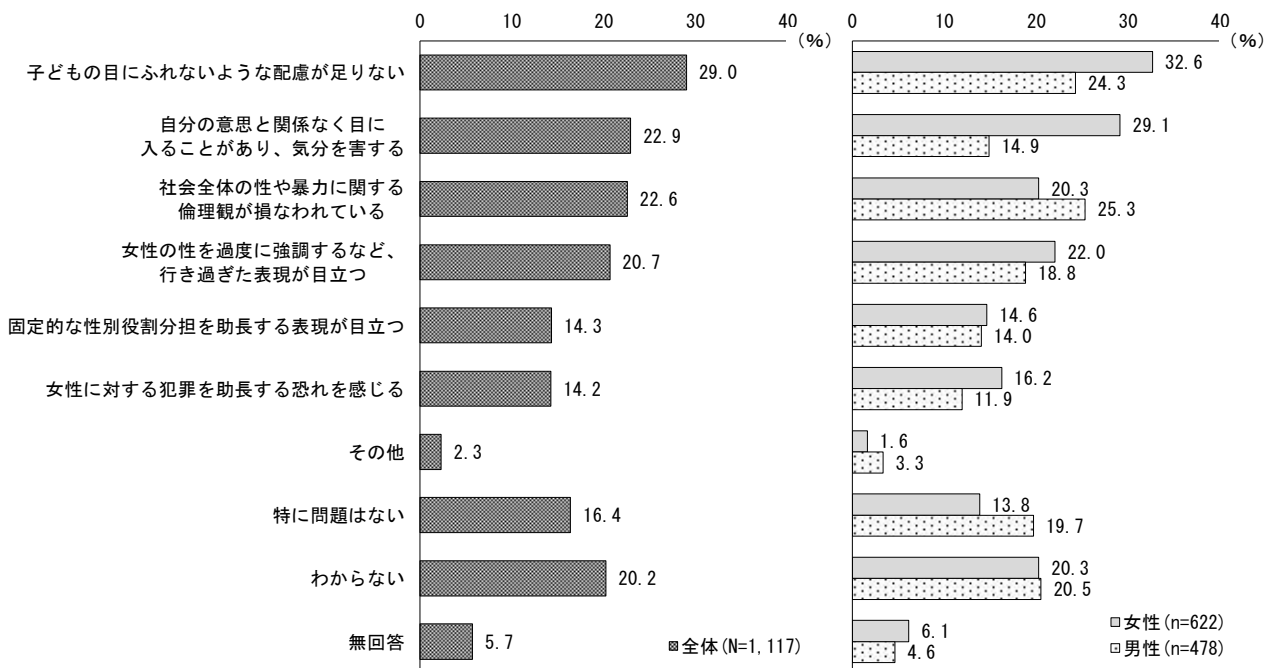
性別にみると、女性は「子どもの目にふれないような配慮が足りない (32.6%)」が最も多く、「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する (29.1%)」「女性の性を過度に強調するなど行き過ぎた表現が目立つ (22.0%)」が続いています。

男性は「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている (25.3%)」が最も多く、「子どもの目にふれないような配慮が足りない (24.3%)」が続いています。

男女の違いをみると、女性は「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する (女性：29.1%、男性：14.9%)」で男性を 14.2 ポイント上回っています。

男性は「特に問題はない (女性：13.8%、男性：19.7%)」で女性を 5.9 ポイント上回っています。(図表 9-1-1)

図表 9-1-1 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識 (全体、性別：複数回答)

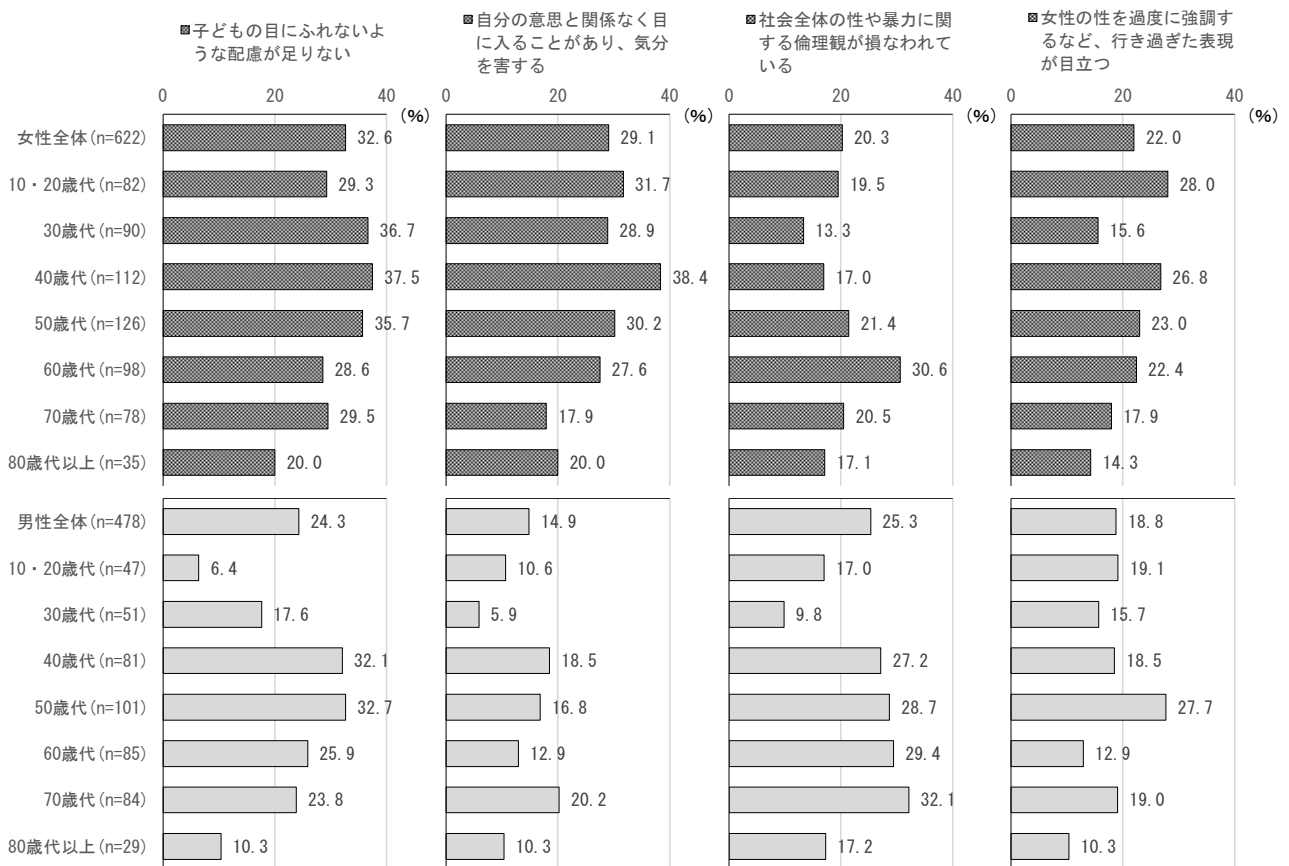


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は40歳代で「自分の意思と関係なく目に入ることがあり、気分を害する（38.4%）」、60歳代で「社会全体の性や暴力に関する倫理感が損なわれている（30.6%）」が他の年代に比べて多くなっています。

男性は50歳代で「女性の性を過度に強調するなど行き過ぎた表現が目立つ（27.7%）」が他の年代に比べて多くなっています。（図表9-1-2）

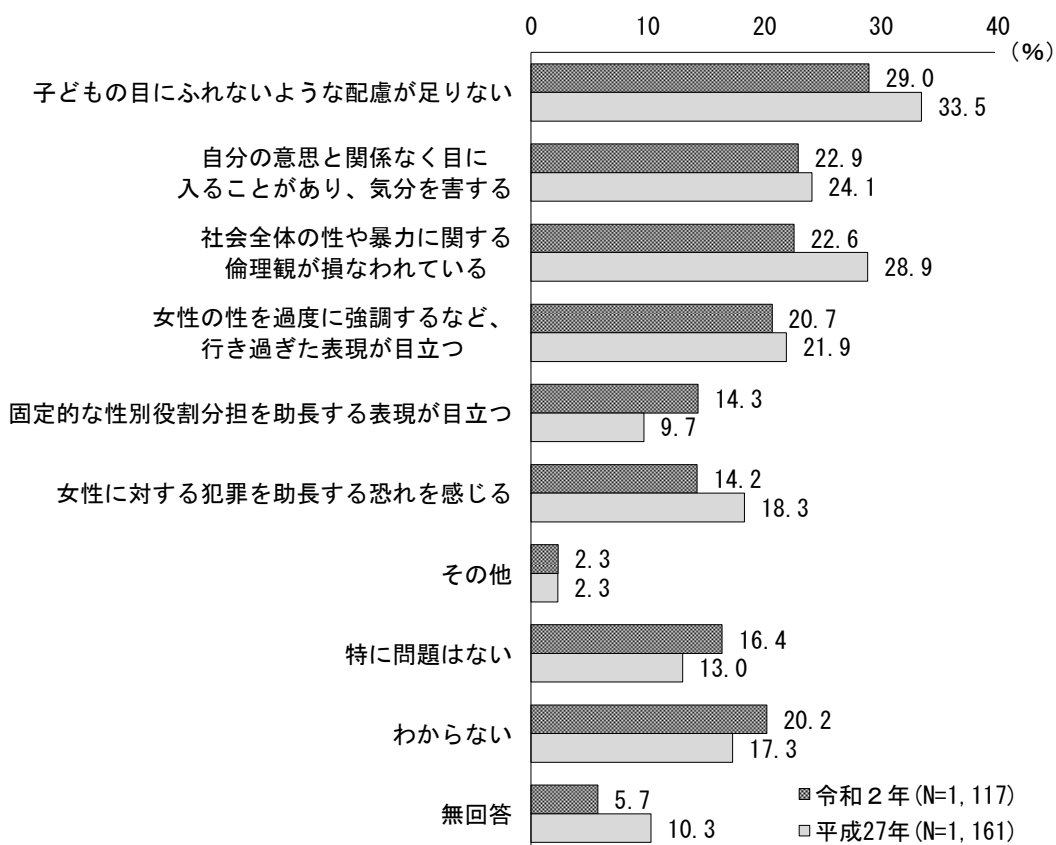
図表9-1-2 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識
（性・年代別、上位4項目：複数回答）



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、「社会全体の性や暴力に関する倫理観が損なわれている（令和2年調査：22.6%、平成27年調査：28.9%）」、「子どもの目にふれないような配慮が足りない（令和2年調査：29.0%、平成27年調査：33.5%）」は、平成27年調査に比べてそれぞれ6.3ポイント、4.5ポイント減っていますが、「固定的な性別役割分担を助長する表現が目立つ（令和2年調査：14.3%、平成27年調査9.7%）」は、4.6ポイント増えています。（図表9-1-3）

図表9-1-3 性別役割分担や性・暴力等の表現についての意識
（全体、平成27年調査：複数回答）



10 性の多様性

(1) 性自認について悩んだことの有無

問 20 あなたは今まで自分の性別について悩んだことはありますか。(○は1つだけ)

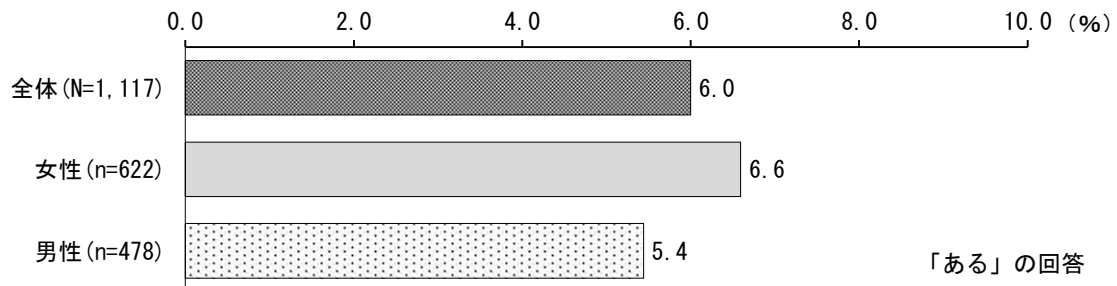
【全体】

全体では、「ある」が6.0%、「ない」が88.8%となっています。(図表 10-1-1)

【性別】

性別にみると、「ある」は女性が6.6%、男性が5.4%となっています。(図表 10-1-1)

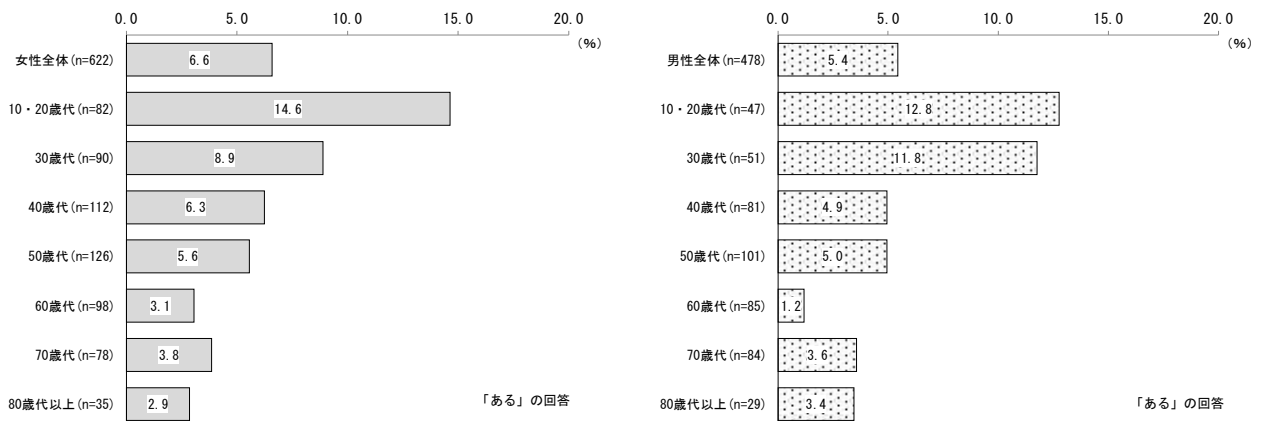
図表 10-1-1 性自認について悩んだことの有無 (全体、性別)



【性・年代別】

性・年代別にみると、「ある」は女性の10・20歳代で14.6%、男性の10・20歳代で12.8%、30歳代で11.8%となっています。(図表 10-1-2)

図表 10-1-2 性自認について悩んだことの有無 (性・年代別)



問20で「1. ある」とお答えの方に
問20-1 どのようなことで悩みましたか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

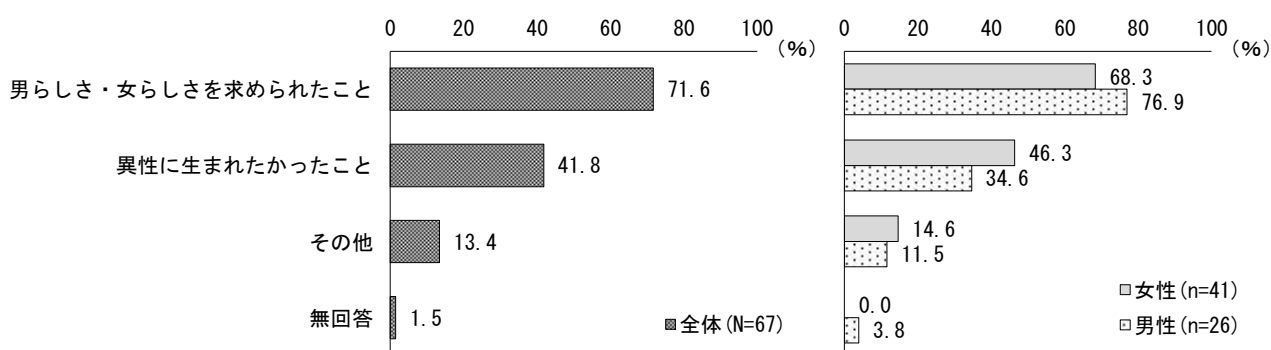
全体では、「男らしさ・女らしさを求められたこと」が71.6%、「異性に生まれたかったこと」が41.8%となっています。(図表10-1-3)

【性別】

性別にみると、女性は「男らしさ・女らしさを求められたこと」が68.3%、「異性に生まれたかったこと」が46.3%となっています。

男性は「男らしさ・女らしさを求められたこと」が76.9%、「異性に生まれたかったこと」が34.6%となっています。(図表10-1-3)

図表 10-1-3 性自認について悩んだ内容（全体、性別）



(2) LGBTの認知状況

問 21 あなたはLGBTという言葉をご存じですか。(〇は1つだけ)

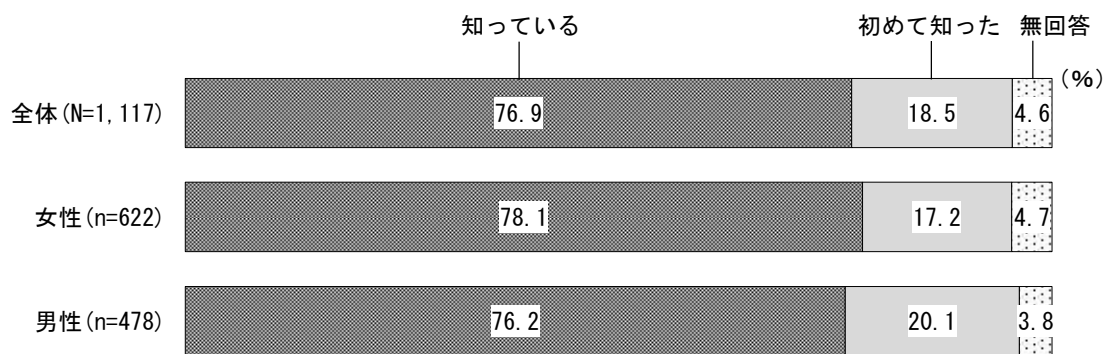
【全体】

全体では、「知っている」が76.9%、「初めて知った」が18.5%となっています。(図表 10-2-1)

【性別】

性別にみると、「知っている」は女性が78.1%、男性が76.2%となっています。(図表 10-2-1)

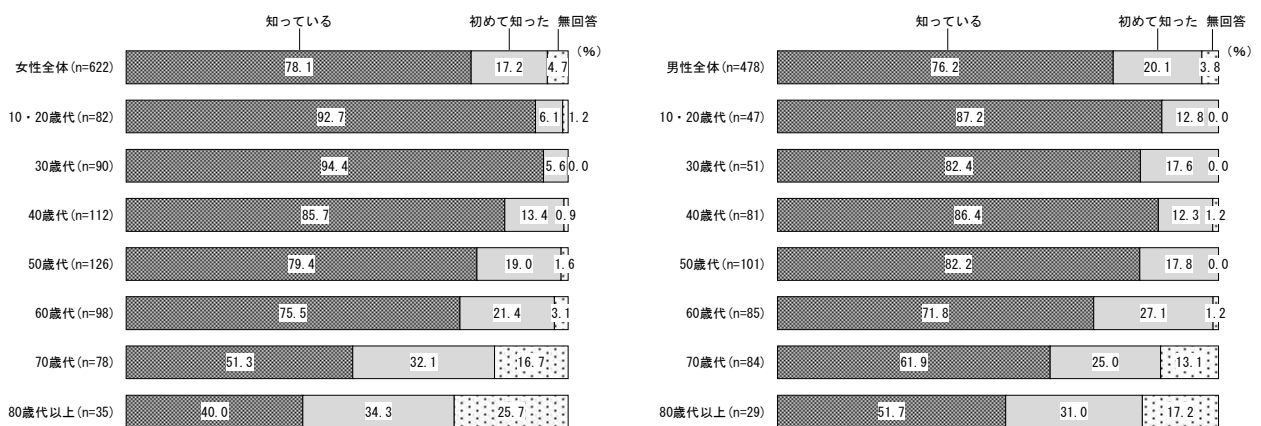
図表 10-2-1 LGBTの認知状況 (全体、性別)



【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の10・20歳代と30歳代で「知っている」が9割を超えています。男性は10・20歳代から50歳代で「知っている」が8割を超えています。(図表 10-2-2)

図表 10-2-2 LGBTの認知状況 (性・年代別)



11 健康

(1) 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと

問 22 あなたは、性や妊娠・出産に関して自分で決め、女性が自分の健康を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

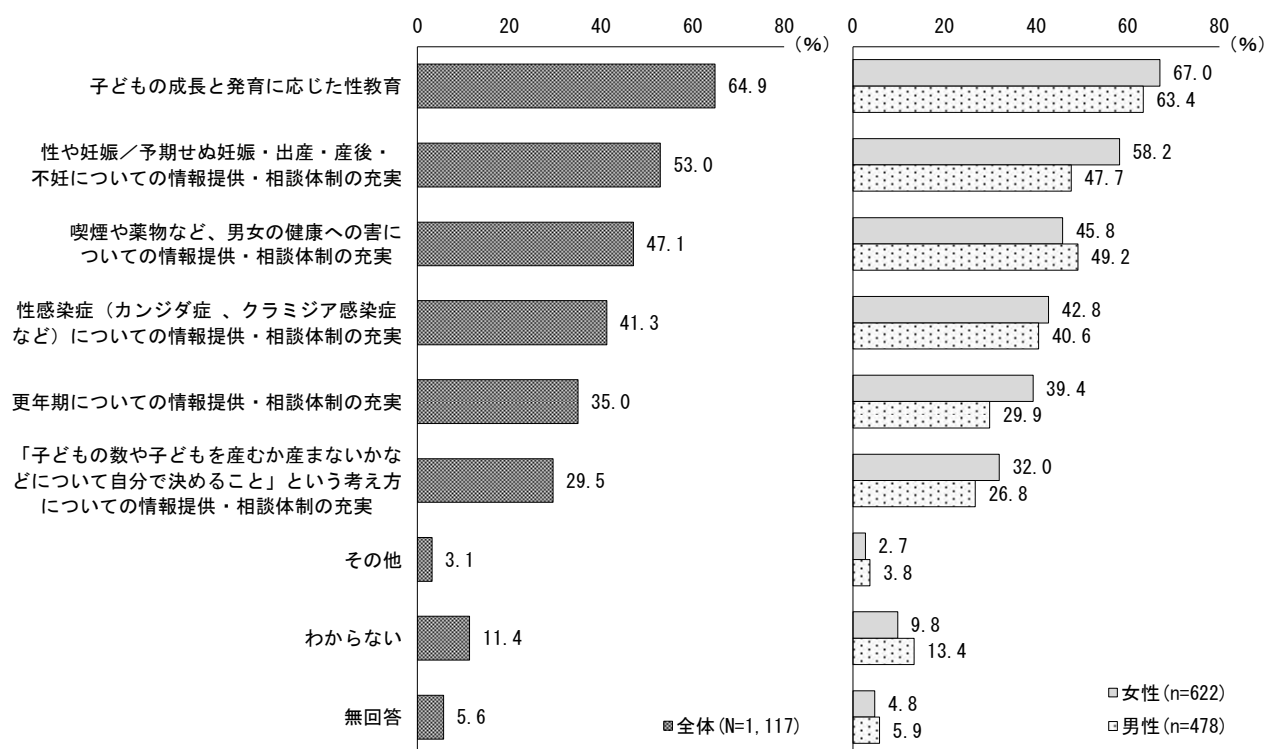
【全体】

全体では、「子どもの成長と発育に応じた性教育 (64.9%)」が最も多く、「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実 (53.0%)」、「喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実 (47.1%)」が続いています。(図表 11-1-1)

【性別】

性別にみると、女性は「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実 (女性：58.2%、男性：47.7%)」、「更年期についての情報提供・相談体制の充実 (女性：39.4%、男性：29.9%)」で男性をそれぞれ 10.5 ポイント、9.5 ポイント上回っています。(図表 11-1-1)

図表 11-1-1 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと (全体、性別：複数回答)

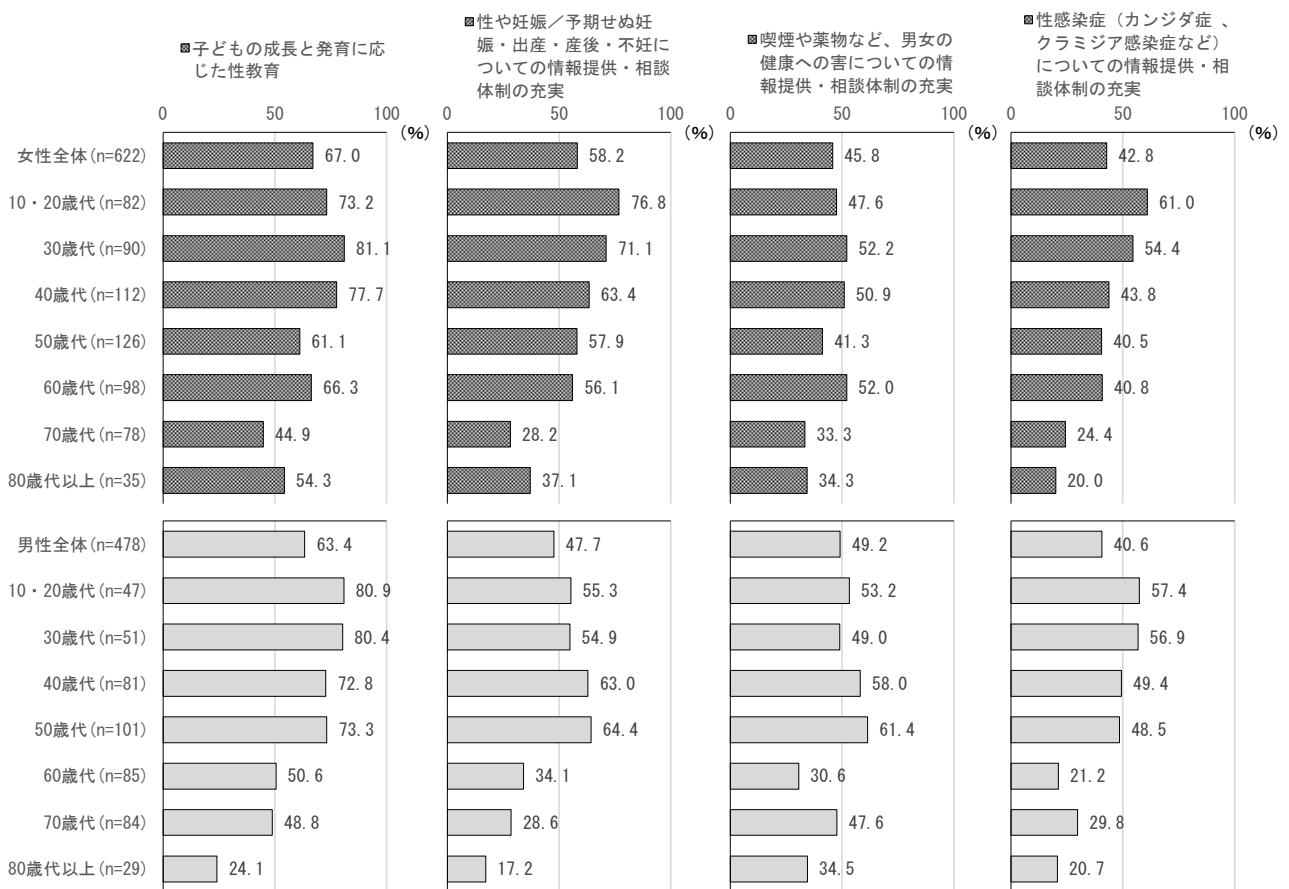


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代で「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実」、30歳代で「子どもの成長と発育に応じた性教育」がそれぞれ7割台、8割台と他の年代に比べて多くなっています。

男性は10・20歳代と30歳代で「子どもの成長と発育に応じた性教育」が8割台と他の年代に比べて多くなっています。(図表 11-1-2)

図表 11-1-2 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと
(性・年代別、上位4項目：複数回答)

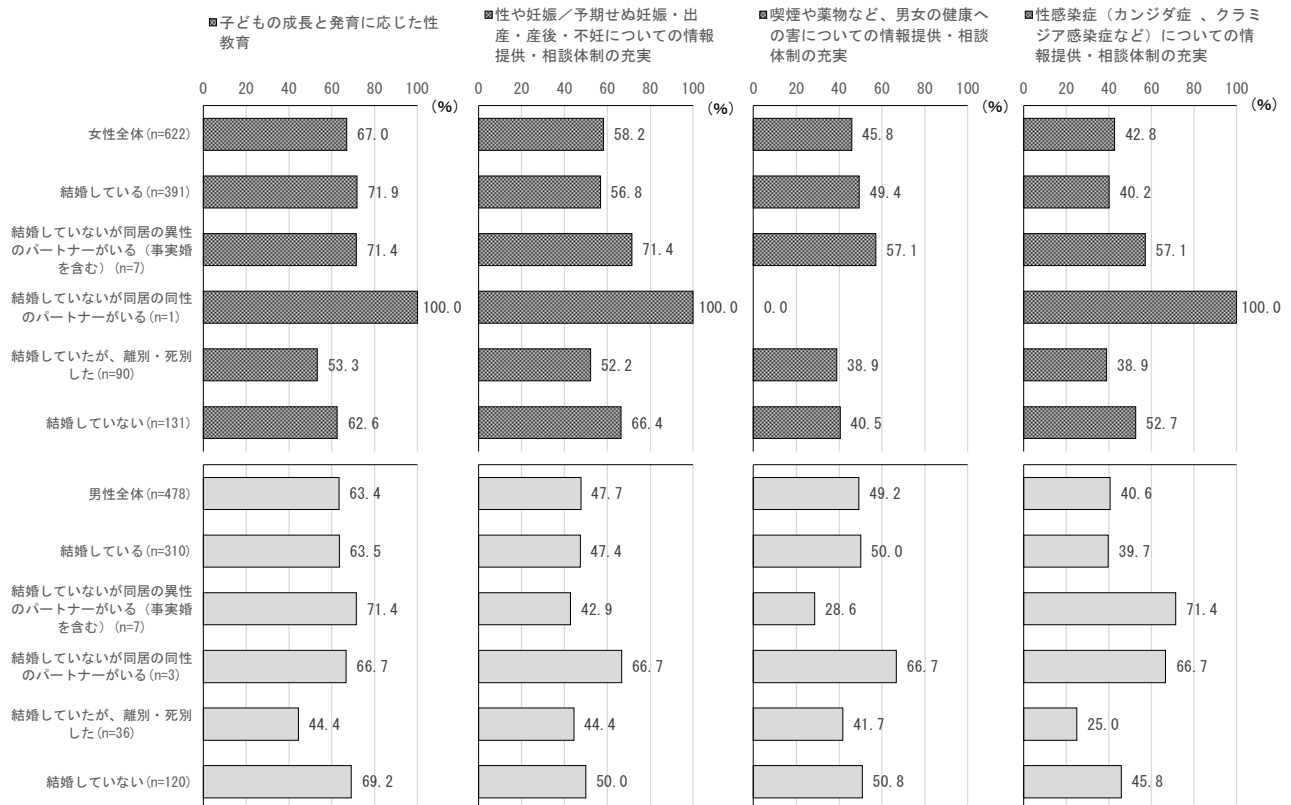


第3章 調査結果

【性・未既婚別】

性・未既婚別にみると、男女ともに既婚は「子どもの成長と発育に応じた性教育」が他に比べて多くなっています。女性の未婚は「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実」が、男性の未婚は「子どもの成長と発育に応じた性教育」が他に比べて多くなっています。(図表 11-1-3)

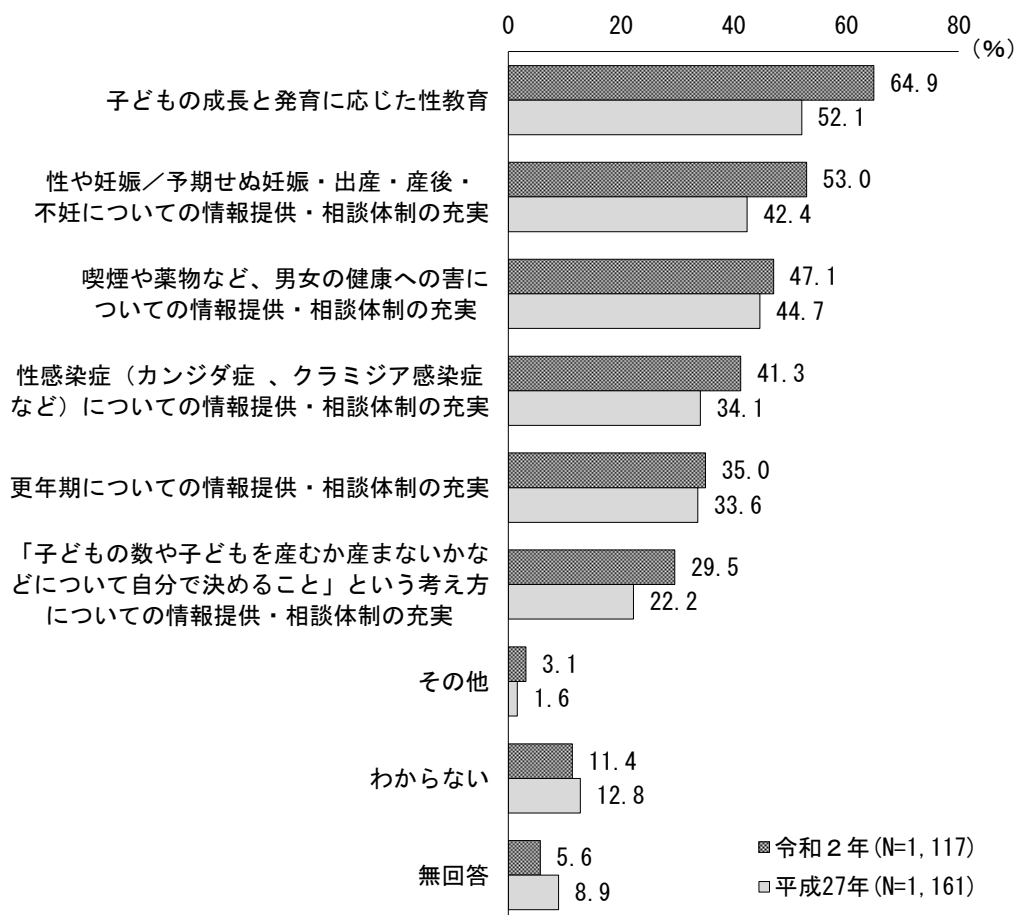
図表 11-1-3 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと
(性・未既婚別、上位4項目：複数回答)



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、すべての項目において平成27年調査より割合が増えています。
(図表 11-1-4)

図表 11-1-4 性や妊娠・出産に関して女性が決めるうえで必要なこと
(全体、平成27年調査：複数回答)



※平成27年調査では、「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実」は「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」でたずねている。

12 学校教育

(1) 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと

問 23 あなたは男女平等の社会を実現するためには、学校教育の場では特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

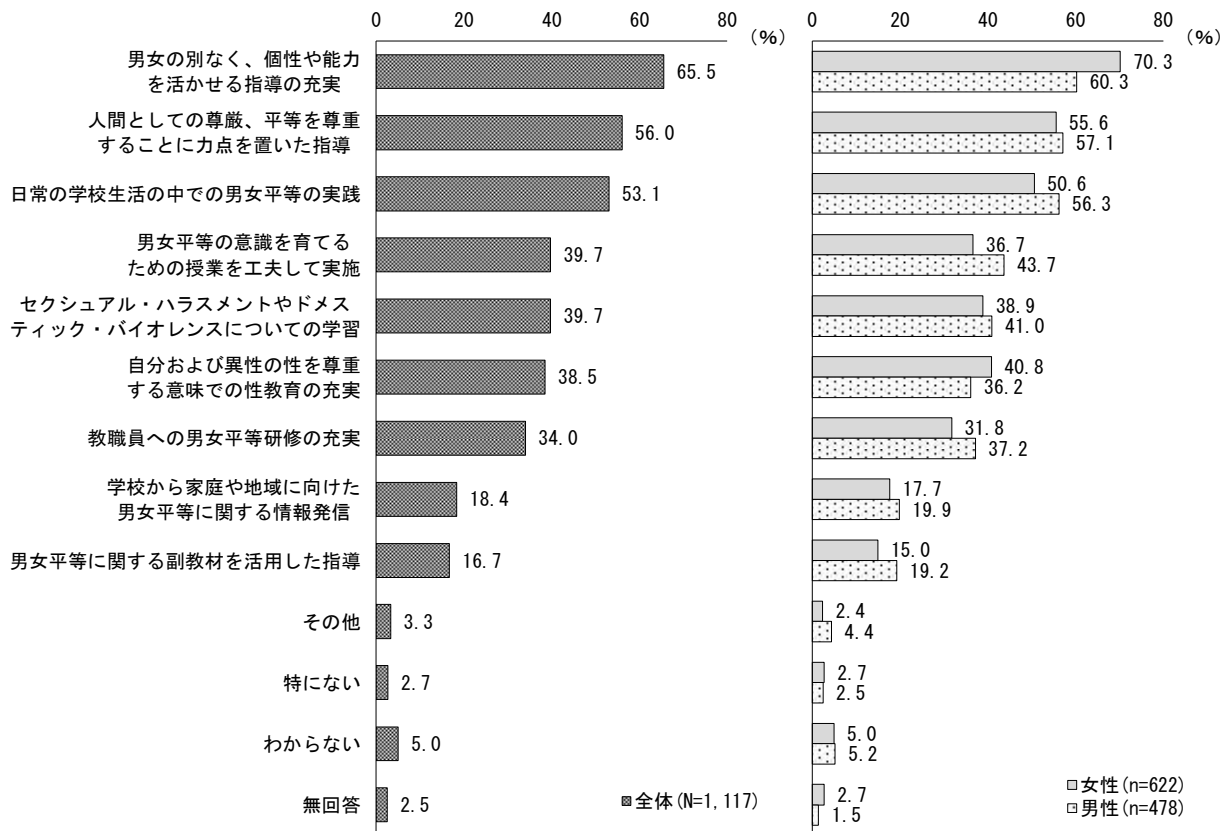
【全体】

全体では、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実 (65.5%)」が最も多く、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導 (56.0%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践 (53.1%)」、「男女平等の意識を育てるための授業を工夫して実施 (39.7%)」「セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについての学習 (39.7%)」が続いています。(図表 12-1-1)

【性別】

性別にみると、男女ともに「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実 (女性：70.3%、男性：60.3%)」が最も多く、「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導 (女性：55.6%、男性：57.1%)」、「日常の学校生活の中での男女平等の実践 (女性：50.6%、男性：56.3%)」が続いています。(図表 12-1-1)

図表 12-1-1 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと
(全体、性別：複数回答)

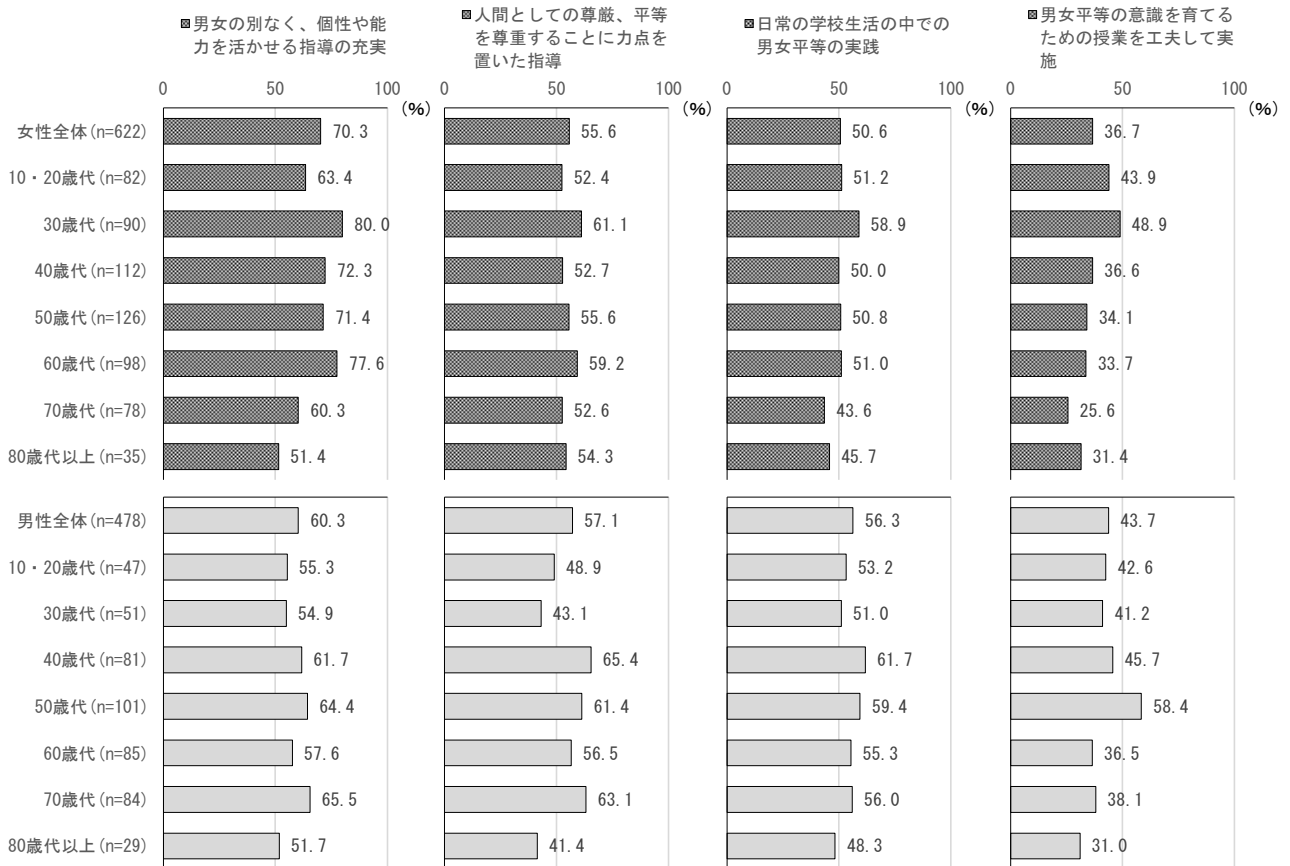


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は30歳代で「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実(80.0%)」が他の年代に比べて多くなっています。(図表12-1-2)

男性は50歳代で「男女平等の意識を育てるための授業を工夫して実施(58.4%)」が他の年代に比べて多くなっています。

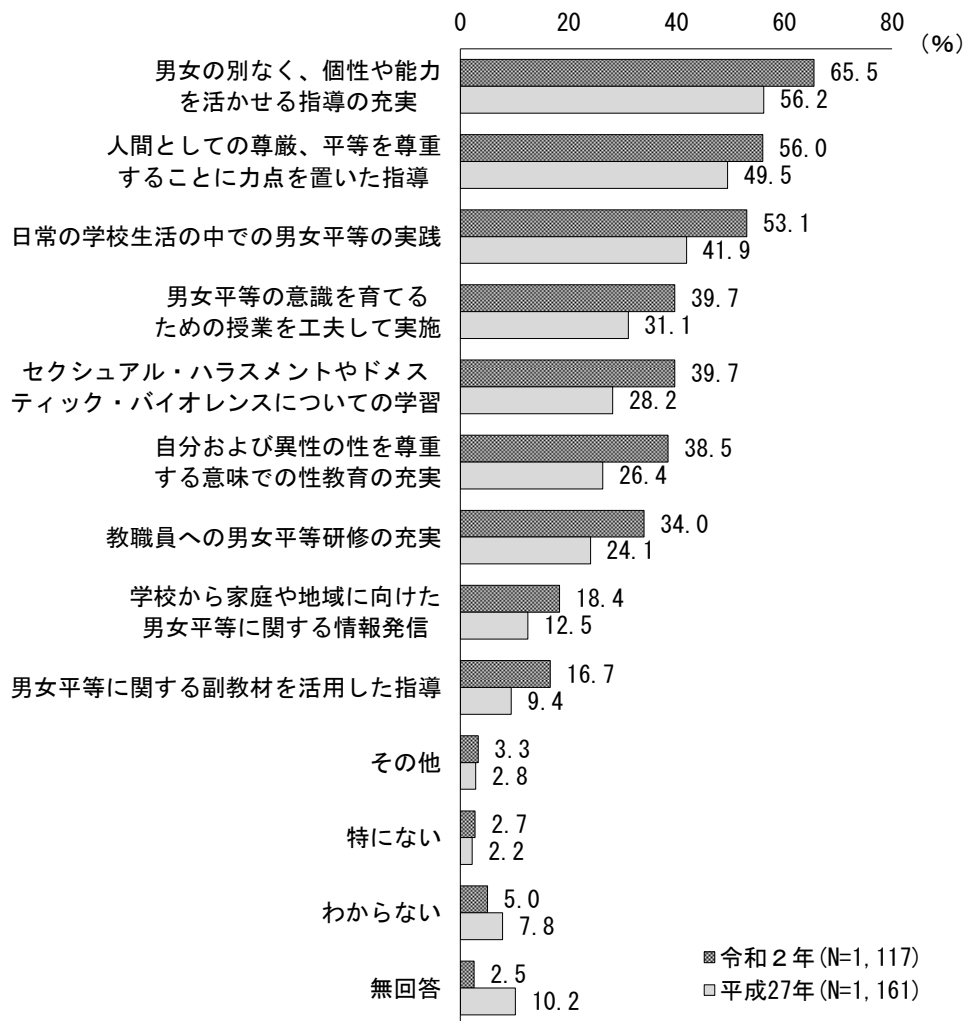
図表 12-1-2 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと
(性・年代別、上位4項目：複数回答)



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、すべての項目において平成27年調査よりも増えています。
(図表 12-1-3)

図表 12-1-3 男女平等社会実現のために、学校教育の場で力を入れるべきこと
(全体、平成27年調査：複数回答)



13 女性の社会参画

(1) 区議会議員等に占める女性議員数の評価

問 24 葛飾区では、区の施策に女性の意見が十分に反映されるよう、審議会などの施策・方針決定過程への女性の参画を推進しております。そのため、「葛飾区男女平等推進計画（第5次）」（平成29年度～令和3年度）の計画期間中に審議会などへの女性の参画率を、令和3年度末に32%以上とすることを目標としています。現在、区議会議員の中に占める女性議員の数は38人中11人（28.9%）、審議会などの女性委員は966人中280人（29.0%）となっています。あなたは、この状況をどのように思いますか。（○は1つだけ）

【全体】

全体では、「もう少し女性が増えたほうがよい（33.2%）」が最も多く、「男女半々くらいまで増えたほうがよい（31.8%）」が続いています。

「もう少し女性が増えたほうがよい」と「男女半々くらいまで増えたほうがよい」と「男性を上回るほど女性が増えたほうがよい」をあわせた《増加肯定》は、67.3%となっています。

（図表 13-1-1）

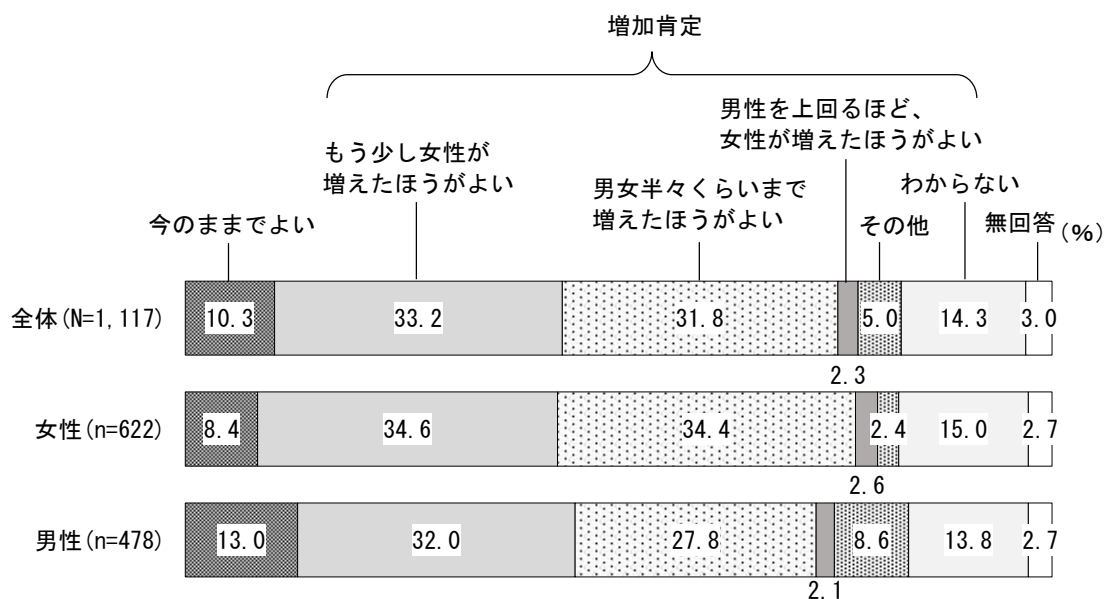
【性別】

性別にみると、女性は「男女半々くらいまで増えたほうがよい（女性：34.4%、男性：27.8%）」で男性を6.6ポイント、「もう少し女性が増えたほうがよい（女性：34.6%、男性：32.0%）」で男性を2.6ポイント上回っています。

男性は「今のままでよい（女性：8.4%、男性：13.0%）」で女性を4.6ポイント上回っています。

《増加肯定》は女性（71.6%）が男性（61.9%）を9.7ポイント上回っています。（図表 13-1-1）

図表 13-1-1 区議会議員等に占める女性議員数の評価（全体、性別）

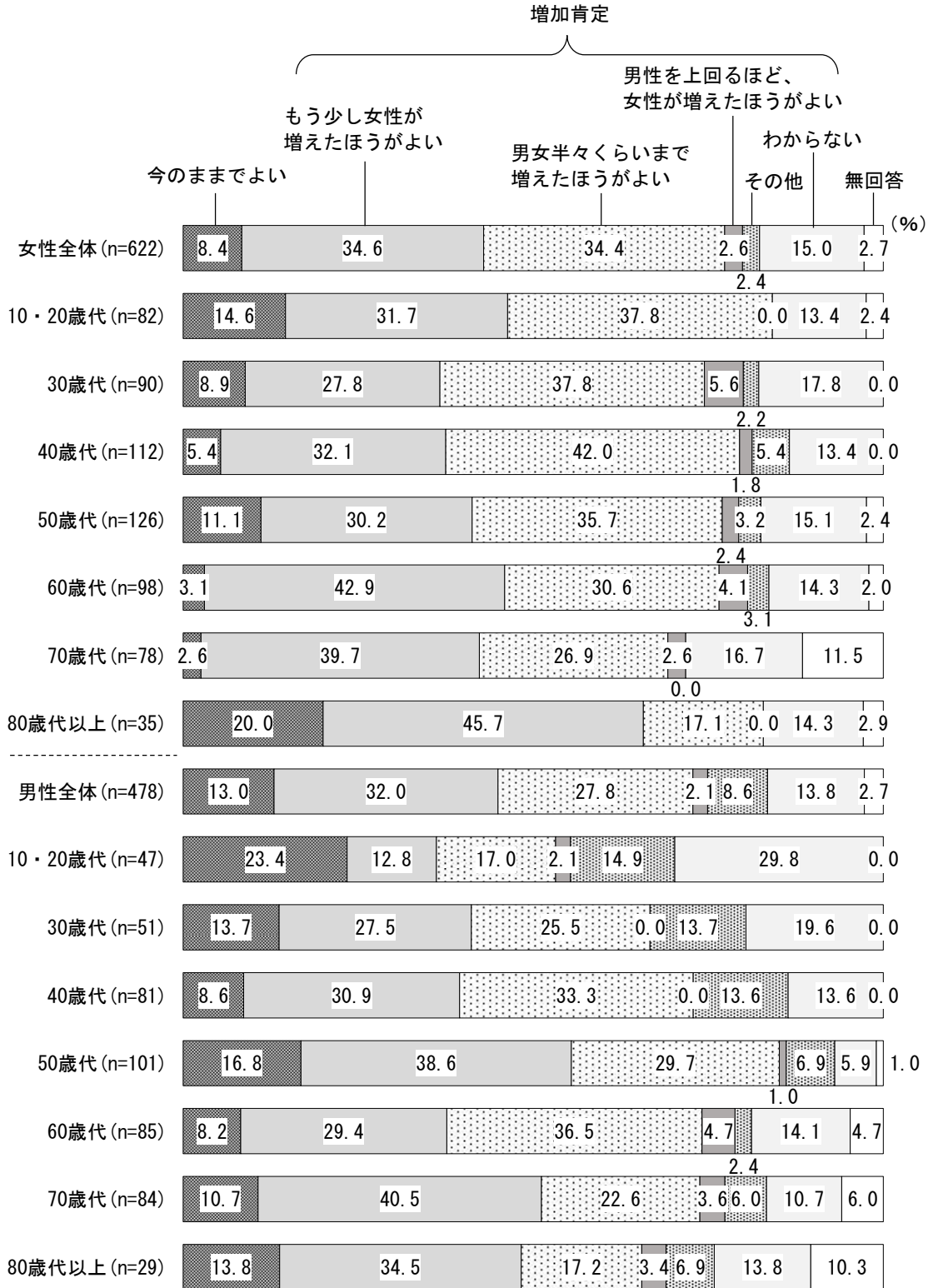


第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、《増加肯定》は、女性の30歳代(71.2%)、40歳代(75.9%)、60歳代(77.6%)、男性の60歳代(70.6%)で7割を超えています。(図表13-1-2)

図表13-1-2 区議会議員等に占める女性議員数の評価(性・年代別)



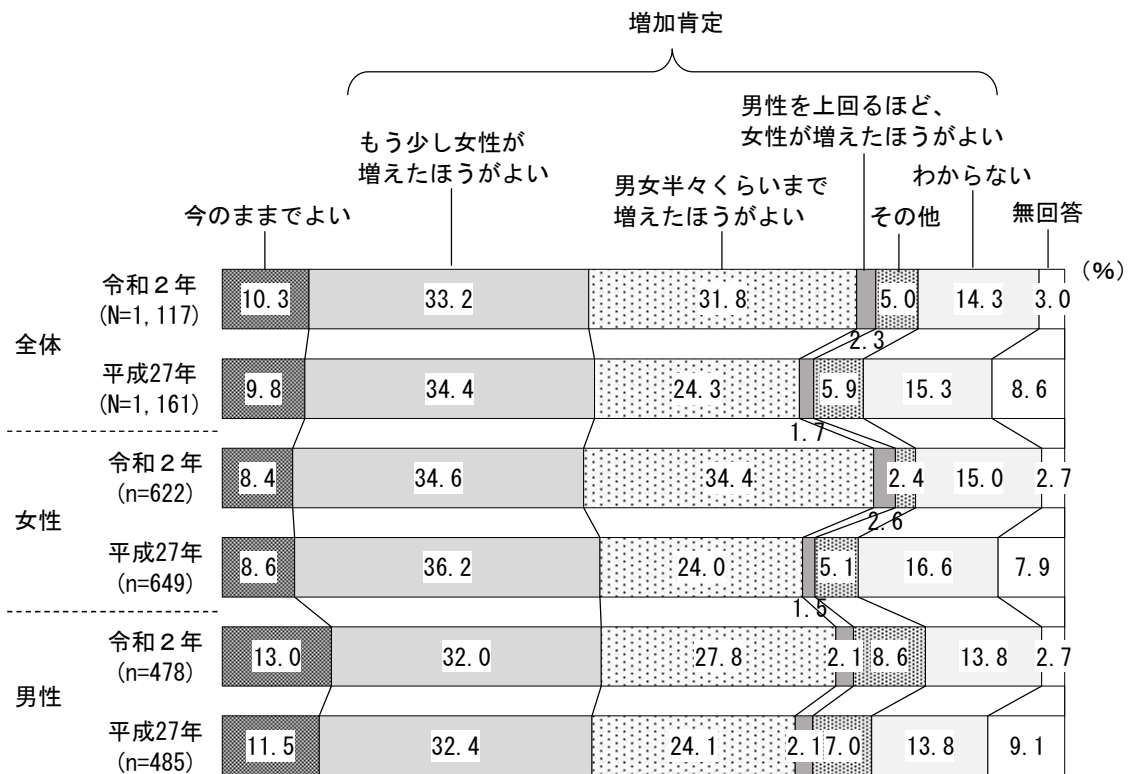
【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、女性は「今のままでよい」と「もう少し女性が増えたほうがよい」が減っていますが「男女半々くらいまで増えたほうがよい」と「男性を上回るほど、女性が増えたほうがよい」が増加しています。

男性は「今のままでよい」がやや増加していますが、「男女半々くらいまで増えたほうがよい」も増加しています。

《増加肯定》をみると、女性は平成27年調査の61.7%から71.6%で9.9ポイント、男性は平成27年調査の58.6%から61.9%で3.3ポイント増えています。(図表13-1-3)

図表 13-1-3 区議会議員等に占める女性議員数の評価（全体、性別、平成27年調査）



第3章 調査結果

(2) 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因

問25 あなたは議員や審議会委員など政策や方針を決定する過程への女性の参画を妨げているのは、どのようなことだと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

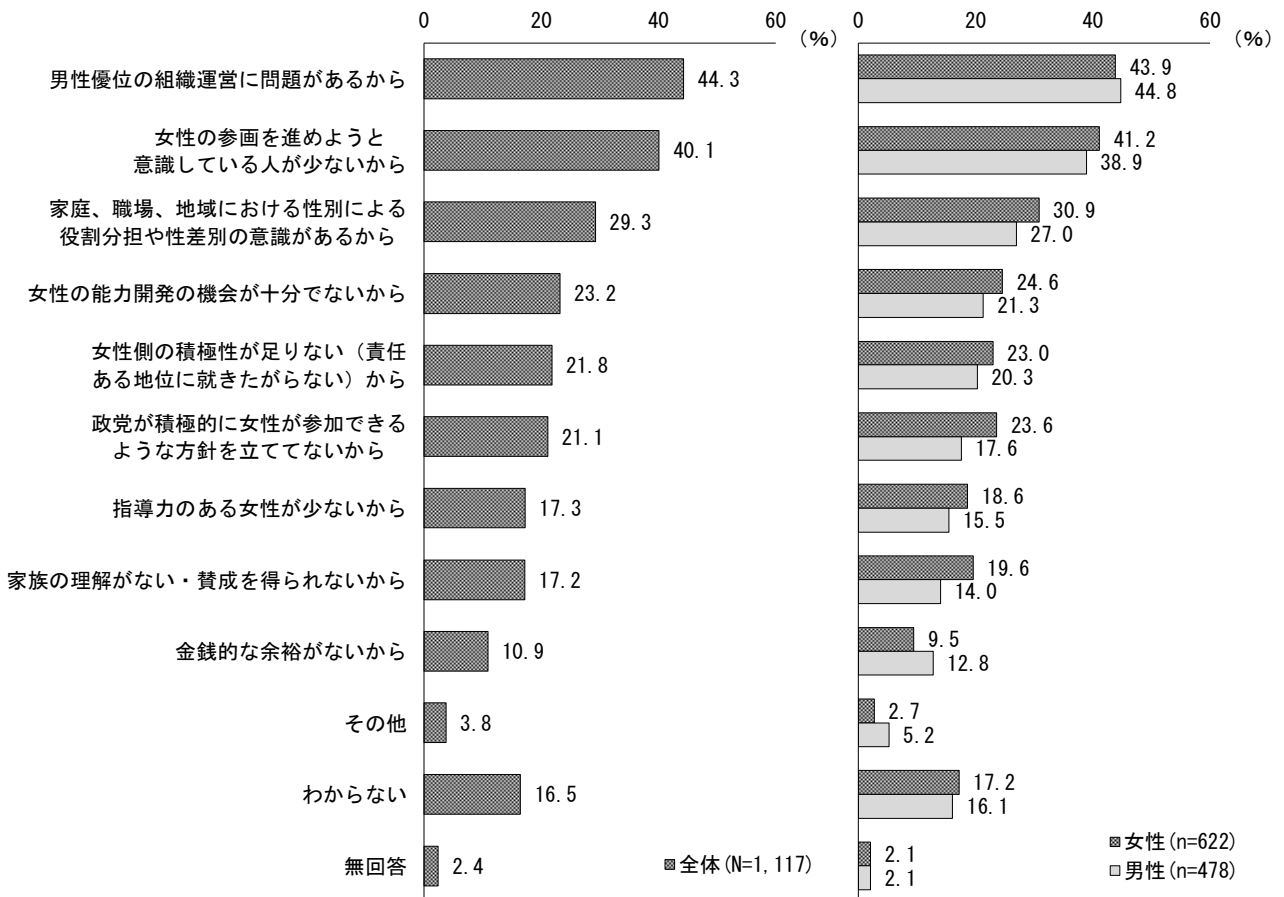
全体では、「男性優位の組織運営に問題があるから (44.3%)」が最も多く、「女性の参画を進めようと意識している人が少ないから (40.1%)」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識があるから (29.3%)」、「女性の能力開発の機会が十分でないから (23.2%)」、「女性側の積極性が足りない(責任ある地位に就きたがらない) から (21.8%)」が続いています。(図表 13-2-1)

【性別】

女性は「政党が積極的に女性が参加できるような方針を立ててないから (女性：23.6%、男性：17.6%)」、「家族の理解がない・賛成を得られないから (女性：19.6%、男性：14.0%)」がそれぞれ男性を6ポイント、5.6ポイント上回っています。

男性は「男性優位の組織運営に問題があるから (女性：43.9%、男性：44.8%)」が女性を上回っています。(図表 13-2-1)

図表 13-2-1 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因 (全体、性別：複数回答)

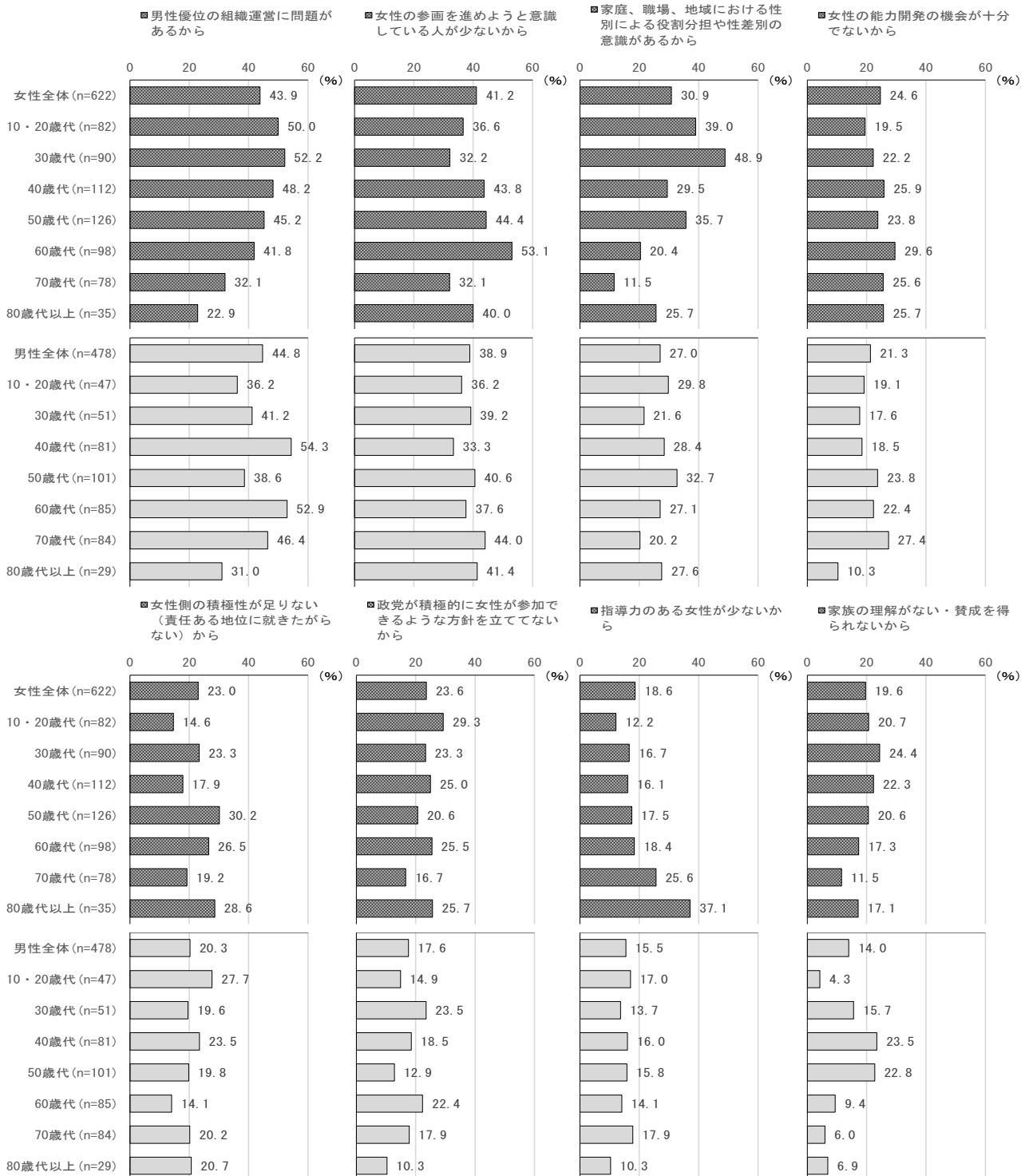


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代から30歳代で「男性優位の組織運営に問題があるから」が5割を超えており、特に30歳代は52.2%と多くなっています。また、30歳代は「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識があるから」が48.9%と5割に近くなっており、60歳代では「女性の参画を進めようと意識している人が少ないから」が他の年代に比べて多くなっています。

男性は40歳代と60歳代で「男性優位の組織運営に問題があるから」が5割台となっています。

図表 13-2-2 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因
(性・年代別、上位8項目：複数回答)

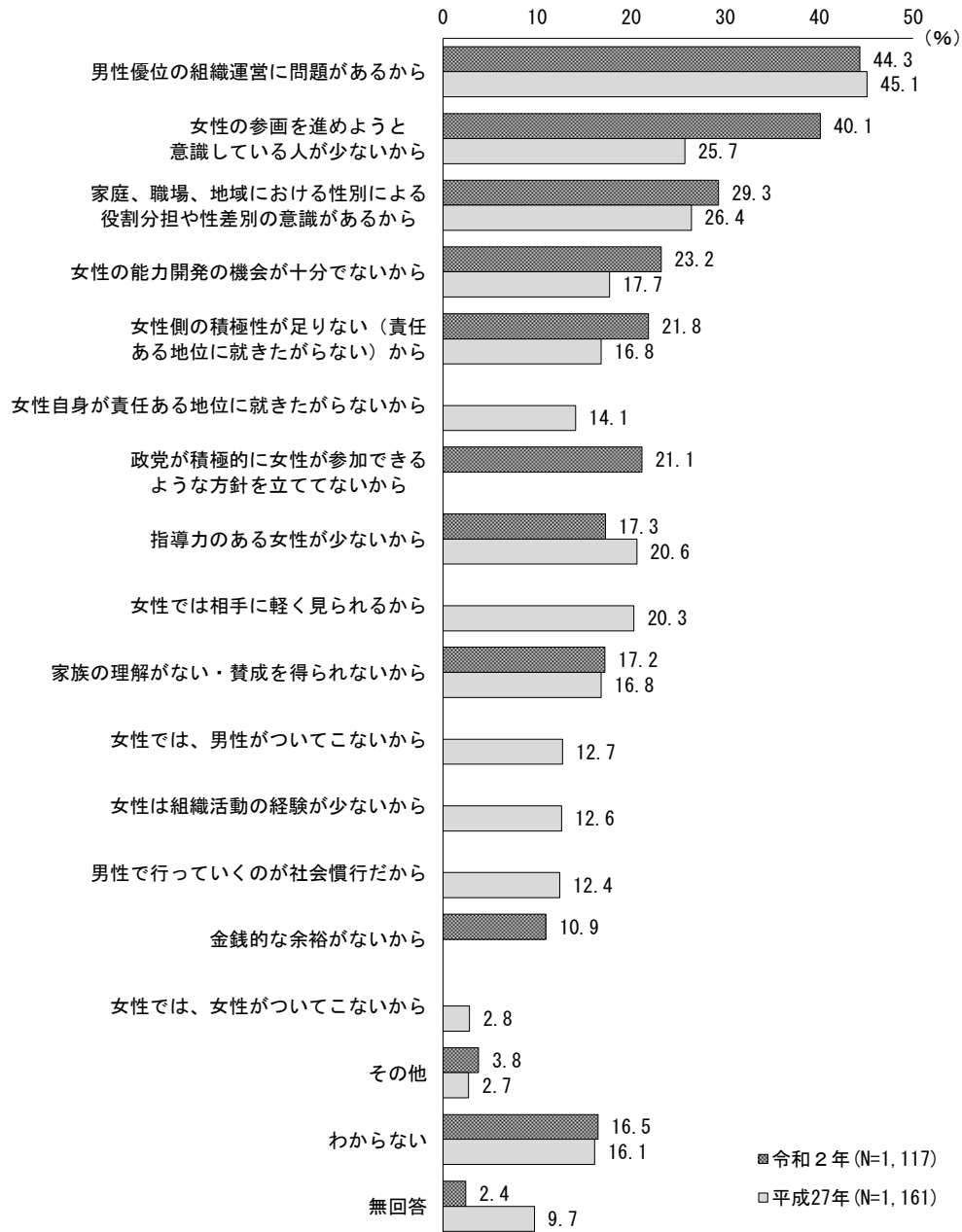


第3章 調査結果

【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、令和2年調査、平成27年調査ともに「男性優位の組織運営に問題があるから」が最も多くなっています。また、「女性の参画を進めようと意識している人が少ないから（令和2年調査：40.1%、平成27年調査：25.7%）」は14.4ポイント増えています。（図表13-2-3）

図表 13-2-3 政策や方針決定過程への女性参画を妨げている要因（全体、平成27年調査：複数回答）



※平成27年調査では、「女性側の積極性が足りない（責任ある地位に就きたがらない）から」は「女性側の積極性が足りないから」、「家族の理解がない・賛成を得られないから」は「家族の支援・協力が得られないから」でたずねている。

※令和2年調査には、「女性自身が責任ある地位に就きたがらないから」、「女性では相手に軽く見られるから」、「女性では、男性がついてこないから」、「女性は組織活動の経験が少ないから」、「男性で行っていくのが社会慣行だから」、「女性では、女性がついてこないから」はなし。

※平成27年調査には、「政党が積極的に女性が参加できるような方針を立ててないから」、「金銭的な余裕がないから」はなし。

(3) 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと

問 26 あなたは政治や行政において企画や方針決定の過程で女性の参画を進めていくためには、どうしたらよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

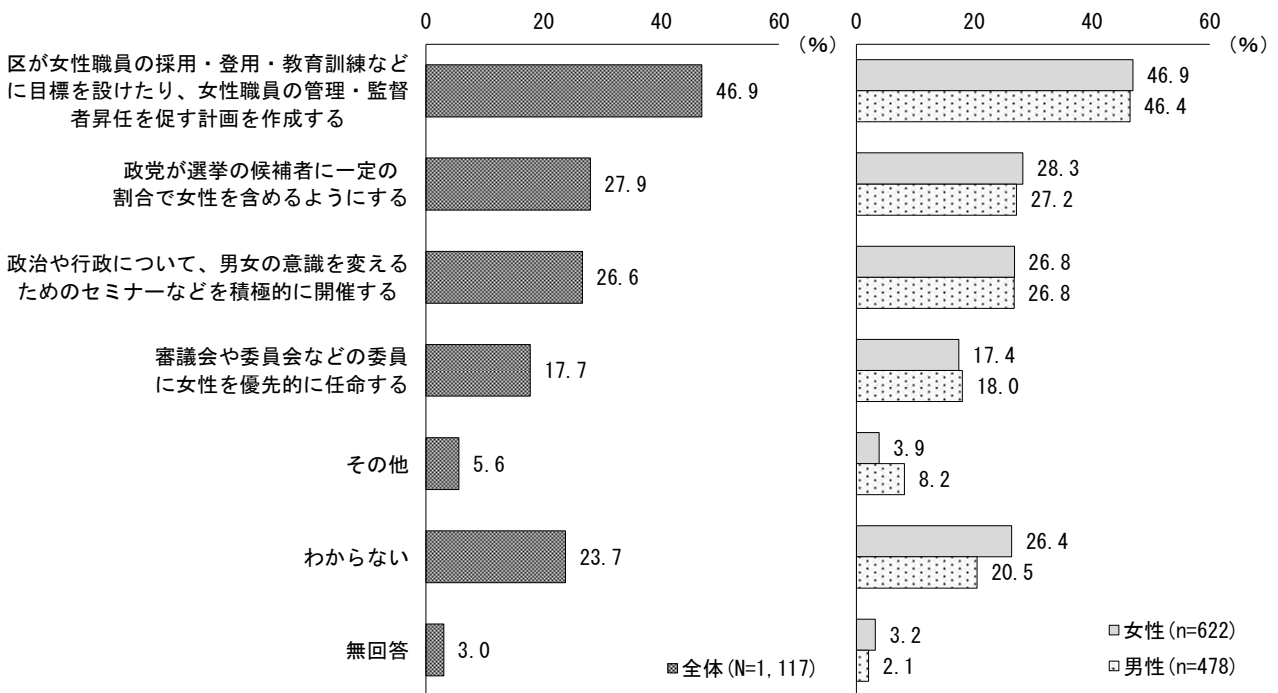
【全体】

全体では、「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する (46.9%)」が最も多く、「政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする (27.9%)」、「政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナーなどを積極的に開催する (26.6%)」が続いています。(図表 13-3-1)

【性別】

性別にみても、全体と同様の結果となっています。(図表 13-3-1)

図表 13-3-1 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと (全体、性別：複数回答)

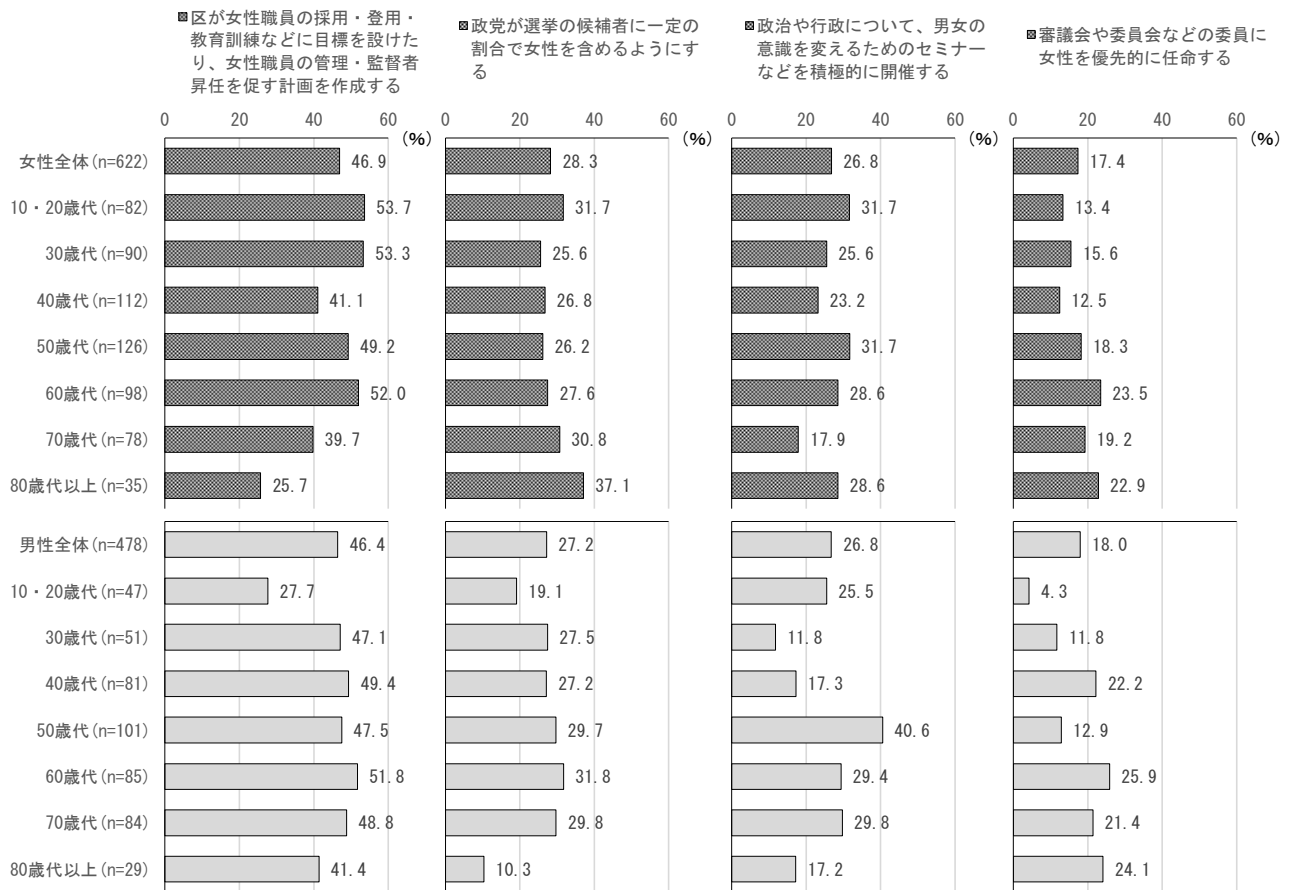


第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の10・20歳代、30歳代、60歳代、男性の60歳代は「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する」が5割台と多くなっています。また、男性の50歳代は「政治や行政について、女性の意識を高めるためのセミナーなどを積極的に開催する」が40.6%で他の年代に比べて多くなっています。(図表13-3-2)

図表13-3-2 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと（性・年代別、上位4項目：複数回答）

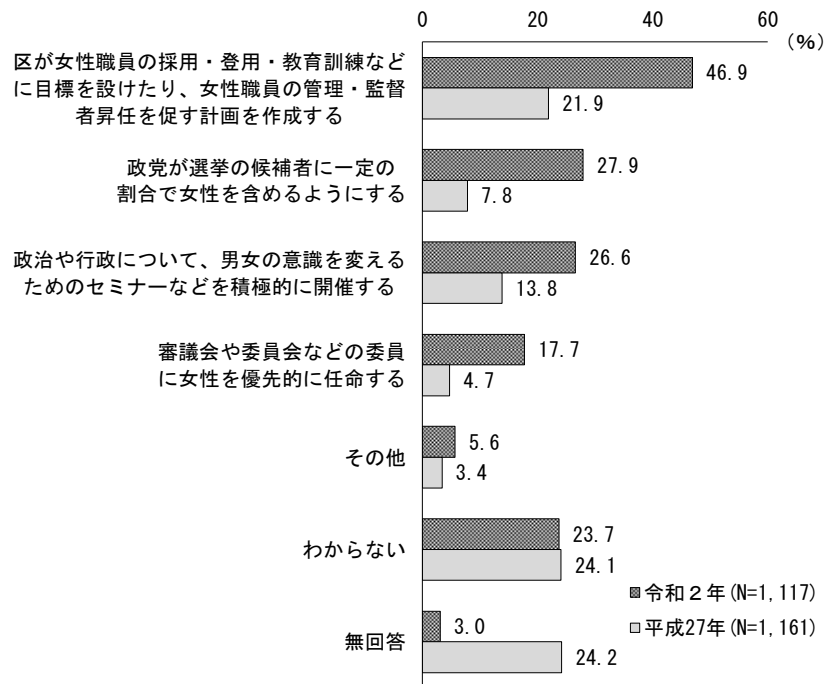


【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、平成27年調査では回答を1つ選ぶのに対し、令和2年調査では該当するものすべてを選ぶ設問となっているため、パーセンテージの比較による分析はできませんが、令和2年調査、平成27年調査ともに「区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する」が最も多くなっています。

(図表 13-3-3)

図表 13-3-3 政治や行政への女性の参画推進に必要なこと（全体、平成27年調査）



14 防災

(1) 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと

問 27 東日本大震災の発生以降、日頃の防災活動や災害発生時の避難所生活において、多様な人々の視点に基づく運営が必要だと言われるようになりました。あなたは、地域の防災活動や災害時における人々の生活環境の確保に、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

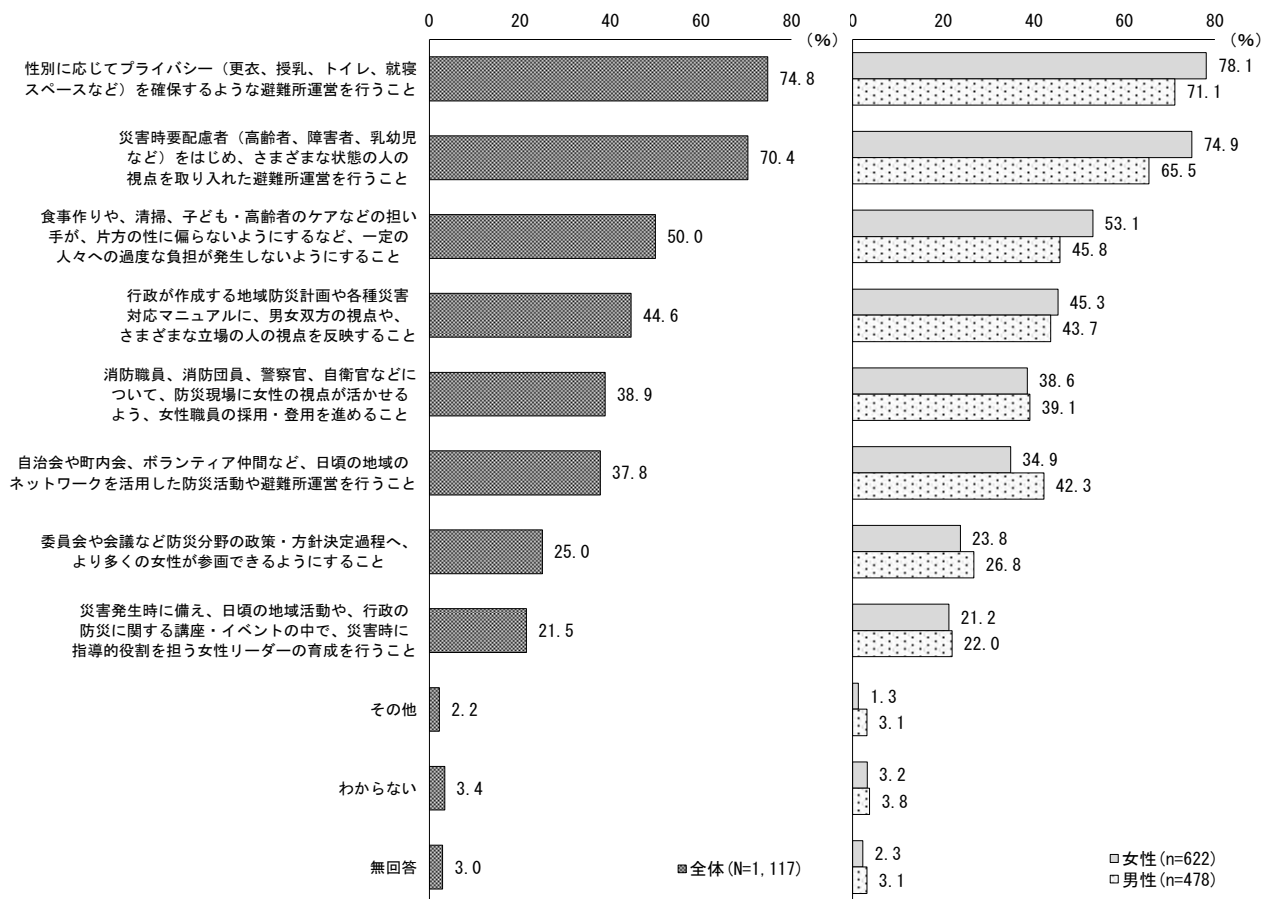
【全体】

全体では、「性別に応じてプライバシー（更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど）を確保するような避難所運営を行うこと（74.8%）」、「災害時要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行うこと（70.4%）」が7割台となっています。(図表 14-1-1)

【性別】

性別にみると、女性は「性別に応じてプライバシー（更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど）を確保するような避難所運営を行うこと（女性：78.1%、男性：71.1%）」、「災害時要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行うこと（女性：74.9%、男性：65.5%）」などで男性を上回っています。(図表 14-1-1)

図表 14-1-1 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと
(全体、性別：複数回答)

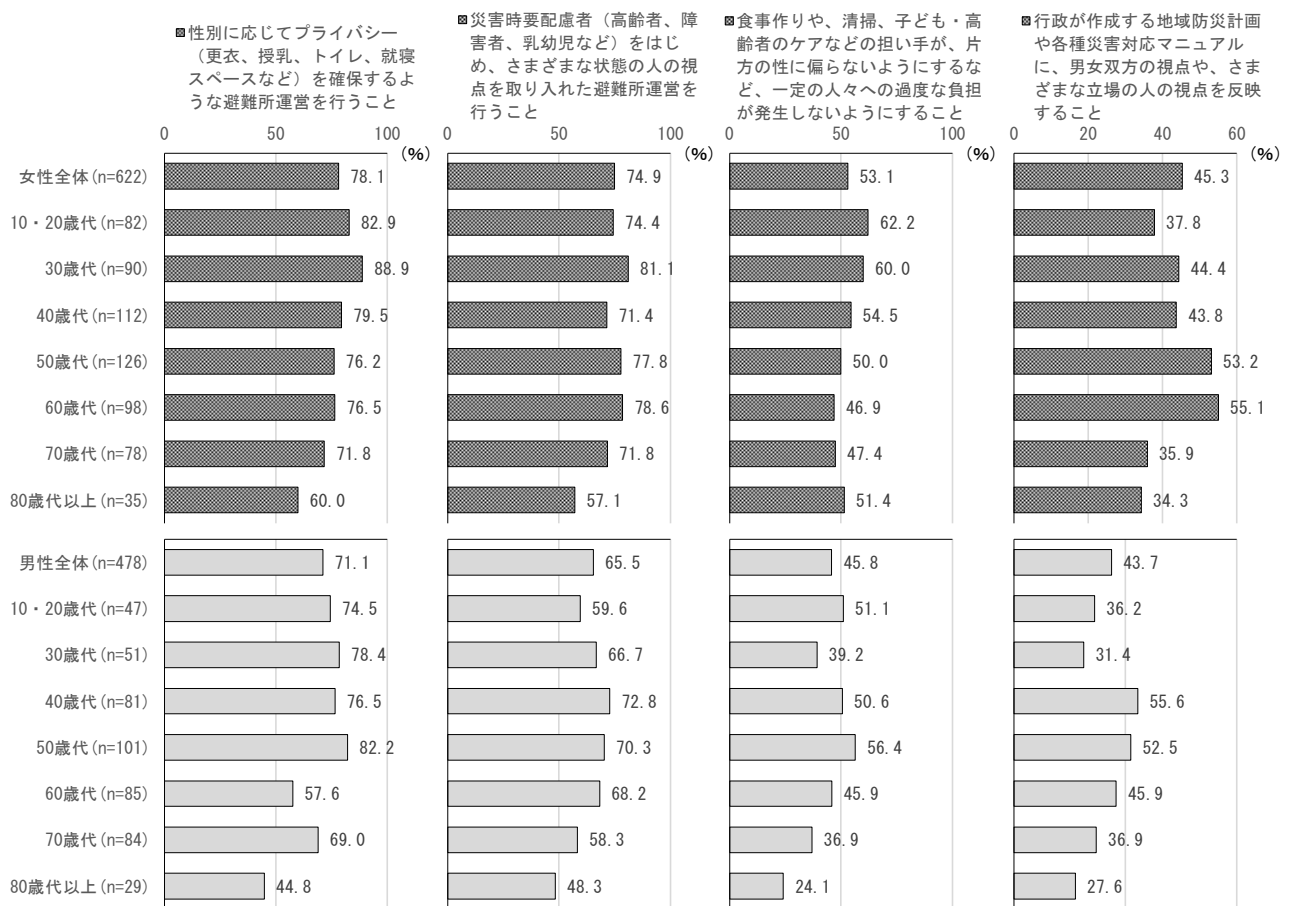


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性の10・20歳代から70歳代は「性別に応じてプライバシー（更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど）を確保するような避難所運営を行うこと」が7割を超えており、特に30歳代は88.9%と多くなっています。また、30歳代は「災害時要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行うこと」も8割を超えています。

男性は10・20歳代から50歳代で「性別に応じてプライバシー（更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど）を確保するような避難所運営を行うこと」が7割を超えており、特に50歳代は82.2%と多くなっています。（図表14-1-2）

図表 14-1-2 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと
（性・年代別、上位4項目：複数回答）



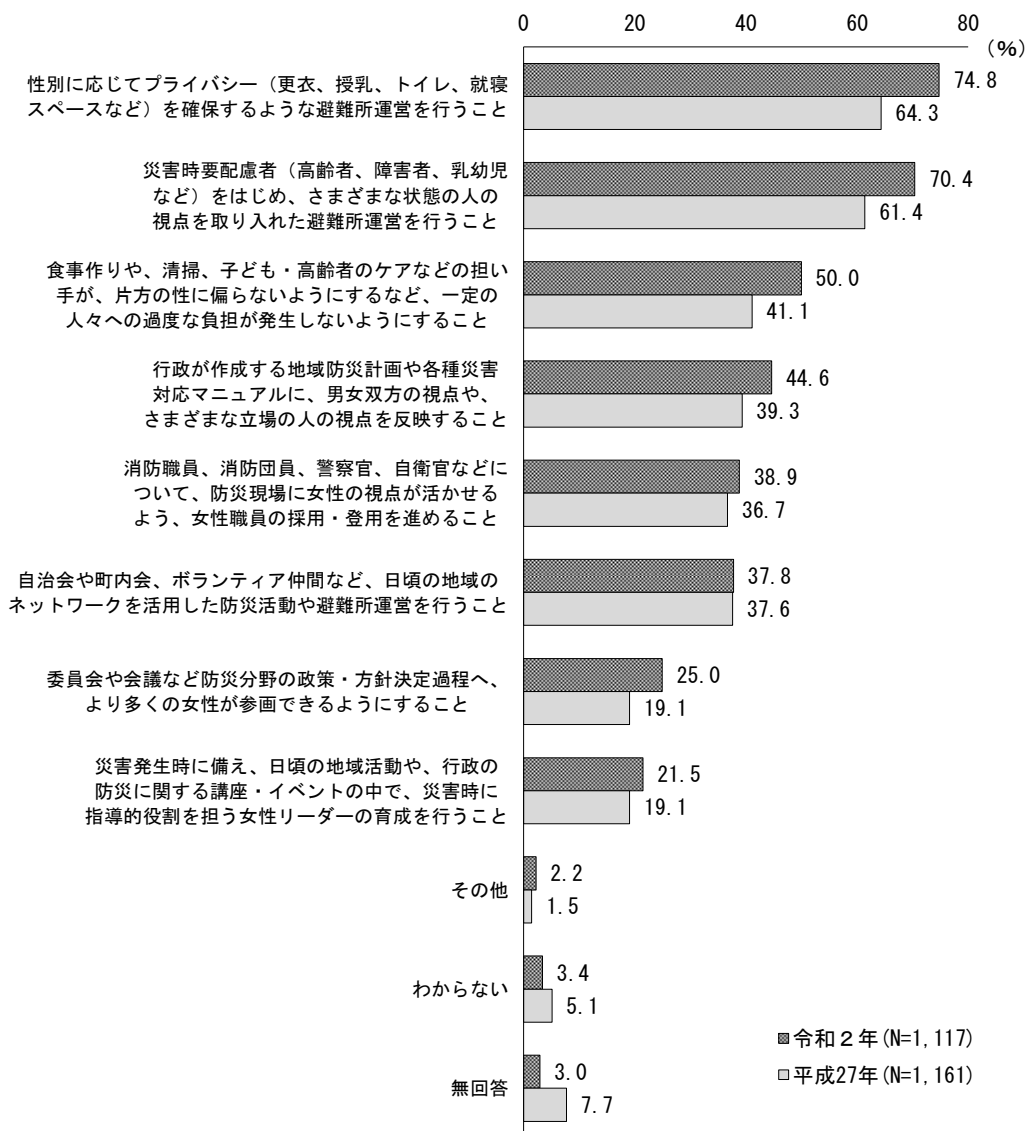
第3章 調査結果

【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、令和2年調査、平成27年調査ともに「性別に応じてプライバシー（更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど）を確保するような避難所運営を行うこと」が最も多くなっています。

また、その他の項目についても平成27年調査より割合が増えています。（図表14-1-3）

図表14-1-3 地域の防災活動や災害時における生活環境の確保に必要なこと
（全体、平成27年調査：複数回答）



15 施策や制度など

(1) 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況

問 28 「葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）」は、誰もが自分らしく生きていける男女平等社会の実現を目指す、学びと交流の場です。あなたは、葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）を知っていますか。（○は1つだけ）

【全体】

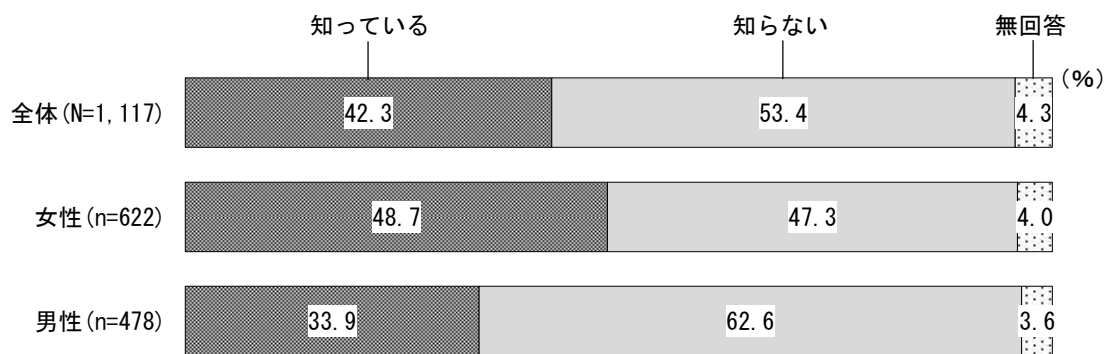
全体では、「知っている」が42.3%、「知らない」が53.4%となっています。（図表 15-1-1）

【性別】

性別にみると、女性は「知っている（48.7%）」が「知らない（47.3%）」よりも多くなっています。

男性は「知らない（62.6%）」が「知っている（33.9%）」よりも多くなっています。（図表 15-1-1）

図表 15-1-1 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況（全体、性別）



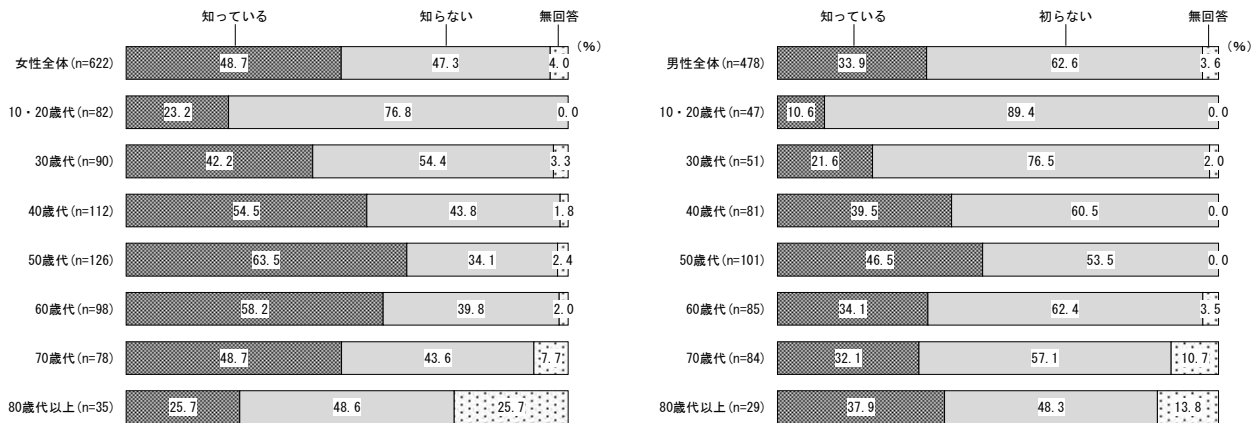
第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は40歳代から60歳代で「知っている」が5割を超え、特に50歳代は63.5%と多くなっています。

男性は50歳代で「知っている」が46.6%と多くなっています。(図表 15-1-2)

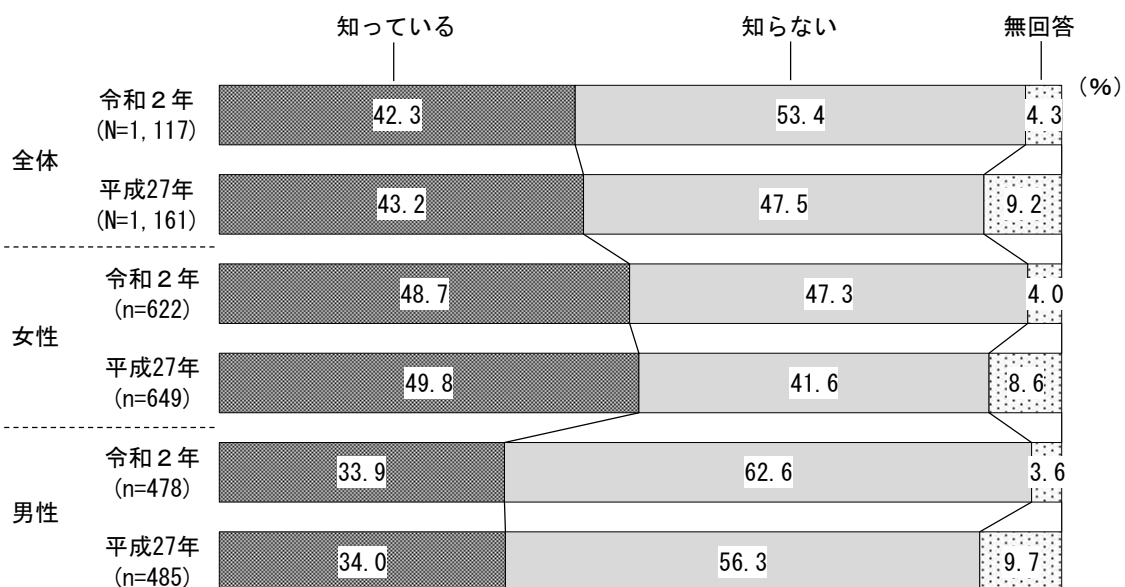
図表 15-1-2 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況（性・年代別）



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、「知っている」は全体（42.3%）では0.9ポイント減っています。性別にみると、女性（48.7%）は1.1ポイント減り、男性（33.9%）も0.1ポイント減っています。(図表 15-1-3)

図表 15-1-3 葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）の認知状況（全体、性別、平成27年調査）



(2) 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向

問 29 葛飾区男女平等推進センターにおいて、あなたが参加または利用してみたいものはどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

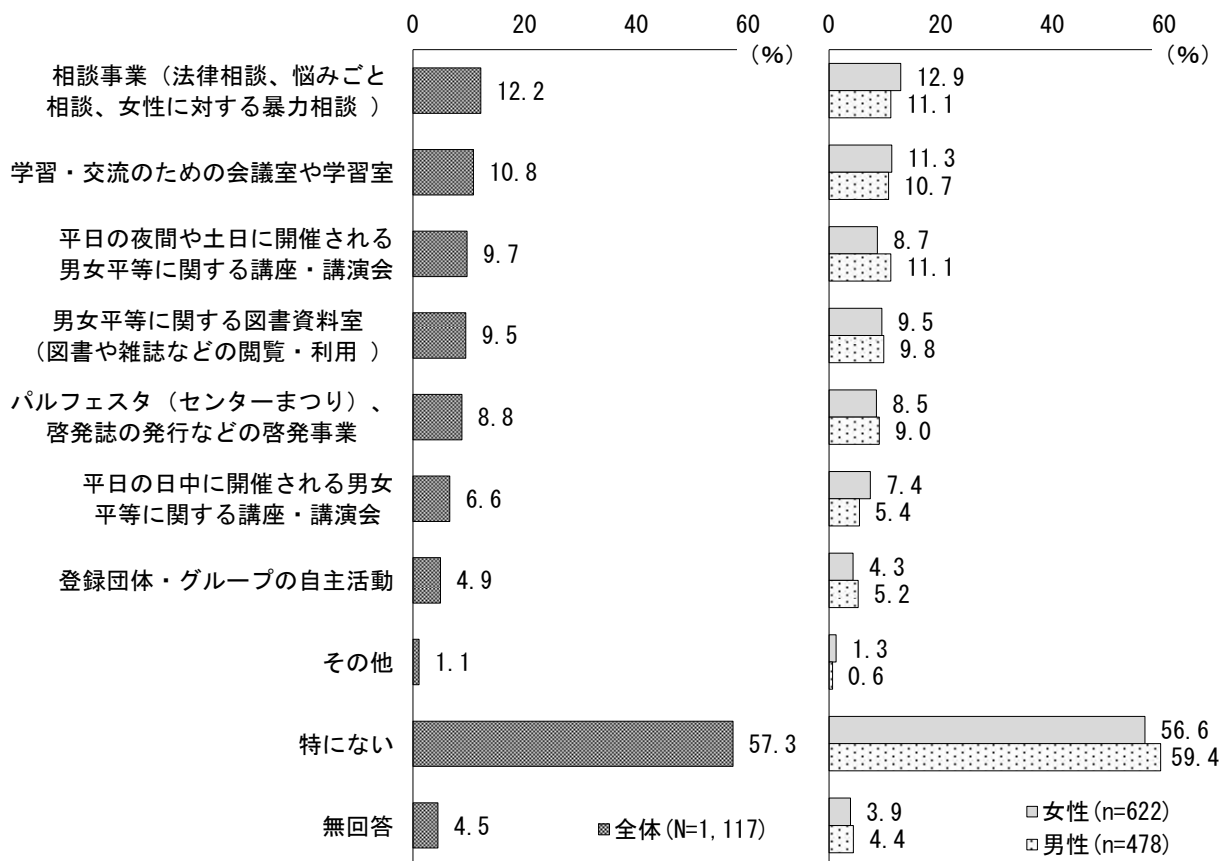
全体では、「相談事業（法律相談、悩みごと相談、女性に対する暴力相談）（12.2%）」が最も多く、「学習・交流のための会議室や学習室（10.8%）」、「平日の夜間や土日に開催される男女平等に関する講座・講演会（9.7%）」、「男女平等に関する図書資料室（図書や雑誌などの閲覧・利用）（9.5%）」が続いています。（図表 15-2-1）

【性別】

女性は「相談事業（法律相談、悩みごと相談、女性に対する暴力相談）（女性：12.9%、男性：11.1%）」が最も多く、男性を1.8ポイント上回っています。

男性は「平日の夜間や土日に開催される男女平等に関する講座・講演会（女性：8.7%、男性：11.1%）」が最も多く、女性を2.4ポイント上回っています。（図表 15-2-1）

図表 15-2-1 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向（全体、性別：複数回答）



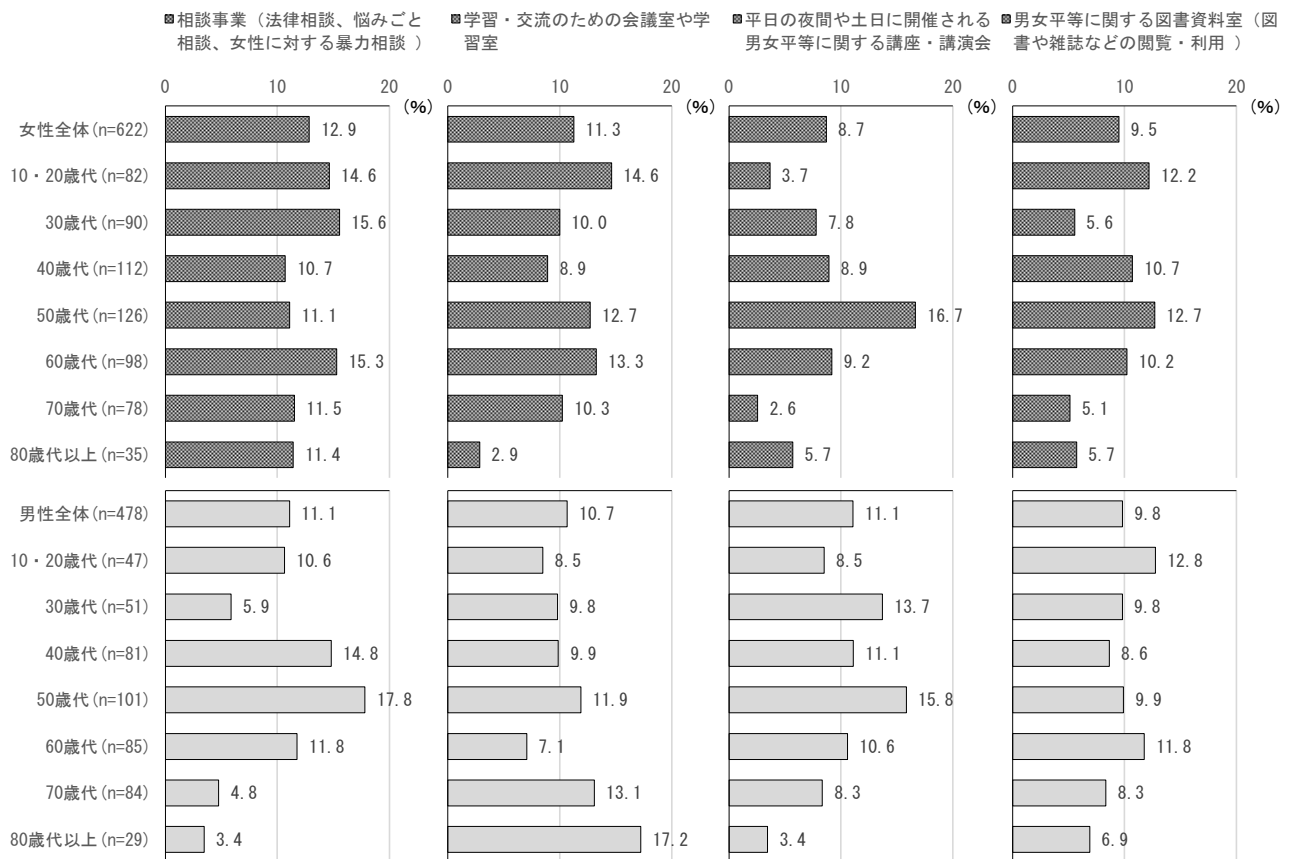
第3章 調査結果

【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は50歳代で「平日の夜間や土日に開催される男女平等に関する講座・講演会」が16.7%と他の年代に比べて多くなっています。

男性は50歳代で「相談事業（法律相談、悩みごと相談、女性に対する暴力相談）」が17.8%と他の年代に比べて多くなっています。（図表 15-2-2）

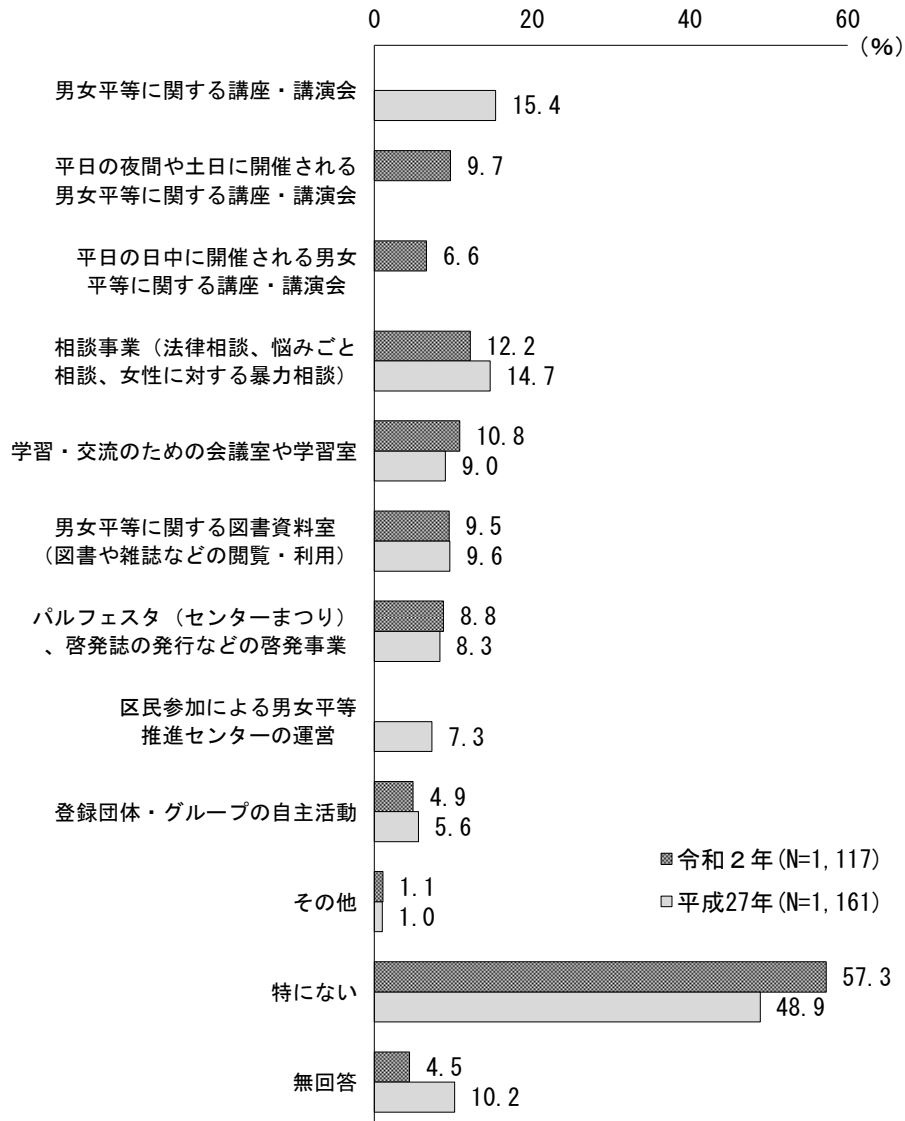
図表 15-2-2 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向
（性・年代別、上位4項目：複数回答）



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、全体の傾向に大きな変化はありません。(図表15-2-3)

図表15-2-3 葛飾区男女平等推進センター事業の参加・利用意向
(全体、平成27年調査：複数回答)



※平成27年調査では、「平日の夜間や土日に開催される男女平等に関する講座・講演会」と「平日の日中に開催される男女平等に関する講座・講演会」はまとめて「男女平等に関する講座・講演会」でたずねている。

※令和2年調査には、「区民参加による男女平等推進センターの運営」はなし。

第3章 調査結果

(3) 男女平等社会実現のために充実すべき施策

問 30 あなたは男女平等社会を実現するために、今後、区ではどのような施策を充実したらよいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【全体】

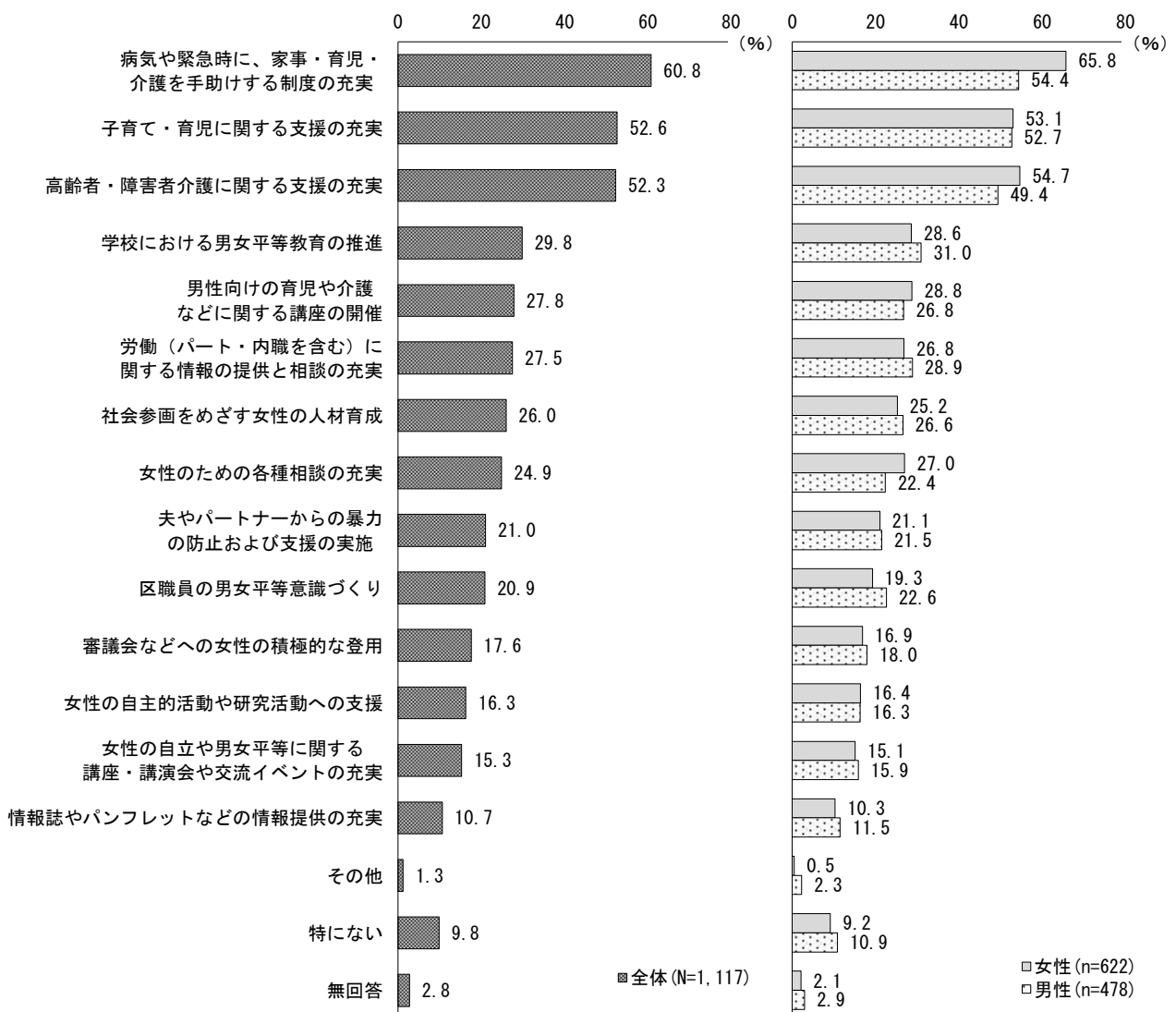
全体では、「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実 (60.8%)」が最も多く、「子育て・育児に関する支援の充実 (52.6%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実 (52.3%)」が続いています。(図表 15-3-1)

【性別】

性別にみると、男女ともに「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実 (女性：65.8%、男性 54.4%)」が最も多く、女性は「高齢者・障害者介護に関する支援の充実 (54.7%)」、「子育て・育児に関する支援の充実 (53.1%)」が続いています。

男性は「子育て・育児に関する支援の充実 (52.7%)」、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実 (49.4%)」が続いています。(図表 15-3-1)

図表 15-3-1 男女平等社会実現のために充実すべき施策 (全体、性別：複数回答)

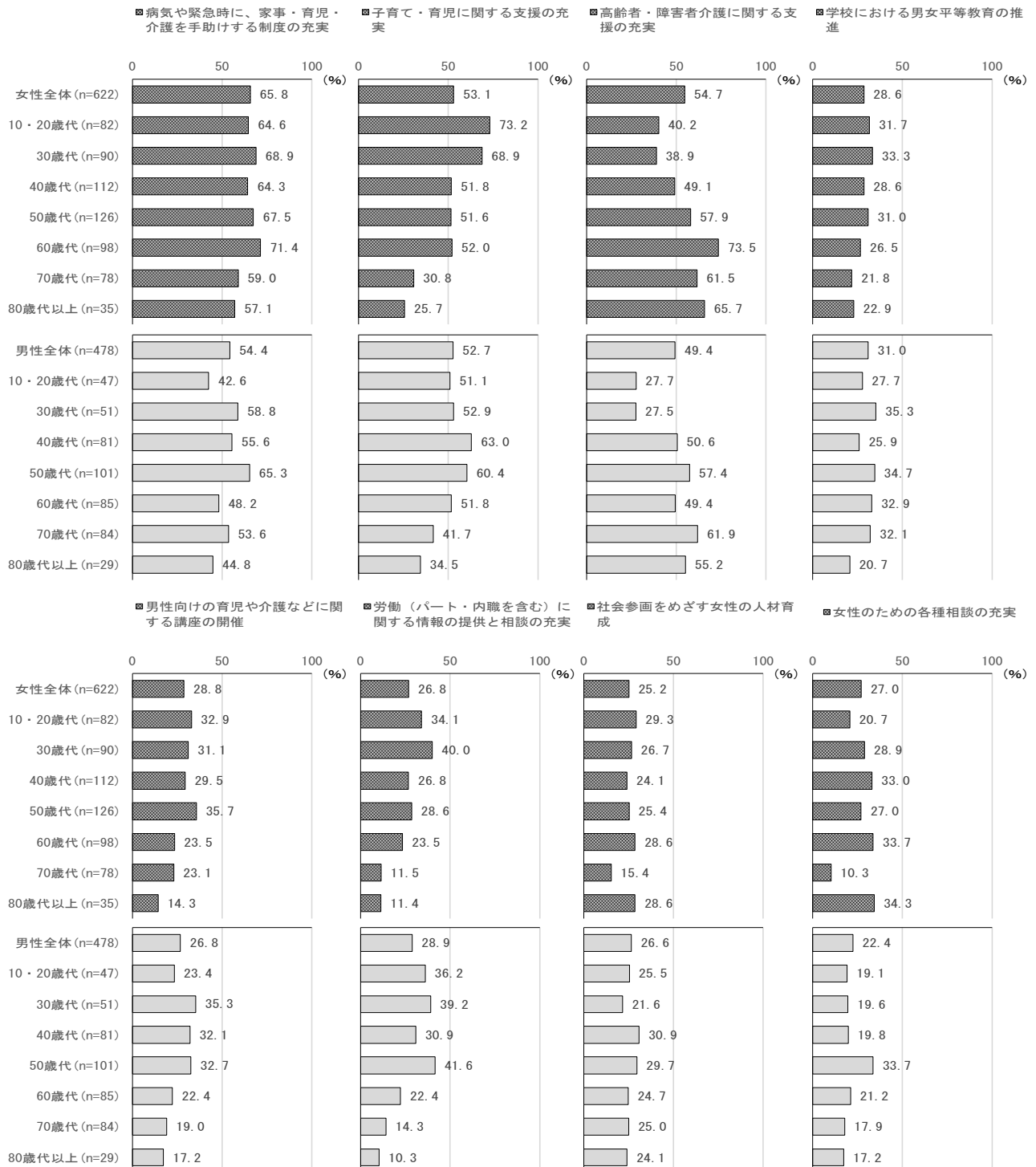


【性・年代別】

性・年代別にみると、女性は10・20歳代から60歳代で「病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実」が6割を超えており、特に60歳代は71.4%と多くなっています。また、10・20歳代と30歳代で「子育て・育児に関する支援の充実」が6割台から7割台、60歳代、70歳代、80歳代以上で「高齢者・障害者介護に関する支援の充実」が6割を超えています。

男性は40歳代と50歳代で「子育て・育児に関する支援の充実」が他の年代に比べて多くなっています。(図表 15-3-2)

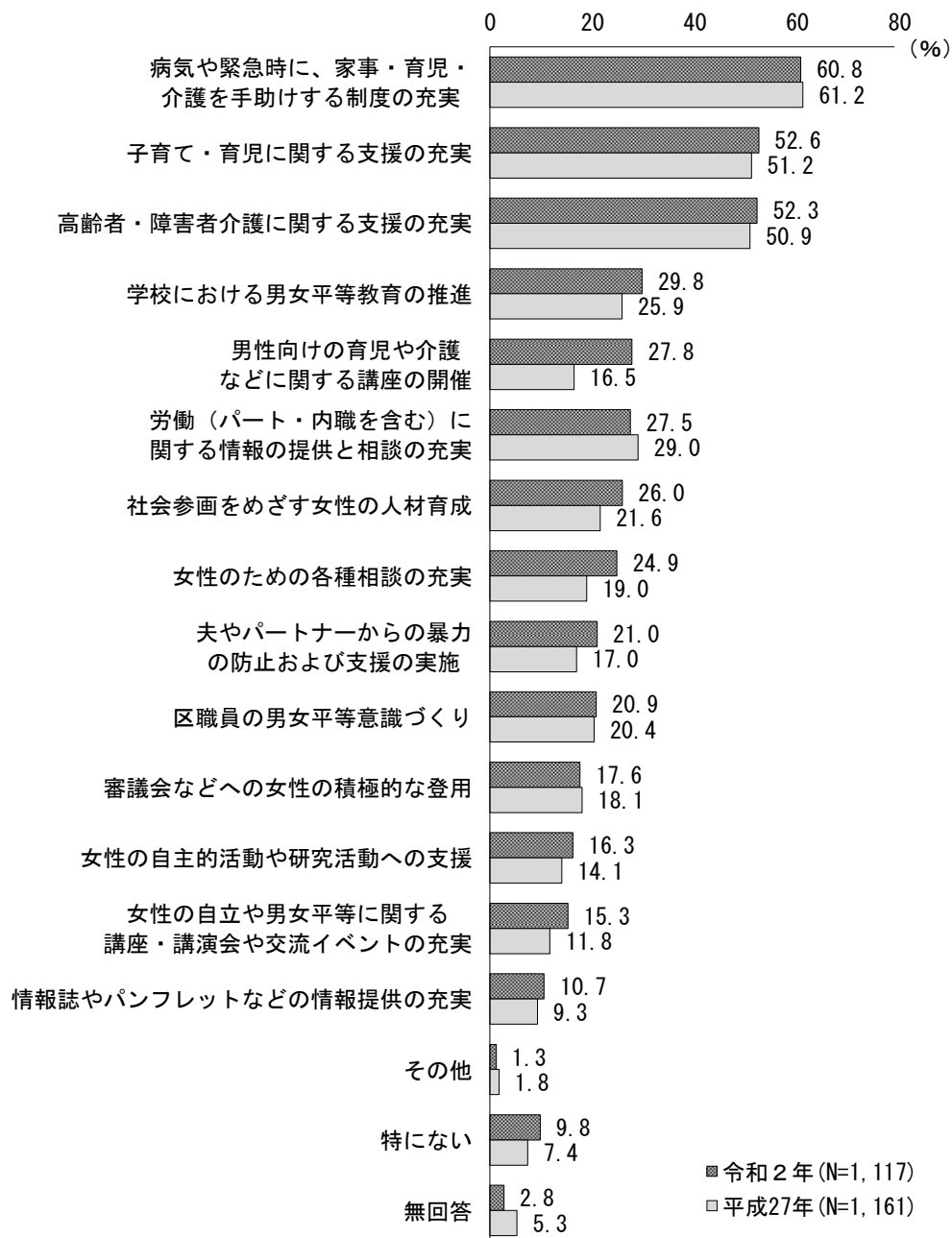
図表 15-3-2 男女平等社会実現のために充実すべき施策（性・年代別、上位8項目：複数回答）



【平成27年調査との比較】

平成27年調査と比較すると、全体の傾向に大きな変化はありませんが、「男性向けの育児や介護などに関する講座の開催」は、27.8%と平成27年調査（16.5%）よりも11.3ポイント上回っています。（図表15-3-3）

図表15-3-3 男女平等社会実現のために充実すべき施策（全体、平成27年調査：複数回答）



※平成27年調査では、「男性向けの育児や介護などに関する講座の開催」は「男性向けの家族的責任に関する講座の開催」でたずねている。

16 自由回答

(1) 葛飾区の男女平等・共同参画施策についての意見・要望

問 31 最後に葛飾区の男女平等・共同参画施策全般についてのご意見・ご要望を自由にご記入ください。〈自由回答〉

区の男女平等・共同参画施策全般に対する意見については、160人（女性76人、男性84人）から回答をいただきました。

男女平等参画の推進について

- ・誰もが違う意見を持っているからこそ、平等であるべきだと思いました。一方が優位になることを避けて欲しいです。（女性、10・20歳代）
- ・ぜひとも、もっと男女平等を推して行って欲しい。コロナ禍でもありネット社会でもあるため、特にYouTubeなどを起用したイベント講座をたちあげネットによる参加ができればライフスタイルにあわせて良いかと思えます。男性が育児や育児中、そして女性に対してどうしたらよいかを学べるものがあれば良いかと思えます。（女性、30歳代）
- ・枠組はできているが、まだまだ、区民全員の意識が低いように感じる。男女平等の意識づけ、文化の醸成を進めて行って欲しいです。（女性、30歳代）
- ・こういった取り組みをしていた事を初めて知りました。葛飾区は外国の方も多いので、価値観の違いで男女平等に関して理解出来ない事もあると思うので、外国の方に向けてもアナウンスしていった方が良いと思います。（男性、30歳代）
- ・やってます感を出すのではなく、問題の核心から目をそらさないで欲しいです。（女性、40歳代）
- ・あまり急がずとも、自然の成り行きに行政が手をたずさわれば良いと思う。現状、かなりのスピードで進んで居るので経済を見ながらで良いと思う。（男性、40歳代）
- ・女性の参画について、色々と検討されているようですが、どうか権利が過剰にならないようお願いいたします。（女性、50歳代）
- ・女性自らの意識改革が必要であると考えます。（女性、50歳代）
- ・会社では都度研修が行われていますが、一般的には浸透しづらいのかもしれないので、行政でどのように広めていくのが課題と思われまます。（男性、50歳代）
- ・日頃男女平等など意識していませんでしたが、この調査票を記入していくあいだに、女性の社会進出、支援等必要だと思いました。（男性、50歳代）
- ・男女平等で全ての生活が充実して行く事が活性につながると思う。（男性、50歳代）
- ・私自身が男女平等について悩みを持つことはなかったけれど、葛飾区で積極的に男女平等推進計画を取り組んでいる事は大変嬉しく心強く大いに期待しています。（女性、60歳代）
- ・これからも引き続き女性の社会参画の促進に努力して頂きたい。平等社会を目指してもらいたいです。（女性、60歳代）
- ・若い人の考えが必要です。（男性、60歳代）
- ・施策を考えるのに、トップダウン（俗に言う有識者）ではなく、ほとんど意識をしていない若者（高校生等）を取り込んで、意識をさせるような方策が必要かと思えます。要するに頭の固くなった「大人」ばかりではなく、一度まっさらになるくらい議論が必要かと思えます。今回のアンケートを見ると杓子定規な回答ばかりで、何となく「官製」感がありました。これだけの内容をまとめるのは大変なことはわかりますが、いざ回答するとなると自分の身にならないと分らないと思いました。（男性、70歳代）
- ・葛飾区として男女平等社会の実現の為に声を大に発言して欲しいです。（男性、70歳代）
- ・区民全体として男女平等・共同参画社会の実現に向けて意識を高めることが重要だが、どんな政策を立て、どんな事業を実施してもなかなか解決は難しい。生活にゆとりが出来ることが一番である。（男性、70歳代）

性差と男女平等について

- ・私(女)は家事が得意だから、これを自分の役割だと思って取り組んでいます。話し合っただけで納得できる形ならばそれで良いと思います。私は逆に「家事をやらなくていいから平等に稼いでほしい」と言われていた時が辛かったです。また、辛い思いを抱えることの多い LGBT 当事者が、それこそ性別関係なく自分に正直に生きられる世の中になれば良いと思います。(女性、10・20 歳代)
- ・強者が変わらない限り何も変わらない。男性が積極的に動いたほうが良い。(女性、10・20 歳代)
- ・女性を優遇したいという想いが強く、男女平等といえるのかと思いました。(女性、10・20 歳代)
- ・男女平等よりも個人の平等を優先して欲しい。男と女という性を意識しなければ生きていけないこと自体が差別だと思う。(男性、10・20 歳代)
- ・このアンケートからしか読み取れていないところで申し訳ないが、男女平等を目指しているのか、女性の地位向上を目指しているのかよくわからなかった。それとも女性の地位が向上すれば平等になると考えているのか。全体的に男性を下げて女性を上げる内容だと感じた。議会の男女比率も、やりたい人がやれば良いと思うし、目標比率を設定して無理に女性を立てるようなことではないと思った。男性の育児参入については障壁があると感じているので(男性側のスキルや理解、職場の待遇など)、その点についてはぜひ頑張してほしい。(男性、10・20 歳代)
- ・女性ばかり討論が行われているが、女性優位ではないかと感じる。もっと男性について理解することが大事だと考える。(男性、10・20 歳代)
- ・まず男性、女性という固定概念を考え直さないとともに変わらないと思います。(男性、10・20 歳代)
- ・能力があれば性別も年齢も関係無いと思う。(女性、30 歳代)
- ・平等も大事ではあるが、全く平等になると女性が不利になってしまう場合もある気がする。平等より女性に優しい社会になって欲しい。(女性、30 歳代)
- ・“男女平等”という言葉に違和感を覚えます。専業主婦は評価されない・肩身が狭い、という方がいらっしやいますが、それは女だけでなく“専業主夫”だっていらっしやいますし、そういった面でも“男女平等”のワードは用いらない方がいいのではと思いました。(女性、30 歳代)
- ・男女平等と謳うことが差別であり、日常生活でお互いに尊重し合うことが大事。(男性、30 歳代)
- ・男女平等を目指すことは素晴らしいことだと思います。しかし平等という言葉が先行してしまい女性が優位に採用されるなどの不平等があってはならないと思います。能力のある方が適切な職位、職務に配置される社会ができることが平等であると思います。性別を関係なく評価することが大事であり、適材適所を考え平等な社会の実現をお願いいたします。(男性、30 歳代)
- ・男女平等だから女性を積極的に、というのがそもそも違っていて、やりたい方が女性でも男性でも構わない。(男性、30 歳代)
- ・参画を促したところで家庭・職場・地域などでの理解がなければ難しい。特に中高年の人間は時代的背景もあり男女問わず旧態依然とした男尊女卑の考えを持っていることが多い。自分の考えをはっきりと言えない・言わない日本の風潮も悪いほうに拍車をかけている。たいていの場合、家族の価値観が無自覚に刷り込まれているので授業やセミナーを行う際は「あなたが女性だとしたら」「あなたが男性だとしたら」という形で、例え話を交えながら具体的に想像させていかなければ問題は解決しないと思う。(男性、30 歳代)
- ・“平等”というと、なんか個性がなく不自由なイメージがある。差別ありきという感じ。全体主義的な。自由に個性を楽しみ合うなら、“公平”の方がしっくりくる。(女性、40 歳代)
- ・男女平等について自分はあまり不満に思っていないのであまり考えた事がなかった。声を出すのは良い事だと思うが、男まさりの女性、私が私がとでしゃばる女性が男女平等をさげんいでいる様子も周りを見ると思ってしまう。(女性、40 歳代)
- ・男性目線というか女性が被害者という意識ではなく男性も被害者となりえる事等をもっととりあげて欲しい。(女性、40 歳代)

- ・男女平等とは、性別に関わらず、個人の能力が評価され、発揮できる社会であると思います。女性のリーダー等と書いている事がまだ平等でないのではと思います。必要な時に、正當に評価され、適任と思われる人が、男女関係なく選ばれるべきです。(女性、40歳代)
- ・「男女平等推進センター」というネーミングですでに男女間に格差があることが良くわかります。(女性、40歳代)
- ・半世紀前ウーマンリブという言葉と共に、女性の地位向上が叫ばれキャンペーンが行われたアメリカの社会と世界的な流れに合わせようとする現代の日本社会。男尊女卑という考え方が古くから実践されてきた我が国で男女平等を定着させるのは、とても難しい事だと思います。今回このアンケートを受け思ったのは、「適性」が最も大事な要素だと思いました。(男性、40歳代)
- ・男女平等などは不可能だが男女同権は可能だと思う。(男性、40歳代)
- ・男女の性による人間の存在自体の違いはあります。平等を求めるのではなく、違いを尊重することが重要ではないでしょうか。大切なのは平等をうたうだけではなく、これからのビジョンの共有だと思います。そのビジョンの上であれば男性でも女性でも、それこそ同じ立場な訳ですから。数だけ女性を増やすとか、女性を優遇するということは本当の意味での平等からかけ離れた意見だと思っています。(男性、40歳代)
- ・女性はレディースデイなど割引制度がありますが、経済界に優位な男性の方は割引制度が無いような気がします。そういった事も平等にならない理由だと思っています。(男性、40歳代)
- ・男女に限らず、違いを理解し、お互いの出来ることをし、分配を平等にと考えていけば、そうそう問題はおこらないと思います。(男性、40歳代)
- ・男女平等の社会を作る一方、男性ならではの役割、女性ならではの役割と必ずあり、そういった部分と共存していかなければならないと感じています。男女平等のさらに上のステップ、誰もがストレスフリーな社会を考えなくてはいけないと強く感じています(男性、40歳代)
- ・私は、「男女平等」への思いは有りません。男であれ女であれ、全ての中で能力の優れた人間がリーダーシップを取り、それに相当する、優遇を受けるのが当然だと思うからです。(女性、50歳代)
- ・最近では、女性の立場を前面に押し出しすぎて、かえって、男性が委縮している場面も見受ける。本当の男女平等とは、何か、間違った方向に進まないようにしていきたい。(女性、50歳代)
- ・「男だから」「女だから」ではなく、個性を活かした社会になれば良いと思う。(女性、50歳代)
- ・全体を通してこんなに男女差があるのかと思いました。現在の状況は男女差にこだわってられるほど余裕の世の中ではないと思います。答えていて少し歯がゆい気持ちになりました。(女性、50歳代)
- ・男女平等じゃなくていい。出来る事がちがうので出来る事をガンバってやる。(女性、50歳代)
- ・男女平等、LGBTQ、ダイバーシティ、こういったことを知るのは大切だと思います。これ以外に人種や国籍もあるのでは？しかし、該当する人が声高に権利を主張し、いわゆる「普通の人」が逆差別を感じることもあるのを忘れないで欲しいです。(女性、50歳代)
- ・10年前よりは男女平等の意識は高まっていると思いますが、なかなか全体には広まってはいないと感じます。今回のコロナの影響でご主人が家にいても家事、育児はお母さん達がやってる家庭が多かったと思います。(女性、50歳代)
- ・もはや最近では女性の方が強いかもですね。(男性、50歳代)
- ・だんだんよくなってきていると思う。(男性、50歳代)
- ・男女平等は、まだまだ遠い。世界との差がありすぎです。(女性、60歳代)
- ・性別に関係なく能力がある人がそれぞれ出来る仕事をすればいいと思うので特に男女平等を考える必要があるのか。(女性、60歳代)
- ・どうしても男女平等は不可能な事を具体的に明確にされれば、それ以外は、平等に進める活動がしやすいと思う。(女性、60歳代)
- ・昔から比べると比較にならないぐらい、葛飾も生まれ変わって女性が頑張っていると思う。特に区役所内で感じます。(男性、60歳代)
- ・女性の意識改革と男性の平等理解度の向上が必要と考える。(男性、60歳代)

第3章 調査結果

- ・男性、女性には各々得意分野があり、完全な平等には成り得ないと考える。互いに支え合ってこそ理想的社会が生まれるのではないか。(男性、60歳代)
- ・今は、昔と違って男女平等だと思う。(男性、60歳代)
- ・男性も女性も、多様な生き方が選択できるように、実現できればいいですね。(男性、60歳代)
- ・男も強く、女も強く、なること。賢明な頭を男も、女ももつ、哲学を女も男ももつ。(男性、60歳代)
- ・葛飾区役所という職場でも上司や長の方は男性が主だと見受けられます。区自体で、優れている人材の方は女性でも上司になれるような発想の転換と実践で、区民の人たちに良いお手本を示すべきだと思います。(女性、70歳代)
- ・〇をつけながら私が働いていた時と現在ではかなりの違いがあると思う。私共の時は完全に男性上位(職場)だったが、現在はどうか?言えるのは女性は今も大変な生活を送っている人が多いのではないかと思う。(女性、70歳代)
- ・大変むずかしい。男、女考えたことが(生きて行く)ことがちがすぎる。昔からだれでも身につけてきた感覚や習慣を大事にすべきでないのか。おたがいの人生哲学を尊敬して生きていく。(男性、70歳代)
- ・何でもかんでも男女平等という訳にはいかない。先天的な違いもある。そこを承知の上での平等を目指したい。(男性、70歳代)
- ・男女平等という言葉をよく聞きますが、もともと男女には体力、能力、性的など、異なっている部分が多々あります、それを考慮しないで、ただ、男女平等と唱えるのはどうかと思います。もっと、それぞれに向いているもの、向かないものを検討し、適材適所を考えるべきなのではないでしょうか。(男性、70歳代)
- ・女性自身、未だに女は男を立てる意識を捨て切れない女性が多い。力量のある人が活躍すべきと思う。(女性、80歳代以上)
- ・男女平等はかなり進んで、むしろ女性の方が上の場面を見ます。この調査は女性は不平等の考えで出したように思えてしまう。(男性、80歳代以上)

子育て支援、介護・高齢者施策について

- ・女性が育児をしやすくしてほしい。(男性、10・20歳代)
- ・子育ての支援も充実して欲しいです。(女性、30歳代)
- ・子育て支援は、よくやって下さっていると思います。ありがとうございます。(女性、50歳代)
- ・シングルマザー、高齢者が安心して生活できる様にさらなる支援の充実を願います。(女性、60歳代)

仕事と家庭の両立支援について

- ・子育てのために一度会社を離れると再就職が非常に困難。保育園入園に就労要件がある限り再就職は困難。小学校入学以降まで待つと、ブランクや年齢により本人の意思や採用条件にも影響がある。早期に再就職できるための保育園整備が必要。女性の社会で活躍できる労働力がムダになっていると感じる。男性の育児参画については、意識改革よりも制度改革を先に、運用を十分にできるようにして欲しい。(女性、30歳代)
- ・やはり女性は、育児をしなくてはならない。育児をしたいと思う人、仕事にでたい人それぞれの意志が尊重できる社会になってほしいです。(女性、30歳代)
- ・男性が家事育児に参加させるためには社会、政治の後押しがもっと必要なのでは。まるで自分達、会社に任されている様な設問。社会の選択肢がなかった。(女性、40歳代)
- ・民間企業において、男女平等、ワーク・ライフ・バランスのような社会的要請は、結果的に従業員の犠牲によって達成数値が稼げる場合があることも考慮して欲しい。(男性、40歳代)
- ・労働時間の短縮は急務であると思う。特に男性の勤務時間(残業)は長すぎると思う。よって、色々な事への参画が出来づらい状況となっている。(男性、40歳代)

- ・若い世代は共働きが多くなって、意識がだいぶ変わってきているように思います。50代以上はまだまだ古い固定観念の人が多いのではないでしょうか。(女性、50歳代)
- ・外で働くことだけが仕事で、それだけが価値ある仕事で家事は仕事ではなく価値がないという視点に疑問を感じる。子供を育てるのは社会の中で1番重要なすばらしい仕事だと思います。(男性、50歳代)

ウィメンズパルについて

- ・ウィメンズパル等の施設があることは知っていますが、男女平等に関する具体的な施策はほとんど存じておりません。家庭や学校で小さい頃から自然と根付いてしまうジェンダー感を無くすために、様々な施策がうたれることを期待しています。(女性、10・20歳代)
- ・ウィメンズパルの活動を知らないの、誰でも参加しやすいイベント等(子どもも参加できる)あればいい。内容に興味を持てるようにしたらいいと思う。(女性、30歳代)
- ・ウィメンズパルという施設は知っていましたが、具体的にどのような活動をし、目標を設定し、具体的な成果を上げているのかを、区報等で大々的にアピールして欲しいと感じました。(男性、50歳代)
- ・ウィメンズパルを筆頭に、区役所の女性職員の役職登用を、葛飾区は、よくやられていると思って見ております。このまま推進されて頂くことを、期待しております。(女性、60歳代)
- ・ウィメンズパル=男女平等推進センターということをはじめて知りました。何をやっているかわからぬ施設とならぬよう、めざましい発信力を持って、ご活躍を。(女性、60歳代)

男女平等参画施策について

- ・学生への性教育はきちんとしたほうがいいと思います。生理の仕組み、避妊具の付け方ぐらいしか教わらないと思います。生理の仕組みは、男性にも理解してもらいたい。避妊具の付け方だけでなく、学生で妊娠すると体にもどのくらいリスクがかかるのか、お金はどのくらいかかるのか。随すことだって、どのような処置をするのか。妊娠はほとんど女性に負担がかかります。それを踏まえた上で、行為に至るのか考えるようにしてほしいです。(女性、10・20歳代)
- ・様々な年齢層の人達にもっと男女平等・共同参画施策が分かりやすく浸透したら良いと思います。(女性、10・20歳代)
- ・セミナーや講座等の啓発活動ではなく、条例の整備や保育所の設置等の制度として決めて欲しいと思います。税金のうち何%かを保育士や介護士のために使う等の政策を実行して欲しいです。(男性、10・20歳代)
- ・個人の意識が変わるのは、教育であると思うので、小・中・高校で意識が変わるような授業があれば、10年後につながると思う。(女性、40歳代)
- ・施策については、男と女という2つの性だけの問題として考えている印象を受けたので、あまり期待できない。多様な性、多様な生き方、働き方を認めていける、みんなが生きやすい社会になることを望んでいます。(女性、40歳代)
- ・権利ばかりを全面に出すのではなく、「義務をはたした上での権利である」という基本的な考え方に基づいた施策。(男性、40歳代)
- ・産める世代の人達に安心した経済と補助の徹底。(男性、40歳代)
- ・これから施策を充実させるなら、女性の意見をたくさん聴いて下さい。有識者や専門家の意見だけでなく、現場の声を聴いて欲しい。(女性、50歳代)
- ・制度や法整備で遅れていると思われる部分を推進して頂きたいと思います。児童生徒に対する性的な行為を行った教師に対する懲戒免職が令和になってやっと実現など多くの人が歯がゆく思っていることの制度化を進めて頂きたいと思います。(女性、50歳代)
- ・男女平等についての、わかりやすくおもしろおかしく、講演しているのに参加して為になった。その様な講演会を開いたりして「男女平等とは」という事を広めて行って欲しいと思います。(女性、50歳代)

第3章 調査結果

- ・男女平等の施策は大いに実行すべき。女性の社会は欠かせないと思うので是非とも様々な施策を実行して欲しい。(男性、50歳代)
- ・女性の参画については、家族の協力、理解が得られなければ無理だと思う。(女性、60歳代)
- ・広報活動の強化、女性職員の積極的採用を。(区職員や教員など)(男性、60歳代)
- ・地域等での積極的な女性の参加が見込めるような各種交流会の実施や、家族揃って参加ができるなどのコミュニケーション作りのできる場所の設置。(男性、60歳代)
- ・区政の運営については、各場面で女性が約半数となるよう工夫する。(女性、80歳代以上)
- ・図書館の充実。(女性、80歳代以上)

アンケートについて

- ・このような調査に後ろ向きな人が同世代では多いですが、良い取組だと思います。応援しています。(女性、10・20歳代)
- ・意識と実態調査は有意義だと思いますが、長いです。(男性、30歳代)
- ・アンケートは良い案ですが、内容が男性目線のように感じます。男性の意識改善、女性への理解が最も必要です。(女性、40歳代)
- ・こういうアンケート調査を引き続き行うことは良い。(女性、40歳代)
- ・この調査項目が、どのように使用されるのかわかりませんが、回答が誘導されている項目が散見される。(特に、男性の家事や女性参画について) 誘導されている項目から判断・実施されるのでは、と不安を感じる。(男性、40歳代)
- ・このアンケートの質問自体、全体的に男性・女性を分ける前提におかれている気がした。男女平等の前に個人の人権が尊重されるべきで、男性がどうした方が良いとか、女性にどういう配慮をした方が良いとかの問題ではないと思う。基本的人権の尊重が意識に有ればそもそもこのアンケートにはならないと感じた。LGBTの性的マイノリティの方もこの男女平等のアンケートを答える事を考えているのだろうか。どう考えても答え難い質問ばかりである。行政の方がその辺の意識が低すぎるからなかなか浸透していかないのだと思う。(男性、40歳代)
- ・無理に女性を上げようとしているように感じられたアンケートでした。(男性、40歳代)
- ・この質問票は、女性が不平等であるとの前提で質問が作成されている。確かに社会全般にそのような面があることは否めないが、男性からすると答えにくい選択肢になっているものもあり、現在不平等であるとの意見を誘導しているようにも感じる面がある。(男性、60歳代)

葛飾区の施策についてなど

- ・葛飾も積極的なリーダーがお互いの意見を交換してそれをまとめて、みんなが暮らしやすい働きやすい環境をつくって下さい。(女性、40歳代)
- ・IT化を進めて若い人たちにも簡単に広く知って貰った方が良くと思う。(女性、50歳代)
- ・災害対応に費用を回していただきたい。(男性、50歳代)
- ・経済的な基盤である企業文化に強く影響を受けると考えます。自治体として、企業に要請、優良企業の表彰などを率先して欲しいと思います。(男性、50歳代)
- ・この施策の何にどれぐらいの予算を投入しているのかをもっと発信して欲しい。その使用の是非を区民がもっと容易に判断できれば、区長・区議選などの選挙行動の判断に活用できるから。(女性、60歳代)
- ・一般企業に比べ公務員は育児休業や介護休業など取得しやすいように思います。(その他の制度もです) だからこそ、男女平等について、自分自身の問題として、どのように考えているのか、役所職員の方全員にもアンケートして下さい。(女性、60歳代)
- ・職員の意見を住民にも明示して貰いたい。(男性、70歳代)
- ・区民の意見を適宜汲み取り、これらを踏まえ施策にどう反映活かしたのかを区民が関心をもって受信できるような発信をして欲しい。(男性、70歳代)

第 4 章 調査票

葛飾区男女平等に関する意識と実態調査

調査ご協力をお願い

区民の皆さまには、日頃から区政に対し、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。
本区では、平成16年3月に「葛飾区男女平等推進条例」を制定し、女性も男性も性別にとらわ
れることなく、自らの人生は自らが決めるといふ、自分らしく生きる権利が保障される男女平等
社会の実現を目指してさまざまな施策に取り組んでいるところです。

このたび「第6次葛飾区男女平等推進計画」の策定にあたり、区民の皆さまのご意見・ご要望
を反映させていくために、「葛飾区男女平等に関する意識と実態調査」を行うことになりました。

調査の対象者は、住民基本台帳から無作為に満18歳以上の男女3,000人の皆さまを選ばせてい
ただきました。調査結果はすべて統計的処理をいたしますので、個人が特定されることはありません。
この調査目的にのみ使用し、他の目的で使われることは一切ございません。

回答に必要な時間は20分程度です。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨
をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

令和2年6月

葛飾区 総務部人権推進課

ご記入にあたってのお願い

ご回答は、郵送またはインターネットによるいずれかの方法で7月13日(月)までに
投函または送信をお願いいたします。

郵送での回答方法

- ご回答は、あなた様(封筒の宛名ご本人)ご自身で6月1日現在を基準にお答えくださ
い。
- ご記入は、黒のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いします。
- ご回答は、質問ごとにあてはまる番号に○をつけてください。
- 回答数は()内の指示に沿ってください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合があります。矢印や「ことわり書き
(問〜で〜とお答えの方に)」をよくお読みください。
- 「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが()内になるべく具体的にその内容を
ご記入ください。

インターネットでの回答方法

- 本調査は、スマートフォンやパソコンからでも回答できます。

■調査についてのお問い合わせ先 葛飾区 総務部人権推進課 男女平等推進係

電話 5698-2211 FAX 5698-2315

だんじょびょうどう
◎男女平等についておたずねします。

問1 あなたは、日々の暮らしの中で、男女平等社会はどの程度進んでいると思いますか。

(〇は1つだけ)

- | | |
|------------------|----------|
| 1. 十分平等になってきている | 5. わからない |
| 2. かなり平等になってきている | |
| 3. 少しは平等になってきている | |
| 4. ほとんど平等になっていない | |

(問1で3～4のいずれかをお答えの方に)

問1-1 具体的に、どのような点で男女の不平等を感じますか。

(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|--|
| 1. 家事や育児のほとんどを女性が担っていること |
| 2. 男性が仕事に追われ、家事・育児・教育などの家庭生活にかかわりにくいこと |
| 3. 就職や採用、昇格や賃金など、労働の場面で男女に格差があること |
| 4. 介護の負担が女性に偏っていること |
| 5. 「男らしさ、女らしさ」という考えが、人々の間にあること |
| 6. 風俗産業やマスメディアなどで、女性の性が商品化されていること |
| 7. 議員や企業の管理職、地域社会の役員など、女性の社会参画が進んでいないこと |
| 8. 職場や学校などで、セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)がおこること |
| 9. 家庭内・外にかかわらず、女性に対する暴力がなくなるらないこと |
| 10. 学校や日常生活の中で、男女による役割分担があること |
| 11. その他 () |

ここからは再び、すべての方におうかがいします。

問2 あなたは、次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。(ア)～(ク)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	優遇されている 男性が	やや男性が 優遇されている	平等である	やや女性が 優遇されている	優遇されている 女性が	わからない
回答の例 -->	1	2	③	4	5	6
(ア) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
(エ) 政治の場	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
(キ) 自治会やNPOなどの地域活動の場	1	2	3	4	5	6
(ク) 全体として、現在の日本では	1	2	3	4	5	6

◎結婚観についておたずねします。

問3 次にあげる(ア)～(カ)の考えについて、あなたはどのように思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえ	どちらかといえ	そう思わない
回答の例 -->	1	②	3	4
(ア) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4
(イ) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4
(ウ) 夫も妻も外で働き、家事も分担するべきである	1	2	3	4
(エ) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4
(オ) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4
(カ) 未婚の女性が子どもを産み育てるのもひとつの生き方だ	1	2	3	4

かていせいかつ
◎家庭生活についておたずねします。

問4 家庭の中で、あなたは（ア）～（シ）にあげることを、どの程度行っていますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

	いそいでいる	よくやっている	ほとんどない	まったくしない	子どもや介護する人がいないのでする必要がない
回答の例 -->	1	2	③	4	5
（ア）食事のしたく	1	2	3	4	
（イ）食事の後片付け	1	2	3	4	
（ウ）食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	
（エ）洗濯	1	2	3	4	
（オ）部屋の掃除・片付け	1	2	3	4	
（カ）風呂やトイレの掃除	1	2	3	4	
（キ）ゴミ出し	1	2	3	4	
（ク）町内会や自治会への出席	1	2	3	4	
（ケ）育児・子どもの教育や保育園・幼稚園への送迎	1	2	3	4	5
（コ）家族の病気の看護・介護	1	2	3	4	5
（サ）授業参観や保護者会、PTAへの出席	1	2	3	4	5
（シ）その他（ ）	1	2	3	4	5

問5 あなたは、家庭生活において男性は家事・育児・介護などについて、どれくらい取り組みがよいと思いますか。（○は1つだけ）

1. 積極的に取り組んだ方がよい
2. 配偶者・パートナーと分担するのがよい
3. 配偶者・パートナーを手伝う程度でよい
4. 配偶者・パートナーに任せておけばよい

問5-1 問5で回答した理由をご記入ください。(〇はあてはまるものすべて)

1. 男女平等に反すると思うから
2. 自分の両親も役割分担をしていたから
3. 男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働くことで、多くの収入を得られると思うから
4. 男性が家事・育児・介護などに取り組み配偶者・パートナーも外で働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから
5. 家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーも働き続けることは可能だと思うから
6. 固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきでないから
7. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
8. 配偶者・パートナーが家事・育児・介護をする方がよいと思うから
9. 家事・育児・介護と両立しながら、配偶者・パートナーが働き続けることは大変だと思うから
10. 男性の仕事が忙しく、家事・育児・介護を手伝うことができないから
11. その他 ()
12. わからない

問6 男性が家事・育児・介護にさらに参加するためには、何が必要だと思いますか。

(〇はあてはまるものすべて)

1. 男性自身の家事・育児・介護に組みたいと思う気持ち
2. 男性が家事・育児・介護に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
3. 男性が家事・育児・介護に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
4. 男性自身の家事・育児・介護の知識の習得やスキルの向上
5. 配偶者・パートナーとのコミュニケーションの向上により、家庭参画の機会が得られること
6. 男性が家事・育児・介護を行うための仲間(ネットワーク)作りを行うこと
7. 労働時間短縮や休暇取得率の上昇に会社が取り組むこと
8. 男性が家事・育児・介護を担うことに対する、職場の上司や同僚の理解
9. 仕事より家庭を優先することがあっても、会社での人事評価が変わらないこと
10. 特に必要なことはない
11. わからない

しゅうろう
◎就労についておたずねします。

問7 あなたの職業は、次のどれですか。（○は1つだけ）

1. 自営業・経営者 2. 自由業（開業医、弁護士・習い事の先生など） 3. 家庭従業者 4. 正社員・正職員 5. 派遣・契約嘱託社員 6. パートタイム 7. アルバイト 8. 内職・在宅就業 9. その他（	
10. 家事専業 11. 学生 12. 無職)

（問7で1～9のいずれかをお答えの方に）

問7-1 あなたの職場では、次のような男女の差別がありますか。

（○はあてはまるものすべて）

1. 賃金に男女差がある
2. 昇進、昇格に男女差がある
3. 女性の能力を正當に評価しない
4. 女性の配置場所が限られている
5. 女性は補助的な仕事しかやらせてもらえない
6. 女性を管理職に登用しない
7. 女性は結婚や出産で退職しなければならないような雰囲気がある
8. 中高年以上の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある
9. 女性は教育・研修を受ける機会が少ない
10. 妊娠中の女性への配慮がされていない
11. その他（
12. 特にな
13. わからない

ここからは再び、すべての方におうかがいします。

問8 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。（〇は1つだけ）

1. 仕事を持たない
2. 結婚するまでは仕事を持つが、結婚後は持たない
3. 子どもができるまでは仕事を持ち、その後は持たない
4. 子育ての時期だけ一時辞めて、その後はまた仕事を持つ
5. 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を持つ
6. その他（ ）
7. わからない

問8-1 問8で回答した理由をご記入ください。（〇はあてはまるものすべて）

1. 家庭を守り、家で子どもの面倒を見た方がよいと思うから
2. 仕事と家庭の両立支援が十分でないから
3. 経済力を持った方がよいと思うから
4. 夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから
5. 本人が望む働き方をするべきだと思うから
6. その他（ ）
7. わからない

問9 結婚や妊娠・出産により仕事を辞めた女性が再び仕事を持つことを希望する場合、あなたはどのようなことが必要だと思えますか。（〇はあてはまるものすべて）

1. 求人情報を入手しやすくすること
 2. 再就職のためのセミナー、講習を実施すること
 3. 技術や技能の習得の機会を多くすること
 4. 求人の年齢制限の緩和
 5. パートの労働条件の向上
 6. 働き方の選択肢を多くすること
 7. 就職に関する相談体制の充実
 8. 保育所・学童保育クラブなどの保育施設の充実
 9. 高齢者の介護施設、医療施設の充実
- ※次のページにも選択肢がつづきます

- 10. 出産などで退職した後に希望すれば復帰できる再雇用制度の充実
- 11. 女性が起業をする場合の支援
- 12. 家族や周囲などの理解と協力
- 13. その他 ()
- 14. わからない

問10 育児休業と介護休業、それぞれについてお答えください。

	育児休業	介護休業
<p>問10 あなたは育児休業・介護休業を利用したことがありますか。 (○はそれぞれ1つずつ)</p>	<p>1. 利用したことがある</p> <p>2. 利用したことはない</p> <p>3. 小さい子どもがいないので利用する必要がない → 問11へ</p>	<p>1. 利用したことがある</p> <p>2. 利用したことはない</p> <p>3. 介護を要する人がいないので利用する必要がない → 問11へ</p>
<p>(問10で「1. 利用したことがある」とお答えの方に)</p> <p>問10-1 どのくらいの期間、休暇を取りましたか。 (回答の場合、○はどちらも1つ)</p>	<p>1. 3カ月未満</p> <p>2. 3カ月～6カ月未満</p> <p>3. 6カ月～1年未満</p> <p>4. 1年以上 (年 カ月)</p>	<p>1. 1カ月未満</p> <p>2. 1カ月～2カ月未満</p> <p>3. 2カ月～3カ月未満</p> <p>4. 3カ月以上</p>
	<p>複数回利用したことがある方は、最近のケースでご回答ください。</p>	
<p>(問10で「2. 利用したことはない」とお答えの方に)</p> <p>問10-2 利用しなかった理由はなんですか。 (回答の場合、○はどちらもあてはまるものすべて)</p>	<p>1. 代替要員がないから</p> <p>2. 前例がないから</p> <p>3. 経済的な理由から</p> <p>4. ブランクを空けたくなかったから</p> <p>5. 配偶者など自分以外に子どもをみてくれる人がいたから</p> <p>6. 育児休業制度を知らなかったから</p> <p>7. 利用したくとも、取りにくい雰囲気だったから</p> <p>8. 職場の育児休業制度が利用できなかったから</p>	<p>1. 代替要員がないから</p> <p>2. 前例がないから</p> <p>3. 経済的な理由から</p> <p>4. ブランクを空けたくなかったから</p> <p>5. 介護サービス利用など自分以外に介護をしてくれる人がいたから</p> <p>6. 介護休業制度を知らなかったから</p> <p>7. 利用したくとも、取りにくい雰囲気だったから</p> <p>8. 職場の介護休業制度が利用できなかったから</p>

	<p>9. 出産前<small>しゅっさんまえ</small>に離職<small>りしょく</small>したから</p> <p>10. 自営業<small>じえいぎょう</small>のため制度<small>せいど</small>が使えな いから</p> <p>11. その他<small>た</small> ()</p>	<p>9. 介護<small>かいご</small>をするために離職<small>りしょく</small>した から</p> <p>10. 自営業<small>じえいぎょう</small>のため制度<small>せいど</small>が使えな いから</p> <p>11. その他<small>た</small> ()</p>
--	---	--

ここからは再び、すべての方におうかがいします。

◎ワーク・ライフ・バランス※についておたずねします。

※「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事と生活の調和」と訳され、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる状態をいいます。

問11 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 内容まで知っている | 3. 知らない |
| 2. 内容は知らないが言葉は聞いたことがある | |

問12 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合いなど)の優先度について、(ア)希望と(イ)現実(現状)、それぞれお答えください。

(ア) あなたの希望に最も近いものはどれですか。(〇は1つだけ)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 「仕事」を優先したい |
| 2. 「家庭生活」を優先したい |
| 3. 「地域・個人の生活」を優先したい |
| 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい |
| 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい |
| 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい |
| 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい |
| 8. わからない |

(イ) あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。(〇は1つだけ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. わからない

問13 ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、あなたはどのようなことが必要だと思えますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 残業を減らしたり、年休をしっかりとる
2. 在宅勤務や仕事の段取りを工夫するなど、業務の効率化により長時間労働を改善する
3. 地域活動、NPO活動に積極的に参加する
4. 男女ともにさまざまなライフスタイルを選択できるという意識の普及を図る
5. 男性の家事・育児・介護をすすめる
6. 残業や副業を行わなくても生活ができるよう、賃金が上昇する
7. 職場の人員を増やすなどにより、一人ひとりの業務量を減らす
8. フレックスタイム制※、短時間勤務制度の利用促進をする
9. 管理職をはじめ、職場の人々に理解を深めてもらう
10. 再就職を希望する女性のための講座や再雇用制度を充実させる
11. 育児・介護休業制度の普及を図る
12. 保育所・学童保育などの育児環境を充実させる
13. ホームヘルパーや介護施設を充実させる
14. その他 ()
15. わからない

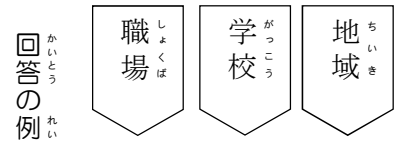
※「フレックスタイム制」とは、一定の期間について、あらかじめ定めた労働時間の範囲内において労働者が自ら始業・終業時刻を決める労働時間制度をいいます。

◎セクシュアル・ハラスメント※についておたずねします。

※「セクシュアル・ハラスメント」とは、性的な言動により相手の生活環境を害すること、または性的な言動を受けた側に不利益を与えることをいいます。

問14 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）は一定の人間関係の中で発生し、職場だけでなく、あらゆる場所で男女ともに受ける可能性があります。あなたはこれまでに、職場・学校・地域で、次のような不愉快な経験をしたことがありますか。

（○は職場、学校、地域ごとに、あてはまるものすべて）



(ア) いやがっているのに性的な話・言葉を聞かされた	1	1	1	1
(イ) 「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた	②	2	2	2
(ウ) 不必要に身体を触られた	3	3	3	3
(エ) 宴会でお酒やデュエットを強要された	4	4	4	4
(オ) 交際を強要された	5	5	5	5
(カ) 性的行為を強要されたり、されそうになった	6	6	6	6
(キ) 性的な噂をたてられたり、インターネットやSNSに書き込まれたりした	⑦	7	7	7
(ク) 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	8	8	8	8
(ケ) 容姿、年齢などについて傷つくようなことを言われた	⑨	9	9	9
(コ) 外出中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	10	10	10	10
(サ) プライバシーに関することや性的な内容のメールや手紙・電話を受けた	11	11	11	11
(シ) ヌード写真やポルノ雑誌を目につくところに置かれたり、はられたりした	12	12	12	12
(ス) その他（ ）	13	13	13	13
(セ) 特にない	14	14	14	14

問 15 へ

問15は、問14の(ア)～(ス)に、1つでも○をつけた方におうかがいします。

問15 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。

(○は1つだけ)

1. 相談した

2. 相談しなかった(できなかった)

(問15で「1. 相談した」とお答えの方に)

問15-1 そのとき、だれ(どこ)に相談しましたか。(○はあてはまるものすべて)

1. 警察に通報・相談した
2. 警察以外の公的機関に相談した
3. 民間の機関に相談した
4. 弁護士に相談した
5. 家族に相談した
6. 友人・知人に相談した
7. 会社の人事課、上司などに相談した
8. 学校の事務局などに相談した
9. その他()

(問15で「2. 相談しなかった(できなかった)」とお答えの方に)

問15-2 だれ(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

1. どこに相談してよいかわからなかったから
2. 恥ずかしかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると仕返しをされると思ったから
5. 相談することによって、自分が不快な思いをすと思ったから
6. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから
7. 世間体が悪いから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. 被害を受けたことを忘れたかったから
10. 自分にも悪いところがあると思ったから
11. 相談するほどのことではないと思ったから
12. 自分で加害者に対応しようと思ったから
13. その他()

ここからは再び、すべての方におうかがいします。

◎ドメスティック・バイオレンスについておたずねします。

問16 「ドメスティック・バイオレンス」とは、配偶者などに対し著しい身体的または精神的苦痛を与える暴力的行為をいいますが、あなたはこれまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次のような経験がありますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

	あ 何 つ 度 た も	あ 1、 つ た 2 度	な ま い つ た く
回答の例→	1	②	3
(ア) 命の危険を感じるくらいの暴力を受ける	1	2	3
(イ) 医師の治療が必要となる暴力を受ける	1	2	3
(ウ) 医師の治療が必要ではない程度の暴力を受ける	1	2	3
(エ) 嫌がっているのに性的行為を強要される	1	2	3
(オ) 見たくないのにポルノビデオ・雑誌・アダルトサイトを見せられる	1	2	3
(カ) 避妊に協力してもらえない	1	2	3
(キ) 何を言っても無視される	1	2	3
(ク) 常に居場所を把握する、交友関係や電話、メール、郵便物、SNSを細かく監視するなど付き合いを制限される	1	2	3
(ケ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われる	1	2	3
(コ) 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされる	1	2	3
(サ) 容姿について傷つくようなことを言われる	1	2	3
(シ) 大声で怒鳴られる	1	2	3
(ス) 大切なものを壊される	1	2	3
(セ) 生活費を渡してもらえない	1	2	3
(ソ) 目の前で子どもに暴力をふるわれる	1	2	3
(タ) 性的な画像をインターネット上に公開される「リベンジポルノ」の被害を受けたことがある	1	2	3
(チ) その他 ()	1	2	3

1つでも○をつけた方は問 17 へ
すべて3に○をつけた方は問 18 へ

問17は、問16の(ア)～(チ)の「何度もあった」「1、2度あった」に、
1つでも○をつけた方におうかがいします。

問17 あなたはこれまでに、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。

(○は1つだけ)

1. 相談した

2. 相談しなかった(できなかった)

(問17で「1. 相談した」とお答えの方に)

問17-1 そのとき、だれ(どこ)に相談しましたか。(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1. 警察に通報・相談した | 6. 医師に相談した |
| 2. 区の相談窓口で相談した | 7. 弁護士に相談した |
| 3. 都の相談窓口で相談した | 8. 家族や親族に相談した |
| 4. 民生委員や人権擁護委員などに
相談した | 9. 友人・知人に相談した |
| 5. 民間の機関に相談した | 10. その他
() |

(問17で「2. 相談しなかった(できなかった)」とお答えの方に)

問17-2 だれ(どこ)にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

1. どこに相談してよいかわからなかったから
2. 恥ずかしかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりする
と思ったから
5. 相談することによって、自分が不快な思いをすと思ったから
6. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから
7. 世間体が悪いから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. 被害を受けたことを忘れたかったから
10. 自分にも悪いところがあると思ったから
11. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
12. 相談するほどのことではないと思ったから
13. 自分で加害者に対応しようと思ったから
14. その他 ()

問21 あなたはLGBT*という言葉をご存じですか。(○は1つだけ)

*「LGBT」とは、Lesbian (レズビアン、女性同性愛者)、Gay (ゲイ、男性同性愛者)、Bisexual (バイセクシュアル、両性愛者)、Transgender (トランスジェンダー、性別越境者)の頭文字をとった単語で、セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の総称のひとつです。電通ダイバーシティ・ラボの2018年の調査では、日本におけるLGBTの割合が人口の8.9%存在すると言われています。

1. 知っている

2. 初めて知った

◎健康についておたずねします。

問22 あなたは性や妊娠・出産に関して自分で決め、女性が自分の健康を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 子どもの成長と発育に応じた性教育

2. 性や妊娠/予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実

3. 喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実

4. 性感染症(カンジダ症、クラミジア感染症など)についての情報提供・相談体制の充実

5. 更年期についての情報提供・相談体制の充実

6. 「子どもの数や子どもを産むか産まないかなどについて自分で決めること」という考え
方についての情報提供・相談体制の充実

7. その他()

8. わからない

問25 あなたは議員や審議会委員など政策や方針を決定する過程への女性の参画を妨げているのは、どのようなことだと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

1. 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識があるから
2. 女性の参画を進めようと意識している人が少ないから
3. 女性の能力開発の機会が十分でないから
4. 家族の理解がない・賛成を得られないから
5. 男性優位の組織運営に問題があるから
6. 女性側の積極性が足りない（責任ある地位に就きたがらない）から
7. 指導力のある女性が少ないから
8. 金銭的な余裕がないから
9. 政党が積極的に女性が参加できるような方針を立ててないから
10. その他（ ）
11. わからない

問26 あなたは政治や行政において企画や方針決定の過程で女性の参画を進めていくためには、どうしたらよいと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

1. 政治や行政について、男女の意識を変えるためのセミナーなどを積極的に開催する
2. 区が女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の管理・監督者昇任を促す計画を作成する
3. 審議会や委員会などの委員に女性を優先的に任命する
4. 政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする
5. その他（ ）
6. わからない

ぼうさい
◎防災についておたずねします。

問27 東日本大震災の発生以降、日頃の防災活動や災害発生時の避難所生活において、多様な人々の視点に基づく運営が必要だと言われるようになりました。あなたは、地域の防災活動や災害時における人々の生活環境の確保に、どのようなことが必要だと思いますか。

(〇はあてはまるものすべて)

1. 性別に応じてプライバシー（更衣、授乳、トイレ、就寝スペースなど）を確保するような避難所運営を行うこと
2. 災害時要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）をはじめ、さまざまな状態の人の視点を取り入れた避難所運営を行うこと
3. 自治会や町内会、ボランティア仲間など、日頃の地域のネットワークを活用した防災活動や避難所運営を行うこと
4. 災害発生時に備え、日頃の地域活動や、行政の防災に関する講座・イベントの中で、災害時に指導的役割を担う女性リーダーの育成を行うこと
5. 食事作りや、清掃、子ども・高齢者のケアなどの担い手が、片方の性に偏らないようにするなど、一定の人々への過度な負担が発生しないようにすること
6. 委員会や会議など防災分野の政策・方針決定過程へ、より多くの女性が参画できるようにすること
7. 行政が作成する地域防災計画や各種災害対応マニュアルに、男女双方の視点や、さまざまな立場の人の視点を反映すること
8. 消防職員、消防団員、警察官、自衛官などについて、防災現場に女性の視点が活かせるよう、女性職員の採用・登用を進めること
9. その他（ ）
10. わからない

問28 「葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）」は、誰もが自分らしく生きていける男女平等社会の実現を目指す、学びと交流の場です。あなたは、葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）を知っていますか。（〇は1つだけ）

1. 知っている

2. 知らない

問29 葛飾区男女平等推進センターにおいて、あなたが参加または利用してみたいものはどれですか。（〇はあてはまるものすべて）

1. 平日の日中に開催される男女平等に関する講座・講演会
2. 平日の夜間や土日に関催される男女平等に関する講座・講演会
3. 男女平等に関する図書資料室（図書や雑誌などの閲覧・利用）
4. 相談事業（法律相談、悩みごと相談、女性に対する暴力相談）
5. パルフェスタ（センターまつり）、啓発誌の発行などの啓発事業
6. 学習・交流のための会議室や学習室
7. 登録団体・グループの自主活動
8. その他（）
9. 特にない

問30 あなたは男女平等社会を実現するために、今後、区ではどのような施策を充実したらよいと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

1. 病気や緊急時に、家事・育児・介護を手助けする制度の充実
2. 労働（パート・内職を含む）に関する情報の提供と相談の充実
3. 高齢者・障害者介護に関する支援の充実
4. 子育て・育児に関する支援の充実
5. 女性の自立や男女平等に関する講座・講演会や交流イベントの充実
6. 社会参画をめざす女性の人材育成
7. 男性向けの育児や介護などに関する講座の開催
8. 女性のための各種相談の充実
9. 学校における男女平等教育の推進
10. 情報誌やパンフレットなどの情報提供の充実
11. 女性の自主的活動や研究活動への支援
12. 審議会などへの女性の積極的な登用
13. 区職員の男女平等意識づくり
14. 夫やパートナーからの暴力の防止および支援の実施
15. その他（）
16. 特にない

問31 葛飾区かつしかくの男女平等・共同参画施策全般だんじょびょうどう きょうどうさんかくし さくぜんぱんについてのご意見・ご要望を自由にご記入ください。

◎最後に、ご回答を統計的に分析するために、失礼ですが、現在のあなた自身さいご かいとう とうけいてき ぶんせき しつれい げんざいの事についておたずねします。

F1 あなたの性別をお答えください。(〇は1つだけ)

1. 女性	2. 男性	3. ()
-------	-------	-----------------------------

F2 あなたの年齢はおいくつですか。(令和2年6月1日現在) (〇は1つだけ)

1. 10・20歳代	3. 40歳代	5. 60歳代	7. 80歳代以上
2. 30歳代	4. 50歳代	6. 70歳代	

F3 あなたは結婚していますか。(〇は1つだけ)

1. 結婚している	4. 結婚していたが、離別・死別した
2. 結婚していないが同居の異性のパートナーがいる (事実婚を含む)	5. 結婚していない
3. 結婚していないが同居の同性のパートナーがいる	

(F3で1～3のいずれかをお答えの方に)

F3-1 あなたの世帯は、共働きですか。(〇は1つだけ)

1. 共働き	3. 配偶者・パートナーだけ働いている
2. 自分だけ働いている	4. とともに働いていない

F4 お子さんはいらっしゃいますか。(〇は1つだけ)

1. いる	2. いない
-------	--------

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒(切手不要)にて7月13日(月)までにご投函くださいますようお願いいたします。なお、調査結果は12月以降、男女平等推進センターや区立図書館などで調査報告書をご覧いただけるほか区のホームページにも掲載いたします。

葛飾区男女平等に関する意識と実態調査
報告書

令和2年11月

発行：葛飾区 総務部 人権推進課
〒124-0012 葛飾区立石 5-2 7-1 ウィメンズパル内
TEL 03(5698)2211 (直通)
FAX 03(5698)2315